宮城県文化財調査報告書第166集

# 下 草 古 城 跡 ほか

平 成 7 年 3 月

宮 城 県 教 育 委 員 会

# 序　　文

宮城県には、現在約5,600カ所の遺跡の存在が知られています。これらの遺跡には、旧石器時代以来各時代にわたって築かれた祖先の歴史が刻み込まれています。このようなかけがえのない文化遺産を後世に伝えることは、私達にとって重要な責務であると考えます。

近年の文化財を取り巻く状況をみますと、従来の経済優先に対する反省から、物資のみならず精神的・文化的な面を大切にしようとする価値観の転換がなされつつあるのは、すでに私達の知るところであります。こうした時代の趨勢にあって、文化財や歴史的環境を保存し、地域づくりの一環として積極的に整備活用してゆこうとする気運が徐々に高まる傾向にあることは、文化財保護思想のより一層の普及・啓蒙につながるものであり、まさに歓迎すべきことといえましょう。

しかし、一方では絶えることのない開発事業により、遺跡の多くは依然として破壊・消滅の危機にさらされているのが実情です。こうしたなかにあって、当教育委員会では遺跡の所在等について関係者への周知を図るとともに、協議整備を重ね、可能な限りの保存に努めているところであります。

本書は、開発関係機関等との保存協議に基づき、平成6年度に国庫補助を得て実施した4遺跡他の発掘調査の成果を収録したものです。これらの成果が広く活用され、地域の歴史の解明に資するところとなれば大きな喜びであります。

最後に、遺跡の保存に御理解を示され、調査に際しては多大なるご協力をいただいた関係機関の方々、さらに実際に調査にあたられた皆様に対し、厚く御礼申し上げる次第であります。

平成7年3月

宮城県教育委員会教育長

**鈴 鴨 清 美**

# 目　　次

平成６年度発掘調査の概要 …… 1
下草古城跡 …… 3
新谷地遺跡 …… 73
萱刈場窯跡 …… 83
上野瓦焼場窯跡 …… 123
長根浦貝塚・前館跡 …… 145

# 例　　言

1. 本書は、宮城県が平成６年度に埋蔵文化財緊急調査費の国庫補助を得て、宮城県教育庁文化財保護課が担当して実施した発掘調査の調査報告書である。
2. 各遺跡の発掘調査から調査報告書作成に至る一連の作業は、調査原因となった開発行為に関わる機関の依頼を受けて文化財保護課が行なったものである。
3. 各遺跡の保存協議や発掘調査に当たっては、各開発担当部局や地元教育委員会から多大な協力をいただいた。
4. 本書に使用した土色については、「新版標準土色帳（1973）」を参照した。
5. 本書に各遺跡の位置図として掲載した地形図は、建設省国土地理院発行の 1/25.000 の地形図を複製して使用した。
6. 本書は調査員全員の協議を経て下記の者が執筆・編集した。

| | |
|---|---|
| 発掘調査の概要 | 真山　悟 |
| 下草古城跡 | 天野順陽 |
| 新谷地遺跡 | 斎藤吉弘、東理浩明 |
| 萱刈場窯跡 | 村田晃一 |
| 上野瓦焼場窯跡 | 藤村博之 |
| 長根浦貝塚 | 笠原俊哉 |
| 前館跡 | 笠原俊裁 |

7. 発掘調査で出土した遺物および調査記録類などは、宮城県教育委員会が保管している。

# 平成６年度発掘調査の概要

宮城県教育委員会が平成６年度に埋蔵文化財緊急調査費の国庫補助金（総事業費 10,000 千円、補助率 50%）を得て実施した発掘調査は６ヶ所、分布調査は６地域である（表１）。

**下草古城跡**は黒川郡大和町鶴巣にある城跡で、伊達政宗の三男宗清が慶長 16（1611）年から元和２（1616）年にかけて居城したところとして知られている。沖積地に立地する平城で、現状は本丸･二ノ丸と伝えられる中枢部が一段高く残り、それらを区画する堀跡も明瞭に確認される。本遺跡は、昭和 63 年に県営ほ場整備事業とかかわりをもったが、協議の結果、重要部分である本丸および二ノ丸が計画から除外され、現状保存されることになった。このことを受け、当教育委員会はその周囲の平坦地を対象に平成３年度から発掘調査を開始した。そしてこれまで 16～17 世紀の町並みを構成する遺構を中心に、古代や古墳時代の遺構も併せて検出している。今回の調査は第４次目にあたり、ほ場整備の道路・水路および面工事によって削平を受ける部分を対象に実施した。

**新谷地遺跡**は古川市小林の小丘綾地にある。県営ほ場整備事業とかかわりをもったため、平成４年と５年に発掘調査を行い、掘立柱建物跡や土壙などを検出した。今回は３次目にあたり、ほ場整備の水路及び面工事によって削平を受ける部分を主な対象としている。

**萱刈場窯跡**は黒川郡大衡村大衡の小丘陵地にある。個人住宅建築工事の際に窯跡が３基発見されたため、内容を把握し、保存することを目的に発掘調査を行った。その結果、窯跡の南半部が宅地造成によって失われていたが、いずれも奈良時代の須恵器を焼成した地下式窖窯であることが判明した。調査では１基を掘り下げており、須恵器坏を主体とする８世紀中葉の良好な一括資料が得られている。

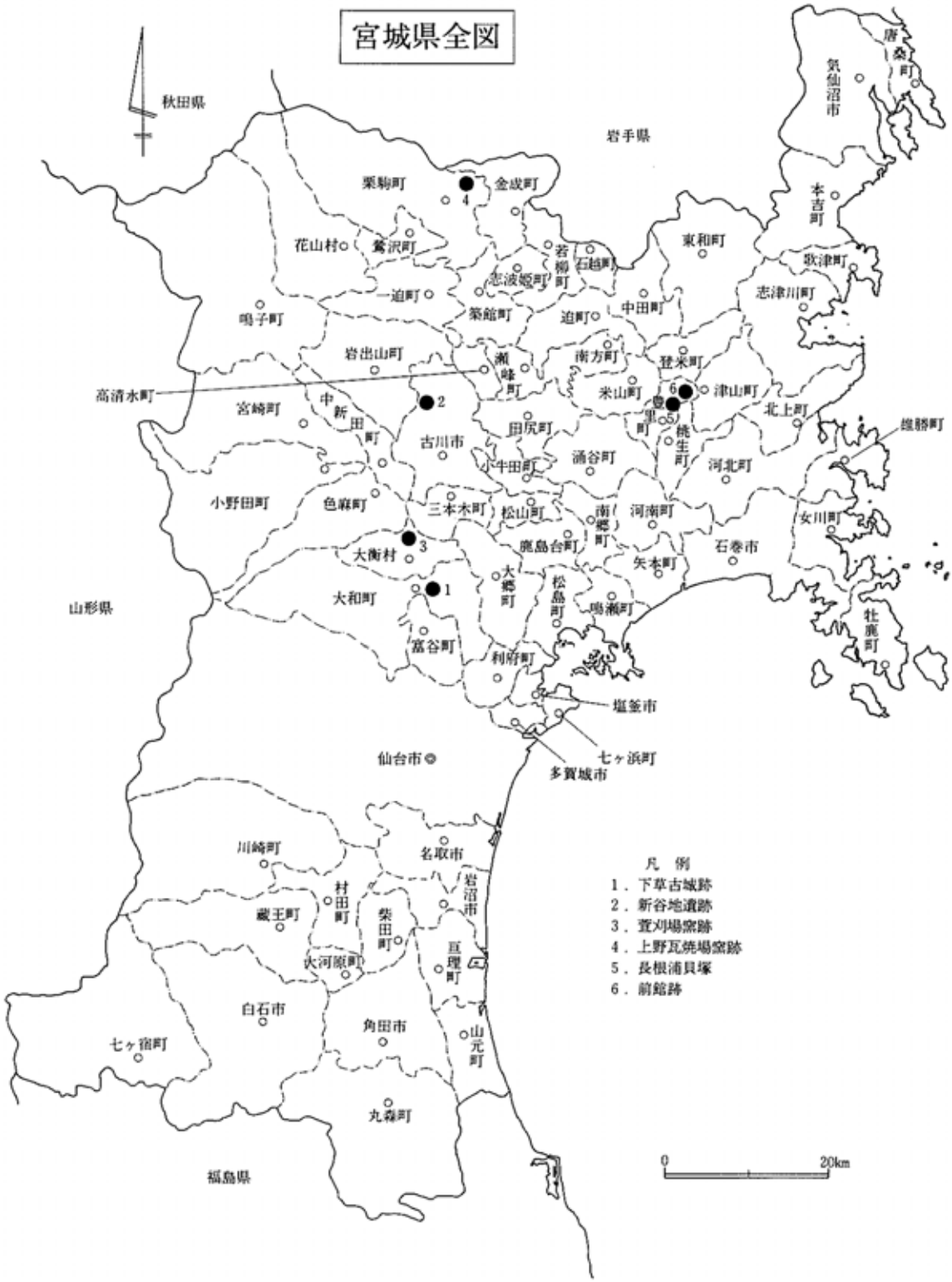
**上野瓦焼場窯跡**は栗原郡栗原町中野の小丘陵地にある。個人住宅建築工事の際に焼土とともに近世陶器が発見されたが、遺跡は以前の畑地造成によって削平され、窯跡１基の灰原のみが残存する状況であった。調査ではこれを掘り下げた結果、皿・鉢・壺などの陶器や素焼き土器が出土したほか多量の窯道具も伴出している。

このほか国庫補助事業以外のものであるが、県営ほ場整備事業にかかわった**長根浦貝塚**および**前館跡**の調査成果も併せて収録している。

両遺跡とも登米郡豊里町赤生津にあり、ほ場整備の水路予定部分の調査を行った。その結果、長根浦貝塚からは堆積層から土師器や須恵器などが出土し、前館跡からは区画施設である溝跡が検出された。

平成６年度国庫補助事業一覧

| No. | 遺跡名 | 所在地 | 調査種類 | 事業種類 | 開発担当者 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 下草古城跡 | 黒川郡大和町鶴巣字下草 | 事前調査 | 県営ほ場整備 | 仙台土地改良事務所 |
| 2 | 新谷地遺跡 | 古川市小林字塚原他 | 事前調査 | 県営ほ場整備 | 古川土地改良事務所 |
| 3 | 萱刈場窯跡 | 黒川郡大衡村大衡字萱刈場 | 確認調査 | 住宅建築 | 個人 |
| 4 | 上野瓦焼場窯跡 | 栗原郡栗駒町字上野 | 確認調査 | 住宅建築 | 個人 |
| 5 | 佐沼城跡 | 登米郡迫町佐沼字内町 | 確認調査 | 住宅建築 | 個人 |
| 6 | 下別当遺跡 | 刈田郡蔵王町宮字下別当 | 確認調査 | 住宅建築 | 個人 |
| 7 | 新山崎遺跡他 | 石巻市他３町 | 分布調査 | 県営ほ場整備 | 宮城県農政部 |
| 8 | 館の内遺跡他 | 亘理郡山元町 | 分布調査 | 国営ほ場整備 | 東北農政局 |
| 9 | 下別当遺跡他 | 刈田郡蔵王町 | 分布調査 | 農道建設 | 大河原土地改良事務所 |


宮城県全図
秋田県
岩手県
山形県
福島県
唐桑町
気仙沼市
本吉町
栗駒町
金成町
花山村
鶯沢町
若柳町
石越町
東和町
歌津町
志波姫町
一迫町
志津川町
鳴子町
築館町
迫町
中田町
岩出山町
瀬峰町
南方町
登米町
高清水町
米山町
津山町
宮崎町
中新田町
豊里町
桃生町
北上町
古川市
田尻町
小牛田町
涌谷町
河北町
小野田町
色麻町
三本木町
松山町
南郷町
河南町
女川町
大衡村
鹿島台町
矢本町
石巻市
大郷町
松島町
大和町
鳴瀬町
富谷町
利府町
牡鹿町
塩釜市
七ヶ浜町
仙台市
多賀城市
川崎町
名取市
村田町
岩沼市
蔵王町
柴田町
亘理町
大河原町
白石市
角田市
山元町
七ヶ宿町
丸森町
凡例
1．下草古城跡
2．新谷地遺跡
3．置刈場窯跡
4．上野瓦焼場窯跡
5．長根浦貝塚
6．前館跡
0
20km

# 下　草　古　城　跡

# 調 査 要 項

遺　跡　名：下草古城跡（しもくさこじょうあと）
　　宮城県遺跡地名表記載番号 23068
遺 跡 記 号：ＯＧ
遺跡所在地：宮城県黒川郡大和町鶴巣下草
調 査 原 因：県営圃場整備事業
調 査 面 積：約 7.400 ㎡
調 査 期 間：平成 6 年（1994 年）5 月 23 目～12 月 8 日
調 査 主 体：宮城県教育委員会
調 査 担 当：宮城県教育庁文化財保護課
調　査　員：佐藤則之、伊藤　裕（ゆたか）、天野順陽（まさはる）、佐藤貴志
調 査 協 力：大和町教育委員会、宮城県仙台土地改良事務所、大和東部土地改良区
調査参加者：斎藤永記、斎藤徹子、斎藤柳子、佐藤邦子、佐藤裕子、高橋うめよ、高橋　修、
　　高橋せつ子、高橋惣市、高橋つよ子、高橋良三、横田梅代、横田ヒデ子、横田よし子
　　（五十音順）
整理参加者：大宮千賀子

# 本 文 目 次

第一章　遺跡の位置と地理的・歴史的環境 …… 9
Ⅰ　遺跡の位置 …… 9
Ⅱ　遺跡の現状と推定される城郭構造 …… 10
Ⅲ　文献上の下草古城跡 …… 10
第二章　調査に至る過程と方法 …… 12
第三章　基本層序と発見された遺構・遺物 …… 14
Ⅰ　基本層序 …… 14
Ⅱ　発見された遺構・遺物 …… 15
1．中近世 …… 15
①発見された遺構 …… 15
②発見された遺物 …… 41
2．古代 …… 49
第四章　考　　察 …… 51
Ⅰ　古代 …… 51
Ⅱ　中近世 …… 52
第五章　まとめ …… 56
参考・引用文献、写真図版 …… 56

# 図　目　次


第1図　遺跡の位置と周辺の遺跡・・・・・・・・・・・・9
第2図　遺跡の全景と地籍図に記された水田 11
第3図　調査区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
第4図　遺構全体図（付図）・・・・・・・・・・・・・図袋
第5図　基本層序模式図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
第6図　7区南遺構平面図・・・・・・・・・・・・・17・18
第7図　7区南遺構断面図(1)・・・・・・・・・・・・・・19
第8図　7区南遺構断面図(2)・・・・・・・・・・・・・・20
第9図　19区遺構平面図(1)・・・・・・・・・・・・・・・22
第10図　19区遺構平面図(2)・・・・・・・・・・・・・・23
第11図　19区遺構断面図(1)・・・・・・・・・・・・・・24
第12図　19区遺構断面図(2)・・・・・・・・・・・・・・25
第13図　19区遺構断面図(3)・・・・・・・・・・・・・・26
第14図　19区遺構断面図(4)・・・・・・・・・・・・・・27
第15図　20区遺構平面図・・・・・・・・・・・・・29・30
第16図　20区遺構断面図(1)・・・・・・・・・・・・・・31
第17図　20区遺構断面図(2)・・・・・・・・・・・・・・32
第18図　21区遺構平面図・断面図・・・・・・・・・33
第19図　22区遺構平面図・・・・・・・・・・・・・・・・・34
第20図　22区遺構断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・35
第21図　23区遺構平面図・断面図・・・・・・・・・36
第22図　平安時代の遺構平面図・断面図・・50
第23図　陶磁器・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42
第24図　木製品(1)　連歯下駄・・・・・・・・・・・43
第25図　木製品(2)　下駄　曲げ物・・・・・・・44
第26図　木製品、土製品、金属製品、古銭　45
第27図　石製品(1)　石臼・・・・・・・・・・・・・・・・46
第28図　石製品(2)　石臼・・・・・・・・・・・・・・・・47
第29図　石製品(3)　石鉢、硯、砥石・・・・・48


# 表　目　次


第1表　各区で確認された遺構数・・・・・・・・・・37
第2表　掘立柱建物跡属性表・・・・・・・・・・・・・・37
第3表　柱穴列跡属性表・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
第4表　井戸跡属性表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
第5表　土壙属性表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
第6表　溝跡属性表(1)・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
第7表　溝跡属性表(2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・40
第8表　焼け面跡、炭化物集中遺構属性表・40
第9表　Ⅳ－3層で確認された遺構属性表・・40
第10表　畦畔属性表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・50
第11表　水田区画属性表・・・・・・・・・・・・・・・・・50


# 写真図版


写真図版1　7区南全景・・・・・・・・・・・・・・・・・・59
写真図版2　7区南SD766、SE719、SX759・・・・・・60
写真図版3　19区全景、基本層位・・・・・・・・・・61
写真図版4　20区北側全景、SE683・・・・・・・・・62
写真図版5　20区南側全景、21区全景・・・・・63
写真図版6　22区全景・・・・・・・・・・・・・・・・・・・64
写真図版7　22区SD799・800、SE801、
19～23区盛土、20区水田跡・・・・・・・・・・・・・・・65
写真図版8　20区水田跡、19区SD829・830
20区SD774・775・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・66
写真図版9　陶磁器、土製品・・・・・・・・・・・・・・67
写真図版10　下駄・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・68
写真図版11　漆器椀、曲げ物、骨・・・・・・・・・69
写真図版12　石臼・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・70
写真図版13　石臼、硯、砥石・・・・・・・・・・・・・71
写真図版14　釘、煙管、クサビ、古銭・・・・・72

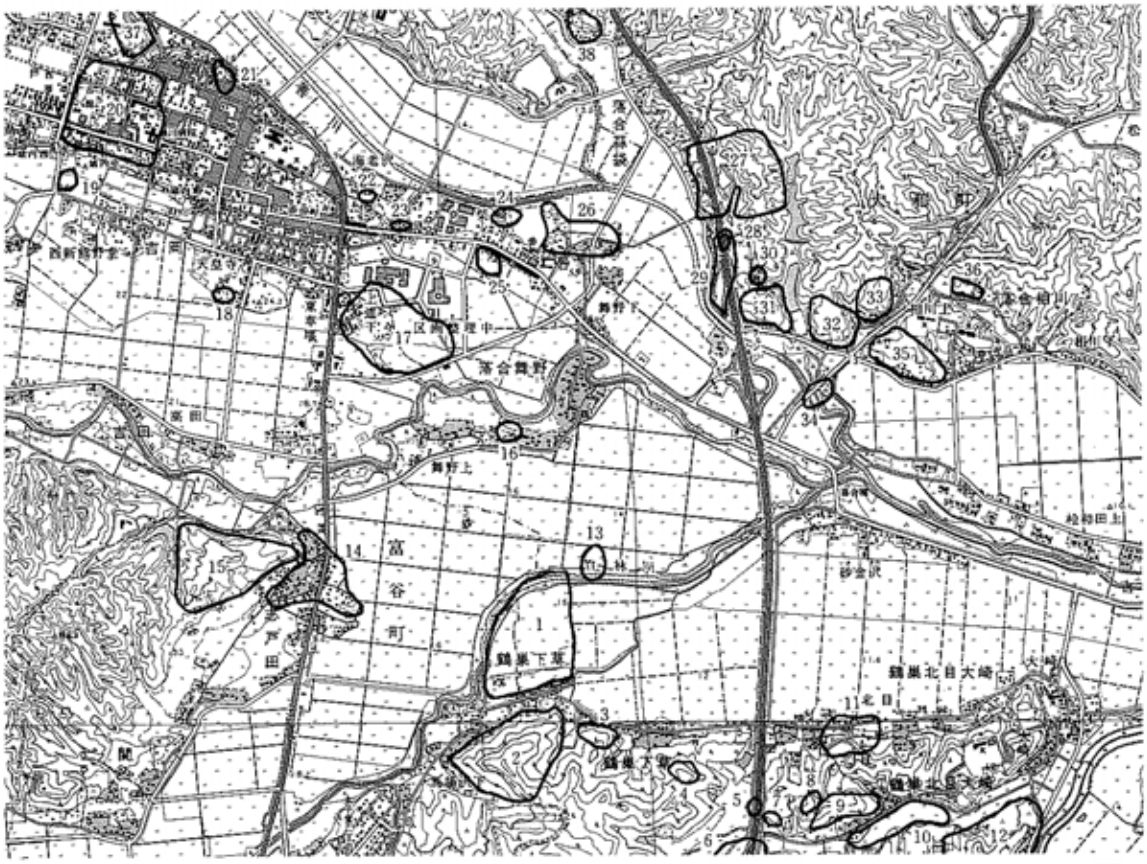
# 下　草　古　城　跡

## 第一章　遺跡の位置と環境

### Ⅰ　遺跡の位置

下草古城跡は、黒川郡大和町鶴巣下草に所在する。大和町の中心部、吉岡から南東に３㎞のところに位置する（第１図）。

奥羽山脈・船形連峰に端を発した吉田川とその支流である善川、竹林川は、徐々に高度を下げ周辺を開析しながら東流する。大和町の中心部、吉岡から舞野、下草付近では、吉田川に、北西から善川、南西から竹林川が合流しており、広く沖積地が広がっている。遺跡は竹林川が合流する地点から1.5㎞程上流にあり、標高13～15mの自然堤防とその周辺に位置する。




| 番号 | 遺跡名 | 種別 | 時代 | 番号 | 遺跡名 | 種別 | 時代 | 番号 | 遺跡名 | 種別 | 時代 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 下草古城跡 | 集落跡・城跡 | 古墳・古代・中近世 | 14 | 三ケ森遺跡 | 包含地 | 奈良・平安 | 27 | 御所館跡 | 包含地 | 中世 |
| 2 | 鶴巣館跡 | 城跡 | 中世 | 15 | 駒宿遺跡 | 城跡 | 中世 | 28 | 新田古墳 1･2号 | 古墳 | 古墳跡 |
| 3 | 迫遺跡 | 包含地 | 古代 | 16 | 上舞野B遺跡 | 包含地 | 古代 | 29 | 八谷館跡 | 城跡 | 中世 |
| 4 | 観音堂、小塚群 | 小塚 | 中世・近世 | 17 | 一堂塚遺跡 | 集落跡 | 縄文・奈良・平安 | 30 | 新田古墳　3号 | 古墳後 | 古墳後 |
| 5 | 日光山遺跡 | 墓・祭祀遺跡 | 奈良・平安・中世・近世 | 18 | 天皇寺遺跡 | 包含地 | 平安 | 31 | 八谷古城跡 | 城跡 | 中世 |
| 6 | 勝負沢遺跡 | 包含地 | 縄文中・平安 | 19 | 東遺跡 | 包含地 | 古代 | 32 | 大沢遺跡 | 包含地 | 古代 |
| 7 | 日光山西小塚 | 小塚 | | 20 | 吉岡城跡 | 城跡 | 江戸 | 33 | 上ノ山遺跡 | 包含地 | 平安 |
| 8 | 日光山小塚群 | 小塚 | 中世 | 21 | 安楽院遺跡 | 包含地 | 縄文中・後 | 34 | 相川堤防遺跡 | 包含地 | 縄文・古代 |
| 9 | 別所横穴古墳群 | 古墳 | 古墳 | 22 | 海老沢遺跡 | 包含地 | 縄文中 | 35 | 鶴野遺跡 | 包含地 | 古代 |
| 10 | 別所遺跡 | 包含地 | 古代 | 23 | 糸綿遺跡 | 包含地 | 縄文・古代 | 36 | 塚越遺跡 | 包含地 | 古代 |
| 11 | 寺東遺跡 | 包含地 | 古代 | 24 | 西浦田遺跡 | 包含地 | 平安 | 37 | 中興寺遺跡 | 包含地 | 縄文・晩 |
| 12 | 天神館跡 | 包含地・城跡 | 縄文・中世 | 25 | 柴崎遺跡 | 包含地 | 奈良 | 38 | 岩下遺跡 | 包含地 | 古代 |
| 13 | 上舞野A遺跡 | 包含地 | 縄文・古代 | 26 | 吉川遺跡 | 包含地 | 古代 | | | | |

第１図　遺跡の位置と周辺の遺跡

## Ⅱ　遺跡の現状と推定される城郭構造

遺跡の範囲は東西 500m 以上、南北約 600m で、北西隅のかけた長方形を呈する（第 2 図）。遺跡の北と西は竹林川に画され、竹林川に沿った部分は河川改修によって原形を失っている。南は鶴巣館が立地する丘陵に接している。一方、東側は沖積地が広がっている。圃場整備が行なわれているため現在の地形から遺跡の東端は明瞭ではないが、平成 4 年度の調査で東端は 8･10 区付近であることが確認された。遺跡の現状は水田や畑であり、標高の低い部分は水田、それよりも一段高い平坦な部分は畑として利用されている。

これらを詳細に見てみると、遺跡の南側は水田が広範囲に広がっているのに対して、北側は一段高い畑の部分が広がり、それらを二重に取り囲むように細長い水田部分が認められる。これは城跡の地割りを反映するものであり、高い部分は本丸や二の丸、低い部分は堀という北端中央の畑部分を中心とした城郭配置の様子が明瞭に残存している。渡辺・大藤両氏が『大和町史』において、明治 19 年の地籍図（以下地籍図と略記）をもとに推定復元した城の構造では、外堀と考えられる水田までが城の郭内であり、現状も当時とほとんど変わっていない。郭外とされた東側、南側には、地籍図によると堀（水田）によって細かく区割りされた部分が広がり、侍屋敷跡と推定されている。しかし、現状では高い部分は島状に散在するのみであり、後世に削平されて水田として利用されている。この南側の水田部分では、細長い水田の形から堀と推定可能なところもあるが、内堀ほど明確なものはない。

以上のように、本遺跡は平野部に築かれた城としては、県内唯一ともいえる保存状態が良好な遺跡である。

## Ⅲ　文献上の下草古城跡

下草古城については、享保 13 年（1728 年）の『仙台領古城書立之覚』などに記載され、『大和町史』（遠藤・伊藤：1975）にまとめられている。

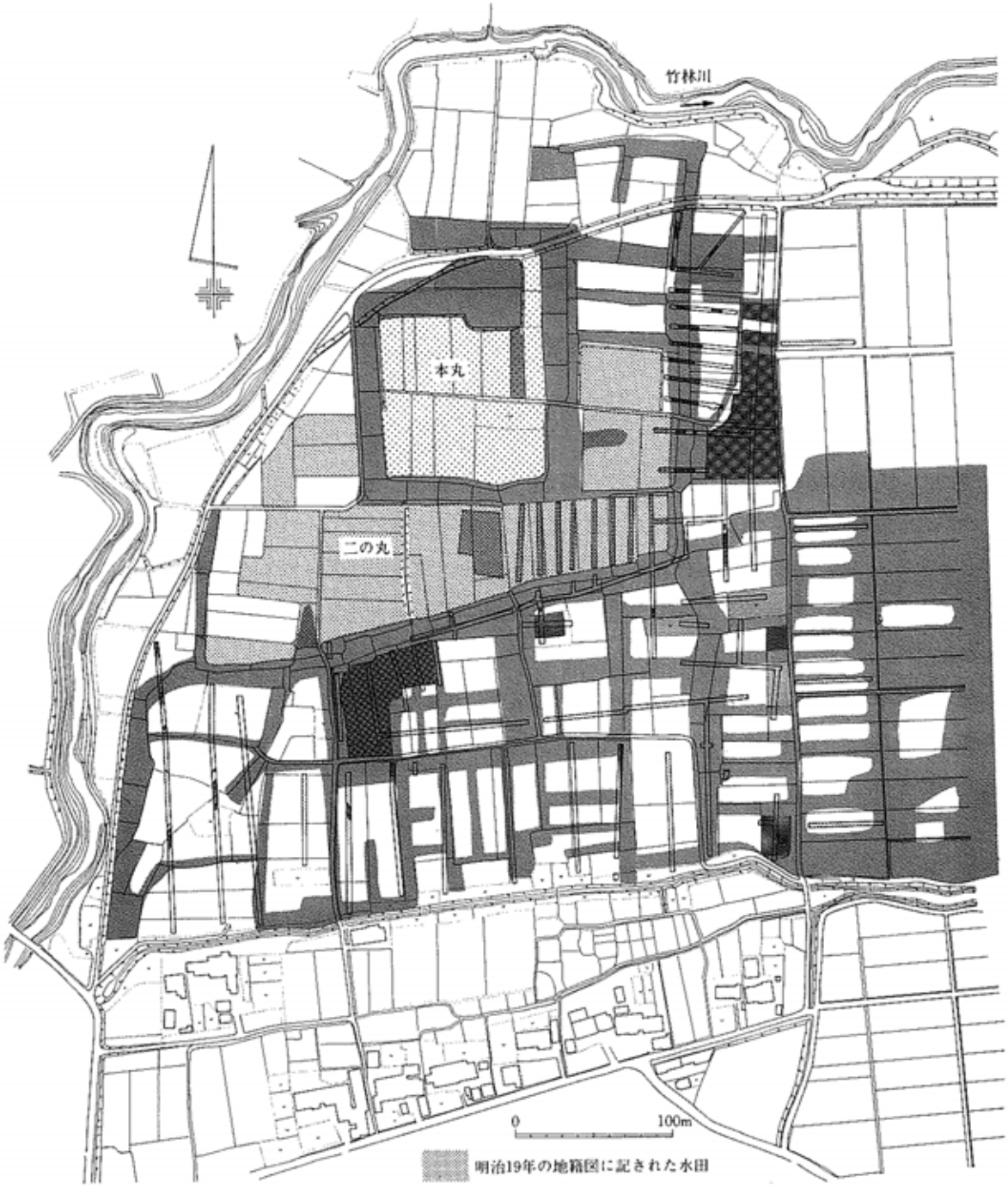
まず、城主、年代については、伊達政家の三男で、伊達家の重臣であった飯坂家の後を継いだ宗清が宮城郡松森村から慶長十五年（1610 年）に下草に移り、元和二年（1616 年）に吉岡に移るまで数年間住んだとされている（遠藤･伊藤：1975）。また、飯坂家の牌所で、現在吉岡にある「天皇寺」の『書上』によると、この寺は飯坂家に従って福島県伊達郡飯坂村から宮城郡松森村に移り、さらに、宗清に一年遅れて、慶長十六年（1611 年）に下草に移り、そして元和二年（1616 年）に吉岡に移ったことが記され、前記述を裏付けている。

規模は、『仙台領古城書立之覚』によると、

「平　古城　東西四十六間、南北六十八間。但四方ニ土手形上口八間之堀アリ西北ハ川　東南ハ幅四間長二百八十間ノ掘アリ」

とある。これは本丸部分が東西約 80m、南北約 120m、本丸の四方には幅約 14m の内堀が巡り、西・北側は竹林川が流れ、東・西側には幅約 7m、長さ約 500m の外堀があると解せ、現地形から推定できる城の構造・規模とほぼ一致する。

なお、文献に記された「下草古城」の城主、年代、規模・構造については上述の通りであるが、これまでの調査結果から宗清が「下草古城」に居城する以前にも町並みが存在していた可能性が高いこ




第２図　遺跡の全景と地籍図に記された水田

とが指摘されている（須田：1992･1993）。また、『伊達治家記録』（平：1973）にも、宗清が「下草古城」に居城する以前の天正 18・19 年（1590・1591 年）の大崎葛西一揆平定の時に「下草城」「下草館」の名前が数回現われ、伊達政宗や蒲生氏郷らが立ち寄っていることが記されている（佐野：1980）。この「下草城」「下草館」と「下草古城」が同一のものであるならば「下草古城」の年代が約二十年遡ることになり、調査結果と矛盾しない。しかし、『伊達治家記録』などに表われる「下草城」「下草館」は 16 世紀末という年代からも中世の山城である「鶴巣館」を指している可能性もあり、「下草城」「下草館」と「下草古城」が同一のものであるかは不明である。

# 第二章　調査に至る過程と方法

## Ⅰ　調査に至る過程

今回の調査区は遺跡の南西部に当たる。調査はこの地域の圃場整備に先立つ事前調査である。

水田面の整備は現在の水田面に盛土を施して行なわれるため、現在の水田面下の遺構は保存されることとなる。このため、掘削が行われる現在水田面に散在している高まり部分と遺跡南部を東西に走る北目用水（通称：北目堀）の南側、北側に延びる土手状の高まり部分、道路・水路部分が調査対象となる。

調査区は調査着手順に 1 区・2 区・3 区・・23 区というように数字を付してある（第 3 図）。平成 4 年度は 1～12 区、平成 5 年度は 5 区西・7 区・13～18 区の調査を行なった。今年度は、7 区南、19～23 区の調査を行なった。

これまでの調査で多数の遺構が確認されたが、ほとんどが中近世のもので掘立柱建物跡、溝跡、井戸跡、道路跡等が認められ城下町の一部が明かになっている。その他、少数ながら平安時代の遺構・遺物や古墳時代塩釜式期の土器集中地点が確認されている。

19・20 区は外堀南側の 17・18 区と 14 区を結ぶ南北方向の調査区である。7 区南・21・22 区は遺跡の南西端に最近まで畑地として利用されていた高まり部分である。昨年、7 区の整地層上面で多数の遺構が認められており、今年度も引き続き多数の遺構が確認されることが予想された。23 区は北目用水の南側、北側に東西に延びる土手状の高まり部分である。

調査面積は約 7.400 ㎡である。なお、7 区南・22 区では溝の延び、方向を確認するため調査区を一部拡張した。

## Ⅱ　調査の方法

調査にあたり、17 区南東部の No.8 杭を座標原点とし、3m×3mのグリッドを設定した。原点の国家座標は次の通りである。

座標原点（No.8 杭）国家座標Ｘ＝－175273.928　Ｙ＝＋6217.872

精査した遺構は、設定したグリッドをもとに簡易遣り方測量、平板測量による平面図を作成し、必要に応じて断面図を作成した。写真記録については 35 ㎜白黒・カラーリバーサル写真、6×7 白黒・カラー写真によって行なった。調査は 5 月 23 日に開始し、12 月 8 日に調査を終了した。

竹林川
1区
11区
2区
10区
3区
9区
17区
17区基本層位
4区
18区
18区基本層位
7区
8区
7区南
5区西
6区
5区東
20区
19区
22区
21区
北目用水
19区南基本層位
23区
16区
13区
14区
12区
15区
平成4年度
平成5年度
平成6年度
0
100m

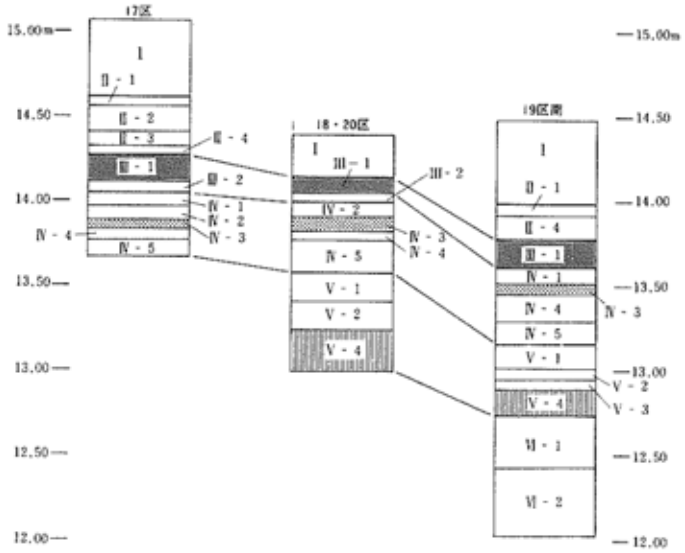
第3図　調査区

# 第三章　基本層序と発見された遺構・遺物

## Ⅰ　基本層序

本遺跡は竹林川右岸に広がる沖積地に位置しているため、各区、各地点で堆積状況が異なる。しかし、堆積状況が良好な地点（第３図）で層序を観察すると、多少の違いはあるものの、基準となる層を中心に各区でほぼ同じ層序を示すことがわかった。

層はⅠ層～Ⅵ層に大別でき、さらに細分される（第５図）。出土遺物などから年代が分かっているものは、Ⅰ層：現代、Ⅱ層：近世、Ⅳ層：古代、Ⅴ層：古墳時代である。Ⅲ層、Ⅵ層は不明であるが、おおまかにⅢ層は灰白色火山灰降下以降～中近世、Ⅵ層は古墳時代塩釜式期以前に位置づけられる。遺跡全体に広がり、視覚的に識別が可能な層は、Ⅲ－1 層の黒褐色粘土質シルト層、Ⅵ－3 層の灰白色火山灰層である。この２つの層を基準に柱状図をみてみると、17・18・20 区では両層がほぼ同じ標高であるのに対して、19 区南部ではこれらより 30～40 ㎝ほど低いところで確認されており、遺跡の西部、北部の方が東・南部より標高が高いことがわかる。このことから本遺跡は竹林川右岸の自然堤防上に位置し、本丸・二の丸は地形的に最も高い場所を選んで構築されているといえる。




| 層No. | 時代 | 土 | 色 | 土 性 | 備 考 |
|---|---|---|---|---|---|
| Ⅰ | 現代 | | | | 現代の水田床土、耕作土、盛土、表土。 |
| Ⅱ－1 | 近世 | 10YR4/4 | 褐色 | シ ル ト | 同色の砂質シルトを少量含む。 |
| －2 | | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色 | 〃 | 整地層。炭化物を少量含む。 |
| －3 | | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | 砂質シルト | 2.5Y5/3オリーブ褐色砂質シルトを多量に含む。 |
| －4 | | 2.5Y4/4 | オリーブ褐色 | シ ル ト | |
| Ⅲ－1 | 古代 | 10YR2/2 | 黒褐色 | 粘土質シルト | |
| －2 | | 2.5Y5/3 | 黄褐色 | シ ル ト | 崩落層。 |
| Ⅳ－1 | | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 〃 | 灰白粒をごく少量含む。 |
| －2 | | 2.5Y5/1 | 黄灰色 | 〃 | 灰白色火山灰層との崩落層。 |
| －3 | | 灰白色火山灰 | | | 19C前半。 |
| －4 | | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色 | 粘土質シルト | 17区 SX855遺物包含層。（9C前半） |
| －5 | | 2.5Y4/1 | 黄灰色 | 〃 | |
| Ⅴ－1 | | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色 | 〃 | 炭化物を少量含む。 |
| －2 | | 2.5Y5/3 | 黄褐色 | 〃 | 同色の砂質シルトを含む。 |
| －3 | 古墳 | 5Y4/2 | 灰オリーブ色 | 砂質シルト | 炭化物をごく少量含む。 |
| －4 | | 〃 | 〃 | 粘土質シルト | 18区塩釜式土器出土層。炭化物をごく少量含む。しまりあり。4C。 |
| Ⅵ－1 | | 〃 | 〃 | 砂質シルト | 同色の粘土質シルトをごく少量含む。 |
| －2 | | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 粘土質シルト | しまりあり。 |

第５図　基本層序模式図

## Ⅱ　発見された遺構・遺物

今回の調査で多数の遺構が確認されたが、ほとんどが中近世のものである。その他、平安時代の遺構が確認された。

### 1．中近世

#### ①発見された遺構

掘立柱建物跡、柱穴列跡、井戸跡、溝跡、土壙、焼け面跡、炭化物集中遺構などが確認された。全体的に、調査区の幅が狭いため遺構の全容が分かるものは少ない。井戸跡は出水や堆積土の崩落等により底面まで調査できたのは１基のみである。また、掘立柱建物跡のものと思われる柱穴も各調査区で多数確認されたが、建物跡と認識できたものは少ない。

以下、区ごとに主要な遺構の説明を行なう。なお、各遺構ごとに属性表（第１表～第８表）を作成したため、区の特徴、特筆すべきことのみを記述する。

**ａ．７区南（第６図～第８図）**

昨年度調査した７区の南側に続く高まり部分（W257～300）である。昨年度の調査では、この高まり部分に整地層が認められ、整地層上面で多数の遺構が確認された。また、高まりの東側、西側では外堀と連絡する溝が確認された。

調査の結果、高まり部分は、昨年度と同様に、現水田面（標高 14.75m）から高さ 1.2～1.5mほど近年に盛土されており、南側ほど攪乱されていることが明かとなった。遺構確認面は現水田面より数㎝～数十㎝程高い面であった。整地層、掘立柱建物跡 16 棟、柱穴列跡２列、井戸跡７基、溝跡 31 条、土壙９基、焼け面跡７基、炭化物集中遺構１基などが確認された。建物跡は調査区西側に集中しており、最低３時期の変遷が認められた。井戸跡はすべて素掘りであり、調査区北側に集中している。整地層上面で掘立柱建物跡、井戸跡、焼け面跡、炭化物集中遺構などが確認された。しかし、今年度も昨年度同様に整地層下では遺構が確認されなかった。

**整地層**

【ＳＸ466 整地層】ＳＸ466 は調査区北側中央（W273～282）に認められた。昨年度の調査結果と合わせると整地層はW268～300、Ｓ50～60 に不整形に広がっていることがわかった。

**掘立柱建物跡**

【ＳＢ786 建物跡】調査区北西に位置する。桁行５間、梁行４間（南端は３間）で、南、西、北に廂が付く南北棟である。廂はいずれも１間張り出している。身舎の南妻から２間目と西側柱列から１間目には間仕切りがある。ＳＸ466、ＳＢ548、ＳＡ826、ＳＤ718・722・736・776 より新しく、ＳＥ719 より古い。ＳＢ788 との関係は不明である。建物総長は桁行 9.0m、梁行 7.8mである。柱間寸法は身舎の桁行で 2.0m、梁行で 1.8m～2.7mで、廂はいずれも 1.2m張り出している。掘り方は長軸 30～60 ㎝、短軸 20～50 ㎝の楕円形、深さは 30～55 ㎝、柱痕跡は 15㎝前後の円形である。

【ＳＢ789 建物跡】調査区南西に位置する。身舎は桁行５間、梁行２間（北端は１間）で、西に廂、北東に張り出しが付く南北棟である。いずれも１間張り出している。新旧関係はＳＤ723・724・730・792、

ＳＫ741 より新しく、ＳＢ790・792・841 との関係は不明である。建物総長は桁行 9.4m、梁行 5.7mである。柱間寸法は身舎の桁行で 1.8～1.9m、梁行で 3.8m～4.1mで、廂は 0.9m、張り出し部分は 0.5～0.7m離れている。掘り方は長軸 20～60 ㎝、短軸 20～45 ㎝の円形・楕円形、深さは 30～40 ㎝、柱痕跡は 15～20 ㎝の円形である。

**溝跡**

【ＳＤ730 溝跡】調査区南端を北西－南東方向に延びる。新旧関係はＳＤ724 より新しく、ＳＤ792、ＳＢ789・791・792・793・841、ＳＫ728・729 より古い。幅は 1.6～2.4mで東側ほど少しづつ幅が広がる傾向にある。深さは 80 ㎝～100 ㎝でほぼ一定である。断面形はU字形を呈し、部分的に弱い段が付く。堆積土は最上層が自然堆積土であるほかは、人為的に埋め戻されている。

【ＳＤ735 溝跡】調査区南端を北西－南東方向に延びる溝で、東南端でほぼ直角に連絡する溝跡ＳＤ777 と一連のものである。新旧関係は、ＳＤ758 より新しくＳＤ723、724、ＳＢ789・790・841、ＳＫ741 より古い。また、ＳＤ735 とＳＤ766 には一連の小溝ＳＤ855・856 が確認されている。ＳＤ855・856 は検出状況から水位調節の役割を果たしたと思われる。このことは、これらの溝がある時期に同時に機能したことを示していると考えられる。

溝は西端（W300）で幅 55 ㎝、深さ 25 ㎝を計るが、W280 付近で幅 100 ㎝、深さ 60㎝、W270 付近で幅 200 ㎝、深さ 90 ㎝、W264 付近で幅 230㎝、深さ 150㎝と東進するほど幅、深さを増す。断面形は調査区西端で浅いU字形を呈するが、W270 以東で底部に段が付く逆凸形、W260 付近では段が不明瞭になり逆三角形に近くなる。堆積土はほとんど人為的に埋め戻されており、上層でわずかに自然堆積土が認められる程度である。

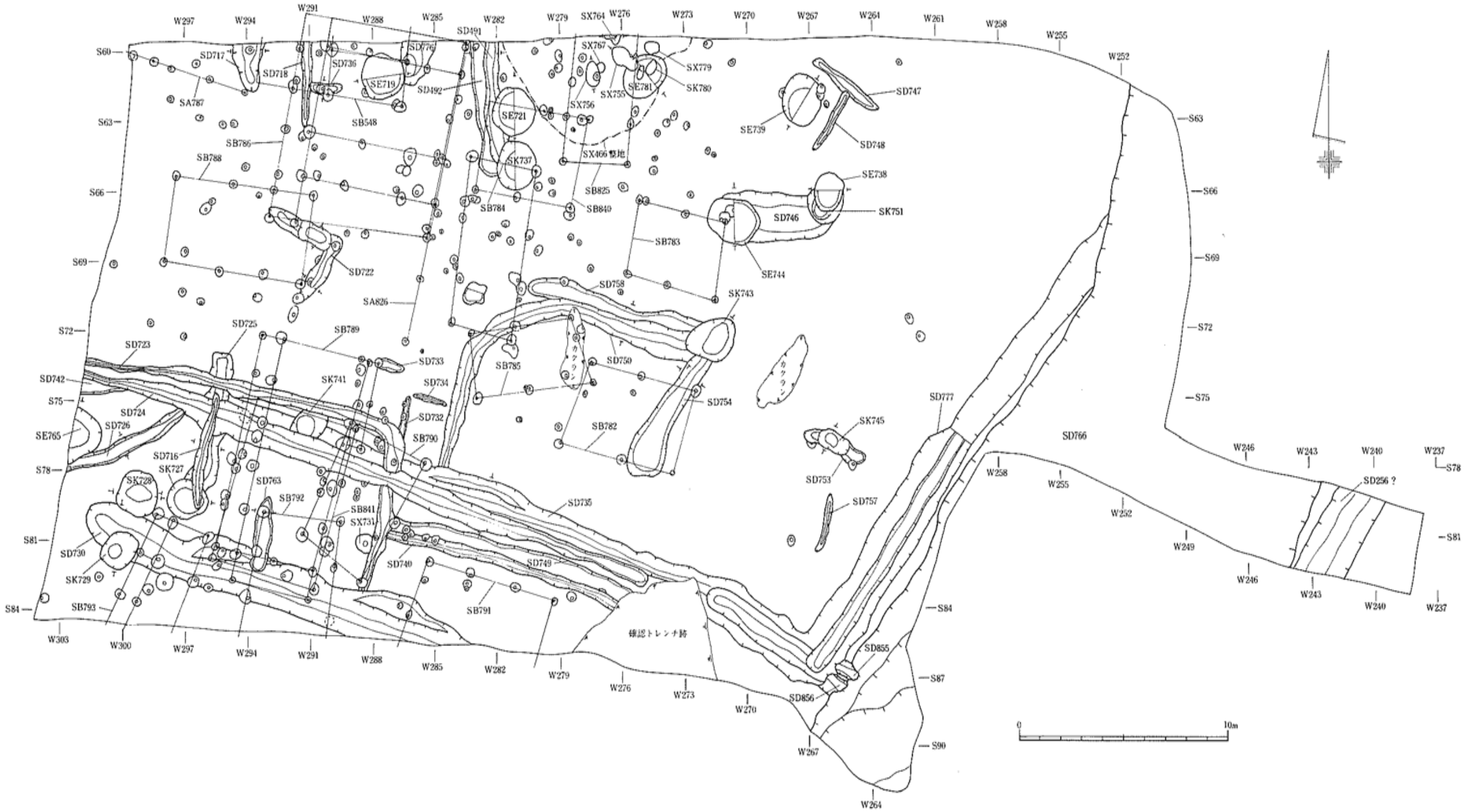
【ＳＤ766 溝跡】調査区東端を北東－南西方向に延びる大溝である。新旧関係は、ＳＤ777 より新しい。しかし、前述したようにＳＤ735 とＳＤ766 は同時に機能した時期があることから、ＳＤ735 と一連であるＳＤ777 も同様であったといえる。このことから、ここに見られる新旧関係は、ＳＤ777 がＳＤ766 より早く機能し終えたことを示しているものと考えられる。調査区の関係で溝の全容は不明であるが、方向から外堀ＳＤ146 と連絡する溝であると考えられ、調査区東南端で幅 15m、深さは 230 ㎝を計り、さらに深くなる。断面形はU字形を呈するものと思われ、調査区東南端では不規則な段が認められる。堆積土は砂質シルトを中心とした自然堆積土である。

**土壙**

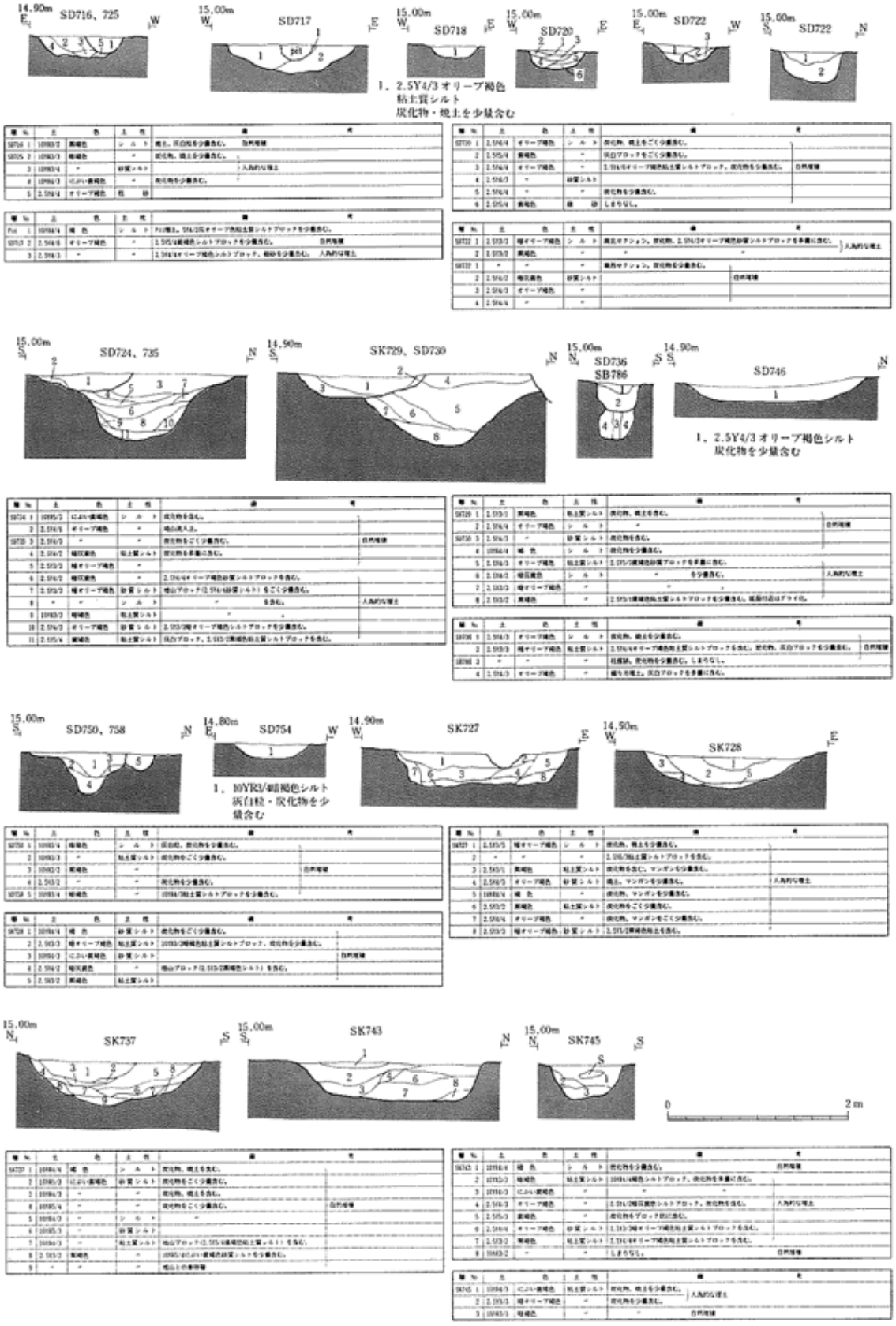
【ＳＫ780 土壙】調査区中央北端の整地層上面で確認された。平面形は長軸 70 ㎝、短軸 40 ㎝の楕円形で、深さ 15 ㎝の皿状である。堆積土には炭化物、焼土が含まれており、鉄滓、鞴の羽口が出土した。

**焼け面跡**

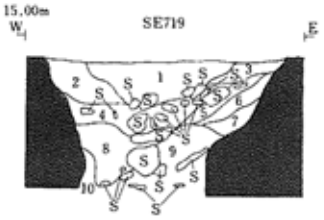
【ＳＸ755 焼け面跡】調査区中央北端の整地層上面で確認された。ＳＥ781 と重複し、これより新しい。平面形は長軸150㎝、短軸60㎝の不整楕円形で掘り方は認められない。熱変化した範囲は確認面から深さ 25 ㎝で、上面は硬化赤色化し、これを薄く焼土・炭化物層が覆っている。鞴の羽口、坩堝の破片が出土している。

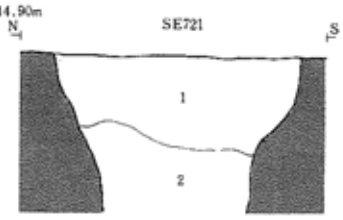


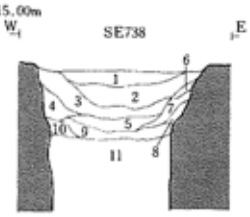

第６図　７区南遺構平面図




第７図　７区南遺構断面図 (1)



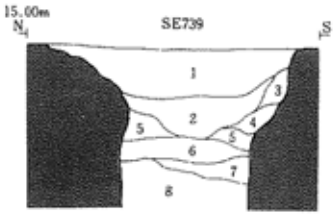



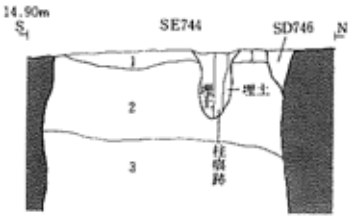



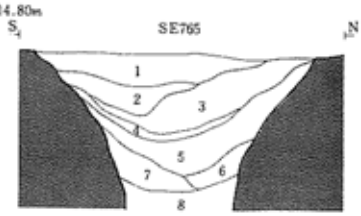

| 層No. | 土色 | | 土性 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|
| SE719 1 | 10YR3/4 | 暗褐色 | シルト | 炭化物、焼土、2.5Y4/3オリーブ褐色シルトブロックを含む。 | |
| 2 | 2.5Y4/4 | オリーブ褐色 | 〃 | 炭化物、焼土を少量含む。 | |
| 3 | 10YR4/6 | 褐色 | 〃 | 炭化物を少量含む。 | |
| 4 | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ褐色 | 〃 | 〃 | |
| 5 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色 | 〃 | 炭化物を含む。 | 人為的な埋土 |
| 6 | 〃 | 〃 | 砂質シルト | 炭化ブロックを少量含む。 | |
| 7 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 粘土質シルト | 〃 | |
| 8 | 2.5Y3/2 | 黒褐色 | 〃 | 5Y6/2オリーブ色砂質シルトブロックを含む。 | |
| 9 | 〃 | 〃 | 〃 | 炭化ブロックを多量に含む。 | |
| 10 | 〃 | 〃 | 砂質シルト | 〃 を含む。 | |

| 層No. | 土色 | | 土性 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|
| SE721 1 | 2.5Y4/4 | オリーブ褐色 | シルト | 焼山ブロック(2.5Y5/3黄褐色シルト)を含む。炭化物を少量含む。 | 人為的な埋土 |
| 2 | 5Y5/1 | オリーブ黒色 | 粘土質シルト | 炭化物をごく少量含む。 | |

| 層No. | 土色 | | 土性 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|
| SE738 1 | 10YR4/6 | 褐色 | シルト | 炭化物を少量含む。 | 自然堆積 |
| 2 | 2.5Y4/4 | オリーブ褐色 | 〃 | 〃 2.5Y5/4黄褐色シルトブロックを少量含む。 | |
| 3 | 10YR4/4 | 褐色 | 〃 | 10Y5/3にぶい黄褐色シルトブロックを含む。 | |
| 4 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | 砂質シルト | 10YR4/4褐色粘土質シルトブロックを少量含む。 | 人為的な埋土 |
| 5 | 2.5Y4/4 | オリーブ褐色 | 〃 | 10Y5/3にぶい黄褐色シルトブロックを少量含む。 | |
| 6 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | 〃 | 2.5Y4/4オリーブ褐色粘土質シルトブロックを含む。 | |
| 7 | 10YR5/3 | 〃 | 〃 | 2.5Y4/3オリーブ褐色粘土質シルトブロックを少量含む。 | |
| 8 | 10YR4/3 | 〃 | 〃 | 焼山焼埋土。 | |
| 9 | 〃 | 〃 | シルト | | 自然堆積 |
| 10 | 10YR4/4 | オリーブ褐色 | 砂質シルト | | |
| 11 | 10YR4/1 | 褐灰色 | シルト | グライ化。炭化物、スナモを少量含む。 | |



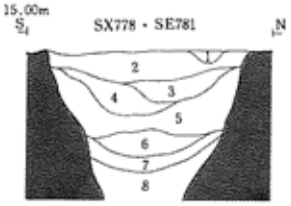



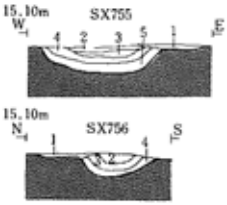




| 層No. | 土色 | | 土性 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|
| SE739 1 | 2.5Y5/3 | 黄褐色 | シルト | 炭化物をごく少量含む。 | |
| 2 | 〃 | 〃 | 砂質シルト | 2.5Y4/4オリーブ褐色粘土質シルトブロックを少量含む。 | |
| 3 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色 | 〃 | | |
| 4 | 2.5Y5/3 | 暗オリーブ褐色 | 粘土質シルト | 焼山焼埋土。 | 自然堆積 |
| 5 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色 | 〃 | | |
| 6 | 2.5Y4/1 | 黄灰色 | 砂質シルト | グライ化。炭化ブロック、2.5Y3/1黒色粘土質シルトブロックを少量含む。 | |
| 7 | 2.5Y3/1 | 黒褐色 | 粘土質シルト | 〃 炭化物を含む。 | |
| 8 | 5Y4/1 | 灰色 | 砂質シルト | 〃 〃 | |

| 層No. | 土色 | | 土性 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|
| P11 1 | 10YR3/4 | 暗褐色 | シルト | 柱根跡。炭化物を少量含む。 | |
| 2 | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ褐色 | 粘土質シルト | P11埋土。2.5Y5/3黄褐色粘土質シルトブロックを少量含む。 | |
| SE744 3 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色 | シルト | 炭化粒、炭化物を少量含む。 | |
| 4 | 10YR4/6 | 褐色 | 粘土質シルト | 同色の細砂を含む。 | 人為的な埋土 |
| 5 | 5Y5/1 | オリーブ黒色 | 〃 | 炭化ブロックを少量含む。 | |

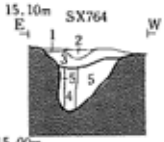
| 層No. | 土色 | | 土性 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|
| SE765 1 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | シルト | 10Y3/2黒褐色粘土質シルトブロックを含む。炭化ブロックを少量含む。 | |
| 2 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 〃 | 〃 〃 | |
| 3 | 2.5Y5/3 | 黄褐色 | 粘土質シルト | 〃 炭化ブロックを多量に含む。 | |
| 4 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | シルト | 炭化物を少量含む。 | 人為的な埋土 |
| 5 | 5Y5/1 | 灰白色 | 〃 | 炭化ブロックを少量含む。 | |
| 6 | 2.5Y4/1 | 黒灰色 | 砂質シルト | 10Y3/2黒褐色粘土質シルトブロックを含む。 | |
| 7 | 〃 | 〃 | 粘土質シルト | 炭化ブロックを多量に含む。 | |
| 8 | 5Y5/1 | 灰色 | 砂質シルト | 10Y3/2黒褐色粘土質シルトブロックを多量に含む。 | |

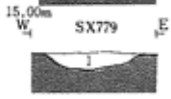









| 層No. | 土色 | | 土性 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| SX778 1 | 10YR6/3 | 暗褐色 | シルト | 2層が熱により強く赤色化した範囲。 |
| SE781 2 | 10YR4/4 | 褐色 | 〃 | 炭化物を少量含む。10YR5/4にぶい黄褐色シルトブロックを少量含む。 |
| 3 | 10YR3/4 | 暗褐色 | 〃 | 炭化物、10YR5/4にぶい黄褐色シルトブロックを含む。 |
| 4 | 10YR4/4 | 褐色 | 〃 | 炭化物、焼山ブロックを少量含む。 |
| 5 | 10YR4/2 | にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | 炭化物を少量含む。10YR3/2黒褐色粘土質シルトブロック、焼山ブロックを多量に含む。 |
| 6 | 7.5YR5/1 | オリーブ黒色 | 〃 | 焼山ブロック、2.5Y3/2オリーブ黒色粘土質シルトブロックを多量に含む。グライ化。 |
| 7 | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ褐色 | 〃 | 焼山ブロック、スナモを少量含む。 |
| 8 | 2.5Y3/1 | 黒褐色 | 〃 | 焼山粒、スナモ、2.5Y5/3黄褐色砂質シルトを含む。ややグライ化している。 |

| 層No. | 土色 | | 土性 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| SX755 1 | 2.5Y5/3 | 黄褐色 | シルト | 炭化物、焼土を少量含む。 |
| 2 | 7.5YR4.5/1 | 黒色 | 〃 | 硬化面。炭化物を多量に含む。 |
| 3 | 7.5YR4/6 | 褐色 | 〃 | 〃 部分的に2.5YR5/8明黄褐色化している。 |
| 4 | 5YR3/2 | 暗赤褐色 | 〃 | 熱によりさ赤色化している範囲。 |
| 5 | 10YR4/4 | 褐色 | 〃 | 4層より強く赤色化(10R3/2暗赤褐色)している範囲。 |

| 層No. | 土色 | | 土性 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| SX756 1 | 2.5Y5/3 | 黄褐色 | シルト | 炭化物、焼土を少量含む。 |
| 2 | 10YR5/6 | 〃 | 〃 | 硬化面。 |
| 3 | 5YR3/2 | 暗赤褐色 | 〃 | 熱により赤色化している範囲。 |
| 4 | 10YR4/4 | 褐色 | 〃 | 3層より強く赤色化している範囲。 |

| 層No. | 土色 | | 土性 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| SX764 1 | 2.5Y5/3 | 黄褐色 | シルト | 炭化物を多量に含む。 |
| 2 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色 | 〃 | 硬化面。部分的に暗色になっている。 |
| 3 | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | 〃 | 熱によりさ赤色化している範囲。炭化物、焼土を含む。 |
| P11 4 | 2.5Y4/4 | オリーブ褐色 | 〃 | 柱根跡。炭化物を少量含む。 |
| 5 | 2.5Y5/4 | 黄褐色 | 〃 | 掘り方埋土。炭白ブロックを少量含む。 |

| 層No. | 土色 | | 土性 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| SX779 1 | 10YR2/3 | 黒褐色 | シルト | 炭化物、焼土を多量に含む。人為的な埋土 |

第８図　７区南遺構断面図 (2)

0　2m

### ｂ．19 区（第 9 図～第 14 図）

掘立柱建物跡 10 棟、柱穴列跡 9 列、井戸跡 16 基、溝跡 50 条、土壙 7 基などが地山面で確認された。後世の削平のためか整地層は認められなかった。

遺構はＳ75～180 で溝跡、井戸跡、掘立柱建物跡、土壙など多数の遺構が確認されたが、Ｓ75 以北は溝のみ、Ｓ180 以南は溝跡、掘立柱建物跡、柱穴列跡が認められたものの遺構の分布は稀薄であるというように、区域によって遺構の様相が異なる。

溝跡は主に 17 区から延びる南北溝とこれらに直交する東西溝で、ほとんどが幅 1m以下の小規模なものである。Ｓ20・Ｓ42 付近では４時期の変遷が認められた。掘立柱建物跡はＳ120～180 に集中している。全容がわかるものは少ないが、桁行 3 間、梁行 1 間程度の単純な構造のものと思われる。井戸跡はすべて素掘りである。

**溝跡**

【ＳＤ601 溝跡】Ｓ12～68 で確認された。ＳＤ600・602・639 より古く、ＳＤ603・643・645・664・ 663・666 より新しい。幅は 1m前後、深さは 30～40 ㎝でほぼ一定であるが、Ｓ37～41、Ｓ54～66 で布掘り状に 30㎝前後深くなる。断面形は浅い皿状を呈するが、布掘り状に一段深くなるところは逆凸形である。堆積土は砂質シルトの自然堆積土で、灰白色火山灰の粒子、ブロックを含む。

【ＳＤ602 溝跡】調査区北側Ｓ42～90 で確認された。新旧関係はＳＤ601・639・641・642・644～647・657 より新しい。ＳＤ604・607 とは新旧関係は認められず、一連の溝と考えられる。幅は 30～80 ㎝で、深さは 15～20 ㎝でほぼ一定である。断面形は浅い皿状を呈する。堆積土は砂質シルトを中心とする自然堆積土である。

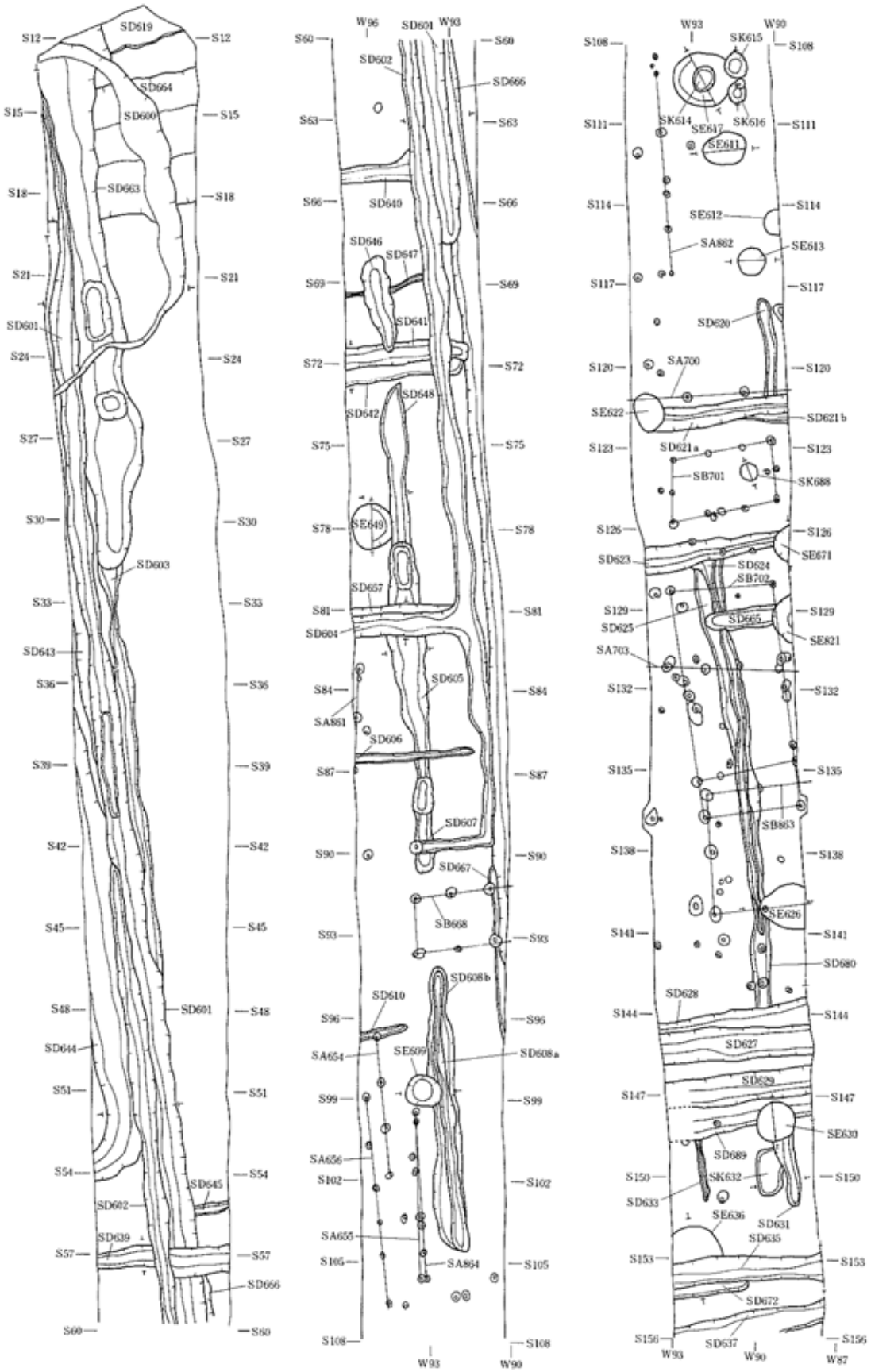
【ＳＤ608a･b 溝跡】調査区中央部 S94～105 でほぼ同位置で重複している溝が確認された。古い溝をＳＤ608ａ、新しい溝をＳＤ608ｂとする。両者ともＳＥ609 より古い。

ＳＤ608a は長さ 10.5m、最大幅 1m、深さ 45～55 ㎝で、断面形はU字形を呈する。堆積土は下層は人為的な埋土、上層はシルト、粘土質シルトからなる自然堆積層である。

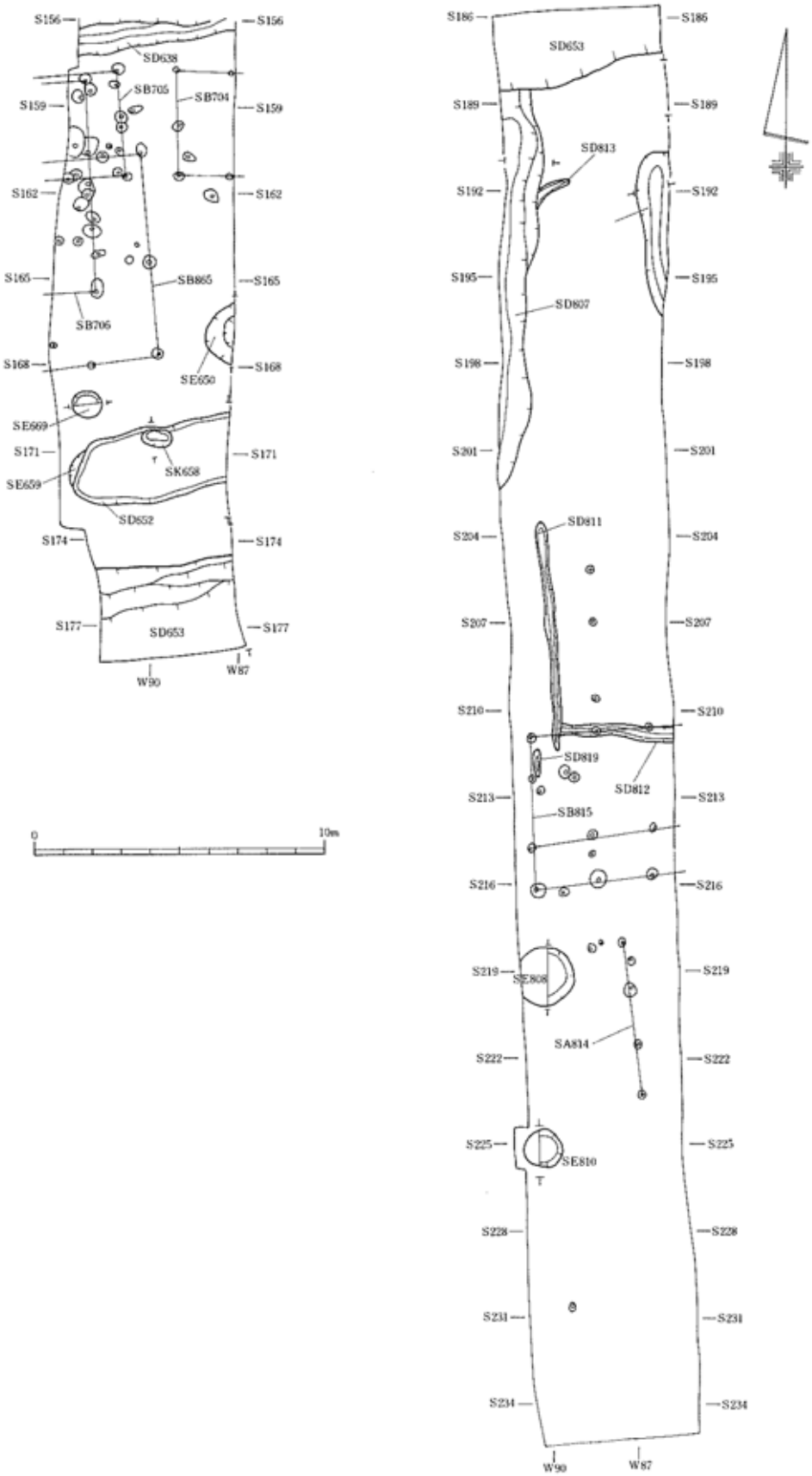
ＳＤ608b は長さ 10.3m、最大幅 30～60㎝、深さ 20 ㎝で、断面形はU字形を呈する。堆積土は下層はシルト、粘土質シルトからなる自然堆積層である。

【ＳＤ663 溝跡】Ｓ12～32 で確認された。昨年 17 区で確認されたＳＤ451 と一連の溝と思われる。ＳＤ600・601 より古く、ＳＤ603・619・664 より新しい。幅は 2.5m前後、深さは 30～60 ㎝であるが、Ｓ21～23、26 付近で土壙状に 30 ㎝前後深くなる。断面形はU字形で、一段深くなるところは逆凸形である。堆積土はシルトを中心に灰白色火山灰の粒子、ブロックを含む。堆積土は最下層が人為的な埋土のほかは砂質シルトの自然堆積土で、炭化物、灰白色火山灰の粒子・ブロックを含む。

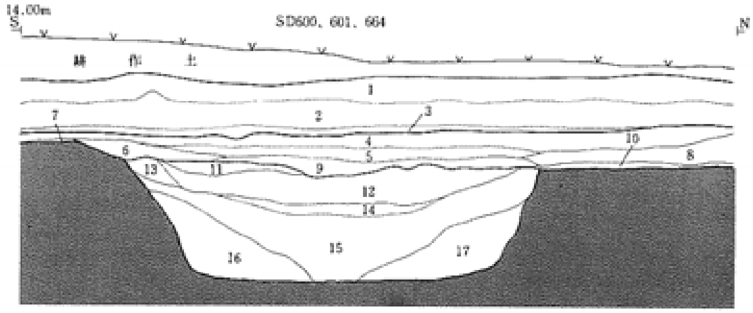
【ＳＤ664 溝跡】調査区北端Ｓ13～18 で確認された。ＳＤ600・601・663 と重複し、これらより古い。幅は 5.0m、深さは 1.4mである。断面形はU字形である。堆積土は粘土質シルト中心の自然堆積土で、炭化物、灰白色火山灰の粒子、ブロックを少量含む。



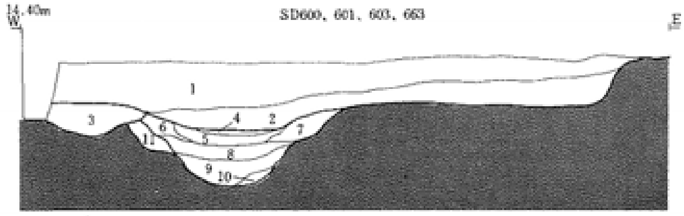

第９図　19区遺構平面図（１）

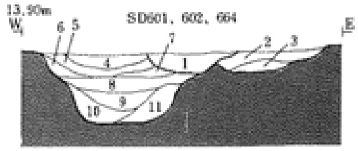



第10図　19区遺構平面図（2）



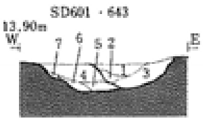

| 層No. | 土色 | | 土性 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|
| SD600 1 | 2.5Y4/6 | オリーブ褐色 | シルト | 炭化物、灰白粒をごく少量含む。 | |
| 2 | 2.5Y4/3 | 〃 | 粘土質シルト | 〃 。 | |
| 3 | 5Y4/3 | 暗オリーブ色 | 〃 | 炭化物を少量含む。 | |
| SD601 4 | 5Y4/2 | 灰オリーブ色 | シルト | 〃 。 | |
| 5 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 粘土質シルト | 〃 。 | 自然堆積 |
| 6 | 5Y4/3 | 暗オリーブ色 | 〃 | 〃 、灰白粒を少量含む。 | |
| 7 | 5Y5/4 | オリーブ色 | 〃 | 〃 。 | |
| 8 | 2.5Y4/3 | 〃 | 〃 | 2.5Y4/4オリーブ褐色砂質シルトを少量含む。 | |
| 9 | 5Y4/1 | 灰色 | 〃 | 5Y4/1灰色中粒砂を少量含む。 | |
| 10 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 粘土質シルト | 灰色ブロックを少量含む。 | |
| SD664 11 | 5Y4/2 | 灰オリーブ色 | 〃 | 炭化物をごく少量含む。 | |
| 12 | 5Y3/3 | 暗オリーブ褐色 | 〃 | 〃 。 | |
| 13 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 〃 | 〃 、5Y5/2灰オリーブ色シルトブロックを少量含む。 | 自然堆積 |
| 14 | 5Y3/2 | オリーブ黒色 | 〃 | 炭化物層や砂質シルトが層状に入る。水成堆積。 | |
| 15 | 5Y4/2 | 灰オリーブ色 | 〃 | 炭化物をごく少量含む。2.5Y4/4オリーブ褐色粘土質シルトブロックを少量含む。 | |
| 16 | 5Y4/3 | 暗オリーブ色 | 〃 | 炭化物を少量含む。 〃 を含む。 | |
| 17 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 、2.5Y5/3黄褐色粘土質シルトブロックを少量含む。 | |

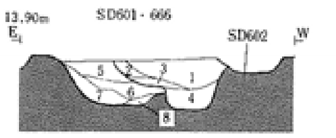



| 層No. | 土色 | | 土性 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|
| SD600 1 | 2.5Y4/4 | オリーブ褐色 | 砂質シルト | 炭化物、灰白粒を少量含む。 | |
| 2 | 2.5Y4/3 | 〃 | 〃 | 〃 、1層よりしまりなし。 | |
| SD603 3 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 〃 | 炭化物を少量含む。 | |
| SD663 4 | 2.5Y5/3 | 黄褐色 | 細砂 | | |
| 5 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 粘土質シルト | 2.5Y4/3オリーブ褐色砂質シルトを含む。 | |
| 6 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色 | 〃 | | 自然堆積 |
| 7 | 〃 | 〃 | 砂質シルト | 灰白粒を少量含む。 | |
| 8 | 2.5Y3/2 | 黒褐色 | 粘土質シルト | 炭化物、灰白粒を含む。 | |
| 9 | 5Y3/2 | オリーブ黒色 | 中～細砂 | 〃 〃 。 | |
| 10 | 5Y4/2 | 灰オリーブ色 | 粘土質シルト | 地山崩落土。灰白ブロックを多量に含む。 | |
| SD601 11 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色 | シルト | 炭化物、灰白ブロックを多量に含む。 | 人為的な埋土 |

| 層No. | 土色 | | 土性 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|
| SD602 1 | 2.5Y5/4 | にぶい黄褐色 | シルト | 灰白ブロックを少量含む。 | |
| SD601 2 | 2.5Y4/4 | 褐色 | 〃 | 灰白粒をごく少量含む。 | |
| 3 | 2.5Y4/2 | 灰黄褐色 | 粘土質シルト | | |
| SD664 4 | 2.5Y4/4 | 褐色 | 〃 | | |
| 5 | 2.5Y5/2 | 灰黄褐色 | 〃 | | |
| 6 | 2.5Y4/4 | 褐色 | シルト | | 自然堆積 |
| 7 | 2.5Y3/4 | 暗褐色 | 〃 | | |
| 8 | 2.5Y4/3 | にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | しまりなし。 | |
| 9 | 2.5Y3/2 | 黒褐色 | 〃 | 〃 | |
| 10 | 2.5Y4/2 | 灰黄褐色 | 〃 | 灰白ブロックを少量含む。 | |
| 11 | 2.5Y4/3 | にぶい黄褐色 | 〃 | 〃 | |

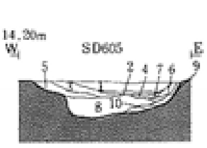


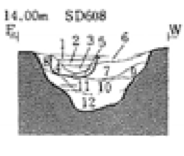
1．SD604 2.5Y⅘ オリーブ褐色 砂質シルト 炭化物含む
2．SD657 2.5Y⅘ オリーブ褐色 粘土質シルト 灰白粒少量含む

| 層No. | 土色 | | 土性 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|
| SD601 1 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色 | 砂質シルト | 炭化物、灰白粒をごく少量含む。 | |
| 2 | 2.5Y3/2 | 黒褐色 | 〃 | 炭化物をごく少量含む。 | |
| 3 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | シルト | 灰白ブロック、2.5Y5/3黄褐色粘土質シルトブロックを少量含む。 | |
| SD643 4 | 2.5Y4/4 | オリーブ褐色 | 粘土質シルト | 炭化物、灰白粒を少量含む。 | 自然堆積 |
| 5 | 2.5Y4/3 | 〃 | 〃 | 灰白ブロック、2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルトを含む。 | |
| 6 | 〃 | 〃 | 砂質シルト | 灰白粒をごく少量含む。 | |
| 7 | 2.5Y4/4 | 〃 | 粘土質シルト | 〃 、地山崩落土。 | |

| 層No. | 土色 | | 土性 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|
| SD601 1 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 粘土質シルト | 炭化物、灰白粒をごく少量含む。 | |
| 2 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色 | 砂質シルト | | 自然堆積 |
| 3 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 〃 | | |
| 4 | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ褐色 | 粘土質シルト | 炭化物、灰白粒を少量含む。 | 人為的な埋土 |
| SD666 5 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色 | 〃 | 〃 。 | |
| 6 | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ褐色 | 〃 | 灰白ブロックを少量含む。 | 自然堆積 |
| 7 | 10YR3/2 | 黒褐色 | 〃 | | |
| 8 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 〃 | 灰白をごく少量含む。 | |

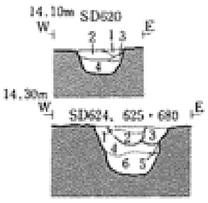


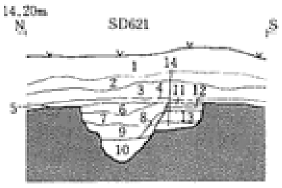

| 層No. | 土色 | | 土性 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|
| SD605 1 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色 | シルト | 灰白ブロックを多量に含む。炭化物を少量含む。 | 人為的な埋土 |
| 2 | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ褐色 | 粘土質シルト | 灰白ブロック、炭化物をごく少量含む。 | |
| 3 | 5Y4/3 | 暗オリーブ色 | 〃 | 炭化物を少量含む。 | |
| 4 | 2.5Y3/2 | 黒褐色 | 〃 | 〃 。 | 自然堆積 |
| 5 | 5Y4/2 | 灰オリーブ色 | 〃 | 〃 、地山ブロック(2.5Y4/4褐色粘土質シルト)を少量含む。 | |
| 6 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色 | 〃 | 炭化物をごく少量含む。 | |
| 7 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 〃 | | |
| 8 | 2.5Y3/1 | 黒褐色 | 〃 | 炭化物をごく少量含む。5Y3/2オリーブ黒色粘土質シルトブロックを少量含む。 | |
| 9 | 2.5Y3/2 | 〃 | 〃 | 〃 。 | 人為的な埋土 |
| 10 | 2.5Y4/1 | 黄灰色 | 〃 | 5Y3/2オリーブ黒色粘土質シルトブロックを多量に含む。 | |

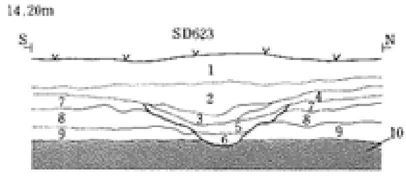



| 層No. | 土色 | | 土性 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|
| SD608a 1 | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ褐色 | シルト | 炭化物を含む。 | |
| 2 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色 | 〃 | 炭化物を多量に含む。 | |
| 3 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 粘土質シルト | 炭化物、灰白粒を少量含む。 | |
| 4 | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ褐色 | シルト | 2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルト含む。 | |
| 5 | 〃 | 〃 | 粘土質シルト | | 自然堆積 |
| SD608b 6 | 〃 | 〃 | シルト | 炭化物を少量含む。 | |
| 7 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 粘土質シルト | 灰白粒をごく少量含む。 | |
| 8 | 〃 | 〃 | シルト | | |
| 9 | 5Y3/2 | オリーブ黒色 | 粘土質シルト | | |
| 10 | 2.5Y3/2 | 黒褐色 | 〃 | 炭化物、9層をブロック状に含む。 | |
| 11 | 〃 | 〃 | 〃 | 灰白粒を少量含む。 | 人為的な埋土 |
| 12 | 〃 | 〃 | 〃 | 灰白ブロック、2.5Y3/2黒褐色粘土質シルトブロックを含む。 | |

第11図　19区遺構断面図（1）



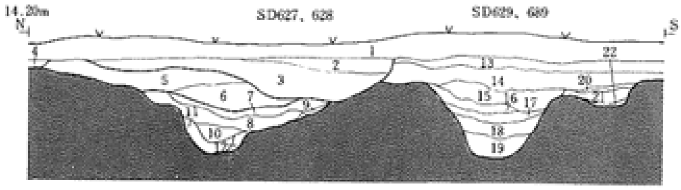




| 層 No. | 土色 | | 土性 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|
| SD620 1 | 2.5Y4/4 | オリーブ褐色 | シルト | 炭化物をごく少量含む。地山ブロック(2.5Y5/3黄褐色砂質シルト)を含む。 | |
| 2 | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ褐色 | 粘土質シルト | 〃 。2.5Y5/6黄褐色粗粒砂を少量含む。 | |
| 3 | 2.5Y3/2 | 黒褐色 | 〃 | 〃 。 | |
| 4 | 5Y3/2 | オリーブ黒色 | 〃 | 〃 。5Y5/2灰オリーブ色粘土質シルトブロックをごく少量含む。 | |

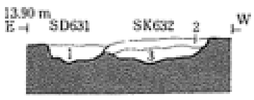
| 層 No. | 土色 | | 土性 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|
| SD624 1 | 2.5Y4/4 | オリーブ褐色 | シルト | | 自然堆積 |
| 2 | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ褐色 | 砂質シルト | | |
| SD625 3 | 2.5Y4/1 | 黄灰色 | シルト | 2.5Y5/1黄褐色シルトブロック、2.5Y5/3黄褐色砂を含む。 | 人為的な埋土 |
| SD680 4 | 2.5Y5/1 | 〃 | 〃 | 〃 〃 。 | |
| 5 | 2.5Y4/1 | 〃 | 〃 | 〃 を含む。 | |
| 6 | 〃 | 〃 | 〃 | | 自然堆積 |

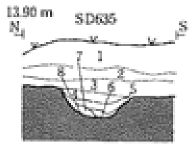
| 層 No. | 土色 | | 土性 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y4/6 | オリーブ褐色 | シルト | 耕作土。 | |
| 2 | 2.5Y4/3 | 〃 | 粘土質シルト | 炭化物をごく少量含む。 | |
| 3 | 5Y4/3 | オリーブ褐色 | 〃 | 〃 。 | 基本層位 |
| 4 | 2.5Y3/2 | 黒褐色 | 〃 | 〃 。 | |
| 5 | 10YR4/4 | 褐色 | 〃 | 炭化物を少量含む。 | |
| SD621a 6 | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ褐色 | 〃 | 炭化物、焼土をごく少量含む。 | |
| 7 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 〃 | 炭化物をごく少量含む。 | |
| 8 | 2.5Y4/2 | 〃 | 〃 | 焼土をごく少量含む。 | |
| 9 | 2.5Y3/3 | オリーブ褐色 | 〃 | | |
| 10 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | 〃 | 炭化物をごく少量含む。灰白ブロックをごく少量含む。 | 自然堆積 |
| SD621b 11 | 2.5Y4/4 | オリーブ褐色 | 〃 | 〃 。 | |
| 12 | 2.5Y4/3 | 〃 | 〃 | 灰白粒をごく少量含む。 | |
| 13 | 2.5Y3/2 | 黒褐色 | 〃 | 炭化物をごく少量含む。 | |
| 14 | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ褐色 | 〃 | 炭化物を少量含む。 | |

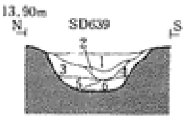


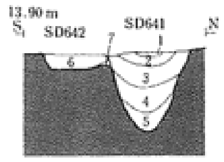

| 層 No. | 土色 | | 土性 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 5Y4/2 | 灰オリーブ色 | シルト | 耕作土。 | |
| 2 | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ褐色 | 〃 | 焼土、灰白粒、1～2㎝の小礫を少量含む。 | |
| 3 | 2.5Y3/2 | 黒褐色 | 粘土質シルト | 炭化物を多量に含む。 | |
| 4 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色 | シルト | | |
| SD623 5 | 5Y3/2 | オリーブ黒色 | 粘土質シルト | 炭化物を少量含む。 | |
| 6 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 〃 | 〃 。 | |
| 7 | 2.5Y4/6 | オリーブ褐色 | シルト | | |
| 8 | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ褐色 | 粘土質シルト | | 基本層位。 |
| 9 | 5Y3/1 | オリーブ黒色 | 〃 | | |
| 10 | 灰白色火山灰 | | | | |

| 層 No. | 土色 | | 土性 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y5/4 | 黄褐色 | シルト | 耕作土。 |
| SD627 2 | 2.5Y5/3 | 〃 | 〃 | 焼土、灰白粒をごく少量含む。 |
| 3 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色 | 〃 | 〃 。 |
| 4 | 2.5Y5/4 | 黄褐色 | 〃 | 基本層位。 |
| 整地 5 | 2.5Y4/4 | オリーブ褐色 | 粘土質シルト | 焼土、灰白粒を含む。小礫を含む。 |
| 6 | 2.5Y4/3 | 〃 | 〃 | 灰白ブロックを少量含む。 |
| SD628 7 | 5Y4/2 | 灰オリーブ色 | 〃 | 炭化物を含む。灰白粒をごく少量含む。 |
| 8 | 5Y3/2 | オリーブ黒色 | 〃 | |
| 9 | 5Y4/2 | 灰オリーブ色 | 〃 | 地山ブロック(2.5Y4/3オリーブ褐色)を多量に含む。 |
| 10 | 5Y3/2 | オリーブ黒色 | 〃 | 炭化物をごく少量含む。 |
| 11 | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ褐色 | 〃 | 5Y4/2灰オリーブ色粘土質シルトブロックを少量含む。 |
| 12 | 5Y3/1 | オリーブ黒色 | 粘土質シルト | 灰白ブロックを少量含む。 |
| 13 | 2.5Y4/6 | オリーブ褐色 | シルト | 基本層位。 |
| 14 | 2.5Y4/4 | 〃 | 〃 | 〃 、炭化物、灰白粒、小礫を少量含む。 |
| SD629 15 | 2.5Y4/3 | 〃 | 粘土質シルト | 炭化物をごく少量含む。灰白粒を少量含む。 |
| 16 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 〃 | 〃 。 |
| 17 | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ褐色 | 〃 | 〃 。 |
| 18 | 5Y4/2 | 灰オリーブ色 | 〃 | 5Y4/3暗オリーブ粘土質シルトブロックを少量含む。 |
| 19 | 5Y3/1 | オリーブ黒色 | 〃 | 〃 を含む。 |
| SD689 20 | 2.5Y4/4 | オリーブ褐色 | 〃 | 灰白粒をごく少量含む。 |
| 21 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 〃 | 〃 。炭化物を少量含む。 |
| 22 | 2.5Y3/2 | 黒褐色 | 〃 | 5Y5/2灰オリーブ色粘土質シルトブロックを少量含む。 |



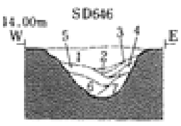



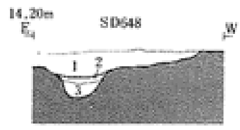

| 層 No. | 土色 | | 土性 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|
| SD631 1 | 7.5YR4/1 | 褐灰色 | 砂質シルト | 木炭を多量に含む。10YR4/1褐灰色砂質シルトブロックを含む。 | |
| SK632 2 | 10YR4/2 | 灰黄褐色 | 〃 | 木炭粒を含む。 | 人為的な埋土 |
| 3 | 2.5Y4/1 | 黄灰色 | シルト | | |

| 層 No. | 土色 | | 土性 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y4/4 | オリーブ褐色 | シルト | 耕作土。 | |
| 2 | 2.5Y4/3 | 〃 | 〃 | | |
| 3 | 〃 | 〃 | 〃 | 炭化物、焼土を少量含む。 | |
| SD635 4 | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ褐色 | 粘土質シルト | | |
| 5 | 5Y3/2 | オリーブ黒色 | 〃 | 炭化物をごく少量含む。 | |
| 6 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色 | 〃 | | 自然堆積 |
| 7 | 5Y3/2 | オリーブ黒色 | 〃 | 5Y4/2灰オリーブ色粘土質シルトブロックを少量含む。 | |
| 8 | 2.5Y3/2 | 黒褐色 | 〃 | | |

| 層 No. | 土色 | | 土性 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|
| SD639 1 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 粘土質シルト | 2.5Y5/3暗灰黄色粘土質シルトブロックを少量含む。 | |
| 2 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色 | 〃 | | |
| 3 | 2.5Y4/4 | 〃 | 〃 | | 自然堆積 |
| 4 | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ褐色 | 〃 | 地山崩落土(5Y4/2灰オリーブ色粘土質シルトブロック)を多量に含む。 | |
| 5 | 2.5Y4/4 | オリーブ褐色 | 〃 | | |
| 6 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 〃 | 地山崩落土(5Y4/2灰オリーブ色粘土質シルトブロック)を多量に含む。 | |

| 層 No. | 土色 | | 土性 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|
| SD641 1 | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ褐色 | シルト | 炭化物をごく少量含む。 | |
| 2 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色 | 砂質シルト | 炭化物を少量含む。 | |
| 3 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 粘土質シルト | 〃 。 | |
| 4 | 2.5Y4/1 | 黄灰色 | 〃 | 〃 。地山ブロック(5Y5/3灰オリーブ色粘土質シルト)を含む。 | 自然堆積 |
| 5 | 2.5Y3/1 | 黒褐色 | 〃 | 炭化物を含む。灰白粒を少量含む。 | |
| SD642 6 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 〃 | 炭化物を少量含む。地山ブロック(5Y4/2灰オリーブ色シルト)を含む。 | |
| 7 | 2.5Y4/4 | オリーブ褐色 | 〃 | | |

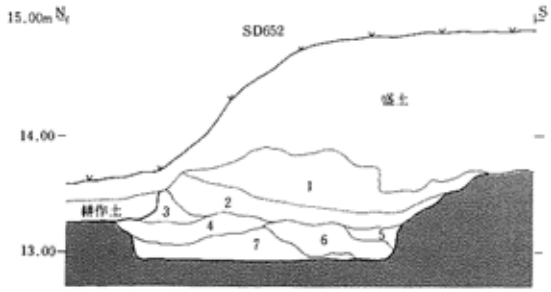


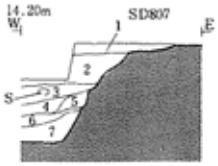

| 層 No. | 土色 | | 土性 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|
| SD646 1 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色 | シルト | 炭化物、焼土を少量含む。 | |
| 2 | 5Y4/2 | 灰オリーブ色 | 粘土質シルト | 炭化物を少量含む。 | |
| 3 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色 | 〃 | 〃 | |
| 4 | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ褐色 | 〃 | | 自然堆積 |
| 5 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色 | 〃 | 炭化物、焼土を少量含む。 | |
| 6 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色 | 〃 | 炭化物を多量に含む。 | |
| 7 | 10YR4/2 | 灰黄褐色 | 〃 | 地山ブロック(5Y4/3暗オリーブ色)を含む。 | |

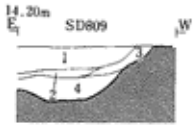
| 層 No. | 土色 | | 土性 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | シルト | 炭化物を含む。灰白粒を少量含む。 | |
| SD648 2 | 2.5Y4/1 | 黄灰色 | 粘土質シルト | 炭化物を少量含む。 | 自然堆積土 |
| 3 | 2.5Y3/2 | 黒褐色 | 〃 | 〃 。5Y5/2灰オリーブ色粘土質シルトブロックを少量含む。 | |

第12図　19区遺構断面図（2）



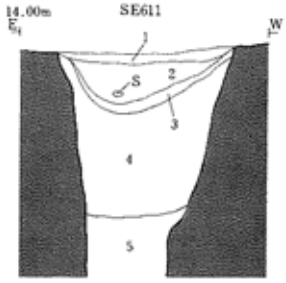

| 層No. | 土色 | | 土性 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|
| SD652 1 | 2.5Y4/6 | オリーブ褐色 | シルト | 5Y5/4オリーブ色シルトブロックを少量含む。 | |
| 2 | 2.5Y4/3 | 〃 | 砂質シルト | 2.5Y5/2砂質シルトブロックを含む。炭化物を少量含む。 | |
| 3 | 〃 | 〃 | 〃 | | |
| 4 | 2.5Y4/4 | 〃 | 粘土質シルト | 2.5Y3/3黒褐色粘土質シルトブロックを多量に含む。 | 人為的な埋土 |
| 5 | 2.5Y4/3 | 〃 | 〃 | 地山ブロック(5Y5/3オリーブ黒色粘土質シルト)を含む。炭化物を少量含む。 | |
| 6 | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ褐色 | 〃 | 地山ブロック(5Y5/3灰オリーブ色粘土質シルト)を含む。 〃 〃 | |
| 7 | 2.5Y3/2 | 黒褐色 | 〃 | 炭化物、焼土をごく少量含む。 | |

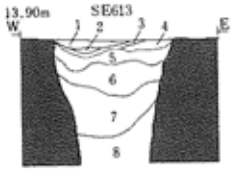



| 層No. | 土色 | | 土性 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|
| SD807 1 | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ褐色 | 粘土質シルト | 炭化物、焼土をごく少量含む。 | 自然堆積 |
| 2 | 2.5Y4/6 | オリーブ褐色 | 〃 | 灰白ブロック、10YR3/3黒褐色粘土質シルトブロックを含む。 | |
| 3 | 7.5Y4/1 | 灰色 | 〃 | 〃 〃 | |
| 4 | 7.5Y3/2 | オリーブ黒色 | 〃 | 炭化物をごく少量含む。 | 人為的な埋土 |
| 5 | 7.5Y4/1 | 灰色 | 〃 | | |
| 6 | 〃 | 〃 | 〃 | 5Y5/2灰オリーブ色シルトブロックを少量含む。 | |
| 7 | 5Y3/1 | オリーブ黒色 | 〃 | 5Y5/2灰オリーブ色シルトブロック、10YR3/3黒褐色粘土質シルトブロックを含む。 | |

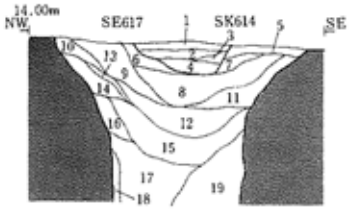
| 層No. | 土色 | | 土性 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|
| SD826 1 | 10YR3/3 | 暗褐色 | 粘土質シルト | 灰白粒をごく少量含む。 | 人為的な埋土 |
| 2 | 10YR4/4 | 褐色 | 〃 | 2.5Y4/4オリーブ褐色粘土質シルトブロックを含む。 | |
| 3 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色 | 〃 | | 自然堆積 |
| 4 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 〃 | 炭化物を少量含む。 | |

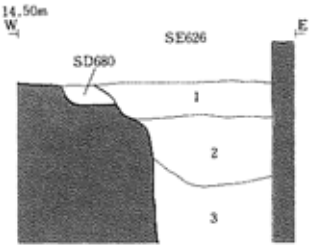


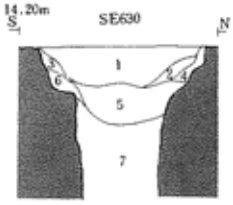




| 層No. | 土色 | | 土性 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|
| SE611 1 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色 | 粘土質シルト | 炭化物をごく少量含む。 | 自然堆積 |
| 2 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 〃 | 〃 、5Y5/3灰オリーブ色粘土質シルトブロックを少量含む。 | |
| 3 | 5Y2/2 | オリーブ黒色 | スコリア | 炭化物を多量に含む。 | 人為的な埋土 |
| 4 | 5Y4/2 | 灰オリーブ色 | シルト | 炭化物を多量に含む。5Y5/3灰オリーブ色粘土質シルトブロックを少量含む。 | |
| 5 | 2.5Y3/2 | 黒褐色 | 粘土質シルト | 炭化物をごく少量含む。 | |

| 層No. | 土色 | | 土性 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|
| SE613 1 | 2.5Y4/4 | オリーブ褐色 | 粘土質シルト | 炭化物、灰を少量含む。 | |
| 2 | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ褐色 | 〃 | 炭化物を少量含む。 | |
| 3 | 5Y3/1 | オリーブ黒色 | 〃 | 炭化物、灰を含む。 | |
| 4 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色 | シルト | 炭化物をごく少量含む。 | 人為的な埋土 |
| 5 | 5Y4/3 | 暗オリーブ色 | 粘土質シルト | 5Y5/2灰オリーブ色粘土質シルトブロックを少量含む。炭化物を少量含む。 | |
| 6 | 5Y4/1 | 灰色 | 〃 | 〃 を含む。 〃 を含む。 | |
| 7 | 5Y3/1 | オリーブ黒色 | 〃 | 〃 を少量含む。 | |
| 8 | 2.5Y4/1 | 黄灰色 | 〃 | 〃 を多量に含む。 | |



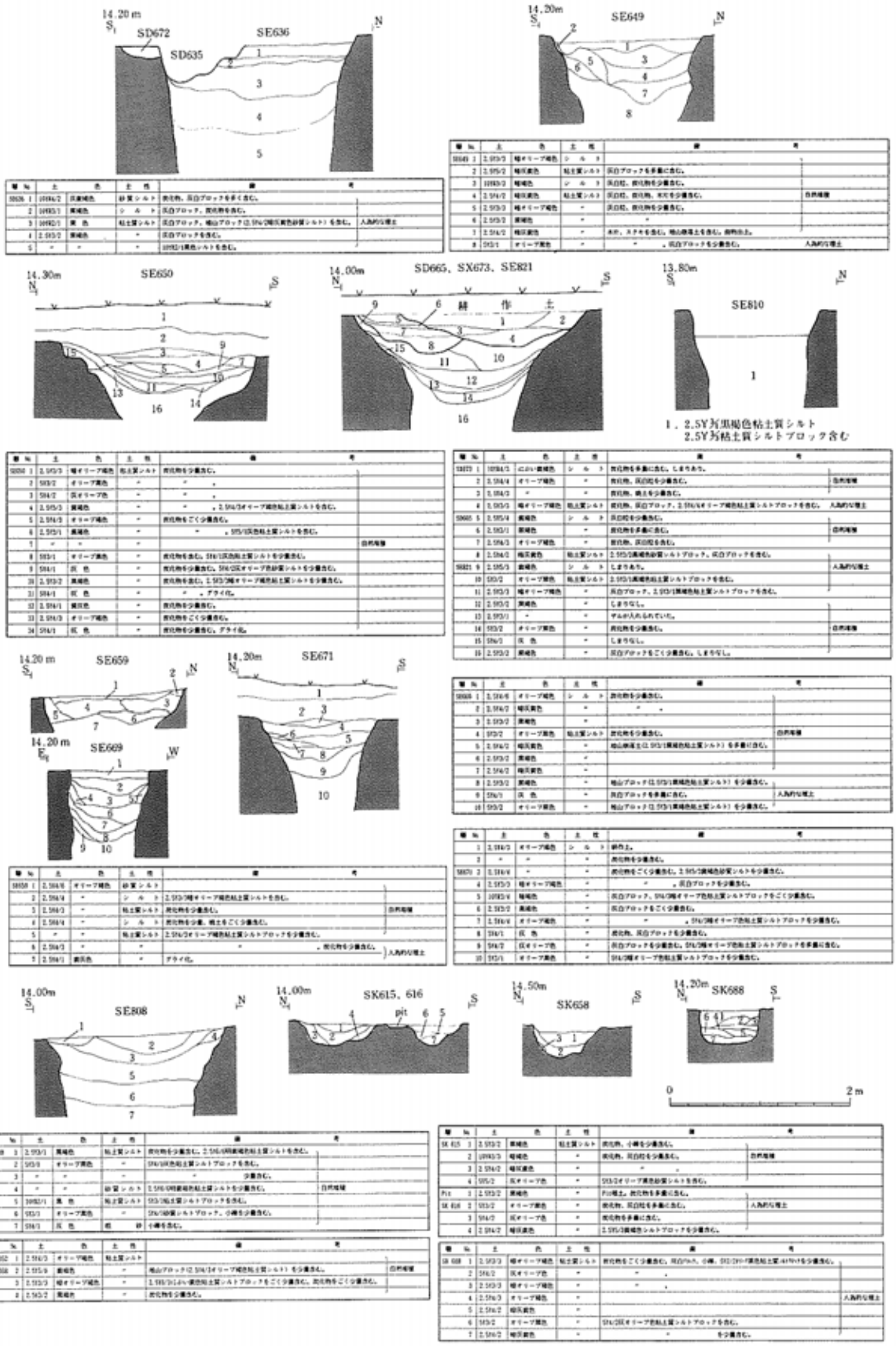




| 層No. | 土色 | | 土性 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|
| SK614 1 | 2.5Y4/4 | オリーブ褐色 | シルト | | |
| 2 | 2.5Y3/2 | 黒褐色 | 粘土質シルト | 炭化物を少量含む。 | |
| 3 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | 〃 | 〃 。 | |
| 4 | 10YR3/3 | 暗褐色 | 〃 | | |
| SE617 5 | 10YR5/6 | 黄褐色 | シルト | | |
| 6 | 2.5Y4/2 | オリーブ褐色 | 粘土質シルト | | |
| 7 | 2.5Y3/3 | 黒褐色 | 〃 | | |
| 8 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 〃 | 10YR3/3褐色スナモを含む。 | |
| 9 | 〃 | 〃 | 〃 | 灰白粒を含む。 | |
| 10 | 2.5Y5/2 | 〃 | 〃 | | 自然堆積 |
| 11 | 2.5Y3/2 | 黒褐色 | 〃 | 10YR3/3褐色スナモ、灰白粒を含む。 | |
| 12 | 〃 | 〃 | 〃 | | |
| 13 | 10YR3/3 | 暗褐色 | スコリア | | |
| 14 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 粘土質シルト | | |
| 15 | 2.5Y3/3 | 黒褐色 | 〃 | 灰白ブロックを少量含む。 | |
| 16 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 〃 | 10YR3/3褐色スナモを含む。 | |
| 17 | 2.5Y3/3 | 黒褐色 | 〃 | 〃 。 | |
| 18 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 〃 | 地山崩落土。 | |
| 19 | 2.5Y3/3 | 黒褐色 | 〃 | 10YR3/3褐色スナモ、灰白ブロックを含む。 | |

| 層No. | 土色 | | 土性 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|
| SD680 1 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 砂質シルト | 炭化物を少量含む。 | |
| 2 | 7.5Y4/1 | 灰色 | シルト | | 人為的な埋土 |
| 3 | 2.5Y4/1 | 黄灰色 | 砂質シルト | 木片を少量含む。 | |

| 層No. | 土色 | | 土性 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|
| SE630 1 | 5Y4/3 | 暗オリーブ褐色 | 粘土質シルト | 炭化物を少量含む。灰白ブロックをごく少量含む。 | |
| 2 | 5Y4/2 | 灰オリーブ色 | 〃 | 灰白ブロックを含む。 | |
| 3 | 2.5Y3/2 | 黒褐色 | 〃 | 炭化物をごく少量含む。 | |
| 4 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色 | 〃 | 炭化物を少量含む。焼土をごく少量含む。 | 人為的な埋土 |
| 5 | 5Y3/1 | オリーブ黒色 | 〃 | 〃 。灰白ブロックを少量含む。 | |
| 6 | 2.5Y3/3 | 黒褐色 | 〃 | 〃 。 | |
| 7 | 2.5Y4/2 | 黄灰色 | 〃 | 〃 。 | |

第13図　19区遺構断面図（3）




第14図　19区遺構断面図（4）

### ｃ．20 区（第 15 図～第 17 図）

掘立柱建物跡 18 棟、柱穴列跡 1 列、井戸跡 7 基、溝跡 11 条、土壙 4 基などが確認された。その他性格が不明な遺構 1 基がある。調査面積の割りに遺構は少なく、その上、調査区の幅が狭いため、遺構の全容がわかるものも少ない。遺構は大きく北端、中央部、南端の 3 つのブロックで確認された。

調査区北端のＳ70～85 付近では掘立柱建物跡 5 棟が集中している。中央部のＳ110～180 では井戸跡、掘立柱建物跡、柱穴が集中している。ＳＥ683 は井戸枠が付く井戸で本遺跡で初めて確認された。南端のＳ240 以南では掘立柱建物跡 3 棟と柱穴が確認された。これは昨年度 15 区北東トレンチで確認された柱穴群の続きと考えられる。

#### 掘立柱建物跡

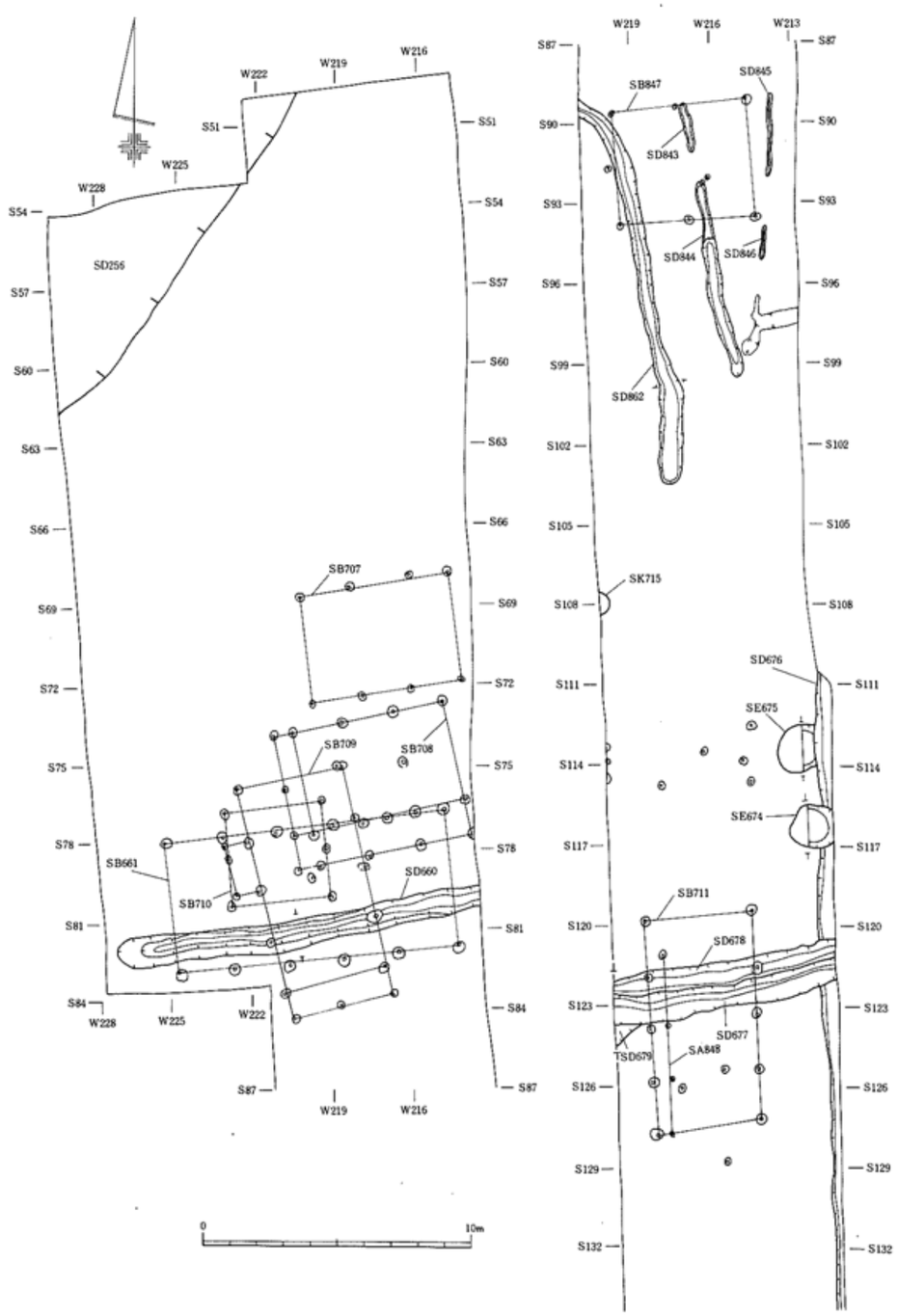
【ＳＢ709 建物跡】調査区北部Ｓ80 付近で確認された。桁行 4 間、梁行 1 間の南北棟で、南に廂、西に 1 間の張り出しをもつ。北から 2 間目の棟通下に間仕切りの柱穴がある。新旧関係はＳＤ660 より新しくＳＢ661・708・709・710 との関係は不明である。建物総長は桁行 8.7m、梁行 4.0m である。柱間寸法は身舎の桁行で 1.8～1.9m である。廂、張り出し部分は、ともに 0.9m 身舎から離れている。掘り方は長軸 30～60 ㎝、短軸 30～40 ㎝の円形、楕円形である。深さは身舎の柱穴が 20～40 ㎝、廂、張り出し部分の柱穴が 10～15 ㎝、柱痕跡は 10～12 ㎝の円形である。

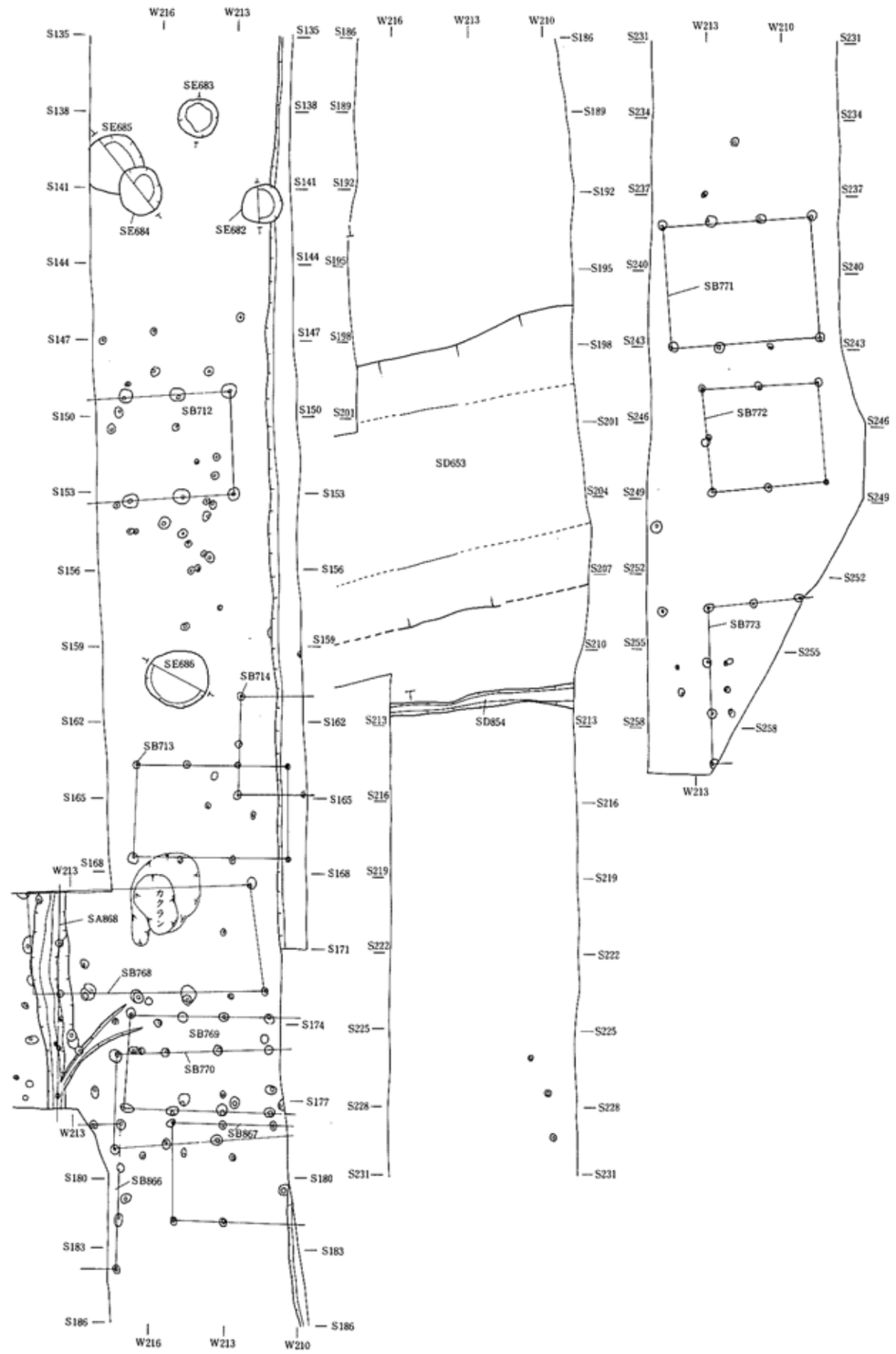
#### 溝跡

【ＳＤ653 溝跡】調査区南部Ｓ196～Ｓ213 で確認された大溝で、東西方向に通っている北目用水と重複している。19 区、23 区でも部分的ではあるが、北目用水と重複して延びていることが確認されている。しかし、19 区以東の詳細は不明である。幅は 19 区で 15m、20 区・23 区で 10m を計る。深さは 1.4m である。第 22 図 1 は水田床土、2～4 は現代の盛土でＳＤ653 を埋め戻しながら水田、北目用水を構築したものと考えられる。この盛土部分は土手状に残っている。5～29 はＳＤ653 の堆積土である。砂質シルトを中心とする自然堆積土であるが、水の影響で攪乱されている。下層はグライ化している。なお、5 はＳＤ653 と異なる溝跡である。平面的な延びは不明だが部分的に二時期あるものと考えられる。

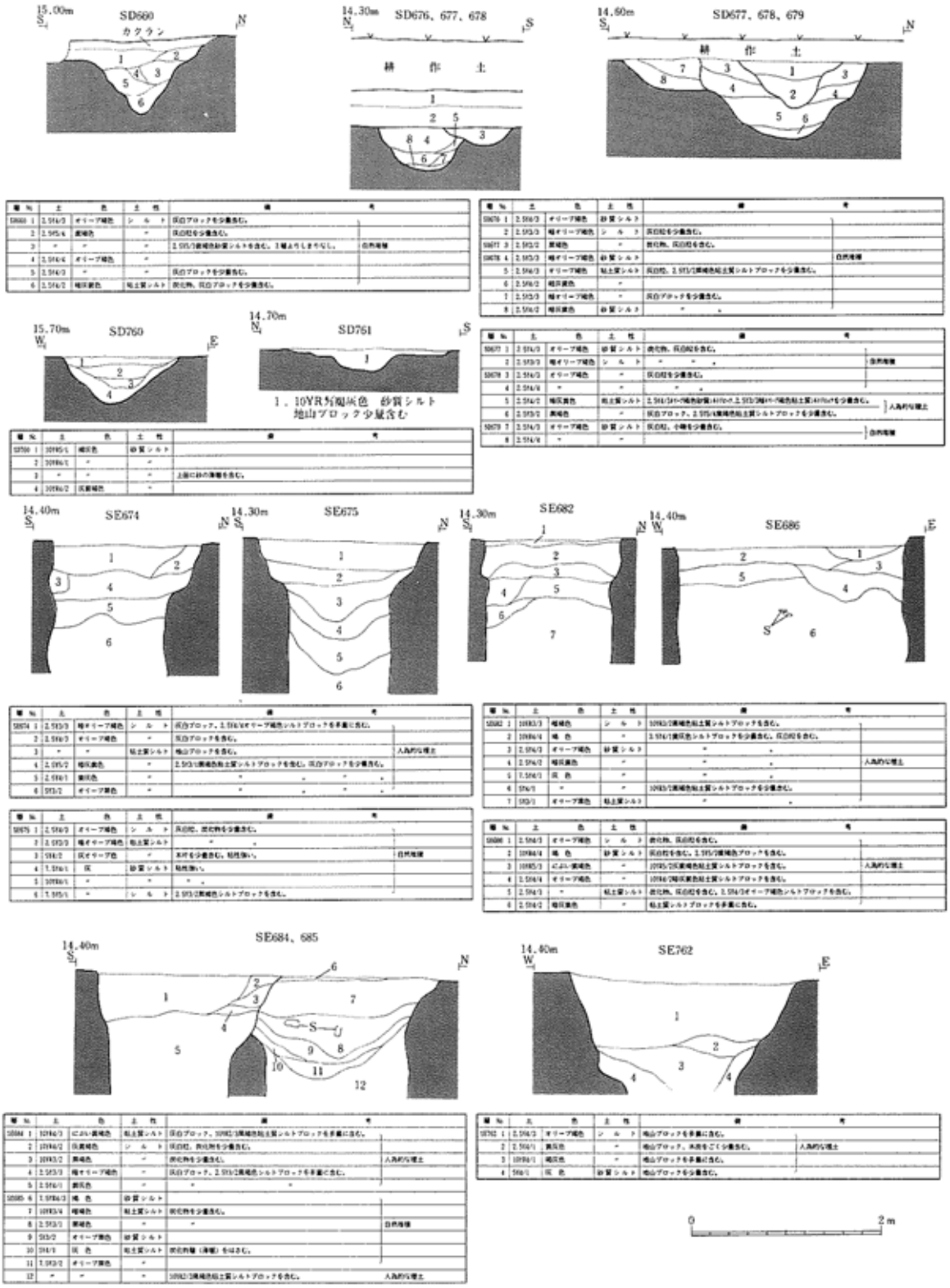
#### 井戸跡

【ＳＥ683 井戸跡】調査区中央部Ｓ138 で確認された。井戸枠付きの井戸が確認されたのは本遺跡では最初である。井戸は平面形が直径 1.6m の円形、深さは 2.8m、断面形は上部が多少開くが円筒形に近い掘り方をもつ。底部近くは崩落のためかやや広がっている。井戸枠は支柱 4 本を 60 ㎝間隔で地山に打ち込み、それに横桟を渡した正方形の骨格である。支柱ａ～d には、上下 2 か所の横桟を差し込むほぞ穴が彫られているがこれらは貫通していない。残存している最長の支柱ｄの長さは 2.6m である。この骨格の外側に直径 7～8 ㎜の葦の茎を厚さ 2～3 ㎝に密に立て掛けてある。葦の茎は編み込まれていない。井戸の掘り方と井戸枠の間には 20～30 ㎝の距離があるが、この間に立て掛けた葦の茎が倒れないように、また、崩落を防ぐためか直径 15～20 ㎝の杉材を底部に据え、さらに人為的に土を埋めている。断面図 1～6 は井戸廃棄後の人為的な埋土で、直径 30㎝ 前後の礫や木片が入れられていた。7 は機能中に井戸枠内に自然堆積した砂層で、底面から曲げ物が完形で出土している。8・9 は裏込めで突き固められている。

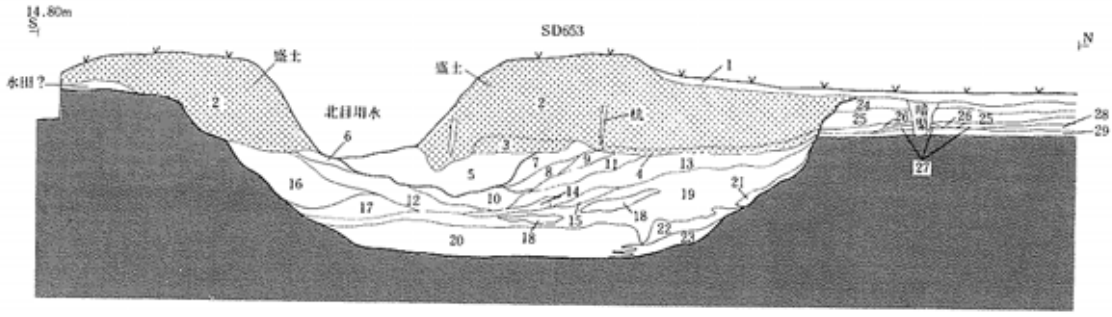


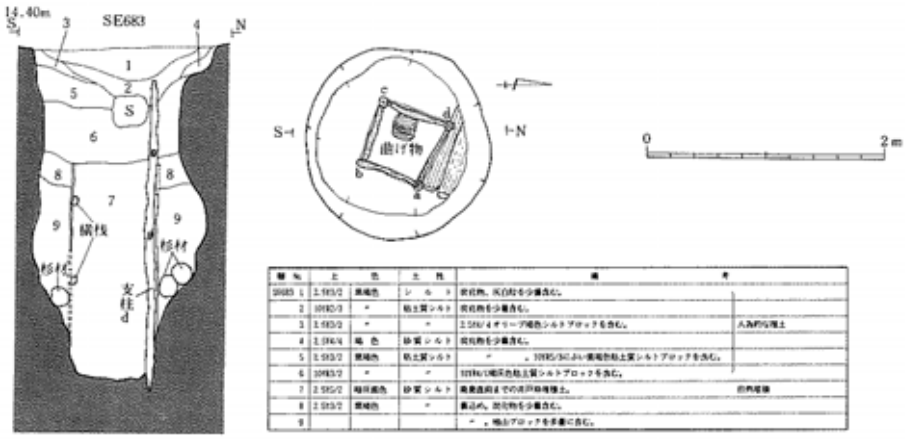

第15図　20区遺構平面図




第16図　20区遺構断面図（1）




| 層No. | 土色 | | 土性 | 備考 | | 層No. | 土色 | | 土性 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | 水田床土（現代）。 | | SD653 16 | 7.5Y4/1 | 灰色 | 砂質シルト | 下部に粒一様砂が互層をなす。 | |
| 2 | | | | 盛土。 | | 17 | 〃 | 〃 | 粘土 | 2.5Y3/1黒褐色シルトを含む。 | |
| 3 | 10G6/1 | 青灰色 | 砂質シルト | 水田か？，グライ化。 | | 18 | 〃 | 〃 | 細砂 | | |
| 4 | 5Y5/2 | 灰オリーブ | 〃 | 〃 。 | | 19 | 2.5Y4/3 | 黄灰色 | 砂質シルト | 下部は砂の細砂と互層をなす。 | 自然堆積 |
| 5 | 10BG5/2 | 灰黒褐色 | 〃 | 濃か？。 | | 20 | 10Y6/1 | 灰色 | 〃 | 灰白砂を少量含む。 | |
| SD653 6 | 5Y6/2 | 灰オリーブ | 〃 | 砂質に富む。 | | 21 | 10Y5/2 | オリーブ灰色 | シルト | 〃 。 | |
| 7 | 5Y5/1 | 灰色 | 〃 | | | 22 | 10Y6/1 | 灰色 | 細砂 | | |
| 8 | 〃 | 〃 | 細砂 | | | 23 | 10Y4/1 | 〃 | 砂質シルト | | |
| 9 | 10BG5/1 | 〃 | 砂質シルト | | | 24 | 10YR6/2 | にぶい黄褐色 | 〃 | 盛土。固くしまっている。SD653構築に伴うもの。 | |
| 10 | 〃 | 〃 | 〃 | 9よりも砂質に富む。 | 自然堆積 | 25 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 〃 | 整地層か？。 | |
| 11 | 〃 | 〃 | 〃 | | | 26 | 2.5Y6/2 | 灰黄色 | 〃 | 〃 。 | |
| 12 | 2.5Y4/1 | 〃 | 〃 | | | 27 | 2.5Y5/1 | 黄色 | シルト | 基本層位。カクランされている。 | |
| 13 | 5G5/1 | 〃 | 〃 | 鉄化鉄成層。 | | 28 | 10BG5/1 | 暗灰色 | 砂質シルト | | |
| 14 | 〃 | 〃 | 細砂 | | | 29 | 2.5Y6/2 | 灰黄色 | 〃 | | |
| 15 | 5Y4/1 | 〃 | 砂質シルト | | | | | | | | |




SE683平面図・断面図

| 層No. | 土色 | | 土性 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|
| SD653 1 | 2.5Y3/2 | 黒褐色 | シルト | 炭化物、灰白砂を少量含む。 | |
| 2 | 10YR3/3 | 〃 | 粘土質シルト | 炭化物を少量含む。 | |
| 3 | 2.5Y3/2 | 〃 | 〃 | 2.5Y4/4オリーブ褐色シルトブロックを含む。 | 人為的な埋土 |
| 4 | 2.5Y4/4 | 褐色 | 砂質シルト | 炭化物を少量含む。 | |
| 5 | 2.5Y3/2 | 黒褐色 | 粘土質シルト | 〃 。10YR5/3にぶい黄褐色粘土質シルトブロックを含む。 | |
| 6 | 10YR3/2 | 〃 | 〃 | 10YR4/3暗灰色粘土質シルトブロックを含む。 | |
| 7 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 砂質シルト | 発掘直前までの井戸枠埋土。 | 自然堆積 |
| 8 | 2.5Y3/2 | 黒褐色 | 〃 | 最上層。炭化物を少量含む。 | |
| 9 | | | | 〃 。地山ブロックを多量に含む。 | |

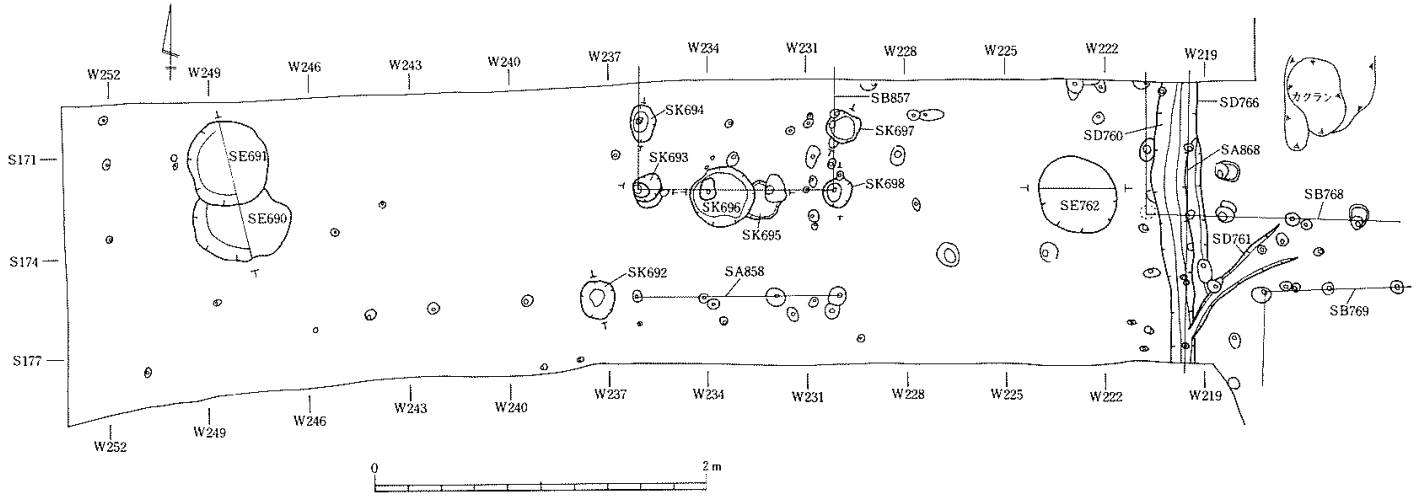
第17図　20区遺構断面図（2）

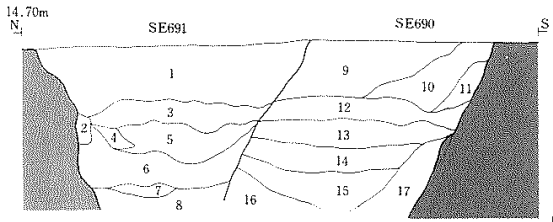
### d．21区（第18図）

調査区は20区Ｓ170付近の西側に当たり、20cm前後盛土をし、最近まで畑地として利用されていた。遺構確認面は現水田面の数cm～40cm下の地山面である。後世の削平のためか整地層は確認されなかった。掘立柱建物跡１棟、柱穴列跡２列、井戸跡３基、溝跡２条、土壙８墓が認された。全体的に残存状況が悪い。

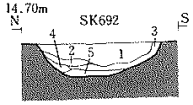
#### 掘立柱建物跡

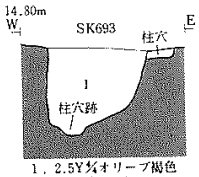
【ＳＢ857建物跡】調査区中央部で確認された。桁行３間、梁行２間以上の南北棟と思われる。すべての柱穴に抜き取り穴（ＳＫ693～698）が認められ、抜き取り穴底面で柱穴、柱穴掘り方埋土が確認された。建物総長は梁行6.0m、柱間寸法は桁行、梁行とも2.0mである。柱穴はほとんど抜き取り穴に壊されているため不明だが、柱痕跡がわかるものは径10cm前後である。抜き取り穴は長軸1.1～1.9m、短軸0.7～1.7mであるが、ＳＫ696以外は長軸、短軸とも1m前後である。深さは50～80cmで、いずれも埋め戻されている。



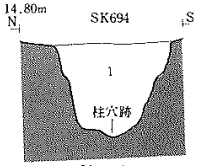




| 層 No. | 土色 | | 土性 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|
| SE691 1 | 2.5Y5/1 | 黄灰色 | 砂質シルト | 木炭、小礫をごく少量含む。 | |
| 2 | 2.5Y5/2 | 灰色 | 〃 | 地山ブロックを含む。 | |
| 3 | 5Y5/1 | 〃 | 〃 | 木炭、小礫をごく少量含む。 | |
| 4 | 2.5Y6/2 | 灰黄色 | 粘土質シルト | | |
| 5 | 2.5Y4/1 | 黄灰色 | 〃 | 木炭、小礫をごく少量含む。 | |
| 6 | 5Y4/1 | 灰色 | 砂質シルト | 灰色の砂がラミナ状に見じる。 | |
| 7 | 10Y4/1 | 〃 | 粘土質シルト | 一部グライ化。 | |
| 8 | 10Y3/1 | オリーブ黒色 | 砂質シルト | 地山ブロックを少量含む。5mm程度の小礫を含む。 | |
| SE690 9 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色 | 粘土質シルト | 焼土を少量含む。炭化物を含む。 | 自然堆積 |
| 10 | 2.5Y4/4 | 〃 | 〃 | 焼土、炭化物を少量含む。 | |
| 11 | 〃 | 〃 | 〃 | | |
| 12 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 〃 | 炭化物を含む。 | |
| 13 | 5Y4/1 | 灰色 | 〃 | 炭化物をごく少量含む。 | |
| 14 | 2.5Y2/1 | 黒色 | 〃 | 炭化物を含む。 | |
| 15 | 5Y3/1 | オリーブ黒色 | 〃 | 炭化物、木片を含む。 | |
| 16 | 7.5Y3/1 | 〃 | 〃 | | |
| 17 | 〃 | 〃 | 〃 | 鉄化材を含む。 | |

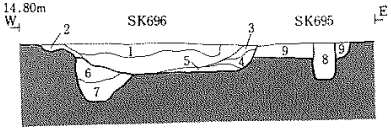


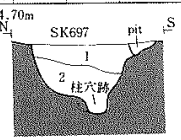

1．2.5Y4/4オリーブ褐色
粘土質シルト
灰白粒・焼土を少量含む



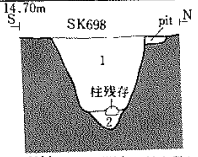

1．2.5Y5/3黄褐色
粘土質シルト
灰白ブロックを少量含む




| 層 No. | 土色 | | 土性 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|
| SK692 1 | 5Y4/1 | 灰色 | 砂質シルト | マンガンを含む。 | |
| 2 | 2.5Y4/1 | 黄褐色 | 〃 | 木炭をごく少量含む。 | |
| 3 | 〃 | 〃 | 〃 | 2層よりしまりなし。 | 自然堆積 |
| 4 | 2.5Y5/1 | 〃 | 〃 | マンガンを含む。 | |
| 5 | 2.5Y4/1 | 〃 | 粘土質シルト | 地山(10Y3/1黒色シルト)を含む。 | |

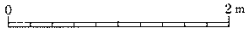



1．2.5Y4/4　オリーブ褐色　粘土質シルト
灰白粒・焼土を少量含む
2．2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　粘土質シルト

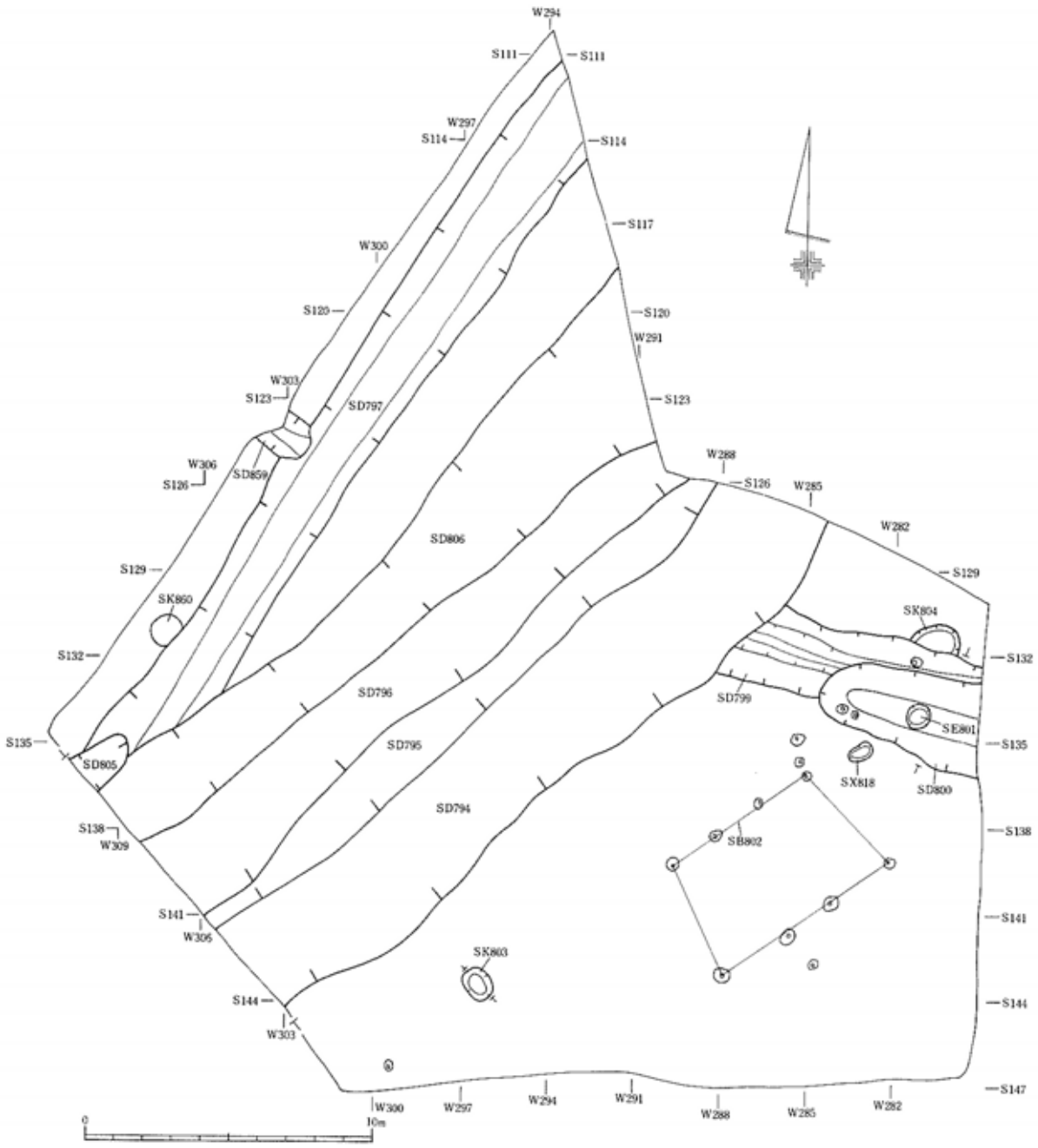



1．2.5Y4/4オリーブ褐色　粘土質シルト
礫を少量含む
2．2.5Y4/3暗灰黄色　粘土質シルト
炭化物を少量含む

| 層 No. | 土色 | | 土性 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|
| SE696 1 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | 砂質シルト | | |
| 2 | 2.5Y4/1 | 黄灰色 | 〃 | マンガンを含む。 | |
| 3 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | 〃 | 灰白粒を含む（地山風落土）。 | 自然堆積 |
| 4 | 10YR5/2 | 灰黄褐色 | 〃 | 3層を少量含む。 | |
| 5 | 10Y4/1 | 暗灰色 | 〃 | マンガンを含む。 | |
| Pit 6 | 7.5Y3/1 | オリーブ黒色 | 粘土質シルト | 掘り方埋土。 | |
| 7 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 砂質シルト | 〃 。 | |
| Pit 8 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色 | 〃 | 〃 。地山ブロック(7.5Y3/1オリーブ黒色粘土質シルト)を含む。 | |
| SK695 9 | 〃 | 〃 | 〃 | 5Y4/1灰色砂質シルトブロックを含む。木炭をごく少量含む。 | 人為的な埋土 |




第18図　21区遺構平面図




第19図　22区遺構平面図

### (5)22 区（第 19 図～第 20 図）

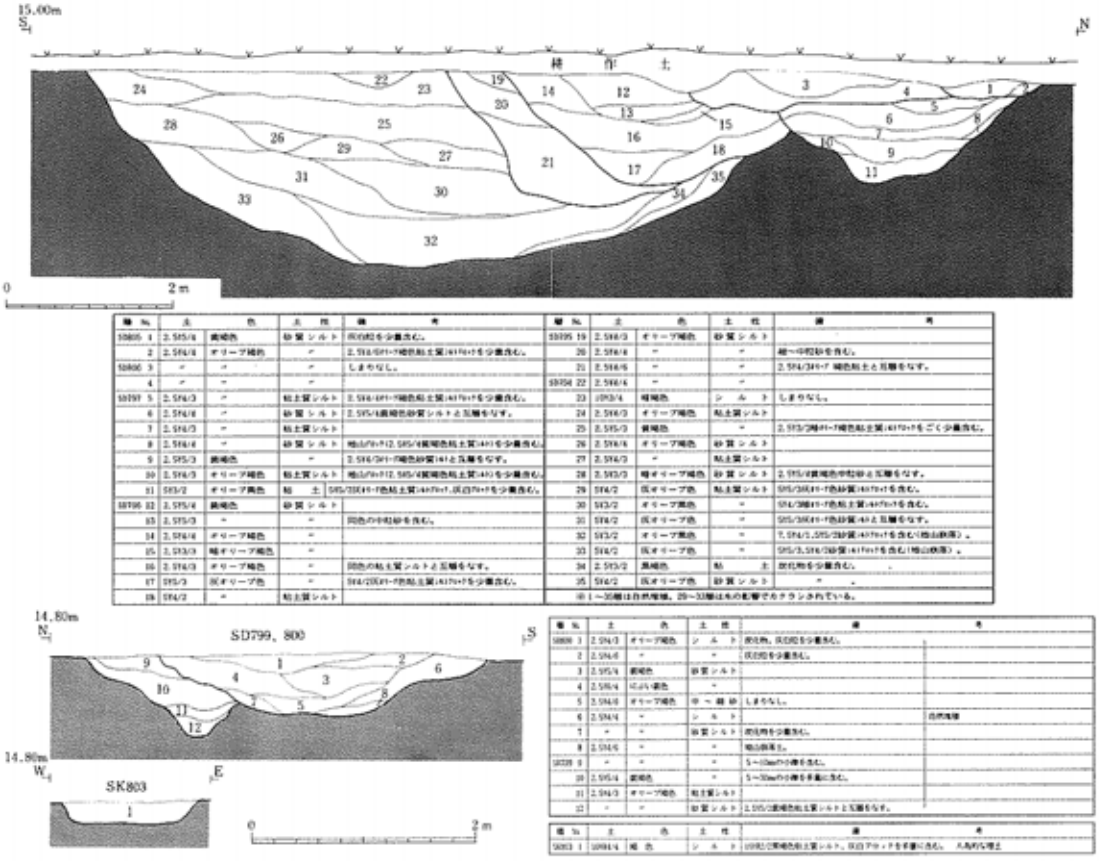
7 区南の南方にある高まりで、整地層が残っていると予想されていたが、調査の結果、近年に 1.5m前後盛土をし、最近まで畑地として利用していたことがわかった。遺構確認面は、調査区東側で現水田面より数cm高く、西側で 10 cmほど低い地山面であった。調査区北西で大溝のプランが認められたため、調査区北側を拡張し、溝の規模、方向を確認した。掘立柱建物跡 1 棟、溝跡 9 条、井戸跡 1 基、土壙 2 基、炭化物集中遺構 1 基、柱穴少数が確認された。

#### 掘立柱建物跡

【ＳＢ802 建物跡】調査区東南部で確認された。桁行 3 間、梁行 1 間で、近接する北東－南西方向の溝（ＳＤ794 ほか）と柱筋を揃える。建物総長は桁行 7.0m、梁行 4.2m、柱間寸法は桁行 1.8～2.7mと一定していない。掘り方は長軸 30～60 cm、短軸 30～40 cm、深さ 8～15cm、柱痕跡は 10 cm前後である。いずれの掘り方埋土にも灰白色火山灰が斑状に入っていた。

#### 溝跡

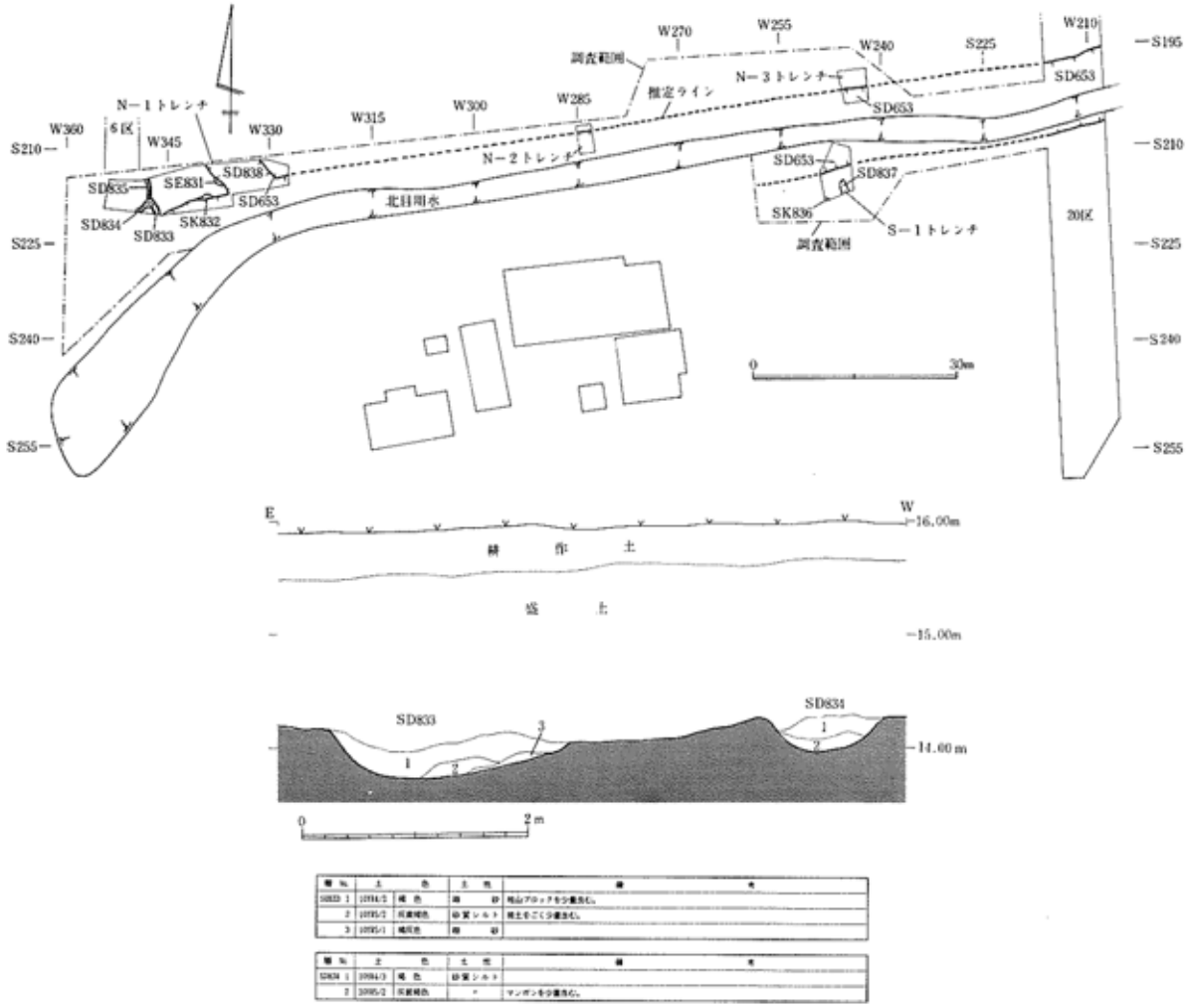
【ＳＤ794～797・805・806 溝跡】調査区北西で、北東－南西方向に延びる 6 本の溝を確認した。溝の新旧関係は、新しい方からＳＤ805→806→797→796→795→794 である。断面観察から、溝の幅はそれぞれ、約 1m、4m・3m・4m・4m・9mと予想される。堆積土はいずれも自然堆積土であるが、溝の壁付近には崩落した地山が斑状に入る。また、底部付近は水の影響で攪乱され、グライ化する傾向にある。




第20図　22区遺構断面図

### ｅ．23 区（第 21 図）

20 区以西の北目用水沿いの調査区である。北目用水の北側、南側には土手状の高まりが認められる。西端の三角地域は現在畑地となっているが、その他は杉林や荒地となっている。当初は整地層の存在も予想されたが、19・20 区の調査でこの土手状の高まりは現代の盛土であることが明かとなり、また、この盛土の下層に北目用水と重複してＳD653 溝跡が東西方向に延びて行くことが確認された。これをふまえて、土手状の高まりに、北目用水北側に 3 か所、南側に 1 か所のトレンチを任意に設定し、ＳD653 の延長と他の遺構の存在を確認した。その結果、溝跡 5 条、井戸跡 1 基、土壙 2 基が確認された。ＳD653 は幅 10mを保ちながら西端まで延びていることが明かとなった。また、ＳD838 との新旧関係は認められず同時期のものと考えられる。ＳD838 が 6 区のどの溝と連絡するかは不明である。




第21図　23区遺構平面図

| 遺構 / 区 | 掘立柱建物跡 | 柱穴列跡 | 井戸跡 | 溝跡 | 土壙 | 焼け面跡 | 炭化物集中遺構 | 不明 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 7区南 | 16 | 2 | 7 | 30 | 8 | 7 | 1 | | 71 |
| 19区 | 10 | 9 | 16 | 50 | 7 | | | 1 | 93 |
| 20区 | 18 | 1 | 7 | 11 | 4 | | | 1 | 42 |
| 21区 | 1 | 2 | 3 | 2 | 8 | | | | 16 |
| 22区 | 1 | | 1 | 9 | 3 | | 1 | | 15 |
| 23区 | | | 1 | 5 | 2 | | | | 8 |
| 計 | 46 | 14 | 35 | 107 | 32 | 7 | 2 | 2 | 245 |

第1表　各区で確認された遺構数

| 区 | 遺構№ | 位置 | 方向 | 規模（桁・梁） | 柱間寸法（桁・梁） | 重複 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 7南 | SB 782 | W277 S 73 | 東－西 | 2間×1間 | 2.5m・3.6m | SD754より新しい。 | |
| 〃 | 783 | W275 S 37 | 〃 | 2間×1間 | 1.9~2.4m・3.3m | SB744より新しい。 | |
| 〃 | 784 | W283 S 35 | 南－北 | 3間×1間 | 2.1~2.9m・3.1m | SK737より新しい。SB840・842・SD750との関係は不明。 | |
| 〃 | 785 | W283 S 73 | 東－西 | 2間×1間 | 2.2~2.7m・2.8~3.2m | SD750より新しい。SB782との関係は不明。 | |
| 〃 | 786 | W291 S 58 | 南－北 | 3間×3間 | 1.8m・1.8~2.7m | SD718・722・776より新しく、SB548より古い。SE719・SB788との関係は不明。 | 北・南・西に廂 |
| 〃 | 788 | W297 S 65 | 東－西 | 3間×1間 | 2.0~2.7m・3.6m | SD722より新しい。SB786との関係は不明。 | |
| 〃 | 789 | W293 S 72 | 南－北 | 5間×1間 | 1.8m・3.7~4.2m | SD723・724・730・733・735・763・SK741より新しい。SB790・792・841との関係は不明。 | 西・南に廂、北東に張り出し |
| 〃 | 790 | W289 S 76 | 〃 | 2間×1間 | 2.2~3.1m・3.4~4.0m | SD723・724・350・740・749より新しい。SB789・792・841との関係は不明。 | |
| 〃 | 791 | W285 S 82 | 東－西？ | 3間×1間以上 | 2.0~2.2m・2.5m | SD730より新しい。 | |
| 〃 | 792 | W293 S 80 | 南－北 | 2間以上×1間 | 1.8m・3.6m | SD730・763より新しい。SB789・790・841との関係は不明。 | |
| 〃 | 793 | W298 S 80 | 〃 | 2間以上×1間 | 1.8m・1.8m | SD730より新しい。 | 西に廂 |
| 〃 | 825 | W278 S 60 | 〃 | 3間×1間 | 1.4~1.8m・3.1m | SE755・SB781より古い。SE756・764・767・SB840・842との関係は不明。 | 昨年調査区7区にのびる。西に張り出し |
| 〃 | 840 | W282 S 62 | 東－西 | 2間×1間 | 2.0~2.6m・3.8m | SD491・492・SE721・SK737・SB784より古く、SB842より新しい。SB825との関係は不明。 | |
| 〃 | 841 | W293 S 75 | 南－北 | 3間×1間 | 2.0~2.6m・5.0m | SD724・730・735・SK741より新しく、SB789より古い。SB793・79282との関係は不明。 | |
| 〃 | 842 | W283 S 60 | 〃 | 3間×2間 | 2.7~3.7m・2.2~2.7m | SD491・758より新しく、SB784より古い。SD491・SE721・SK737・SB825との関係は不明。 | |
| 19 | 668 | W 93 S 92 | 東－西 | 2間以上×1間 | 1.4~1.6m・2.0m | SD666・667より新しい。 | |
| 〃 | 701 | W 93 S124 | 〃 | 3間×2間 | 1.2m・1.2m | SK688との関係は不明。 | |
| 〃 | 702 | W 93 S128 | 南－北 | 2間×1間 | 3.6m・3.6m | SD625 より新しい。SD624・SB863との関係は不明。 | 南に廂 |
| 〃 | 704 | W 90 S158 | 東－西？ | 1間以上×2間 | 1.8m・1.8m | | |
| 〃 | 705 | W 92 S158 | 〃 | 1間以上×2間 | 1.8m・1.8m | SB706との関係は不明。 | |
| 〃 | 706 | W 93 S158 | 南－北？ | 3間以上×？ | 2.4m | SB705との関係は不明。 | |
| 〃 | 815 | W 90 S210 | 東－西？ | 2間以上×1間 | 1.8~2.1m・3.8m | SD811・812より古い。SD819との関係は不明。 | |
| 〃 | 863 | W 92 S136 | 〃 | 1間以上×2間 | 2.0m・2.0m | SD624・625・SB626より新しい。SB702との関係は不明。 | |
| 〃 | 865 | W 90 S161 | 南－北？ | 2間×1間以上 | 3.1~3.6m・2.4m | SB705・706との関係は不明。 | |
| 20 | 661 | W225 S 78 | 東－西 | 5間×1間 | 1.8m・5.8m | SD660・SB708・709・710との関係は不明。 | |
| 〃 | 707 | W220 S 68 | 〃 | 3間×1間 | 1.5~2.2m・3.8m | | |
| 〃 | 708 | W222 S 72 | 〃 | 3間×1間 | 1.8m・1.8m | SB661・709・710との関係は不明。 | 南・西に廂、間仕切り穴あり |
| 〃 | 709 | W223 S 76 | 南－北 | 4間×1間 | 1.8~2.0m・4.0m | SB661より新しい。SB708・710との関係は不明。 | 南に廂、西に張り出し |
| 〃 | 710 | W223 S 77 | 〃 | 2間×1間 | 1.8m・3.6m | SB661・708・709との関係は不明。 | |
| 〃 | 711 | W218 S120 | 〃 | 4間×1間 | 1.8~2.2m・3.8~4.0m | SD678より新しい。SD677との関係は不明。 | |
| 〃 | 712 | W218 S149 | 東－西 | 2間×1間 | 2.0~2.2m・4.0m | | |
| 〃 | 713 | W216 S164 | 〃 | 3間×1間 | 1.8m・3.6m | SD676・SB714より新しい。 | |
| 〃 | 714 | W212 S161 | 東－西？ | 1間以上×2間 | 1.8m・2.4m | SD676より古い。 | |
| 〃 | 768 | W221 S168 | 東－西 | 5間以上×2間以上 | 2.0m・2.0m | SD760・SA868より古い。 | |
| 〃 | 769 | W216 S126 | 〃 | 3間以上×1間 | 1.8m・3.6m | SD761より新しい。SB770との関係は不明。 | |
| 〃 | 770 | W217 S127 | 〃 | 3間以上×1間 | 2.0m・3.0m | SB769・866・867との関係は不明。 | |
| 〃 | 771 | W220 S238 | 〃 | 3間×1間 | 2.0m・5.0m | - | |
| 〃 | 772 | W219 S245 | 〃 | 2間以上×2間 | 2.3m・2.0m | | |
| 〃 | 773 | W220 S253 | 南－北？ | 2間以上×3間 | 2.0m・1.8m | | 西に廂 |
| 〃 | 847 | W220 S 90 | 東－西 | 2間×1間 | 2.4~2.6m・4.2m | SD662・843・844との関係は不明。 | |
| 〃 | 866 | W217 S178 | 南－北？ | 3間×1間以上 | 2.0m・1.2m | SB770との関係は不明。 | |
| 〃 | 867 | W215 S178 | 東－西？ | 2間以上×1間 | 2.0m・3.6m | SB770との関係は不明。 | |
| 21 | 857 | W235 S170 | 〃 | 3間×1間以上 | 2.2m・2.0m | SK693・694・695・696・679・698が抜き穴となる。 | |
| 22 | 802 | W290 S139 | 北東－南西 | 3間×1間 | 1.6~2.6m・4.2m | | |

第2表　掘立柱建物跡属性表

| 区 | 遺構№ | 位置 | 方向 | 規模 | 柱間寸法 | 重複 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 7南 | SA 787 | W238 S 61 | 東－西 | 2間以上 | 1.8m | SB786より古い。 | |
| 〃 | 826 | W283 S 60 | 南－北 | 5間 | 2.2~2.6m | | |
| 19 | 654 | W 95 S 97 | 〃 | 3間 | 1.7m | SD610より古い。 | |
| 〃 | 655 | W 93 S100 | 〃 | 3間 | 1.8m | | |
| 〃 | 656 | W 95 S 99 | 〃 | 5間 | 1.3~1.7m | | |
| 〃 | 700 | W 93 S121 | 東－西 | 2間以上 | 2.1m | | |
| 〃 | 703 | W 93 S131 | 〃 | 3間以上 | 1.4m | | |
| 〃 | 814 | W 87 S218 | 南－北 | 3間 | 1.6~2.0m | | |
| 〃 | 861 | W 96 S 83 | 〃 | 2間以上 | 1.8m | SD606との関係は不明。 | |
| 〃 | 862 | W 94 S110 | 〃 | 4間 | 1.8~2.0m | | |
| 〃 | 864 | W 94 S 98 | 〃 | 3間 | 1.6~2.2m | | SA655とほぼ同位置。 |
| 20 | 848 | W218 S121 | 〃 | 3間 | 2.0~2.5m | SD677・678・SB711との関係は不明。 | |
| 21 | 858 | W236 S175 | 東－西 | 3間 | 2.0m | | |
| 〃 | 868 | W220 S171 | 南－北 | 3間以上 | 2.0m | SD760・SB768より新しい。 | |

第3表　柱穴列跡属性表

| 区 | 遺構No. | 位置 | 平面形態 | 断面形態 | 上部の径(m) | 上部の径(m) | 深さ(m) | 堆積状況 | 重複 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 7南 | SE 710 | W288 S 61 | 円形 | ロート状（大） | 2.1 | 1.0 | 1.2 以上 | 人為 | SB548・786との関係は不明。 | |
| 〃 | 721 | W281 S 63 | 〃 | 〃 〃 | 2.1 | 1.2 | 1.4 以上 | 〃 | SB491より新しい。SB840・842との関係は不明。 | |
| 〃 | 738 | W266 S 66 | 楕円形 | 〃 （小） | （長）1.7 | 1.0 | 1.2 以上 | 人為・自然 | SD749・SX751より新しい。 | |
| 〃 | 739 | W268 S 63 | 不整円形 | 〃 （大） | （長）2.3 | 1.1 | 1.4 以上 | 自然 | | |
| 〃 | 744 | W271 S 67 | 楕円形 | 筒状 | （長）2.4 | 2.1 | 1.4 以上 | 人為 | SD746より新しく、SB783より古い。 | |
| 〃 | 765 | W302 S 76 | 楕円形？ | ロート状（大） | 2.4 | 0.9 | 1.3 以上 | 〃 | SD726より新しい。 | 調査区域のため平面形態不明。 |
| 〃 | 781 | W275 S 62 | 円形 | 〃 〃 | 2.3 | 0.7 | 1.3 以上 | 〃 | SX755・SX780より古い。 | 整地層(SX468) 上面。 |
| 19 | 609 | W 93 S 99 | 〃 | 〃 （小） | 1.3 | 1.0 | 1.6 以上 | | SD608a・bより新しい。 | 崩落のため詳細不明。 |
| 〃 | 611 | W 92 S112 | 楕円形 | 〃 〃 | （長）1.6 | 0.7 | 2.0 以上 | 人為・自然 | | |
| 〃 | 612 | W 90 S115 | 円形 | | | | | | | 崩落のため詳細不明。 |
| 〃 | 613 | W 91 S116 | 〃 | ロート状（小） | 1.0 | 0.8 | 1.1 以上 | 人為 | | |
| 〃 | 617 | W 93 S110 | 〃 | 〃 （大） | 2.1 | 1.1 | 1.3 以上 | 自然 | SB614・615・616より古い。 | |
| 〃 | 622 | W 95 S122 | 楕円形 | | （長）1.3 | | | | SD621より新しい。 | |
| 〃 | 626 | W 89 S140 | 〃 | ロート状（大） | （長）1.6 | 1.0 以上 | 1.2 以上 | 人為 | SD624・625より新しく、SB863より古い。 | 調査区域のため平面形態不明。 |
| 〃 | 630 | W 89 S148 | 円形 | 〃 〃 | 1.4 | 0.7 | 1.3 以上 | 〃 | SD680・689より新しい。 | |
| 〃 | 636 | W 92 S153 | 〃 | 筒状 | 2.0 以上 | 1.7 | 1.6 以上 | 〃 | SD635より古い。 | |
| 〃 | 649 | W 96 S 78 | 〃 | ロート状（小） | 1.6 | 1.0 | 1.0 以上 | 自然・人為 | SD648より古い。 | |
| 〃 | 650 | W 87 S166 | 円形？ | 〃 （大） | 2.0 以上 | 0.8 | 0.8 以上 | 自然 | | 調査区域のため平面形態不明。 |
| 〃 | 659 | W 92 S171 | 〃 | 〃 〃 | 1.2 〃 | 1.1 | 0.4 以上 | 〃 | SD652より古い。 | |
| 〃 | 669 | W 92 S170 | 円形 | 筒状 | 0.8 | 7.2 | 1.0 以上 | 自然・人為 | | |
| 〃 | 671 | W 89 S120 | 円形？ | ロート状（大） | 1.3 以上 | 0.7 | 1.0 以上 | 自然 | | |
| 〃 | 808 | W 90 S220 | 円形 | 〃 〃 | 2.0 | 1.4 | 1.0 以上 | 〃 | | |
| 〃 | 810 | W 90 S225 | 〃 | 〃 （小） | 1.3 | 1.0 | 1.1 以上 | 〃 | | |
| 20 | 674 | W212 S116 | 〃 | 〃 〃 | 1.6 | 1.2 | 1.4 以上 | 人為 | SD676より新しい。 | |
| 〃 | 675 | W213 S114 | 〃 | 〃 （大） | 2.0 | 1.1 | 1.6 以上 | 自然 | SD676より古い。 | |
| 〃 | 682 | W212 S142 | 〃 | 筒状 | 1.5 | 1.3 | 1.3 以上 | 人為 | SD676より新しい。 | |
| 〃 | 683 | W215 S138 | 〃 | 〃 | 1.5 | 0.7 | 2.9 | 人為・自然 | | 井戸枠あり。 |
| 〃 | 684 | W217 S141 | 〃 | ロート状（小） | 1.8 | 1.2 | 1.3 以上 | 人為 | SE685より新しい。 | |
| 〃 | 685 | W218 S140 | 〃 | 〃 （大） | 2.5 | 1.5 | 1.3 以上 | 自然 | SE684より古い。 | |
| 〃 | 686 | W215 S160 | 〃 | 筒状 | 2.4 | 2.4 | 1.3 以上 | 人為 | | |
| 21 | 690 | W248 S173 | 〃 | ロート状（小） | 3.0 | 0.9 | 1.6 以上 | 自然 | SB691より古い。 | 井戸枠材出土。 |
| 〃 | 691 | W249 S171 | 〃 | 〃 〃 | 2.5 | 1.1 | 1.5 以上 | 〃 | SB690より新しい。 | |
| 〃 | 762 | W224 S172 | 〃 | 〃 〃 | 2.2 | 1.1 | 1.2 以上 | 人為 | | |
| 22 | 801 | W281 S134 | 〃 | 筒状 | 0.9 | 0.9 | 1.0 以上 | 〃 | SD800より古い。 | 崩落のため詳細不明 |
| 23 | 831 | W340 S216 | 円形？ | | 1.6 以上 | | | | SB838より古い。 | 平面形態のみ |

第４表　井戸跡属性表

| 区 | 遺構No. | 位置 | 平面形態 | 長径(m) | 短径(m) | 深さ(m) | 堆積土 | 重複 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 7南 | SK 727 | W297 S 80 | 円形 | 2.0 m | 1.8 m | 0.3 m | 黒褐色粘土質シルト～褐色砂質シルト（人為） | SD725より新しく、SD716より古い。 | |
| 〃 | 728 | W299 S 79 | 〃 | 2.0 | 1.9 | 0.3 | 〃 ～ 〃 （自然） | SD730より新しい。 | |
| 〃 | 729 | W302 S 81 | 〃 | 1.8 | 1.4 | 0.2 | 黒褐色粘土質シルト～オリーブ褐色砂質シルト（自然） | 〃 | |
| 〃 | 737 | W281 S 65 | 〃 | 2.2 | 1.8 | 0.5 | 黒褐色粘土質シルト、にぶい黄褐色砂質シルト（自然） | SD491・492より新しく、SB784より古い。 | |
| 〃 | 741 | W291 S 76 | 円形？ | 1.8 | | 0.25 | 暗褐色シルト（自然） | SD735より新しく、SB723・724より古い。 | |
| 〃 | 743 | W271 S 73 | 不整円形 | 2.4 | 1.6 | 0.4 | 黒褐色粘土質シルト～オリーブ褐色砂質シルト（自然） | SD750・754・758より新しい。 | |
| 〃 | 745 | W265 S 77 | 楕円形 | 1.5 | 0.8 | 0.4 | 1・2層にぶい黄褐色（人為）、3層暗褐色粘土質シルト（自然） | SD753より新しい。 | |
| 〃 | 751 | W266 S 67 | 円形？ | 1.0 | | 0.3 | 暗褐色シルト（自然） | SE738より古く、SD749より新しい。 | |
| 〃 | 780 | W274 S 61 | 楕円形 | 0.6 | 0.4 | 0.15 | オリーブ褐色シルト（自然） | SE781より新しい。 | フイゴ出土 |
| 19 | 614 | W 93 S109 | 円形 | 0.8 | | 0.3 | 黒褐色粘土質シルト～オリーブ褐色シルト（自然） | SB617より新しい。 | |
| 〃 | 615 | W 92 S109 | 〃 | 1.0 | | 0.2 | 黒褐色～灰オリーブ色粘土質シルト（自然） | 〃 | |
| 〃 | 616 | W 92 S110 | 〃 | 0.7 | | 0.2 | オリーブ黒色～灰オリーブ色粘土質シルト（人為） | 〃 | |
| 〃 | 632 | W 90 S150 | 不整形 | 1.7 | 1.0 | 0.2 | 黄灰色シルト、褐灰色砂質シルト（人為） | SD680より古い。 | |
| 〃 | 658 | W 90 S170 | 楕円形 | 1.0 | 0.6 | 0.4 | 黒褐色～黄褐色粘土質シルト（自然） | SD652より新しい。 | |
| 〃 | 670 | W 90 S162 | 不整形 | 2.2 | 1.4 | 0.15 | | SD704・705より新しい。 | |
| 〃 | 688 | W 91 S124 | 円形 | 0.7 | | 0.4 | オリーブ黒色～オリーブ褐色粘土質シルト（人為） | SD701との関係は不明。 | |
| 20 | 715 | W220 S108 | 不明 | 0.7 | | | | | 断面でのみ確認 |
| 〃 | 849 | W218 S234 | 楕円形 | 0.9 | 0.7 | 0.2 | 褐灰色シルト、砂質シルト、炭化物（自然） | SB853より古い。 | |
| 〃 | 850 | W218 S251 | 円形 | 0.7 | | 0.2 | 暗灰黄色砂質シルト（自然） | | |
| 〃 | 851 | W218 S252 | 〃 | 0.7 | | 0.2 | 〃 （ 〃 ） | | |
| 21 | 692 | W237 S175 | 楕円形 | 1.2 | 1.0 | 0.3 | 黄灰色砂質シルト、粘土質シルト（自然） | | |
| 〃 | 693 | W236 S172 | 不整楕円形 | 1.0 | 0.7 | 0.7 | オリーブ褐色粘土質シルト、灰白粒・焼土含む（人為）. | | |
| 〃 | 694 | W236 S170 | 楕円形 | 1.1 | 0.7 | 0.8 | 黄灰色砂質シルト、灰白粒・焼土含む（人為） | | |
| 〃 | 695 | W232 S172 | 円形？ | 1.2 | | 0.2 | にぶい黄褐色砂質シルト（人為） | SB690より古い。 | SB857の抜き穴 |
| 〃 | 696 | W234 S172 | 円形 | 1.7 | | 0.3 | 褐灰色～にぶい黄褐色砂質シルト（自然） | SB695より新しい。 | |
| 〃 | 697 | W230 S170 | 〃 | 1.0 | | 0.7 | 黄褐色粘土質シルト（自然） | | |
| 〃 | 698 | W230 S172 | 〃 | 0.8 | | 0.6 | オリーブ褐色粘土質シルト、灰白粒含む（人為） | | |
| 〃 | 699 | W230 S175 | 楕円形 | 1.0 | 0.5 | | | | SA858の抜き穴 |
| 22 | 803 | W296 S143 | 〃 | 1.2 | 0.9 | 0.2 | 褐色シルト灰色ブロック多量に含む（人為） | | |
| 〃 | 804 | W281 S131 | 円形？ | 1.6 | | 0.15 | オリーブ褐色シルト、灰白ブロック含む（人為） | SD799より古い。 | |
| 23 | 832 | W341 S218 | 不整形 | 3.0 | | | | SD653より古い。 | 平面のみ |
| 〃 | 836 | W250 S234 | 円形？ | | | | | | 〃 |

第５表　土壙属性表

| 区 | 遺構No. | 位置 | 長さ（m） | 幅（m） | 深さ（m） | 方向 | 堆積状況 | 重複 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 7南 | SD 719 | W297 S 75~ 80 | 5.0 | 0.3~0.6 | 0.2 | 南－北 | 自然 | SD724・725・735・SK727より新しい。 | |
| 〃 | 717 | W294 S 59~ 62 | 3.0 | 1.5 | 0.3 | 〃 | 自然・人為 | SB548より新しい。 | |
| 〃 | 718 | W291 S 59~ 63 | 4.0 | 0.3~0.5 | 0.1 | 〃 | 自然 | SB548・786・SD736より古い。 | |
| 〃 | 720 | W282 S 60~ 65 | 5.2 以上 | 0.5~0.8 | 0.2 | 〃 | 〃 | SB492より新しく、SE723・SK737より古い。 | SD491の延長 |
| 〃 | 722 | W290~293 S 67~ 71 | 6.8 以上 | 0.6~0.9 | 0.2~0.3 | 東西－南北 | 〃 | SB786・788より新しい。 | L字型 |
| 〃 | 723 | W287~302 S 73~ 83 | 22.0 以上 | 0.3~0.9 | 0.1 | 〃 | 〃 | SD735・732・735・740・749・750より新しく、SD724・730Bより古い。 | 〃 |
| 〃 | 724 | W287~302 S 74~ 83 | 29.0 以上 | 0.4~1.6 | 0.2 | 東－西 | 〃 | SD723・725・726・735・742より新しく、SD716・SB789より古い。 | |
| 〃 | 725 | W295~296 S 73~ 80 | 6.0 以上 | 0.9~1.2 | 0.3 | 南－北 | 人為 | SD735より新しく、SD716・723・724・SK727より古い。 | |
| 〃 | 726 | W297~302 S 75~ 78 | 6.0 以上 | 0.5~0.7 | 0.1 | 北東－南西 | 自然 | SD724・SE765より古い。 | |
| 〃 | 730 | W283~302 S 79~ 86 | 19.8 以上 | 1.6~2.4 | 0.8 | 東－西 | 人為 | SD723より新しく、SK728・729・SD763・SB789・792・793・841より古い。 | 大溝 |
| 〃 | 732 | W286 S 75~ 77 | 1.8 以上 | 0.3 | 0.1 | 南－北 | 自然 | SD723より古い。 | 小溝 |
| 〃 | 733 | W287~288 S 75 | 1.4 | 0.5 | 0.1 | 東－西 | 〃 | SB789より古い。 | 〃 |
| 〃 | 734 | W284~286 S 75 | 1.7 | 0.3 | 0.1 | 〃 | 〃 | | 〃 |
| 〃 | 735 | W252~302 S 67~ 88 | 60.0 以上 | 1.4~2.4 | 0.8~1.7 | 東西－南北 | 〃 | SD716・723・724・766・SB789・790より古い。 | 大溝 |
| 〃 | 736 | W289~291 S 62 | 1.0 | 0.4 | 0.3 | 東－西 | 〃 | SB548・786より古い。 | 小溝 |
| 〃 | 740 | W276~287 S 81~ 84 | 11.5 以上 | 0.3~0.6 | 0.1 | 〃 | 〃 | SD749より新しく、SD723より古い。 | |
| 〃 | 742 | W300~302 S 74 | 2.0 以上 | 0.7 以上 | 0.1 | 〃 | 人為 | SD724より古い。 | |
| 〃 | 746 | W266~272 S 66~ 68 | 5.5 | 2.2 | 0.3 | 〃 | 〃 | SE738・744・SK751より古い。 | |
| 〃 | 747 | W264~267 S 60~ 63 | 3.8 | 0.3~0.5 | 0.1 | 北西－南東 | 自然 | SD748より古い。 | |
| 〃 | 748 | W265~267 S 62~ 64 | 3.0 | 0.3 | 0.1 | 北東－南西 | 〃 | SD747より新しい。 | |
| 〃 | 749 | W275~287 S 80~ 84 | 12.0 以上 | 0.7 以上 | | 東－西 | | SD723・740より古い。 | 残存状況悪く詳細不明 |
| 〃 | 750 | W270~285 S 71~ 78 | 16.0 以上 | 0.4~1.0 | 0.5 | 東西－南北 | 自然 | SD758より新しく、SK743・SD754・SB785より古い。 | |
| 〃 | 753 | W264~267 S 77 | 3.0 | 0.6 | 0.1 | 北西－南東 | 〃 | SK745より古い。 | |
| 〃 | 754 | W272~276 S 73~ 78 | 6.0 | 0.9~1.3 | 0.2 | 北東－南西 | 人為 | SD750より新しく、SK743より古い。 | |
| 〃 | 757 | W266 S 79~ 82 | 2.5 | 0.3 | 0.1 | 南－北 | 自然 | | 小溝 |
| 〃 | 758 | W272~281 S 76~ 72 | 8.5 | 1.0 | 0.2 | 東－西 | 〃 | SK743・SD750・SB842より古い。 | |
| 〃 | 763 | W294 S 79~ 82 | 3.5 | 0.8 | 0.1 | 南－北 | 〃 | SD730より新しく、SB792より古い。 | |
| 〃 | 66 | W243~267 S 62~ 89 | 33.0 以上 | 15.0 | 2.4 | 北東－南西 | 〃 | SD735より新しく、SD256より古い。 | 外堀へ続く大溝 |
| 〃 | 76 | W285 S 59~ 62 | 3.0 | 1.5 | 0.3 | 南－北 | 〃 | SE719・SB548・786より古い。 | |
| 〃 | 855 | W266 S 87 | 1.0 | 0.6 | 0.2 | 北西－南東 | 〃 | SD735とSD766を結ぶ小溝。 | |
| 〃 | 856 | W266 S 88 | 1.0 | 0.6 | 0.2 | 〃 | 〃 | 〃 | |
| 19 | 600 | W 95~ 99 S 12~ 25 | 5.0 以上 | 12.0 | 0.5 | 東－西？ | 〃 | SD601・663・664より新しい。 | 水田跡か？ |
| 〃 | 601 | W 93~100 S 14~ 68 | 54.0 以上 | 0.5~1.0 | 0.2 | 南－北 | 〃 | SD603・643・644・645・663・666より新しく、SD606・602・639より古い。 | SB450a |
| 〃 | 602 | W 90~ 98 S 43~ 90 | 47.0 | 0.6~0.9 | 0.2 | 〃 | 〃 | SD601・603・639・644より新しい。SD604・605と同次期か？ | |
| 〃 | 603 | W 96~ 98 S 32~ 47 | 15.0 | 0.2~0.7 | 0.3 | 〃 | 人為 | SD601・663より古い。 | |
| 〃 | 604 | W 93~ 96 S 82 | 0.4 以上 | 0.8 | 0.4 | 東－西 | 自然 | SD605より新しい。SD602と同次期か？ | |
| 〃 | 605 | W 93~ 95 S 79~ 91 | 12.0 | 0.4~1.4 | 1.4 | 南－北 | 人為・自然 | SD648より新しく、SD604・606・607より古い。 | |
| 〃 | 606 | W 92~ 96 S 86 | 4.5 以上 | 0.4 | 0.1 | 東－西 | 自然 | SD605より新しい。SA861との関係は不明。 | |
| 〃 | 607 | W 91~ 94 S 90 | 2.5 | 0.4 | 0.1 | 〃 | 〃 | SD605より新しい。SD602と同次期か？ | |
| 〃 | 608 | W 92~ 93 S 94~105 | 10.5 | 0.4、0.1 | 0.2、0.6 | 南－北 | 人為・自然 | SB609より古い。 | SD608a・b の2時期あり |
| 〃 | 610 | W 94~ 95 S 97 | 2.0 以上 | 0.3 | 0.05 | 東－西 | 自然 | SA654より古い。 | 残存状況悪い |
| 〃 | 619 | W 95~ 98 S 11~ 13 | 3.0 以上 | 1.5 以上 | 0.05 | 〃 | 〃 | SD663より古い。 | 〃 |
| 〃 | 620 | W 90 S118~121 | 3.5 | 0.4 | 0.2 | 南－北 | 〃 | SD621より古い。 | |
| 〃 | 621 | W 89~ 94 S122 | 5.0 以上 | 0.7~1.0 | 0.5 | 東－西 | 〃 | SD620より新しく、SB622より古い。 | |
| 〃 | 623 | W 89~ 95 S127 | 5.0 以上 | 0.6~1.0 | 0.4 | 〃 | 〃 | SD624・625より新しく、SB671より古い。 | |
| 〃 | 624 | W 90~ 92 S127~141 | 14.0 以上 | 0.4 | 0.2 | 南－北 | 〃 | SD625より新しく、SD623・665・SB626より古い。 | |
| 〃 | 625 | W 90~ 92 S127~137 | 10.0 | 1.0 | 0.4 | 〃 | 人為・自然 | SD623・624・665・SB702・863より古い。 | |
| 〃 | 627 | W 88~ 93 S145 | 5.0 以上 | 1.0~1.2 | 0.4 | 東－西 | 自然 | SD628・680・689より新しい。 | |
| 〃 | 628 | W 88~ 93 S146 | 5.0 以上 | 1.0 以上 | 0.6 | 〃 | 人為 | SD680より新しく、SD627より古い。 | |
| 〃 | 629 | W 88~ 93 S147 | 5.0 以上 | 1.2 | 0.6 | 〃 | 自然 | SD680より新しい。 | |
| 〃 | 631 | W 89~ 91 S132~151 | 19.0 | 0.5~0.8 | 0.2 | 南－北 | 人為 | SB632より新しく、SB630より古い。 | |
| 〃 | 633 | W 92 S149~151 | 2.0 以上 | 0.2 | 0.2 | 〃 | 〃 | SD689より古い。 | |
| 〃 | 635 | W 87~ 93 S153 | 5.0 以上 | 0.8~1.0 | 0.3 | 東－西 | 自然 | SB636・672より新しい。 | |
| 〃 | 637 | W 87~ 93 S155~157 | 5.0 以上 | 1.0 | 0.4 | 〃 | 人為 | SD638より新しい。 | |
| 〃 | 638 | W 87~ 93 S157 | 5.0 以上 | 1.0 以上 | 0.5 | 〃 | 自然 | SD637より古い。 | |
| 〃 | 639 | W 92~ 97 S 57 | 5.0 以上 | 0.5~1.0 | 0.4 | 〃 | 〃 | SD601・666より新しく、SD602より古い。 | |
| 〃 | 640 | W 94~ 97 S 85 | 2.5 以上 | 0.5~1.3 | 0.05 | 〃 | 〃 | SD642より古い。 | 平面のみ |
| 〃 | 641 | W 92~ 98 S 72 | 4.5 以上 | 0.7 | 0.7 | 〃 | 〃 | SD642より新しく、SD602・645・666より古い。 | |
| 〃 | 642 | W 92~ 98 S 73~ | 4.5 以上 | 0.5 以上 | 0.2 | 〃 | 〃 | SD602・641より古い。 | |
| 〃 | 643 | W 98~ 99 S 33~ 39 | 6.0 以上 | 0.5 以上 | 0.3 | 南－北 | 〃 | SD601より古い。 | SB450c |
| 〃 | 644 | W 96~ 99 S 37~ 54 | 17.0 以上 | 2.0 | 0.6 | 〃 | 〃 | SD602より古い。 | |
| 〃 | 645 | W 93 S 55 | 1.5 以上 | 0.2~0.5 | 0.1 | 東－西 | 〃 | SD601より古い。 | 平面のみ |
| 〃 | 646 | W 95 S 68~ 72 | 3.5 | 0.5~1.0 | 0.2 | 南－北 | 〃 | SD641・648より新しい。 | 炭化物を多量に含む |
| 〃 | 647 | W 94~ 97 S 69 | 3.0 以上 | 0.3 | 0.03 | 東－西 | 〃 | SD648より古い。 | 残存状況悪い　平面のみ |
| 〃 | 648 | W 95 S 73~ 79 | 6.0 | 0.5~1.0 | 0.2 | 南－北 | 〃 | SE649より新しく、SD605より古い。 | |
| 〃 | 652 | W 87~ 92 S170~173 | 5.5 以上 | 2.5 | 0.9 | 東－西 | 人為 | SE659より新しく、SK658より古い。 | |

第６表　溝跡属性表（1）

| 区 | 遺構No. | 位置 | 長さ（m） | 幅（m） | 深さ（m） | 方向 | 堆積状況 | 重複 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 19 | SD 653 | W 89~310 S175~188 | 23.0 以上 | 13.0 | 1.5 | 東－西 | 自然・人為 | | 北目堀沿いの大溝 |
| 〃 | 657 | W 92~ 96 S 81 | 3.5 以上 | 0.3 以上 | 0.7 | 〃 | 自然 | SD605より新しく、SD602・604より古い。 | |
| 〃 | 663 | W 96~100 S 12~ 32 | 20.0 以上 | 2.0 以上 | 0.6 | 南－北 | 〃 | SD663・619・664より新しく、SD600・601より古い。 | SD450b |
| 〃 | 664 | W 94~100 S 13~ 25 | 6.0 以上 | 12.0 | 1.2 | 東－西 | 人為・自然 | SD600・601・663より古い。 | |
| 〃 | 665 | W 89~ 92 S129 | 2.5 以上 | 0.8 | 0.5 | 〃 | 自然 | SD624・625より新しく、SE821より古い。 | |
| 〃 | 666 | W 92~ 95 S 57~ 94 | 37.0 以上 | 1.0 | 0.4 | 南－北 | 〃 | SD667より新しく、SD601・602・639・641より古い。 | |
| 〃 | 667 | W 91~ 92 S 91~ 97 | 6.0 以上 | 0.4 以上 | 0.1 | 〃 | 〃 | SD667・SB668より古い。 | 残存状況悪い |
| 〃 | 672 | W 90~ 93 S154 | 3.0 以上 | 0.4 以上 | 0.2 | 東－西 | 〃 | SD635より古い。 | |
| 〃 | 680 | W 88~ 92 S132~151 | 20.0 | 0.7 | 0.2 | 南－北 | 人為 | SD624・625・627・628・629・SE630より古い。 | SD631と同一か？ |
| 〃 | 689 | W 88~ 92 S148 | 4.5 以上 | 1.1 以上 | 0.2 | 〃 | 自然 | SD633より新しく、SD629・SE630より古い。 | |
| 〃 | 807 | W 91 S189~202 | 14.0 以上 | 1.5 以上 | 0.8 以上 | 〃 | 人為 | SD813より新しく、SD653より古い。 | SD809と平行 |
| 〃 | 809 | W 87 S191~196 | 5.5 以上 | 1.2 以上 | 0.5 | 〃 | 自然 | | SD807と平行 |
| 〃 | 811 | W 90 S203~211 | 8.0 | 0.3～0.5 | 0.1 | 〃 | 〃 | SD812・SB815より新しい。 | |
| 〃 | 812 | W 87~ 90 S211 | 4.0 以上 | 0.4～0.5 | 0.2 | 〃 | 〃 | SB815より新しく、SD811より古い。 | |
| 〃 | 813 | W 90 S192 | 2.0 以上 | 0.2～0.4 | 0.05 | 東－西 | 〃 | SD807より古い。 | 小溝 |
| 〃 | 819 | W 91 S212 | 0.9 | 0.2 | 0.1 | 南－北 | 〃 | SB815との関係は不明。 | 〃 |
| 20 | 660 | W214~228 S 79~ 82 | 14.0 以上 | 0.8～1.1 | 0.5 | 東－西 | 〃 | SD709より古い。SB661との関係は不明。 | |
| 〃 | 662 | W217~220 S 89~104 | 15.0 以上 | 0.4～0.9 | 0.1 | 南－北 | 〃 | SB847との関係は不明。 | SD843・844と平行 |
| 〃 | 676 | W211~212 S111~193 | 82.0 以上 | 0.7 以上 | 0.3 | 〃 | 〃 | SD675より新しく、SD674・678・679より古い。 | |
| 〃 | 677 | W211~220 S121~123 | 8.5 以上 | 0.7～1.1 | 0.5 | 東－西 | 〃 | SD676・678・679・SB711より新しい。 | |
| 〃 | 678 | W211~121 S121 | 8.5 以上 | 0.9 以上 | 0.8 | 〃 | 自然・人為 | SD676より新しく、SD677・SB711より古い。 | |
| 〃 | 679 | W218~220 S124 | 1.0 以上 | 0.8 以上 | 0.3 | 〃 | 自然 | SD677より古い。 | |
| 〃 | 843 | W217 S 89~ 91 | 1.8 | 0.3 | 0.05 | 南－北 | 〃 | SB847との関係は不明。 | SD844と一連か？ |
| 〃 | 844 | W215~216 S 92~100 | 7.5 | 0.3～0.7 | 0.05 | 〃 | 〃 | 〃 | |
| 〃 | 845 | W214 S 89~ 92 | 3.2 | 0.2 | 0.05 | 〃 | 〃 | | |
| 〃 | 846 | W214 S 94~ 95 | 1.3 | 0.2 | 0.03 | 〃 | 〃 | | |
| 〃 | 853 | W214~219 S234 | 5.0 以上 | 0.4 | 0.1 | 東－西 | 〃 | SK849より新しい。SB852 と同時期か？ | |
| 〃 | 854 | W210~215 S212 | 5.5 以上 | 0.3～0.9 | 0.05 | 〃 | 〃 | | |
| 21 | 760 | W220 S160~177 | 8.5 以上 | 0.7～1.4 | 0.4 | 南－北 | 〃 | SB768より新しく、SB761・SA868より古い。 | |
| 〃 | 761 | W216~219 S173~177 | 4.5 以上 | 0.4～1.2 | 0.1 | 北東－南西 | 〃 | SD760・より新しく、SB769より古い。 | |
| 22 | 794 | W284~303 S127~144 | 20.0 以上 | 0.8 以上 | 2.4 | 〃 | 〃 | SD795・796・797・805・806より古い。 | |
| 〃 | 795 | W288~306 S126~131 | 23.0 以上 | 3.0 以上 | 1.6 | 〃 | 〃 | SD794より新しく、SD796・797・804・805より古い。 | |
| 〃 | 796 | 〃 〃 S 〃 | 23.0 以上 | 3.0 以上 | 1.3 | 〃 | 〃 | SD794・795より新しく、SD797・804・805より古い。 | |
| 〃 | 797 | W290~310 S118~138 | 26.0 以上 | 3.2 | 1.0 | 〃 | 〃 | SD796・797より新しく、SD805より古い。 | |
| 〃 | 798 | | | | | 東－西 | 〃 | | |
| 〃 | 799 | W279~288 S130~133 | 9.0 以上 | 2.5 | 0.8 | 〃 | 〃 | SK804より新しく、SD800より古い。 | |
| 〃 | 800 | W279~285 S132~136 | 6.0 以上 | 3.2 | 0.5 | 北東－南西 | 〃 | SD799・SE801より新しい。 | |
| 〃 | 805 | W310 S135 | 2.0 以上 | 1.2 | 0.3 | 〃 | 〃 | SD797・806より新しい。 | |
| 〃 | 806 | W290~310 S119~138 | 25.0 以上 | 2.0～4.0 | 0.4 | 南－北 | 〃 | SD796・797より新しく、SD805より古い。 | |
| 23 | 833 | W346 S217~220 | 2.0 以上 | 1.0 | 0.4 | 北東－南西 | 〃 | SD834より古い。 | |
| 〃 | 834 | W348~350 S217~220 | 3.0 以上 | 1.0 | 0.3 | 南－北 | 〃 | SD833より新しく、SD835より古い。 | |
| 〃 | 835 | W348 S215~218 | 3.0 以上 | 0.6 | | 〃 | 〃 | SD834より古い。 | 確認調査 |
| 〃 | 837 | W200 S220 | 2.0 以上 | 1.0 | | 北西－南東 | 〃 | | |
| 〃 | 838 | W333~349 S213~215 | 6.0 以上 | 6.0 | | | 〃 | SE831より新しい。SD63。 | |

第７表　溝跡属性表 (2)

| 区 | 遺構No. | 位置 | 長径（cm） | 短径（cm） | 深さ（cm） | 平面形態 | 特徴 | 重複 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 7南 | SX 731 | W288 S 81 | 80 | | 1～5 | 円形 | 径20cmの硬化赤色化部分があり、その周辺に焼土がうすく広がっている。 | SD723より古い。 |
| | 752 | W283 S 71 | 120 | 80 | 1 | 不整円形 | 赤色化した土が広がっているもので、やや硬化している。 | SB784との関係は不明である。 |
| | 755 | W276 S 60 | 140 | 60 | 20 | 楕円形 | 硬化赤色化した部分をうすく焼土炭化物がおおっている。 | SE781・SX466整地層より新しい。 |
| | 756 | W277 S 61 | 110 | 70 | 20 | 〃 | 〃 | 〃 |
| | 764 | W276 S 59 | 80 | | 16 | 不整形 | 〃 | SB825との関係は不明である。 |
| | 767 | W277 S 61 | 40 | | | 円形 | 硬化赤色化した部分が斑状的に認められる。 | SX756と同一か？ |
| | 778 | W275 S 61 | 60 | 30 | 8 | 楕円形 | 〃 | SE781・SX466整地層より新しい。 |
| | 779 | W275 S 60 | 70 | 40 | 10 | 〃 | 窪み（掘り方？）に炭化物が集中している。 | SX466整地層より新しい。 |
| 22 | 818 | W282 S135 | 90 | 55 | 1～3 | 〃 | 〃 | |

第８表　焼け面跡・炭化物集中遺構属性表

### ②発見された遺物

発見された遺物には陶磁器、木製品、土製品、鉄製品、銅製品、古銭、動物遺体がある。

**a．陶磁器**　施釉陶器、染付磁器、青磁、無釉陶器がある。

【施釉陶器】(第 23 図 1～4)1・2 は内外面に灰釉を施した瀬戸産の菊皿である。3 は内外面に鉄釉を施した瀬戸産の皿である。4 は大堀相馬産の碗である。

【染付磁器・青磁】(第 23 図 5～8)5～7 はいずれも草花文が描かれた肥前産のもので、5 は碗、6・7 は皿の底部と思われる。8 は青磁の碗？である。

【無釉陶器】(第 23 図 9～17)9～17 は摺鉢である。色調は灰色基調のものが多いが、赤褐色のもの (9・12・16) も見られる。内面の櫛目は 10・15 以外は明瞭で、櫛目 1 単位が 5 条のもの (9・10・14～16) 、6 条のもの (13) 、7 条のもの (11・12・17) がある。

**b．木製品**　下駄、曲げ物、漆器の蓋・椀がある。

【下駄】(第 24 図～第 26 図 2)連歯下駄 5 点(第 24 図～第 26 図 1)と露卯下駄 1 点(第 26 図 2)がある。いずれも欠損、剥離している。大きさは第 24 図 1 が長さ 15.5 ㎝、幅 6.7 ㎝と比較的小型であるが、その他は長さ 18～20 ㎝、幅 10 ㎝前後でまとまっている。歯の高さは 3～4 ㎝のものが多いが、第 25 図 4 は 7.4 ㎝と他の倍近い。

【曲げ物】曲げ物 2 点 (第 26 図 3～4) 、曲げ物底板 1 点 (第 26 図 5) がある。3 は側板の外側に幅 1 ㎝前後の帯が 2.5㎝ 間隔で 3 本巡り、交差部分は黒色の桜の皮で止められている。底板はほぼ完形で残っている。4 は側板の止め具が認められる。底板は完形である。5 は直径 25 ㎝、厚さ 2 ㎝の底板であるが、半分しか残っていない。

【漆器の蓋・椀】(第 26 図 1～4)蓋 1 点 (1) 、椀 3 点 (2～4) がある。4 は底部である。漆は内面朱漆・外面黒漆のもの (1・2) 、全面黒漆のもの (3・4) がある。いずれも剥離が激しいが文様がわかるものは 1 が外面に朱で松葉、高台裏に朱で鳥が描かれている。4 には幅 2～3 ㎜の沈線が 2 本巡っている。

**c．土製品** (第 26 図 5～9) 4 点ある。5 は鞴の羽口と坩堝が融接したものである。この坩堝は溶鉱炉の壁の補強材に使われていたと考えられる。2 は坩堝？で溶けた鉄が付着し、強い熱を受けた痕跡も認められる。3・4 は鞴の羽口で熱変化が顕著である。

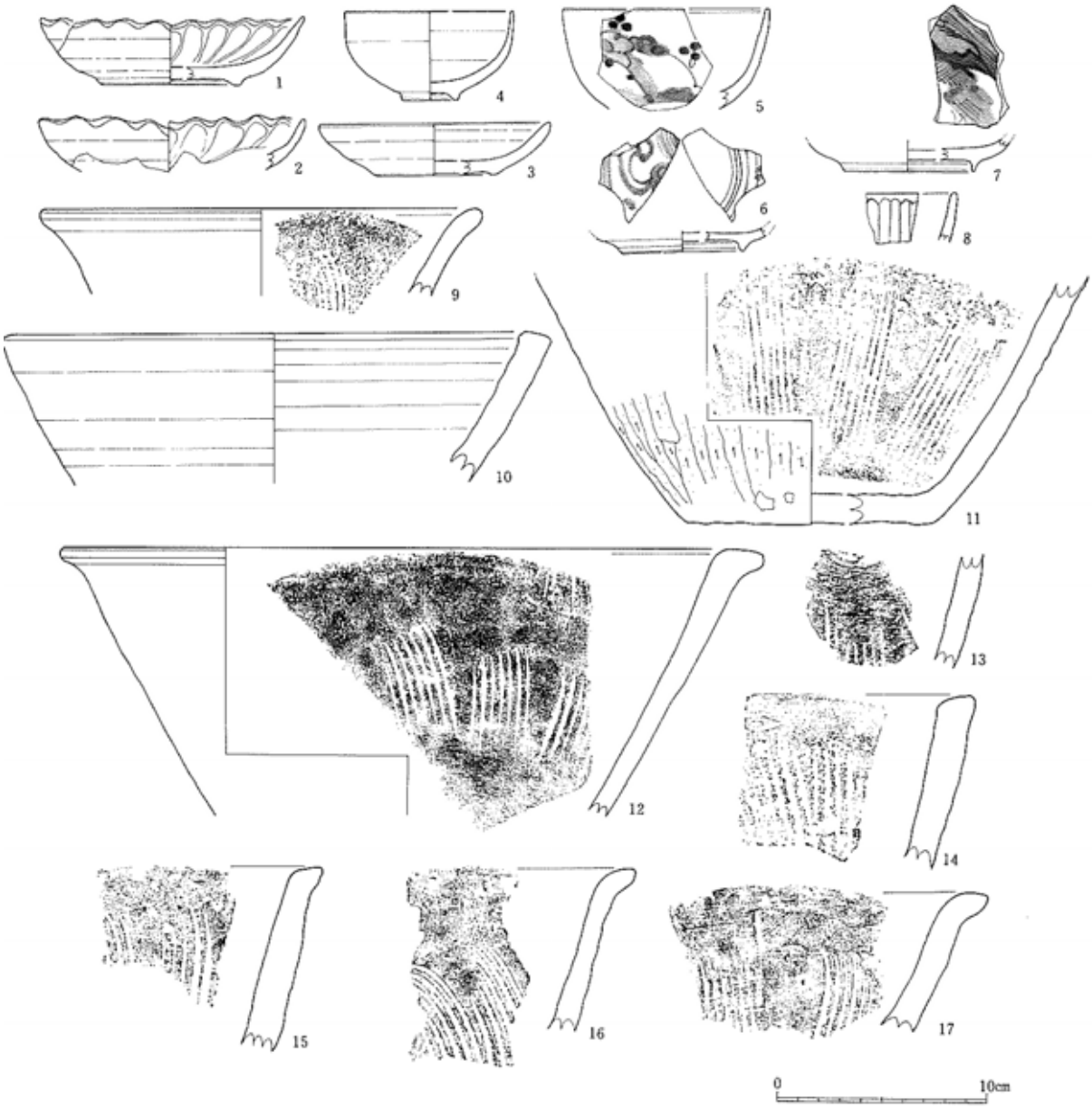
**d．鉄製品** (第 26 図 9～14) 小刀 1 点 (9) 、釘 5 点 (10～14) がある。釘は長さが 16 ㎝のもの (10) 、7～8㎝ のもの (11・12) 、4～5 ㎝のもの (13・14) がある。断面形は円形である。

**e．銅製品** (第 26 図 15～16) 煙管 1 点 (15) 、クサビ 1 点 (16) がある。

**f．古銭** (第 26 図 17～27) 宗通元宝 1 点(17)、祥符通宝 1 点(18)、天聖元宝 1 点(19)、紹熙元宝 1 点(20)、至大通宝 1 点(21)、洪武通宝 2 点(22～23)、永楽通宝 4 点(24～27)がある。

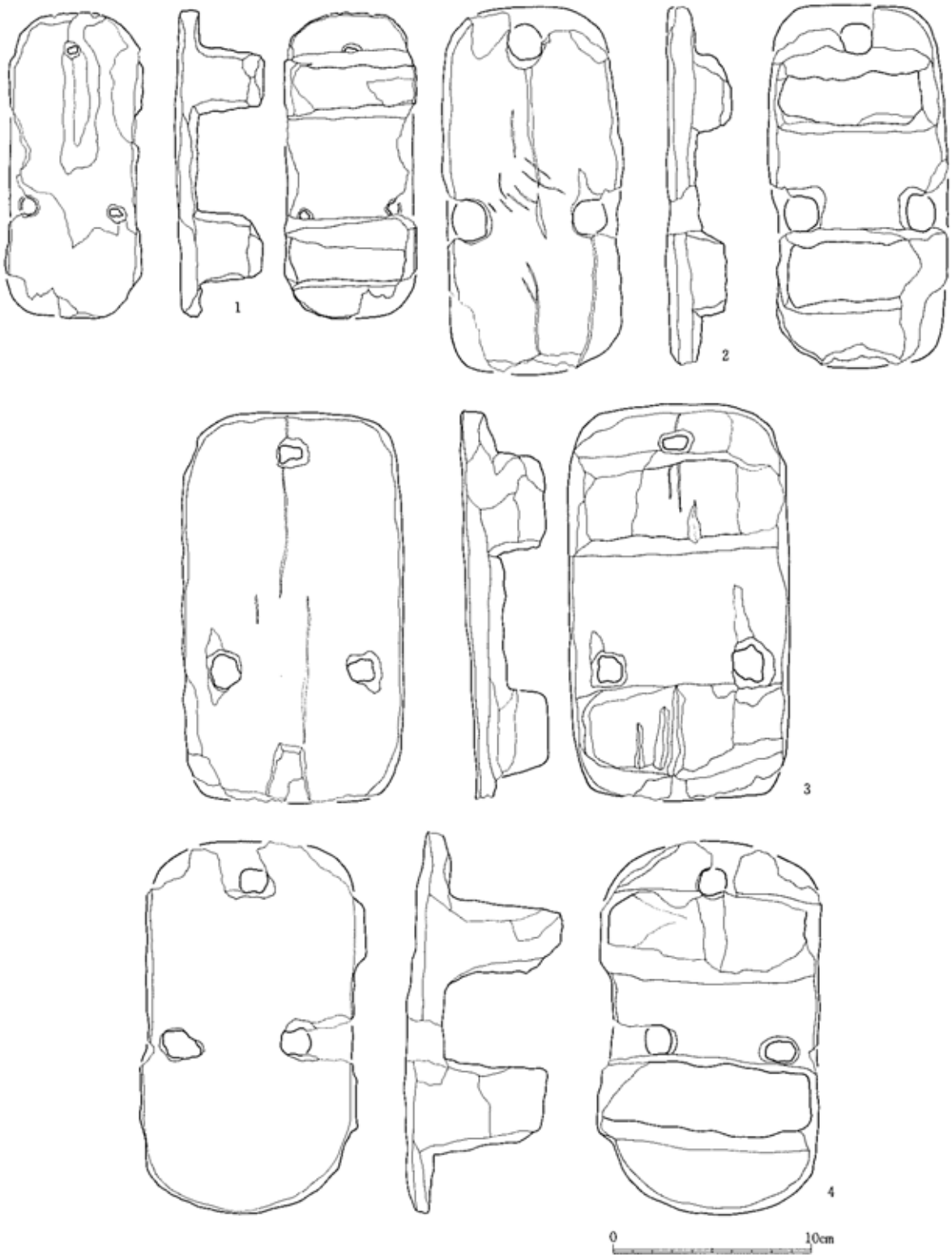
**g．石製品** (第 27 図～第 29 図) 石臼上臼 3 点(第 27 図)、石臼下臼 3 点(第 28 図)、石鉢 2 点(第 29 図 1～2)、硯 2 点(第 29 図 3～4)、砥石 2 点(第 29 図 5～6)がある。

**h．動物遺体** (写真図版 11－7～9) 哺乳類 1 種 (ニホンジカ) がある。7 は橈骨 (左) 、8・9 は同一個体で脛骨 (左) である。



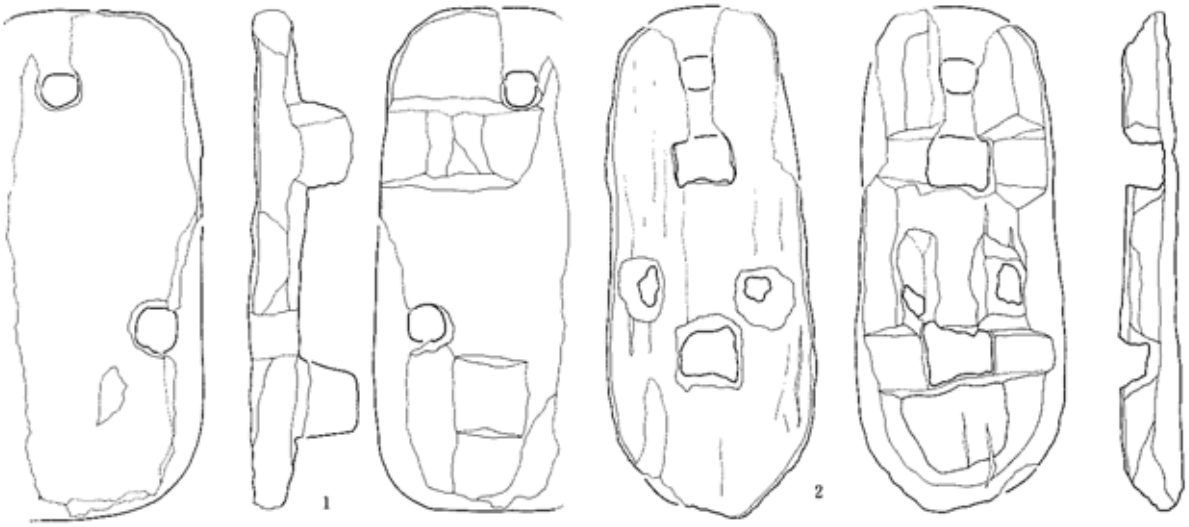

| No | 種類 | 区 | 出土地点 | 口径cm | 底径cm | 器高cm | 産地 | 特徴 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 陶器 皿 | 20 | SD653 堆積土 | 12.8 | 6.6 | 3.2 | 瀬戸 | 内外面に灰釉。鉄皿。16C末。 | 9－1 |
| 2 | 〃 〃 | 7南 | 遺構確認面 | 12.8 | | | 〃 | 16C末。 | 9－2 |
| 3 | | 19 | SE636 堆積土 | 11.0 | 5.6 | 2.5 | 〃 | 内外面に鉄釉。16C初。 | 9－3 |
| 4 | 〃 碗 | 23 | 表土 | 8.0 | 2.8 | 4.3 | 大堀相馬 | 18C末～19C初。 | 9－4 |
| 5 | 磁器 〃 | 20 | 〃 | 9.8 | | | 肥前 | 染付雲龍草花文。18C。 | 9－5 |
| 6 | 〃 皿 | 19 | SD602 堆積土 | | 6.0 | | 〃 | 内外面に草花文？ 17C。 | 9－6 |
| 7 | 〃 〃 | 23 | 表土 | | 6.2 | | 〃 | 染付草花文。19C。 | 9－7 |
| 8 | 青磁 碗 | 19 | SE611 堆積土 | | | | 中国 | | 9－8 |
| | 種類 | 区 | 出土地点 | 特徴 | | | | | 写真図版 |
| 9 | 陶器 擂鉢 | 20 | SE685 堆積土 | 口径21.0cm。櫛目5条1単位。色調赤褐色。 | | | | | 9－9 |
| 10 | 〃 〃 | 19 | SD603 堆積土 | 口径26.4cm。剥離激しい。櫛目5条1単位。 | | | | | 9－10 |
| 11 | 〃 〃 | 〃 | 遺構確認面 | 底径12.0cm。外面底部付近にタテ方向のケズリ→粗いナデ。櫛目明瞭（櫛目7条1単位）。 | | | | | 9－11 |
| 12 | 〃 〃 | 〃 | 〃 | 口径33.4cm。W93、S144付近。櫛目明瞭（櫛目7条1単位）。色調赤褐色。 | | | | | 9－12 |
| 13 | 〃 〃 | 〃 | SE613 堆積土 | 櫛目6条1単位。 | | | | | 9－13 |
| 14 | 〃 〃 | 〃 | SE622 堆積土 | 櫛目5条1単位。 | | | | | 9－14 |
| 15 | 〃 〃 | 〃 | SD638 堆積土 | 剥離激しい。櫛目5条1単位。 | | | | | 9－15 |
| 16 | 〃 〃 | 22 | SD797 堆積土 | 櫛目明瞭（櫛目7条1単位）。色調赤褐色。 | | | | | 9－16 |
| 17 | 〃 〃 | 〃 | 〃 | 櫛目7条1単位。 | | | | | 9－17 |

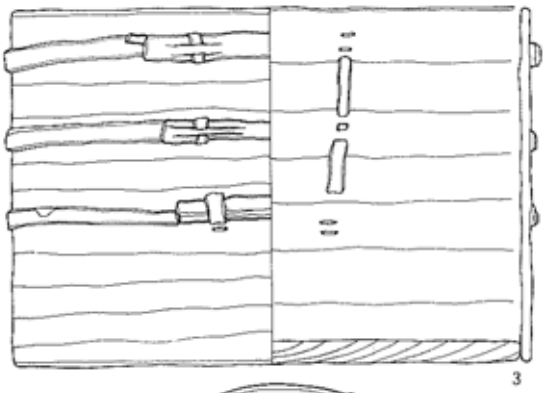
第23図　陶磁器

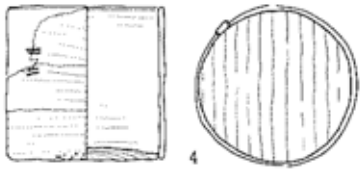


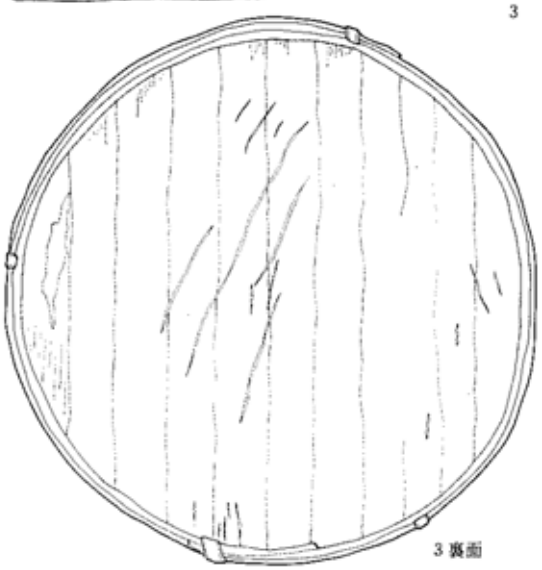

| No | 種類 | 区 | 出土地点 | 長さcm | 幅 cm | 高さcm | 特徴 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 連歯下駄 | 19 | SE609 埋積土 | 15.5 | 6.7 | 4.4 | 表面の剥離著しい。 | 10－1 |
| 2 | 〃 | 22 | SD622 埋積土 | 18.3 | 9.1 | 3.2 | つま先部、鼻緒孔欠損。 | 10－2 |
| 3 | 〃 | 19 | SD642 埋積土 | 20.0 | 10.1 | 4.3 | 後歯部欠損。 | 10－3 |
| 4 | 〃 | 22 | SD797 埋積土 | 18.8 | 11.6 | 7.4 | 鼻緒孔2ケ所欠損 | 10－4 |

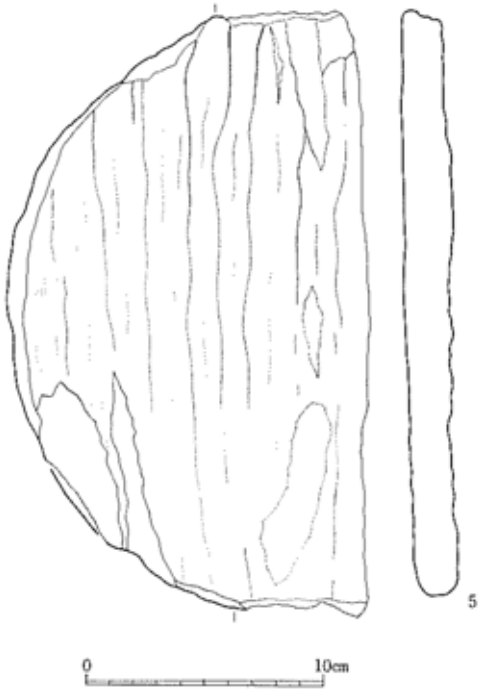
第24図　木製品(1)　連歯下駄



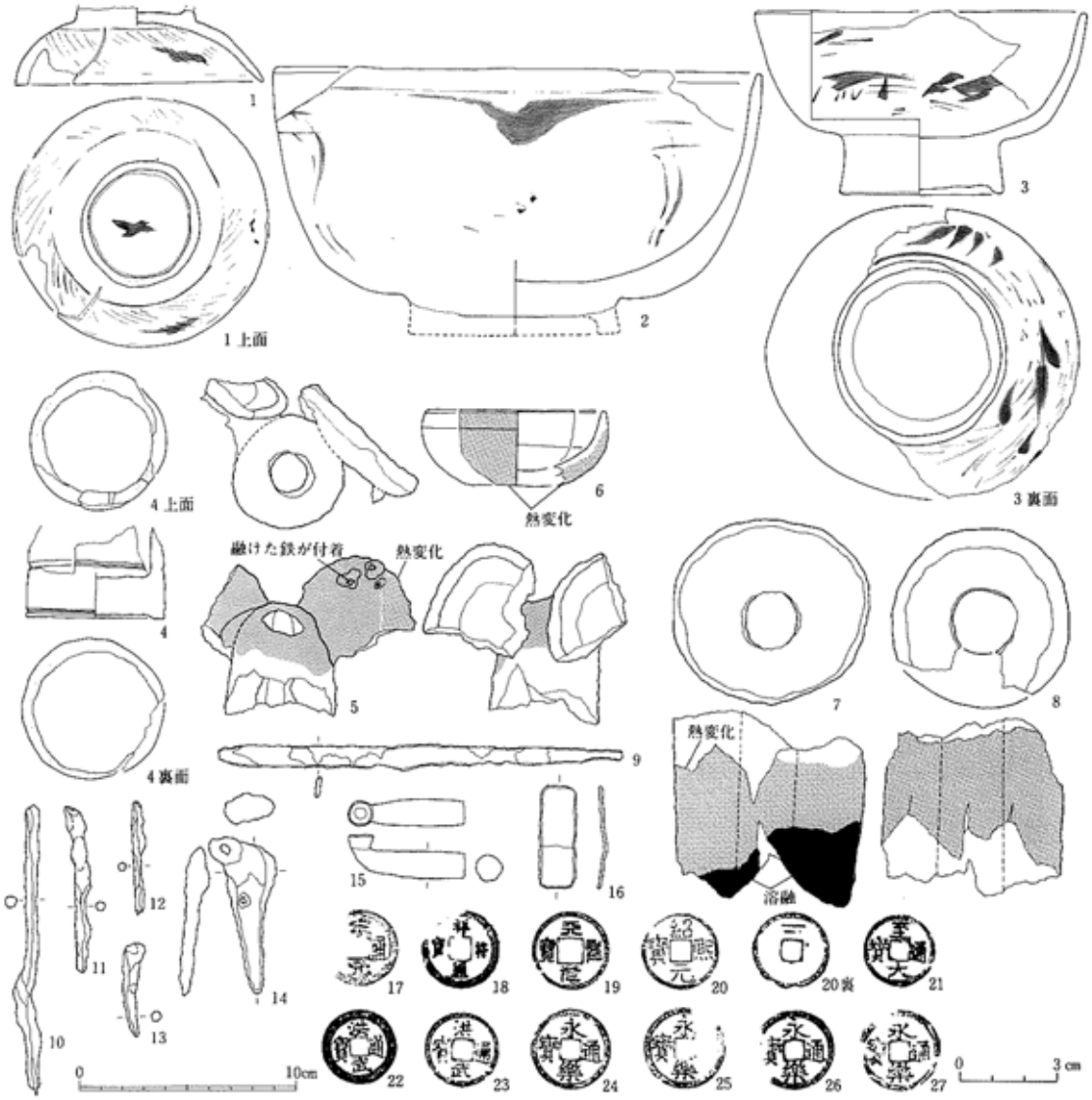




| No. | 種類 | 区 | 出土地点 | 長さcm | 幅 cm | 高さcm | 特徴 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 連歯下駄 | 22 | SB797 堆積土 | (21.5) | (8.0) | (4.0) | 右半部。前後欠、右台部欠損。 | 10－5 |
| 2 | 露卯下駄 | 19 | SX622 堆積土 | 20.6 | 8.8 | (2.3) | 台部のみ。つま先部→部欠損。 | 10－6 |
| No. | 種類 | 区 | 出土地点 | 長さcm | 幅 cm | | 特徴 | 写真図版 |
| 3 | 曲げ物・底板 | 20 | SX683 堆積土 | 21.8 | 15.1 | | 3本の竹が巡り、桜の皮で止められている。 | 11－5 |
| 4 | 〃 〃 | 〃 | SX685 堆積土 | 6.6 | 6.5 | | 外面に底板おさえの釘穴数か所。内面に補強のためか添付書。底板厚さ0.6cm。 | 11－4 |
| 5 | 曲げ物底板 | 7南 | SX739 堆積土 | 25.0 | | | 厚さ2.6cm。 | 11－6 |

第25図　木製品(2)　下駄・曲げ物

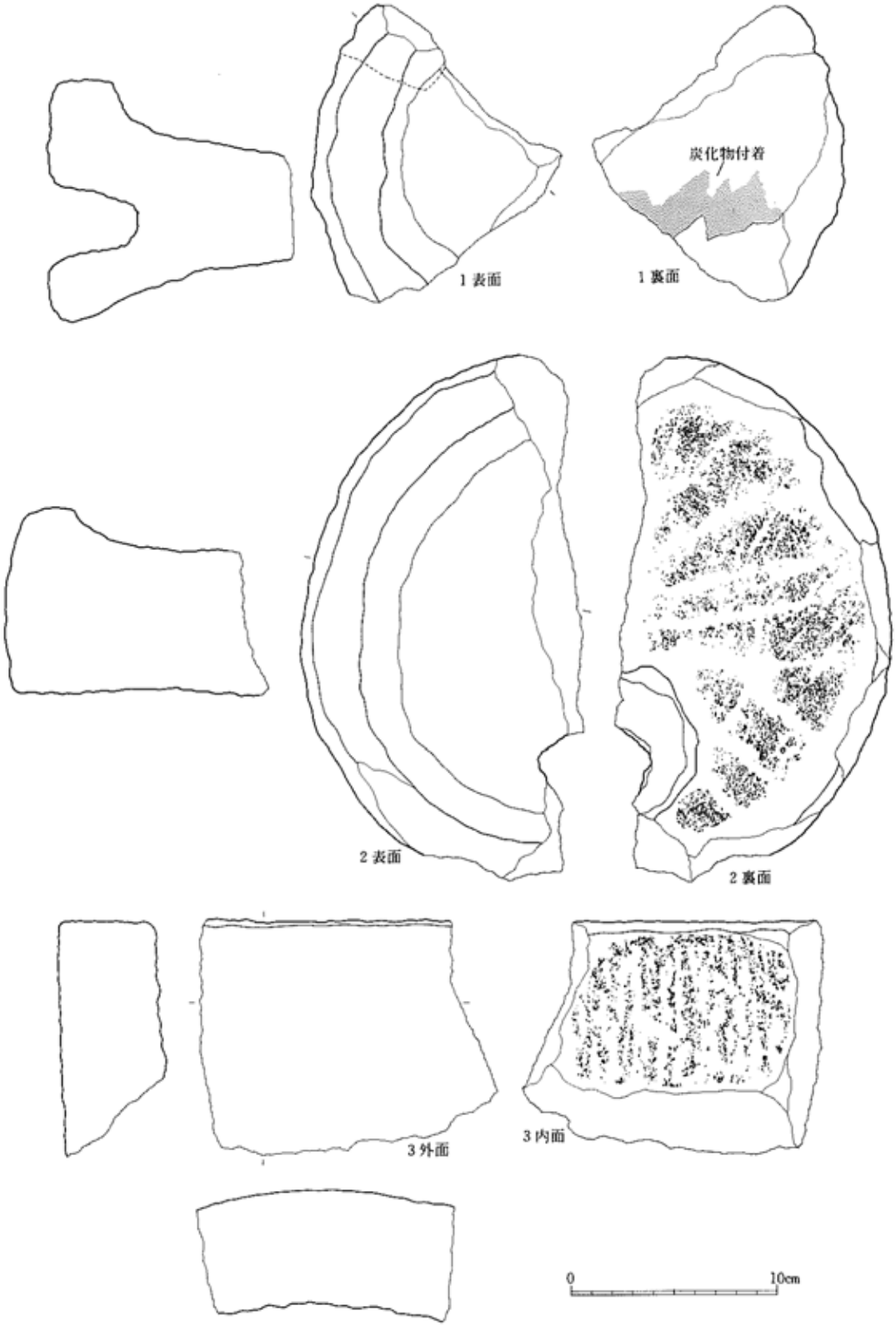



| No. | 種類 | 区 | 出土地点 | 口径cm | 高台径cm | 器高cm | 特徴 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 陶器 碗 | 7南 | SE719 堆積土 | 11.5 | 5.4 | (4.5) | 内面平、外面黒地で朱松葉。高台裏に朱で角。剥離激しい。 | 11－1 |
| 2 | 〃 椀 | 19 | SE611 堆積土 | 22.0 | (9.4) | (11.4) | 高台部欠損。内面平、外面黒地で朱で文様。外面の剥離激しい。 | 11－2 |
| 3 | 〃 〃 | 〃 | SD603 堆積土 | 15.0 | 7.6 | 8.5 | 内外面黒地で朱で文様。内面の剥離激しい。 | 11－3 |
| 4 | 〃 〃 | 〃 | SD608 堆積土 | | 6.4 | (4.3) | 底部。内面底部に褐色の墨付着。高台裏に黒漆付着。 | 11－4 |

| No. | 種類 | 区 | 出土地点 | 特徴 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|
| 5 | ライゴ・ルツボ | 7南 | SX755 | 34NO.羽口と鞴補強材に用いられていたNOの破片が取軸で接合したもの。NOの破片は同一個体。 | 9－22 |
| 6 | ルツボ？ | 〃 | 〃 | 口径8.2cm、底径4.0cm、器高3.5cm。 | 9－21 |
| 7 | ライゴの羽口 | 〃 | SX730 堆積土 | 一部炉軸。直径9.0cm、孔径2.6cm。 | 9－23 |
| 8 | 〃 | 〃 | SX780 堆積土 | 直径8.2cm、孔径3.0cm。 | 9－24 |
| 9 | 鉄製品 小刀 | 19 | 遺構確認面 | 残存長18.7cm、最大幅1.2cm、厚さ0.2cm。 | 14－1 |
| 10 | 〃 釘 | 7南 | SD735 堆積土 | 残存長13.4cm、径0.5cm、断面形円形。 | 14－2 |
| 11 | 〃 〃 | 〃 | SX778 堆積土 | 残存長 7.6cm、径0.4cm、断面形円形。 | 14－3 |
| 12 | 〃 〃 | 〃 | 〃 | 残存長 5.3cm、径0.3cm、断面形円形。 | 14－4 |
| 13 | 〃 〃 | 〃 | SE695 堆積土 | 残存長 4.3cm、径0.5cm、断面形不整円形。 | 14－5 |
| 14 | 〃 不明 | 〃 | 遺構確認面 | 残存長 7.3cm、最大幅2.7cm、厚さ0.5cm。 | 14－6 |
| 15 | 鉄製品 煙管 | 〃 | 〃 | 雁首。河骨形。残存長5.4cm、火皿径1.6cm、火皿高0.7cm、首部最大径1.2cm、補強鋲なし。 | 14－7 |
| 16 | 〃 クサビ | 〃 | 〃 | 長さ4.6cm、幅5.7cm、厚さ0.15cm。 | 14－8 |

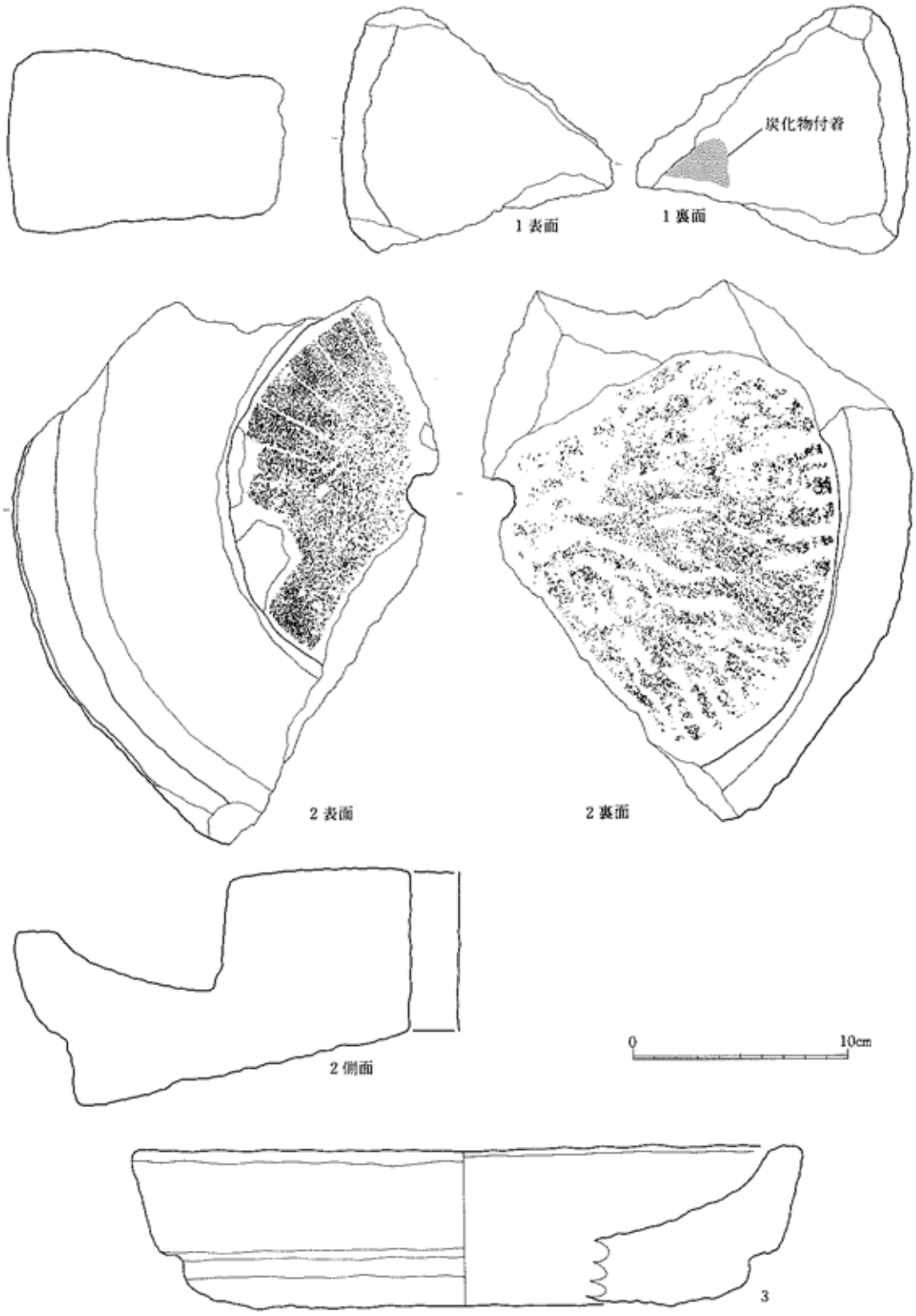
| No. | 銭貨 | 区 | 出土地点 | 外径cm | 穿径cm | 特徴 | 初鋳年 | 鋳造地 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 17 | 宋通元宝 | 7南 | Pit 埋土 | 2.40 | 0.65 | 中国北宋時代の渡来銭 | 建隆元／960年 | 中国 | 14－9 |
| 18 | 祥符通宝 | 19 | 遺構確認面 | 2.40 | 0.65 | 〃 | 大中祥符元／1009年 | 〃 | 14－10 |
| 19 | 天聖元宝 | 〃 | SD601 堆積土 | 2.40 | 0.70 | 〃 | 天聖元年／1023年 | 〃 | 14－11 |
| 20 | 紹熙元宝 | 7南 | Pit 埋土 | 2.40 | 0.60 | 中国南宋時代の渡来銭 | 紹熙元年／1190年 | 〃 | 14－12 |
| 21 | 至大通宝 | 19 | SD608 堆積土 | 2.25 | 0.50 | 中国元時代の渡来銭 | 至大3年／1310年 | 〃 | 14－13 |
| 22 | 洪武通宝 | 7南 | 遺構確認面 | 2.35 | 0.55 | 中国明時代の渡来銭 | 洪武元年／1368年 | 〃 | 14－14 |
| 23 | 〃 | 19 | 〃 | 2.30 | 0.60 | 〃 | 〃 | 〃 | 14－15 |
| 24 | 永楽通宝 | 〃 | SD608 堆積土 | 2.50 | 0.60 | 〃 | 永楽6年／1408年 | 〃 | 14－16 |
| 25 | 〃 | 〃 | 〃 | 2.50 | 0.55 | 〃 | 〃 | 〃 | 14－17 |
| 26 | 〃 | 〃 | SD629 堆積土 | 2.50 | 0.55 | 〃 | 〃 | 〃 | 14－18 |
| 27 | 〃 | 〃 | SD638 堆積土 | 2.50 | 0.55 | 〃 | 〃 | 〃 | 14－19 |

第26図　木製品・土製品・金属製品・古銭（S＝½）



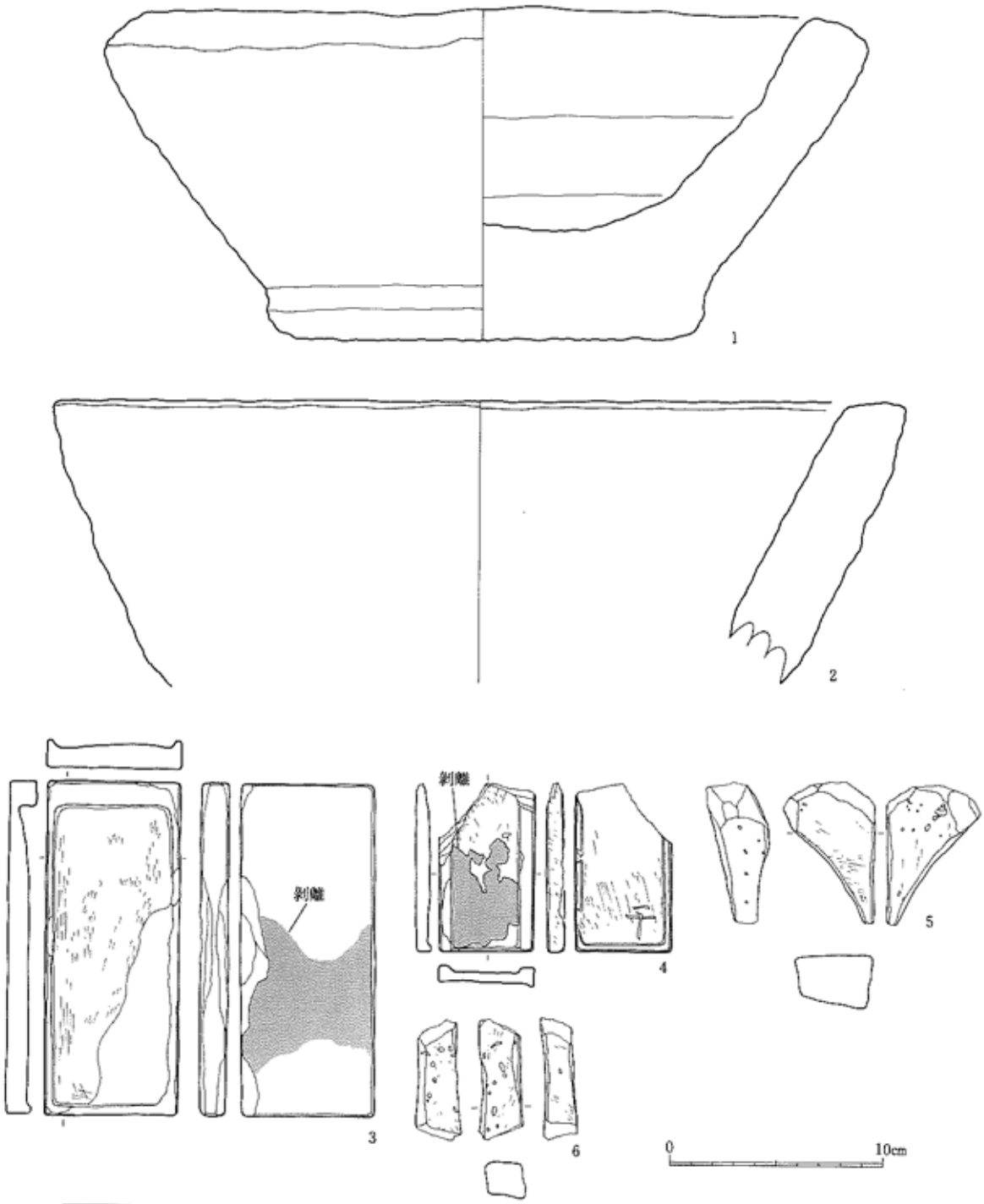

| No. | 種　類 | 区 | 出土地点 | 特　徴 | 石　材 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 石臼　上臼 | 19 | SD641 堆積土 | 高さ11.7cm、受け皿部深さ3.7cm。側面に把手取付け孔（1辺4.2cm、深さ4.4cm）。裏に炭化物付着。 | 安山岩 | 12－1 |
| 2 | 〃 | 22 | SD797 堆積土 | 高さ 9.2cm、受け皿部深さ2.0cm。表面には製作時の削り痕明瞭。 | 〃 | 12－2 |
| 3 | 〃 | 20 | SD677 堆積土 | 縁の部分。厚さ5.5cm。内面に製作時の削り痕明瞭。 | 〃 | 12－4 |

第27図　石製品(1)　石臼上臼




| No. | 種　類 | 区 | 出土地点 | 特　徴 | 石　材 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 石臼　上臼 | 7階 | SK728 堆積土 | 高さ 8.6cm、受け皿部深さ1.5cm。両面に製作時の削り痕明瞭。裏面に炭化物付着。 | 安山岩 | 12－3 |
| 2 | 石臼　下臼 | 〃 | 〃 | 高さ11.2cm、受け皿部深さ5.0cm。軸孔径2.3cm、深さ7.4cm。 | 〃 | 13－1 |
| 3 | 〃 | 19 | SE032 埋積土 | 高さ 7.3cm、受け皿部深さ4.0cm。 | 〃 | 13－2 |

第28図　石製品(2)　石臼上臼




| No. | 種類 | 区 | 出土地点 | 特徴 | 石材 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 石鉢 | 7南 | SD730 埋積土 | 口径15.5cm、底径9.0cm、高さ15.7cm。凸凹 激しい。 | 安山岩 | 13－3 |
| 2 | 〃 | 20 | SD677 埋積土 | 口径20.0。 | 〃 | 13－4 |
| 3 | 硯 | 21 | SK695 埋積土 | 長さ15.6cm、幅6.2cm、厚さ1.3cm。表面の線痕明瞭。長方硯。 | 粘板岩 | 13－5 |
| 4 | 〃 | 20 | 遺構確認面 | 残存長 7.9cm、幅4.5cm、厚さ0.9cm。裏面に「干」と刻まれている。線痕明瞭。長方硯。 | 〃 | 13－6 |
| 5 | 砥石 | 〃 | 〃 | 残存長 6.6cm、幅4.4cm、厚さ2.5cm。摩滅激しい。線痕明瞭。 | 頁岩 | 13－7 |
| 6 | 〃 | 19 | 〃 | 残存長 5.7cm、幅2.0cm、厚さ1.5cm。摩滅激しい。 | 粘板岩 | 13－8 |

第29図　石製品(3)　石鉢・硯・砥石

## 2. 古代

19 区・20 区で基本層位Ⅳ－3（灰白色火山灰層）上面から堀込まれた遺構と灰白色火山灰に覆われⅣ－4 を畦畔とする水田跡が確認された。

### 1. Ⅳ－3 層で確認された遺構（第 22 図・第 9 表）

溝 10 条、土壙 3 基、性格不明な遺構 2 基が確認された。これらは 19 区中央部と 20 区南端に集中している。溝、土壙とも最大幅 1m以下、深さ 10 ㎝前後の小規模なものがほとんどである。

| 遺構No. | 区 | 位 | 置 | 長さ(m) | 幅（m） | 深さ（m） | 方　向 | 堆積状況 | 重　　複 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SD 774 | 20 | #210～214 | S251 | 4.0 以上 | 0.8 | 0.1 | 東－西 | 自然堆積 | | |
| 775 | 〃 | #210～214 | S243 | 7.0 以上 | 1.0 | 0.15 | 〃 | 〃 | | |
| 817 | 19 | ＭＷ 96～ 92 | S96～107 | 9.0 | 1.0～1.8 | 0.25 | 南－北 | 〃 | SD822より新しく、SX816より古い | |
| 818 | 〃 | ＭＷ 90～ 96 | S113 | 6.0 以上 | 0.6～1.4 | 0.1 | 東－西 | 〃 | SX816より古い | |
| 822 | 〃 | ＭＷ 96～ 99 | S 99 | 3.0 以上 | 0.8 | 0.1 | 〃 | 〃 | SD817より古い | |
| 827 | 〃 | ＭＷ 92～ 96 | S150 | 4.0 以上 | 0.5～1.2 | 0.2 | 〃 | 〃 | | 2.5Y5/2暗灰黄色、粘土質シルト |
| 828 | 〃 | ＭＷ 93～ 99 | S169 | 6.0 以上 | 0.8 | 0.1 | 〃 | 〃 | | 5Y5/2灰オリーブ色、粘土質シルト |
| 829 | 〃 | ＭＷ 93～ 98 | S142 | 5.0 以上 | 0.3～0.8 | 0.1 | 〃 | 〃 | | 2.5Y5/3黄褐色、粘土質シルト |
| 830 | 〃 | ＭＷ 92～ 98 | S141 | 6.0 以上 | 0.4～0.8 | 0.2 | 〃 | 〃 | | 〃 |
| 853 | 20 | #208～215 | S234 | 6.0 以上 | 0.6 | 0.1 | 〃 | 〃 | SX849より新しく、SX852より古い | |
| **遺構No.** | **区** | **位** | **置** | **平面形態** | **長径（m）** | **短径（m）** | **深さ（m）** | **堆積状況** | **重　　複** | **備　　考** |
| SK 849 | 20 | #213 | S234 | 楕 円 形 | 0.8 | 0.64 | 0.25 | 自然堆積 | SD853より古い | |
| 850 | 〃 | #212 | S252 | 円　　形 | 0.7 | 0.65 | 0.2 | 〃 | | |
| 851 | 〃 | #219 | S251 | 〃 | 0.7 | 0.6 | 0.2 | 〃 | | |
| SX 816 | 19 | ＭＷ 92 | S115 | 不 整 形 | 6.0 | 3.0 以上 | 0.7 | 〃 | SD818より古い | |
| 852 | 20 | #215 | S230 | 〃 | 3.5 以上 | 2.0 | 0.25 | 〃 | SD853より新しい | |

第 9 表　Ⅳ－3 層で確認された遺構属性表

### 2. Ⅳ－4 層で確認された遺構

#### ◎水田跡（第 22 図・第 10 表～第 11 表）

19 区のＳ25～105、Ｓ190 付近、20 区のＳ60～110、Ｓ140～195 付近で灰白色火山灰に覆われた水田跡の畦畔を確認した。全体的に 19 区より 20 区の方が残存状況が良い。

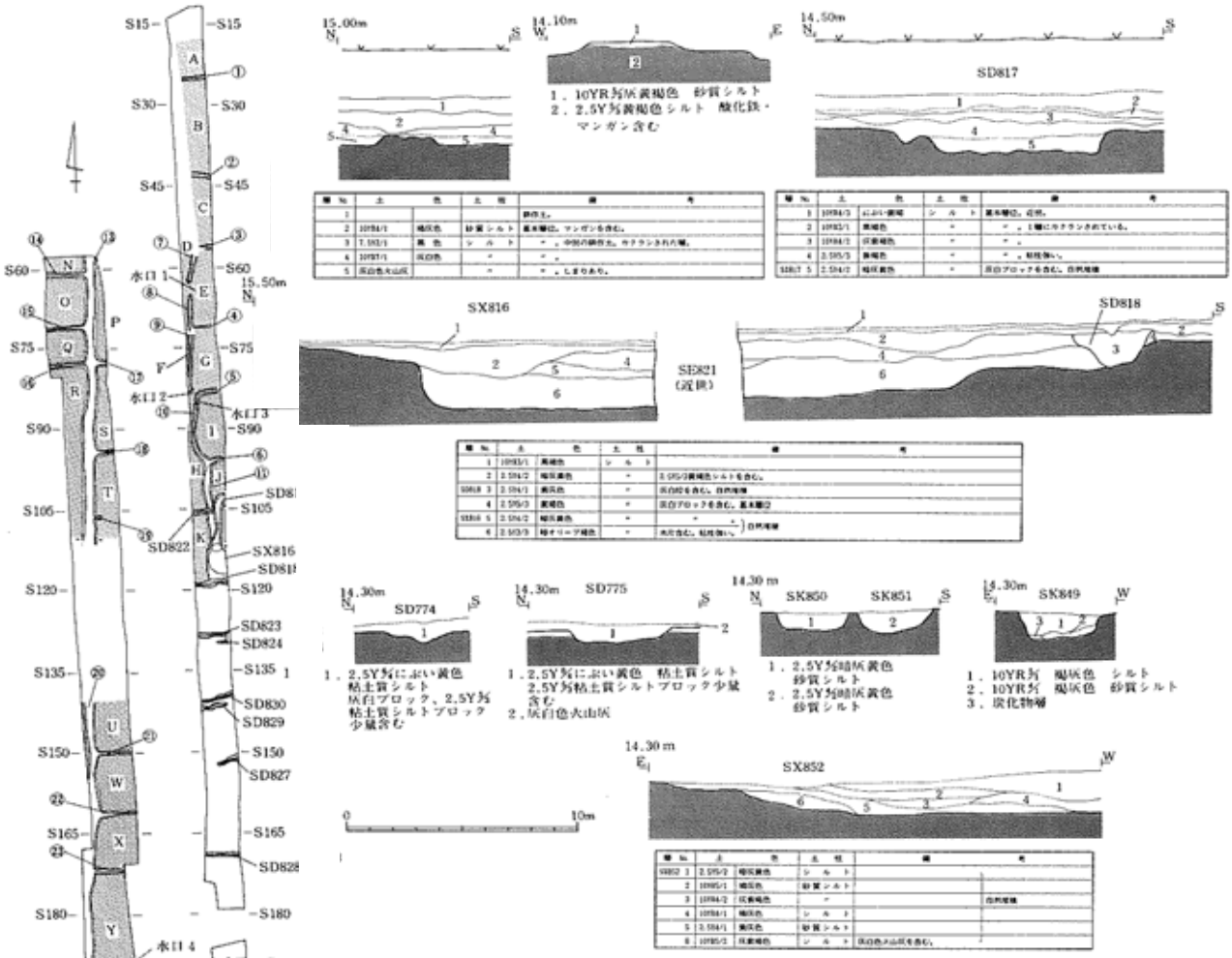
【畦畔】南北畦畔とそれにほぼ直交する東西畦畔が確認された。東西畦畔は 6～20m間隔で平行して認められる。これらは調査区の幅が狭いことや後世の遺構による破壊、削平により部分的に認められるものである。畦畔上面と水田面との比高は 19 区で 2～15㎝、20 区で 10～25 ㎝と 20 区の北側ほど畦畔の残りが良い。

畦畔は畦畔上幅で、幅 1.0m以上の大畦畔とそれ以下の小畦畔に分けられる。大畦畔は 19 区の南北畦畔No. 10 と本来一連のものであったと考えられる 20 区の南北畦畔No. 13･20 のみで、その他は小畦畔である。

【水田区画】水田は大畦畔による大区画を小畦畔で細分したものと考えられる。19 区で 13 区画（Ａ～Ｍ）、20 区で 14 区画（Ｎ～Ｚ）の計 27 区画が確認されたが、調査区の関係で小区画ごとの具体的な平面形や面積は不明である。

【水口】畦畔が途切れ水口と認められるものは、19 区の畦畔No. 7･8 の間（水口 1）、畦畔 9･10 の間（水口 2）、畦畔No. 5・10 の間（水口 3）20 区の畦畔No. 24・25 の間（水口 4）の 4 か所である。

【水田面の標高と傾斜】19 区では標高 13.25～13.56mで北側ほど高くなっている。一方、20 区では標高 13.78～13.90mとほぼ一定であるが、南北大畦畔 No. 13･20 を挟んで西側の区画が東側よりも 10 ㎝前後高くなる傾向がある。このことから 19 区では北側ほど標高が高く、20 区では西側ほど標高が高いことがわかる。




第22図　平安時代の遺構平面図・断面図

| 畦畔No. | 検出長（m） | 上　幅（m） | 方　　向 | 畦畔No. | 検出長（m） | 上　幅（m） | 方　　向 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 4.2 | 0.2 | 東－西 | 14 | 7.0 | 0.5 | 東－西 |
| 2 | 3.5 | 0.3 | 東－西 | 15 | 6.5 | 0.5 | 東－西 |
| 3 | 2.2 | 0.2 | 東－西 | 16 | 6.0 | 0.5 | 東－西 |
| 4 | 3.9 | 不　明 | 東－西 | 17 | 2.0 | 0.6 | 東－西 |
| 5 | 3.0 | 0.25 | 東－西 | 18 | 3.0 | 0.6 | 東－西 |
| 6 | 3.0 | 0.3 | 東－西 | 19 | 1.4 | 0.2 | 東－西 |
| 7 | 5.0 | 0.2～0.4 | 南－北 | 20 | 57.0 | 1.1～1.7 | 南－北 |
| 8 | 6.5 | 0.3 | 南－北 | 21 | 6.0 | 0.4 | 東－西 |
| 9 | 10.3 | 0.3 | 南－北 | 22 | 6.0 | 0.3～0.8 | 東－西 |
| 10 | 30.9 | 0.9 | 南－北 | 23 | 5.0 | 0.6 | 東－西 |
| 11 | 5.2 | 不　明 | 南－北 | 24 | 2.6 | 0.6 | 東－西 |
| 12 | 5.0 | 0.9 | 東－西 | 25 | 5.0 | 0.3～0.8 | 東－西 |
| 13 | 53.0 | 1.8～2.1 | 南－北 | | | | |

第10表　畦畔属性表

| 水田記号 | 規　模（m） | | 水田面の標高（m） | 水田記号 | 規　模（m） | | 水田面の標高（m） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 東　西 | 南　北 | | | 東　西 | 南　北 | |
| A | 4.2 以上 | 7.2以上 | 13.54 | N | 6.5 以上 | 3.0以上 | 13.83 |
| B | 4.2 以上 | 18.0 | 13.56 | O | 7.0 以上 | 9.0 | 13.85 |
| C | 3.2 以上 | 14.0 | 13.51 | P | 2.0 以上 | 20.0 | 13.78 |
| D | 1.2 以上 | 14.0 | 13.40 | Q | 6.6 以上 | 6.0 | 13.90 |
| E | 4.6 以上 | 13.0 | 13.41 | R | 6.0 以上 | 33.0以上 | 13.95 |
| F | 0.6 以上 | 8.5 | 13.40 | S | 3.0 以上 | 16.0 | 13.83 |
| G | 4.5 以上 | 10.4 | 13.44 | T | 4.0 以上 | 11.7 | 13.82 |
| H | 3.0 以上 | 22.0 | 13.43 | U | 6.2 以上 | 9.25以上 | 13.88 |
| I | 4.8 以上 | 11.2 | 13.46 | V | 8.6 以上 | 14.63以上 | 13.90 |
| J | 2.4 以上 | 8.0以上 | 13.41 | W | 6.4 以上 | 10.41以上 | 13.90 |
| K | 2.0 以上 | 13.0 | 13.38 | X | 6.4 以上 | 9.6 | 13.84 |
| L | 4.2 以上 | 3.0以上 | 13.25 | Y | 7.2 以上 | 20.6 | 13.85 |
| M | 4.2 以上 | 3.0以上 | 13.30 | Z | 8.0 以上 | 3.0以上 | 13.78 |

第11表　水田区画属性表

# 第四章　考　　察

今回の調査で、平安時代、中近世の遺構が確認された。ここでは時代ごとに遺構の性格、遺物の年代について考察する。

## Ⅰ　古代

### 1．Ⅳ－3 層で確認された遺構

溝 10 条、土壙 3 基、性格が不明な遺構 2 基が確認された。いずれも小規模なもので、19 区中央部、20 区南端に集中している。溝はほとんどが東西溝で、ほぼ平行している。区画溝の可能性もあるが、詳細は不明である。土壙はいずれも平面形が直径 80 ㎝前後の円形、深さ 10 ㎝程度のもので、出土遺物もないことから性格は不明である。遺構の時期は、10 世紀前半に降下した灰白色火山灰層であるⅣ－3 層よりも新しく、近世より古いことは明かであるが、具体的な年代は不明である。なお、同層で灰白色火山灰降下以降の平安時代と考えられる竪穴住居跡（17 区ＳＩ447）が確認されていることからことから、その頃に年代を求められる可能性もある。

### 2．Ⅳ－4 層で確認された遺構

**◎水田跡**

調査区の制限もあり部分的にしかわからないが、水田区画は大畦畔による大区画を小畦畔で細分したものと考えられる。区画の平面形は畦畔の検出状況から方形と予想される。また、小畦畔は 6～20 m間隔で不規則に認められることからさまざまな大きさの区画が存在したものと思われる。

水利施設としては、畦畔が途切れ水口と考えられるものが 4 か所確認されたに過ぎず、取水溝、排水溝は確認されなかった。しかし、水田面の標高から 19 区では北から南へ 20 区では西から東へ流水したと考えられることから、付近に取水溝、排水溝の存在が予想される。

水田の範囲は、東は 19 区、西は断面観察で 7 区南W300 付近、南は 19･20 区のＳ200 付近、北は 19 区北端Ｓ15 付近まで広がっていることがわかった。東限は 4 区方向、西限は竹林川付近まで広がって行くことが予想されるが、北は昨年 17･18 区では確認できなかったことからＳ15 付近が北限と考えられる。南限は不明である。

水田が営まれた時期は、水田が 10 世紀前半に降下した灰白色火山灰層に直接覆われ、間層が認められないことから灰白色火山灰降下直前まで機能し、その後廃絶したものと考えられ、下限は押えられる。上限は具体的には不明だが、昨年度、17 区で水田跡と同層でＳＸ455 遺物包含層やＳＸ456 焼け面跡が確認され、9 世紀前半の遺物が出土していることから、その頃に求められるかもしれない。

また、この水田を営んでいた人々の集落跡は確認されていないが、昨年度、17 区で前述したＳＸ455 やＳＸ456 が確認されていることや、地形が北側ほど高いことから 17 区以北に集落跡が存在している可能性がある。

## Ⅱ　中近世

### 1．遺構

今回、確認された遺構は第１表～第８表の通りである。以下、遺構ごとに考察する。

**①掘立柱建物跡**

23 区以外の調査区で合計 46 棟確認された。調査区の幅が広い 7 区南･20 区北側で建物の全容が分かったが、その他は調査区の幅が狭く、全容が分かるものは少なかった。これらの建物には、新旧関係は不明だが 7 区南の北側・20 区北側で明かになったように、最低 4 時期の変遷が認められた。

建物の方向は区ごとでまとまる傾向にある。19・20 区で 5 度前後真北から西に偏し、21 区では真北、22 区ではほぼ北東－南西方向である。これらはいずれも近接する溝跡と柱筋を揃えている。建物の規模は、7 区南のＳＢ786・789 のように大規模なものも認められるが、ほとんどが桁行が 3～4 間、梁行 1 間の長方形を呈する単純なもので、それに廂が付くもの、張り出すものが少数ある。

また、21 区ＳＢ857 に抜き取り穴が認められた。ＳＢ857 の東に位置するＳＢ768 にも小さな抜き取り穴がみられる。これまで本遺跡で抜き取り穴が確認されたのは、21 区のほかに 10 区西側に位置する整地Ｃ区（須田：1992）の建物跡に部分的に認められただけであり、ＳＢ857 のようにすべての柱穴を大掛かりに抜いたものは初めて確認された。

**②柱穴列跡**

14 列確認され、19 区で比較的多く認められた。このなかには建物跡の一部であるものも含まれている可能性がある。いずれの柱穴列跡も近接する溝や建物跡と方向を同じにすることから、ほぼ同時期に存在していたものと考えられるが、具体的な組合せは明確にできなかった。

**③井戸跡**

35 基確認された。各区で確認されているが 19 区で約半数を占めている。井戸の構造はこれまで本遺跡で確認されたものはすべて素掘りであったが、今回初めて井戸枠をもつ井戸が確認された（20 区、ＳＥ683）。ＳＥ683 の構造は、掘り方内に 4 本の支柱を立て、それに上下 2 段の横桟を渡した単純なものであるが、添板を用いず、代わりに直径 7～8 ㎜の葦の茎を密に立て掛けているのが特徴的である。その他の井戸はこれまで確認されたものと特徴が同じで、(1) 建物跡や柱穴が集中しているところにまとまって分布する傾向にあること、(2) 井戸の規模は直径 1.5～2.5mの円形を基調としたものがほとんどで、その他に 3m以上のもの、1m以下のものも少数見られること、(3) 断面形はロート状のものが多く、筒状のものも少数見られること、(4) 人為的に埋め戻されているものが多いこと、などがあげられる。遺物は、ＳＥ683 からほぼ完形の曲げ物が出土しているほかは全体的に少ない。

**④溝跡**

108 条と多数確認され、7 区南・19 区で全体の 8 割を占める。溝は幅 8m以上の大溝、2～3m前後の中規模な溝、1m未満の小溝に大別される。本遺跡の溝の性格は、主に区画施設、道路側溝、取水・排水施設で、なかには複数の性格をもつものもあると考えられている（天野：1993）。しかし、今回は調査区の幅が狭く、全体像が見えてこないため、性格が分かるものは少ない。

大溝にはＳＤ256・653・766・794～796・838 がある。いずれも竹林川からの取水溝と考えられるが、

さらに竹林川から城内（外堀）への取水溝（ＳＤ252・766・794～796）と、竹林川から遺跡の東側・南側（城下町）への放水路（ＳＤ653・838）に細分できる。

ＳＤ252は昨年度の調査で外堀ＳＤ146に連絡していることが明かになったが、その延長が確認された。ＳＤ766は、調査区の関係で全容は不明であるが、明かに外堀ＳＤ146と連絡するものであり、溝の方向からＳＤ794～796と一連の溝である可能性が高く、さらに西へ延び竹林川と連絡していると予想される。これらの溝跡は遺跡の地形が西高東低であることから、主に城内への取水溝であったと思われる。

ＳＤ653とＳＤ838は新旧関係が認められず、同時期に機能していたものである。ＳＤ838は、全容は不明だが、西へ(6区方向)延びて竹林川に連絡すると予想されること、ＳＤ635が19区以東まで延びていること、西高東低の地形であることから、竹林川から取水しＳＤ838→635を経て下流である遺跡の東側、南側への放水路として機能していたと考えられる。また、詳細は不明であるが、ＳＤ653は、これまでの調査で区画溝と予想された溝跡と直交、平行していることから城下町を大きく区画する溝の可能性もある。

中・小溝は多数確認された。まず、区画施設、排水溝と考えられるものは7区南のＳＤ735・777である。7区南で確認された建物跡は、ＳＤ735と新旧関係が認められるものもあるが、基本的にＳＤ735・777と柱筋を揃える建物であることから、区画溝の性格をも有していたと考えられる。また、ＳＤ735は調査区西端では幅55㎝、深さ25㎝であるが、W280付近で幅100㎝、深さ60㎝、W270付近で幅200㎝、深さ90㎝と東進するほど幅、深さを増していく。W264付近で連絡するＳＤ777も幅230㎝、深さ150㎝とさらに幅、深さを増し北東へ延びる。252付近でＳＤ766に切られるが本来は外堀方向に延びていたと考えられる。両溝の底面のレベルから水は西→南東→北東と流れ、外堀と連絡していたことは明かであるが、ＳＤ735は調査区西端では規模が小さく、竹林川から外堀への取水溝とは考えにくいことから、区画した生活域の排水溝として機能していたと考えられる。

道路側溝の可能性があるものは19区北端～Ｓ200付近まで断続的に続く一連の南北溝跡である。本遺跡では、昨年度14区で道路跡ＳＸ359が確認され、古い道路跡ＳＸ359Ａと新しい道路跡ＳＸ359Ｂに伴う側溝の特徴が明かになっている。

Ｓ70～150付近の（北から）ＳＤ646・648・605・608・625・680・631は断続的に認められる一連の溝である。これらの溝は部分的に途切れており取水・排水溝としては機能しないこと、ほぼ同位置で作り替えが見られるものがあること、全部または一部埋め戻される傾向にあること、各々の側溝が短く、深いことなど古い段階の道路側購の特徴をもつ。一方、Ｓ15～96付近の（新しいほうから）ＳＤ602・601・603・643・666は、ほぼ同位置で作り替えが見られるものがあること、掘り方が浅く、堆積土は自然堆積であることなど新しい段階の道路側溝の特徴をもっている。これは19区における切り合い関係と矛盾しない。以上のことから一連の溝跡が道路側溝の特徴をもつことが分かったが、全容が不明であるため可能性を指摘するに留めたい。

また、道路跡ＳＸ359は区画施設の性格をもっていたが、これらの溝はＳＸ359と直交すること、南北溝と直交する溝も確認されていることから区画溝である可能性もある。

**⑥焼け面跡**

焼け面跡は7基確認された。7区南の整地層上面に集中している。焼け面はいずれも掘り方をもたず、整地層上面が熱で硬化赤色化したものであり、最上層に薄く炭化物が広がっているものもある。平面形は楕円形を呈するものが多く、規模は長径40～140㎝、短形30～80㎝と一定していない。熱が伝わった深さも1～20㎝とバラツキがある。これらの周辺には多数の柱穴が認められるが、焼け面跡に伴う施設などは確認できなかった。今回集中して確認された焼け面跡は、具体的な関係は明かではないが、近接する土壙ＳＫ780から鞴の羽口が出土していることや、昨年度の7区の調査で鍛冶遺構ＳＸ549やこれに関連する焼け面跡が確認されていることから、鍛冶に伴う可能性が高いと思われる。

**⑦炭化物集中遺構**

2基確認された。いずれも浅い掘り方に炭化物が密に堆積していたものである。平面形は楕円形で、規模は長径70～90㎝、短径40～55㎝でほぼ同じである。ＳＸ779は、詳細は不明だが、前記した焼け面跡、鍛冶遺構と近接して確認されていることから鍛冶に伴う可能性が高いと思われる。ＳＸ818は周辺に炭化物集中遺構に伴う施設や、出土遺物がないため性格は不明である。

今回確認された遺構を区ごとにまとめると次のようになる。

7区南は昨年度に引き続き多数の遺構が確認された。昨年度確認された整地層ＳＸ466の続きは、後世の削平のためか全域では確認されず、調査区北側で半円形にわずかに認められたに過ぎない。整地層上面ではＳＫ780 などの遺構が確認されている。整地層が認められない区域で確認された遺構と整地層との関係は不要であるが、昨年度は整地層の下層では遺構が確認されていないことから、今回確認された遺構は整地層より新しいものである可能性が高いと思われる。遺構の内容も昨年度と類似しており、建物跡、井戸跡、区画溝が確認されるとともに、鍛冶遺構に関連すると思われる遺構も集中して認められ、城下町の当時の生活の一端が明かになった。

19区は北端～Ｓ70付近が溝跡、Ｓ70～180が溝跡・建物跡・井戸跡、Ｓ180以南は遺構の分布が稀薄であるというように、区域によって遺構の内容、密度が異なっている。南北に延びる一連の溝跡が新旧 2 時期の道路側溝であるとともに、これが調査区中央の生活域を区画する性格も有する可能性が示された。しかし、調査区の幅が狭く、全容を明かにすることはできなかった。

20区は調査区北側、中央の2か所に建物跡、井戸跡などが確認され、Ｓ180以南は、19区と同様に、遺構の分布が稀薄な区域となっている。北側の建物跡はほぼ同位置で4時期の変遷が認められた。また、中央付近では本遺跡で初めて井戸枠付きの井戸跡ＳＥ683が確認された。その他、建物跡や柱穴が確認されたが、全容が不明なものが多い。

21・22区は、22区で外堀と連絡すると思われる大溝ＳＤ794～796が確認されたほかは遺構の分布が稀薄な区域である。

23区は北目用水と重複して大溝ＳＤ653とこれに連絡するＳＤ838が確認され、竹林川から遺跡東側南側へ放水していたことが明かとなったほか、ＳＤ653 が城下町を大きく区画する溝である可能性も指摘された。

## 2．遺物

今回の調査では陶磁器、木製品、鉄製品、銅製品、古銭、石製品、動物遺体が出土した。調査面積や遺構数の割りに遺物量は少ない。また、年代が分かる遺物も少数である。

陶磁器には無釉陶器、施釉陶器、染付磁器、青磁がある。瀬戸産の施釉陶器は16世紀末～17世紀初頭、肥前産の染付皿は17世紀初頭に位置づけられる。その他、表土出土のものであるが、肥前産の染付碗は18世紀、染付皿は19世紀、大堀相馬産の施釉陶器は18世紀末～19世紀初頭に位置づけられる。

古銭は宗通元宝、祥符通宝、天聖元宝、紹熙元宝、至大通宝、洪武通宝、永楽通宝がある。いずれも中世に中国から輸入されたものである。洪武通宝、永楽通宝以外は初めて確認されたものである。

その他の遺物は具体的な年代は不明であるが、下草古城の時代である 17 世紀初頭を中心とした遺構から出土していることから、年代もおおまかにその頃に求められよう。

## 3．推定される遺跡の構造と年代

今回で遺跡南西部の調査が終了した。これまでの調査結果と合わせ主に遺跡南西部の構造を見てみると、遺構の分布から20区付近を境に様相が変わっていることが分かる。20区以西は7区南で集中して遺構が確認された以外は遺構の分布が稀薄であり、竹林川から城内、城下町へ水を取り入れる大溝が認められる程度である。

一方、4・5区から20区に狭まれる区域は13・14区まで多数の遺構が確認されている。具体的な区画は不明なものの、道路や溝によって整然と区割りされ、いくつかのブロックに分かれて建物が建っていたことが伺える。遺構は最低4時期の変遷が明かになっていることから、比較的長い期間に渡って町並が存続していたものと推定される。また、周辺の8・9・16区にはこのように遺構が密集した区域や、生活域を区画する溝跡などが確認されていないことから、主に4・5区から20区の区域に町並みが存在していたものと思われる。なお、詳細は不明であるが、大溝ＳＤ653 は城下町を大きく区画する溝である可能性もある。

遺構の年代については16～17 世紀の陶磁器、17 世紀初頭の下駄、伊達家の家紋である「三引両」が描かれた漆器が出土していることから17世紀初頭を中心とするものと思われるが、今年度も遺構の存続期間を明確に示せる資料は得られなかった。しかし、これまでも指摘されてきたが、前述したように本遺跡で確認された遺構は最低４時期の変遷を示していることから、文献で示された宗清居城の数年間に残されたものではなく、それ以前にも町並みが存在していたと考えられる。

# 第五章　まとめ

1. 中近世の遺構のほか、平安時代の遺構が少数確認された。
2. 平安時代の水田跡が 7 区南から 19 区にかけて広がっていることが分かった。
3. 城下町は 20 区付近を境に様子が変わる。4・5～20 区の区域に町並みが見られ、道路や区画溝によって区割りされている可能性が高い。しかし、区割りの基準などは明確にできなかった。一方、20 区以西は 7 区南で遺構が集中して確認されたほかは遺構の分布が稀薄で、城内、城下町に水を取り入れる大溝が確認されたに過ぎない。
4. 遺構の年代はこれまでの出土遺物から 17 世紀初頭を中心とするものと考えられる。しかし、遺構は数時期の変遷を示していることから、文献で示されているように宗清が居城した数年間に残されたものではないことは明白であり、それ以前にも町並みが存在していたと考えられる。

## 引用・参考文献


天野　順陽（1994）：「下草古城跡」宮城県文化財調査報告書 160 集

遠藤巌・伊藤信ほか（1975）：『大和町史』上巻

佐野　養吉（1980）：「黒川氏の史實」『仙臺郷土研究 5』P641～646、仙台郷土研究会

須田　良平（1992）：「下草古城跡」宮城県文化財調査報告書 146 集

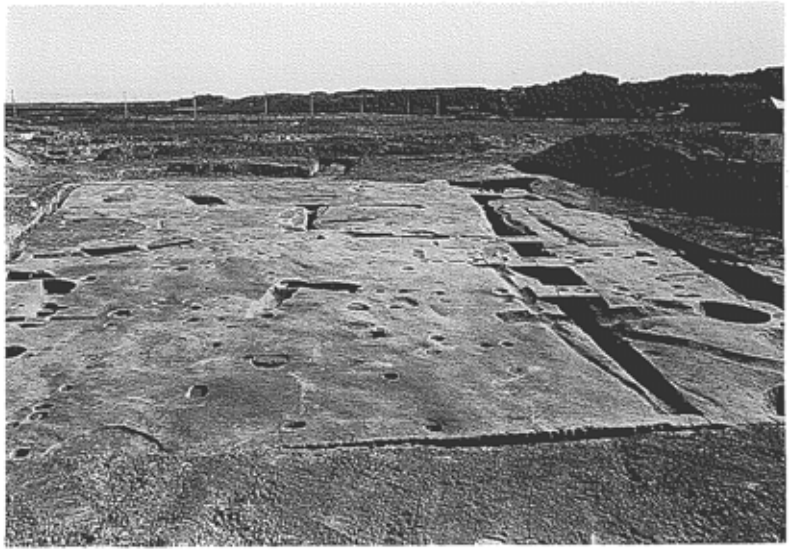
須田　良平（1993）：「下草古城跡」宮城県文化財調査報告書 154 集

平　　重道（1973）：「伊達治家記録二」、宝文堂

永井久美男（1994）：「中世の出土銭－出土銭の調査と分類－」、兵庫埋蔵銭調査会

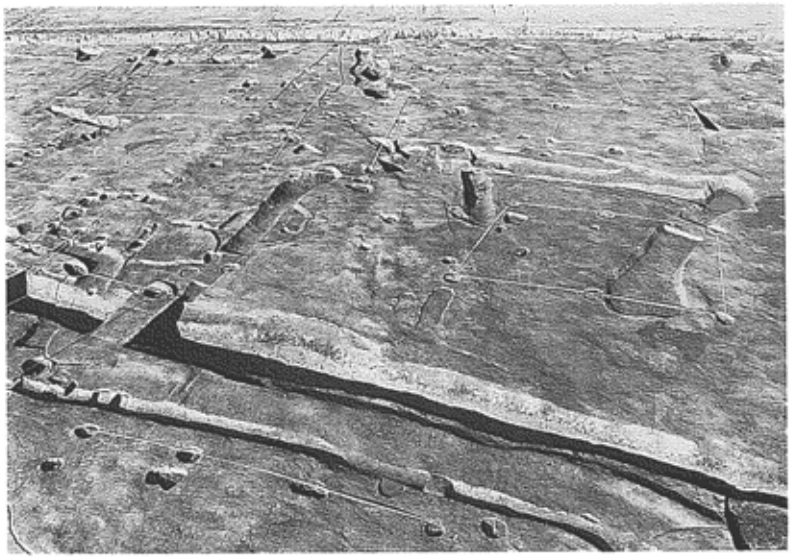
渡辺信夫・大藤修ほか（1977）：『大和町史』下巻

# 写　真　図　版



7 区南の全景（西から）

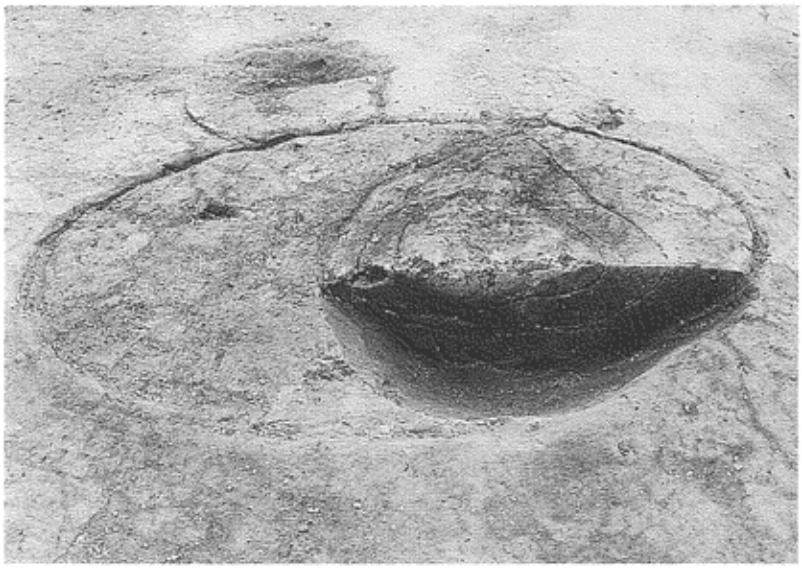
7 区南の西側（南東から）



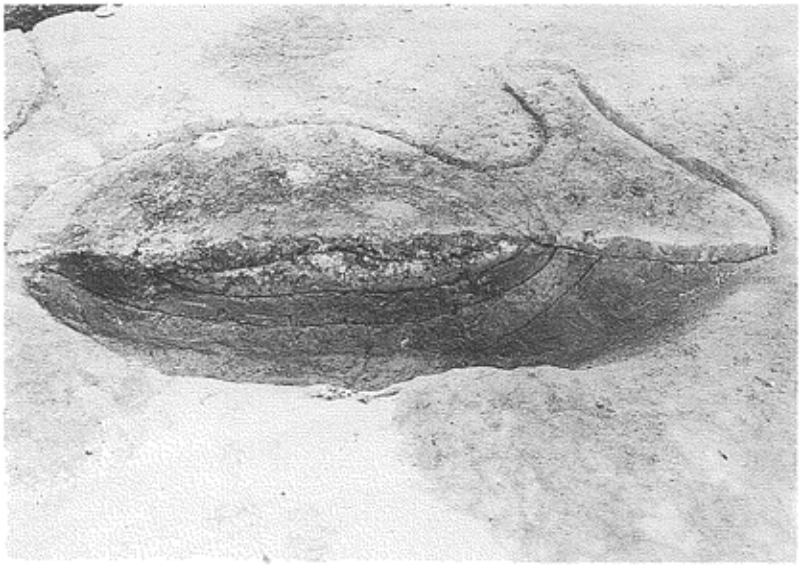
7 区南の中央部（南から）

写真図版 1

7 区南　SD735・777、766

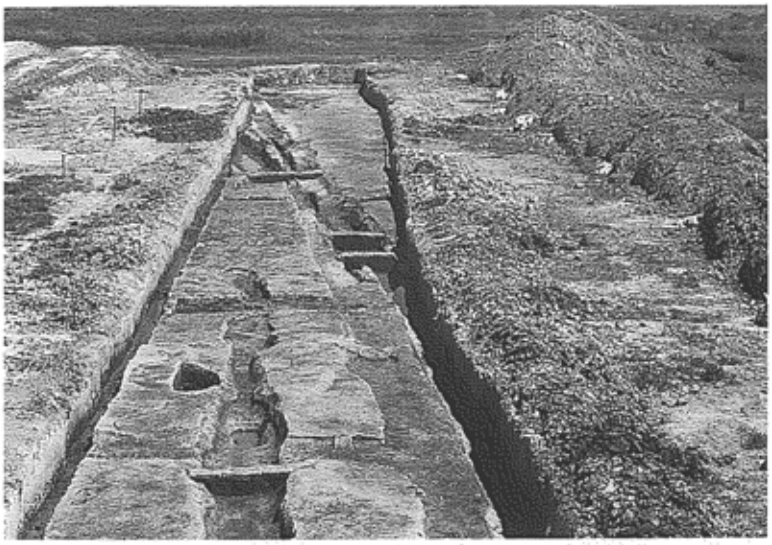


7 区南　SX755



7 区南　SX756

写真図版 2



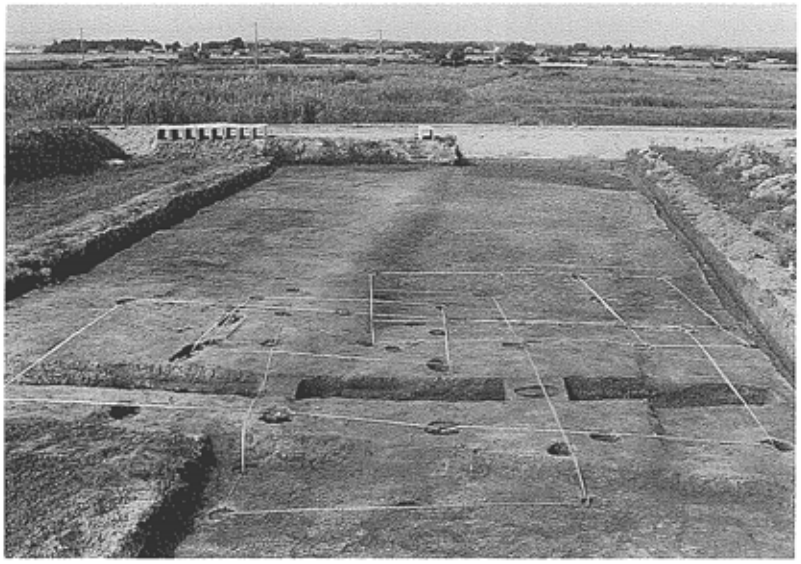
19区北側（南から）

19区中央部（北から）

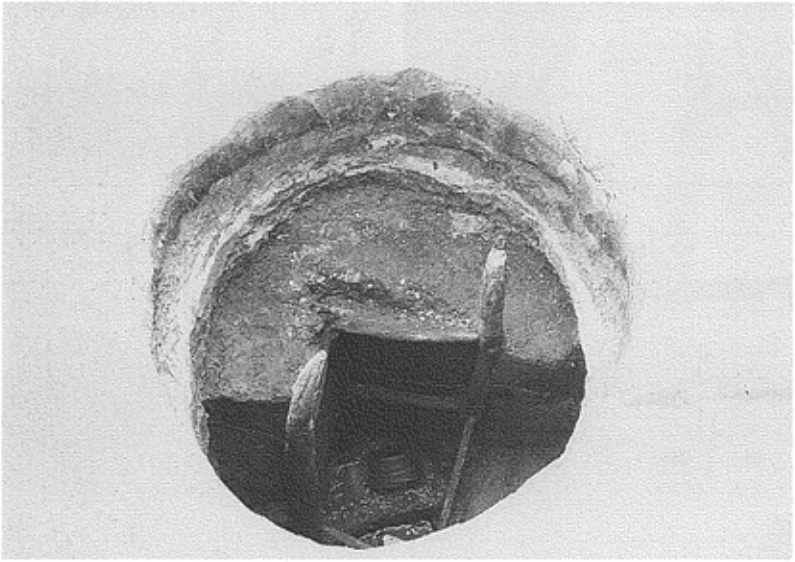
基本層序19区南

19区南側（南から）

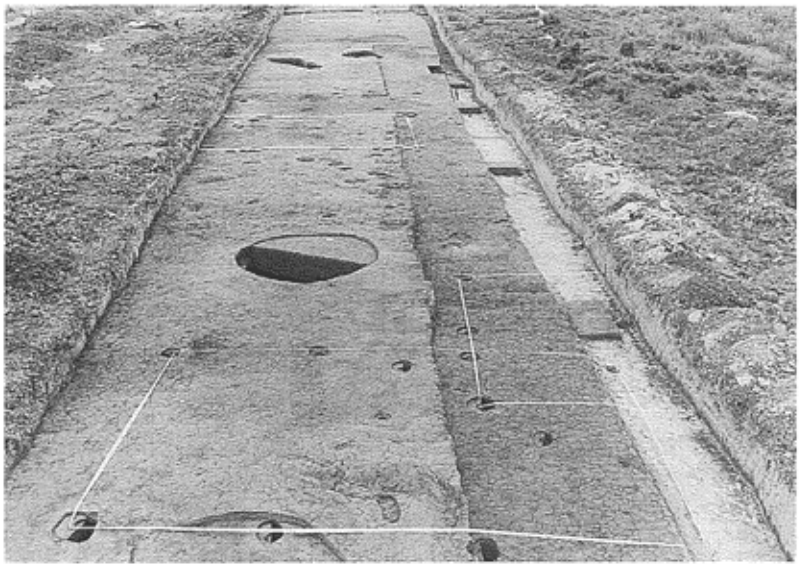
写真図版 3



20区　北側の建物群（南から）



20区　SE683



20区　中央部（南から）
写真図版 4

20区・21区全景（東から）

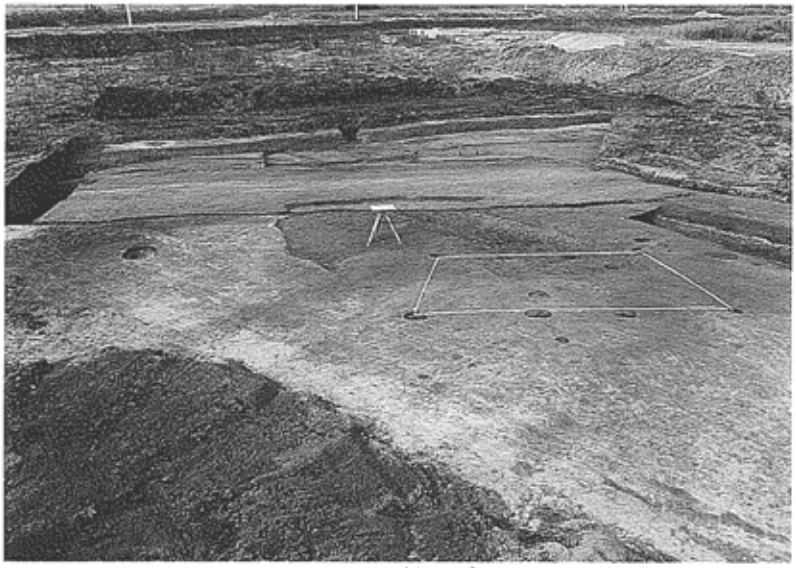
20区南側（南西から）

21区全景（東から）

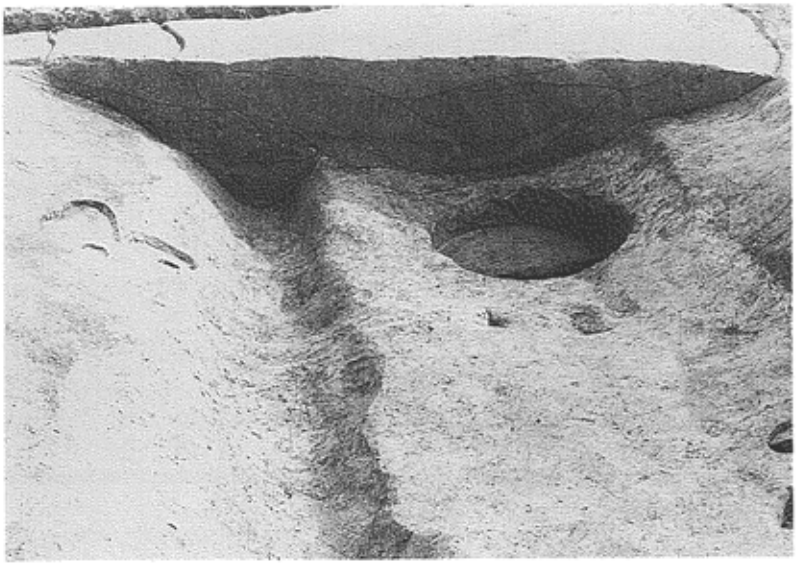
写真図版 5

22区　高まり部分（南東から）

22区　（北東から）

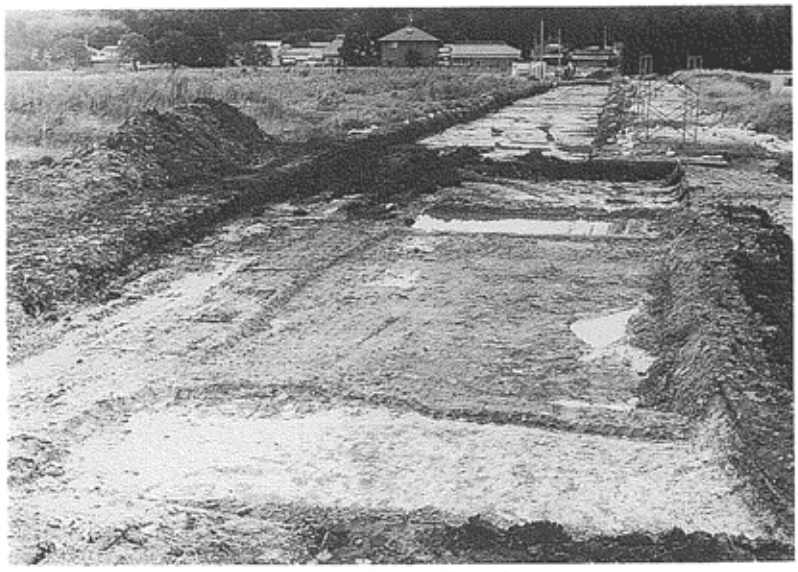


22区（南から）
写真図版６



22区　SD799・800、SE801

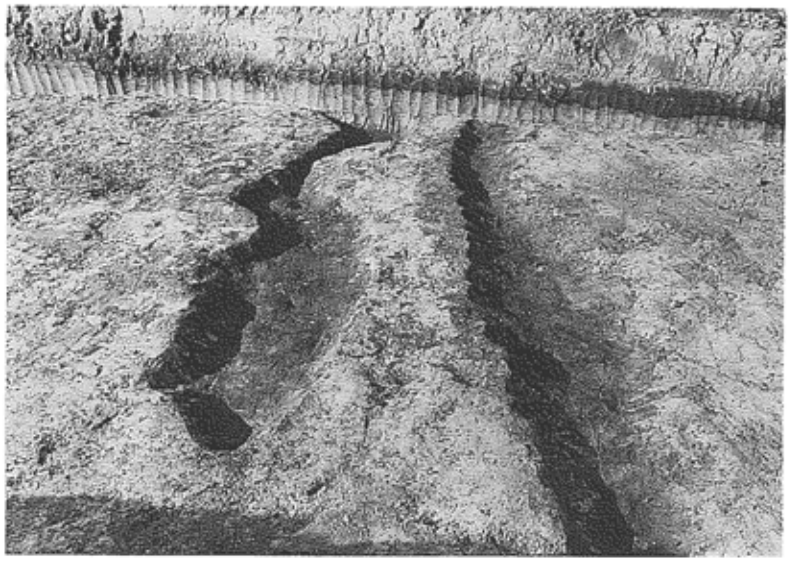
19区～23区　北目用水沿いの土手状の高まり（東から）



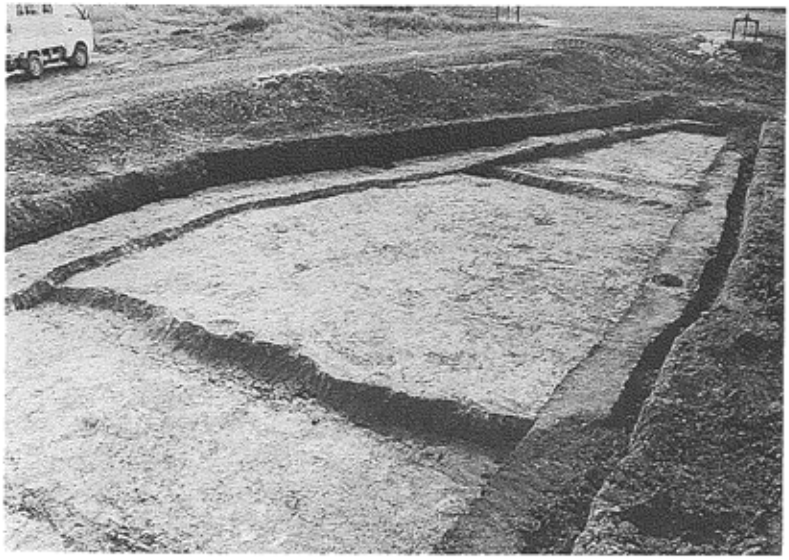
20区　水田跡（北から）

写真図版７

20区　水田跡（南から）

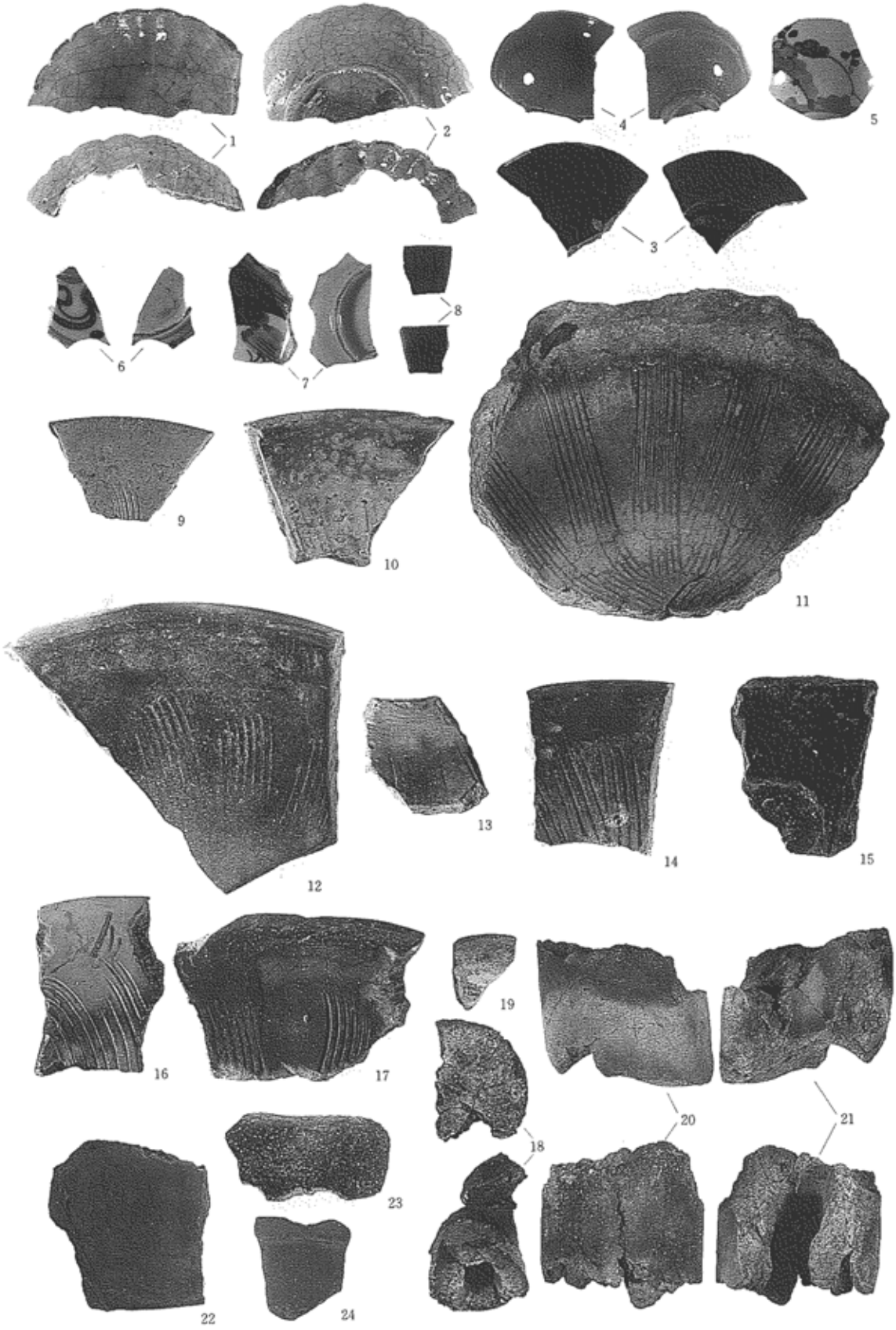


19区　SD829・830（平安時代）

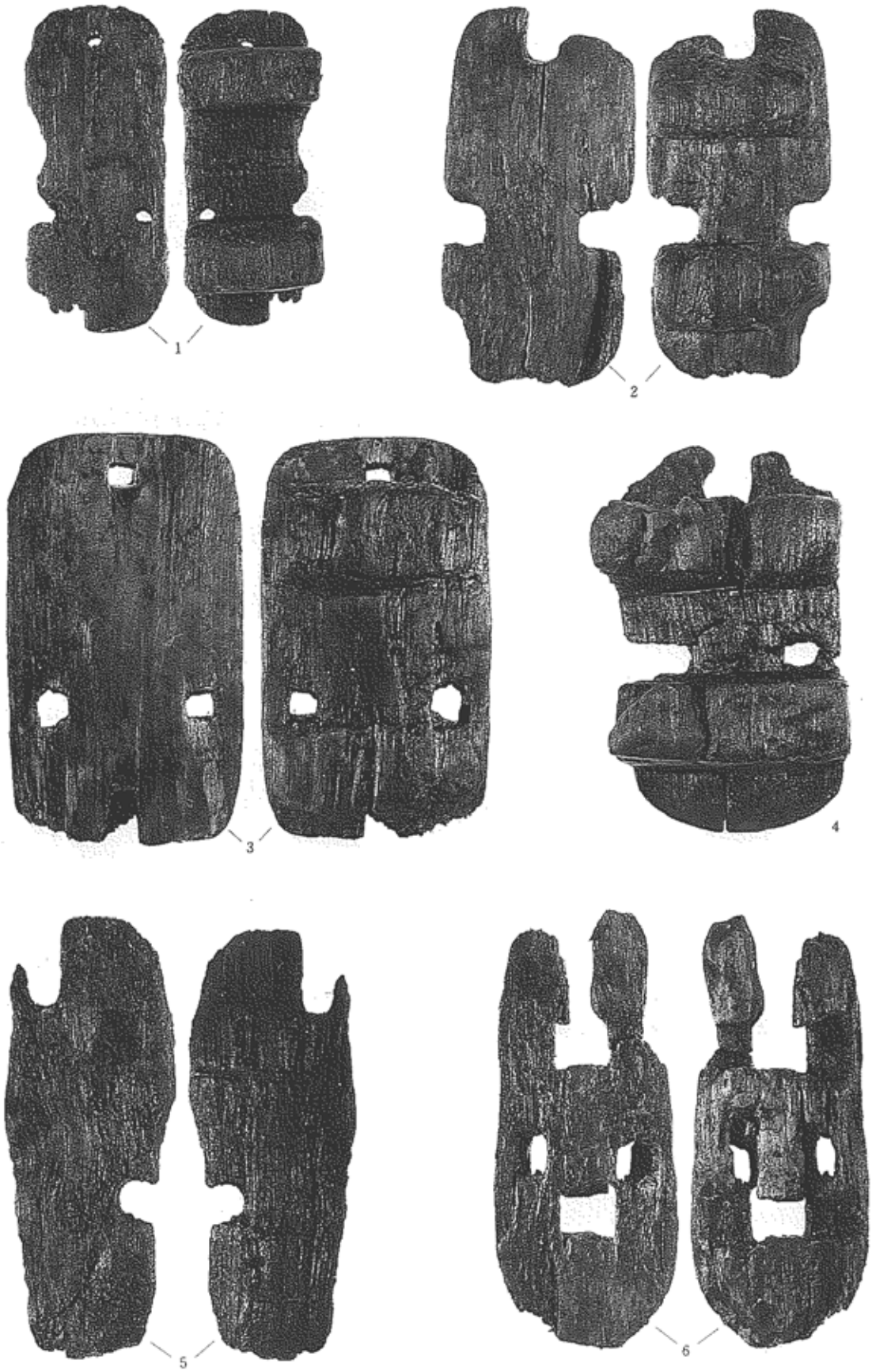


20区　SD774・775（平安時代）

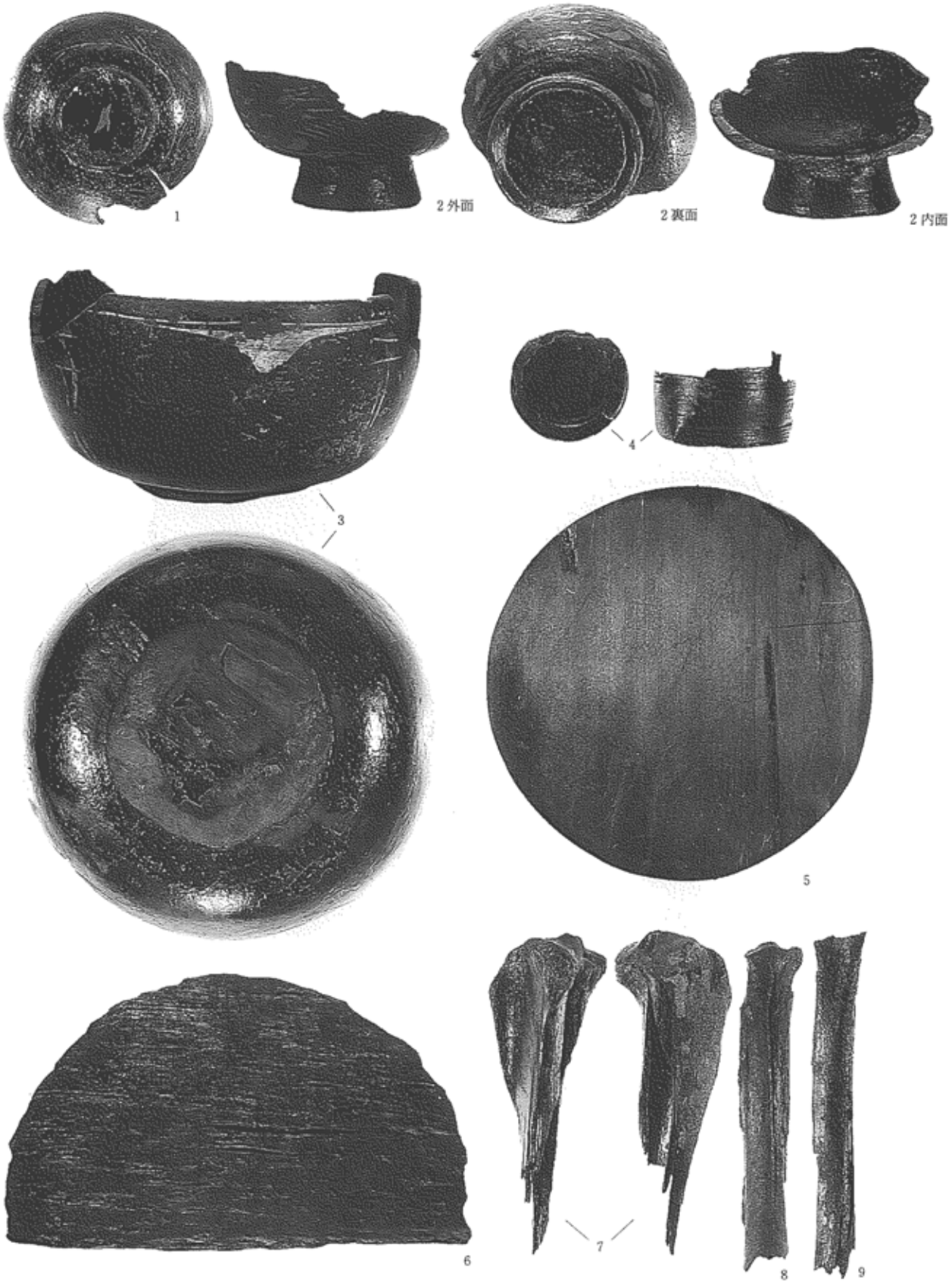
写真図版8



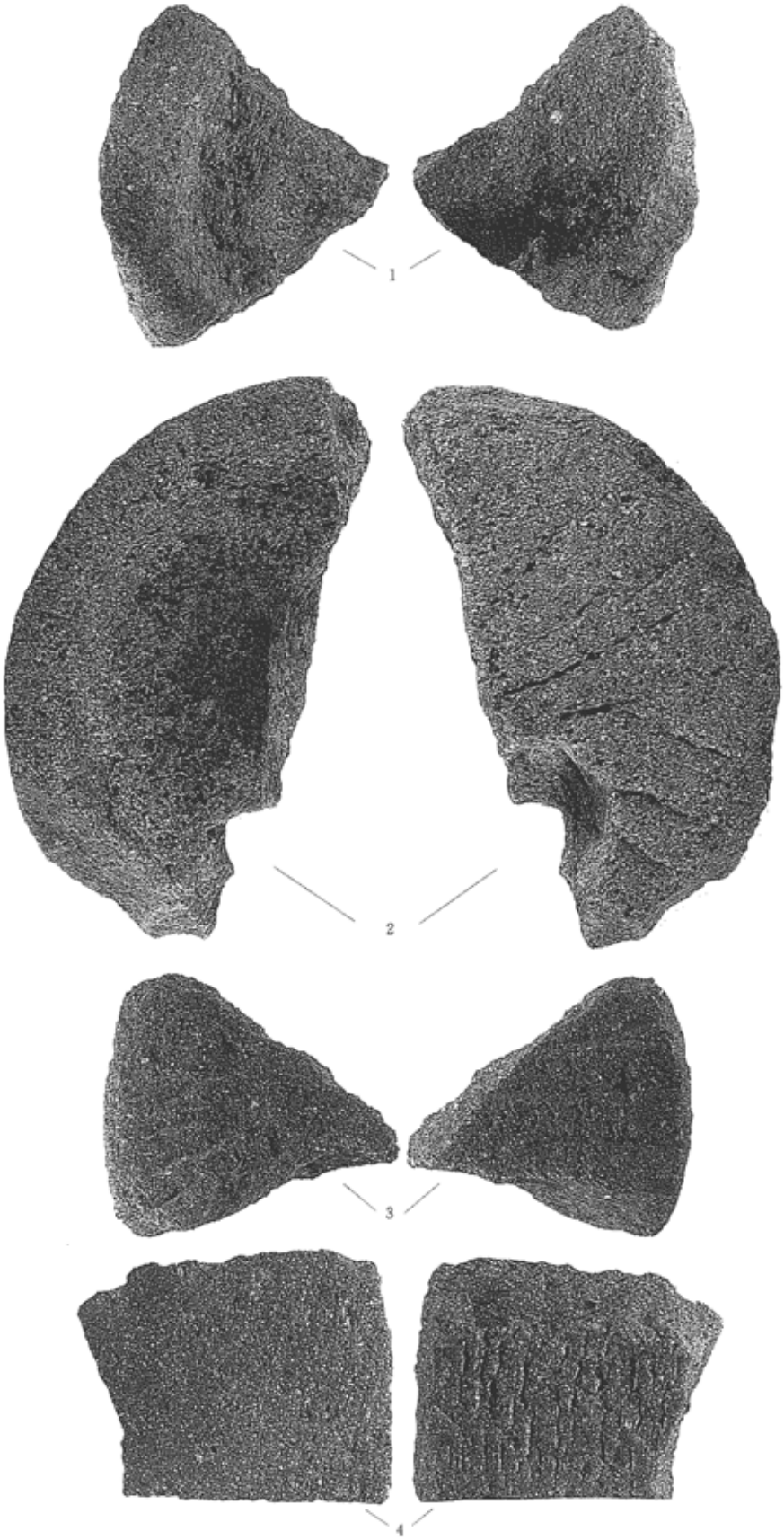

写真図版 9　陶磁器・土製品



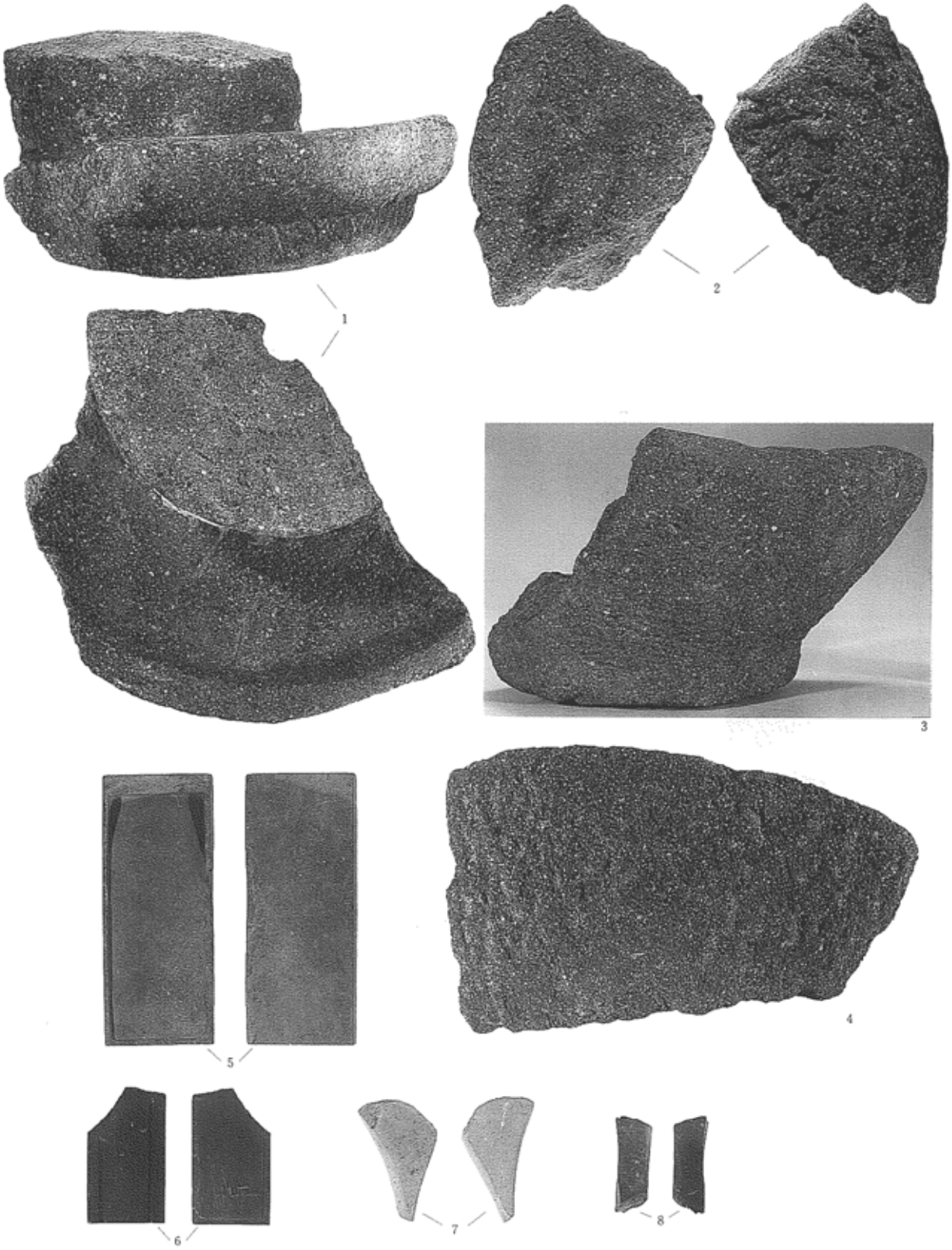

写真図版10　木製品　下駄



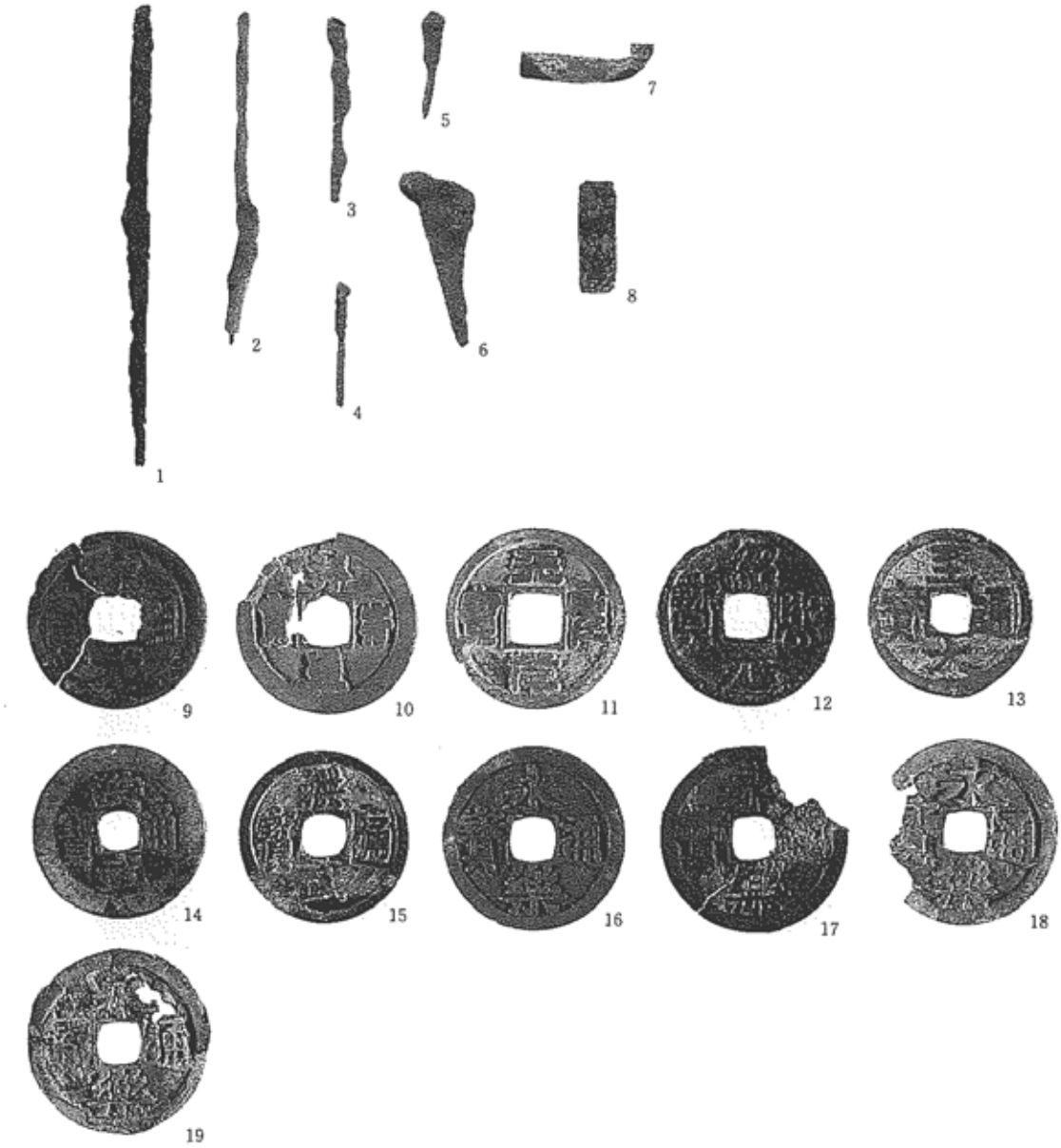

写真図版11　木製品、骨




写真図版12　石製品（石臼）




写真図版13　石製品（石臼、硯、砥石）




写真図版14　金属製品・古銭（古銭は実寸大）

# 新　谷　地　遺　跡

# 目　　次

Ⅰ　はじめに……75
Ⅱ　発見された遺構と出土遺物……76
Ⅲ　まとめ……80
参考文献……80
写真図版……81

# 調　査　要　項

遺跡名：新谷地遺跡（しんやちいせき）
宮城県遺跡地名表登載番号：27057
遺跡記号：ＯＴ
所在地：古川市小林字新谷地・塚原・要害・狐壇・新塚原、宮沢字牛沼
調査原因：県営ほ場整備事業
調査面積：1224 ㎡
北排水路調査区：2.5ｍ×251ｍ（628 ㎡）
南排水路調査区：2.5ｍ×190.5ｍ（476 ㎡）
水田トレンチ：60ｍ×2ｍ（120 ㎡）
調査期間：10 月 26 日～11 月 11 日
調査記録：北排水路調査区はＡ点、南排水路調査区はＣ点を座標原点とし、排水路工事計画のセンター杭Ａ－Ｂ・Ｃ－Ｄ（およそＮ－33°45′－W）を基準線として（第２図）、100 分の１または 20 分の１の平面図を作成（本文中では基準線上のＡ点・Ｃ点からの距離（ｍ）をそれぞれＡＳ・ＣＳとして表示）。
水田トレンチは現水田の畦畔を仮の基準として 200 分の１の平面図を作成。
写真記録は 35 ㎜白黒写真、同カラー・リバーサル写真による。
調査主体：宮城県教育委員会
調査担当：宮城県教育庁文化財保護課
調査員：斎藤吉弘、東理浩明
調査参加者：伊藤幸男、永塚悦子、永塚正子、片倉富寿夫、木村ちゑ子、小林秀子、斎藤のぶ子、佐々木益雄、橋本熊治、山口卯吉（五十音順）
※出土した磁器の年代については、東北陶磁資料館・本田泰貴氏の教示による。

# 新 谷 地 遺 跡

## Ⅰ　はじめに（第１図・第２図）

［立地］新谷地遺跡は古川市小林字新谷地・塚原・要害・狐壇・新塚原、宮沢字牛沼などに所在する。

本遺跡の所在する古川市の北部一帯は奥羽山脈から派生する築館丘陵が東へ展開し、その南には沖積地（大崎平野）が広がっている。遺跡はその築館丘陵のほぼ南東端で、小林字北前地区と一本杉地区の間にある小丘陵（標高約 30～40m）のなだらかな南斜面に立地している。

遺跡の周辺には旧石器時代から中・近世までの多数の遺跡が分布している。本遺跡と同一丘陵上の北西部に小さな沢を挟んで新谷地北遺跡があり、8 世紀前半から 10 世紀前半の土壙墓や竪穴住居跡が調査されている（1992；木皿）。

本遺跡は 1992 年･1993 年のほ場整備に伴う確認調査で、近世の掘立柱建物跡・土壙（土壙墓・鍛冶遺構）などが確認され、旧石器時代のナイフ・弥生土器・土師器・須恵器・中世陶器・近世の陶磁器・瓦片・羽口が出土している（1993；三好、1994；阿部）。

［調査区］今回の調査は宮沢地区県営ほ場整備事業に係わる南・北排水路 2 本の事前調査と、一部水田の確認調査である。排水路についてはその全体を対象に、水田は計画田面で削平される部分に東西方向のトレンチを設定して行った。

［地形と基本層位］調査区付近の地形は全体として南東方向の緩やかな斜面であるが、一部南排水路の北側から北排水路の南端付近にかけて、南西から入る浅い沢がみられる。

層位は基本的に Ⅰ～Ⅳ層に分かれる（第 2 図層序模式図）。Ⅰ 層が表土、Ⅱ層が旧耕作土、Ⅲ層が旧表土、Ⅳ層が地山漸移層、Ⅴ層が地山土である。なお、北排水路調査区（以後、「北区」と呼ぶ）の沢

第１図　遺跡の位置と周辺の遺跡

第１表　遺跡地名表

| 番号 | 遺跡名 | 番号 | 遺跡名 |
|---|---|---|---|
| 1 | 新谷地遺跡 | 36 | 浦越北遺跡 |
| 2 | 新谷地北遺跡 | 37 | 浦越遺跡 |
| 3 | 国史跡　大吉山瓦窯跡 | 38 | 小寺囲遺跡 |
| 4 | 国史跡　宮沢遺跡 | 39 | 日光山古墳群（小寺囲支群） |
| 5 | 関久田A遺跡 | 40 | 成田A遺跡 |
| 6 | 岩林遺跡 | 41 | 日光山古墳群（成田支群） |
| 7 | 岩林A遺跡 | 42 | 三丁目城跡 |
| 8 | 西館A遺跡 | 43 | 小寺遺跡 |
| 9 | 南生沢城跡 | 44 | 北の館遺跡 |
| 10 | 野崎遺跡 | 45 | 宮沢城跡（要害跡） |
| 11 | 長者原A遺跡 | 46 | 西館遺跡 |
| 12 | 梅鉢見木遺跡 | 47 | 上谷遺跡 |
| 13 | 和口B遺跡 | 47 | 字南遺跡 |
| 14 | 町史跡　川北横穴古墳群 | 49 | 湯殿遺跡 |
| 15 | 松森古墳群 | 50 | 新湯殿遺跡 |
| 16 | 堀館跡 | 51 | 一本杉遺跡 |
| 17 | 成田山遺跡 | 52 | 長者原D遺跡 |
| 18 | 松森遺跡 | 53 | 長者原E遺跡 |
| 19 | 一本松遺跡 | 54 | 山の上古墳群 |
| 20 | 一本松古墳群 | 55 | 長津B墳 |
| 21 | 一本松古墳群 | 56 | 川熊館跡 |
| 22 | 新田南遺跡 | 57 | 内林古墳群 |
| 23 | 松森南遺跡 | 58 | 下田遺跡 |
| 24 | 成田谷地田遺跡 | 59 | 杉ノ下遺跡 |
| 25 | ごふく沢遺跡 | 60 | 日光山古墳群（在郷寺支群） |
| 26 | 成田B遺跡 | 61 | 柳の関遺跡 |
| 27 | 馬場壇A遺跡 | 62 | 道場囲遺跡 |
| 28 | 大谷地遺跡 | 63 | 小林杉の下窯跡 |
| 29 | 北馬場壇遺跡 | 64 | 狐の壇囲遺跡 |
| 30 | 一の沢古墳 | 65 | 氏塚遺跡 |
| 31 | 一の沢遺跡 | 66 | 小林一本杉遺跡 |
| 32 | 塚原A遺跡 | 67 | 新田町遺跡 |
| 33 | 市史跡　塚原古墳群 | 68 | 南小林遺跡 |
| 34 | 塚原B遺跡 | 69 | 石母田館跡 |
| 35 | 浦越東遺跡 | | |

頭と南排水路調査区（以後、「南区」と呼ぶ）の沢では、Ⅲ層とⅣ層の間に灰白色火山灰と沢堆積土が堆積している。遺構はⅤ層で確認した。

## Ⅱ　発見された遺構と出土遺物

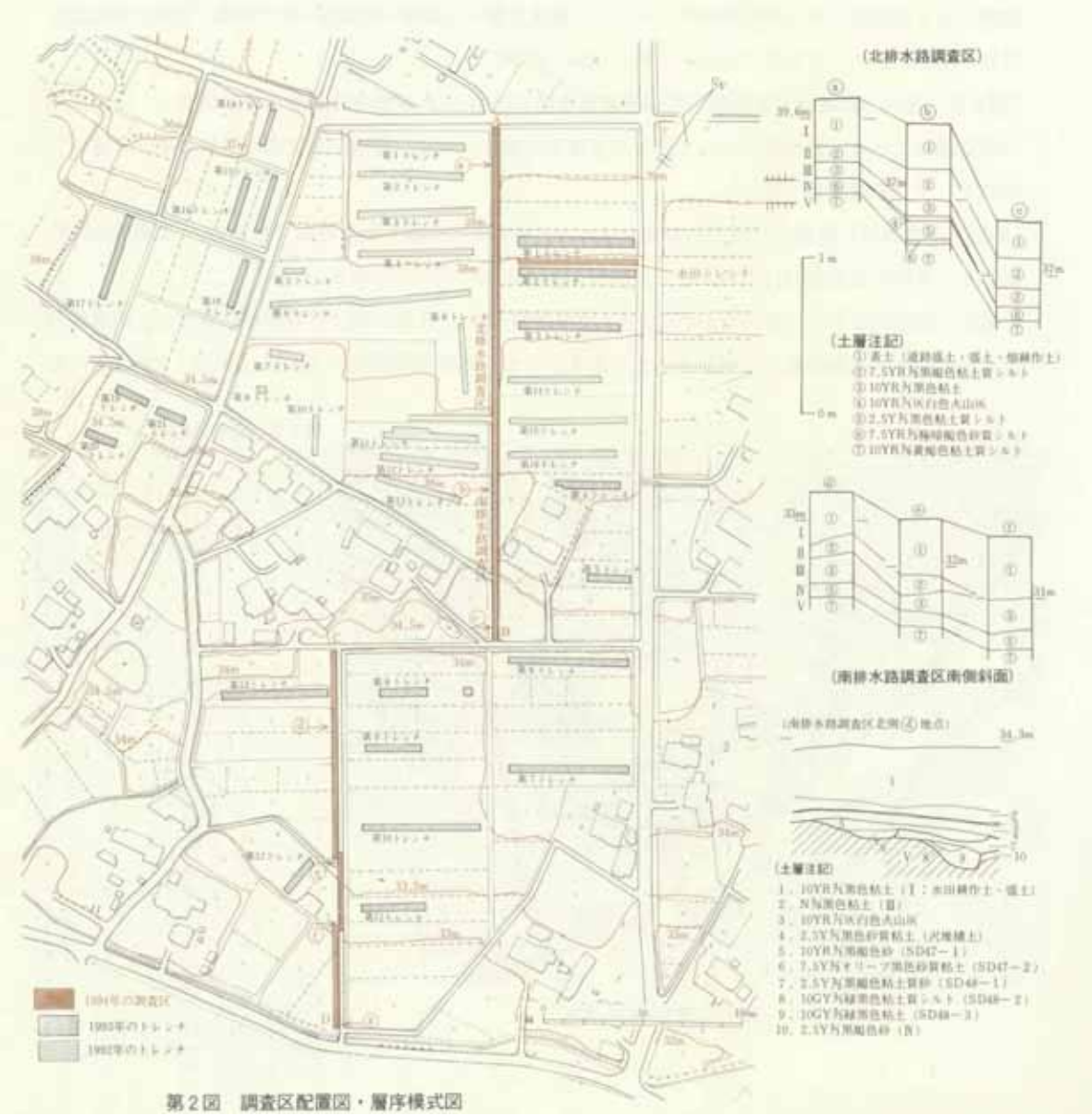
調査地区が離れているため、北区と南区ごとにおもな遺構・出土遺物について述べていく。

2．北区の遺構と遺物（第３図）

遺構は掘立柱建物跡１棟（ＳＢ1）、土壙12基（ＳＫ1～10・15・16）、溝跡24条（ＳＤ16～39）である。

Ａ．掘立柱建物跡

［ＳＢ1］ＡＳ－122～126 で北東部の南北２間×東西１間分検出した。ＳＫ8 と重複するが新旧は不明である。東側柱列の方向はＮ－3°－Ｅで、柱間寸法は約 1.5ｍである。柱痕跡は円形で径は 10～15ｃｍ、深さは11～15ｃｍである。掘り方は円形で径は約25ｃｍである。なおＮ1Ｅ2・Ｎ1Ｅ3の東側

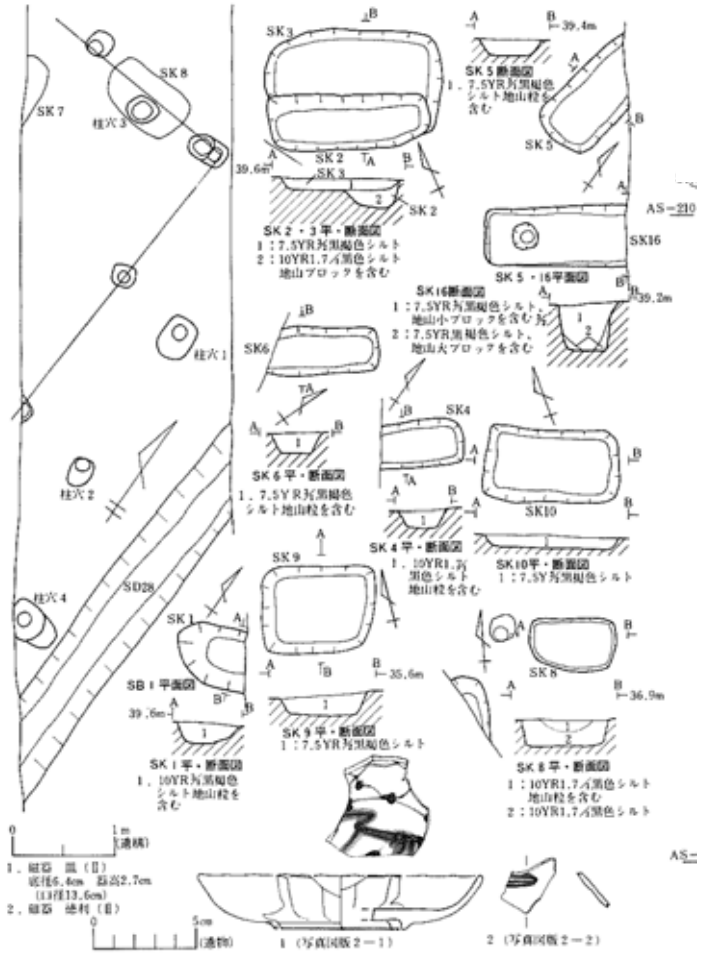


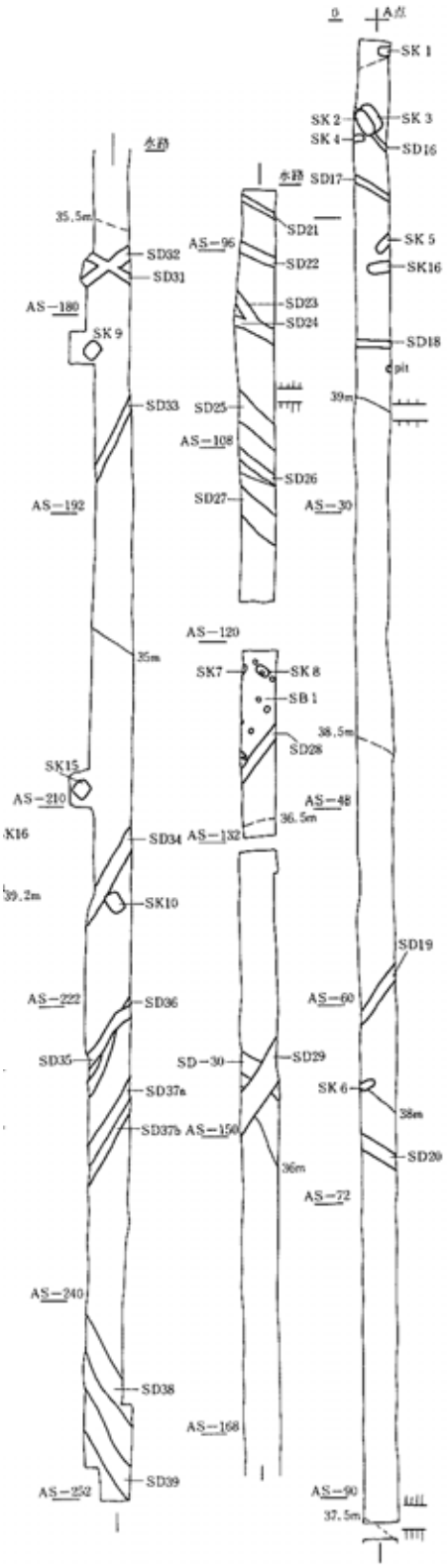

第２図　調査区配置図・層序模式図

に、約75ｃｍ離れて柱穴１・２があることから、東に縁が付く建物であった可能性がある。柱穴１・２の柱痕跡の形・大きさは建物と同様であり、掘り方は楕円形で長径30～50ｃｍ、短径20～30ｃｍである。

Ｂ．土壙

平面形は長方形（ＳＫ2～6・9・10・16）・楕円形（ＳＫ1・8）・方形（ＳＫ15）の種類がある。長方形のものは長さが1～1.7m以上で幅が40～60ｃｍ、深さは20～45ｃｍである。底面は平坦で壁は緩やかに立ち上がる。長軸の方向は一定ではない。堆積土は、黒褐色土のもの（ＳＫ1・3・5・8～10・15）と、黒褐色土に地山粒もしくは地山ブロックが混じるもの（ＳＫ2・4・6・16）とに分かれ、後者は人為的に埋められた可能性がある。またＳＫ16の底面西側に径20ｃｍ、深さ10ｃｍのピットがあり、ややグライ化した黒褐色土が堆積している。




第３図　北排水路調査区の遺構と遺物

C．溝跡

ＳＤ25・27・29・38・39 が上端幅が約 150ｃｍで深さが 20～25ｃｍであり、他の 19 条が上端幅が 40～70ｃｍで深さが 10～15ｃｍである。方向は斜面の南半では南北方向、北半では東西方向が多い。堆積土は黒褐色土・極暗褐色土などである。遺物はＳＤ25 から礫石器の破片（写真図版２－10）が出土している。

[堆積層の遺物] 中央部の第Ⅱ層から土師器片と磁器が出土している。土師器（写真図版２－8）はロクロ調整の甕の頸部である。磁器は皿（第３図１）と徳利の頸部（第３図２）である。１は型打成形による輪花皿で、口縁端は丸形、高台は畳付の両角を削って丸に近くしている。文様は内面に呉須で樹木・網目文が描かれている（型打染付樹木・網目文輪花皿）。

3．南区の遺構と遺物

遺構は沢の北側と尾根の南側斜面で確認できた。調査区北側の遺構（第４図）は井戸跡１基（ＳＥ1）・土壙２基（ＳＫ11・12）・溝跡９条（ＳＤ40～48）である。調査区南側斜面の遺構（第５図）は井戸跡１基（ＳＥ2）・土壙 15 基（ＳＫ14・15・17 他）・多数の柱穴とピット・溝跡 11 条（ＳＤ51・53～62）である。

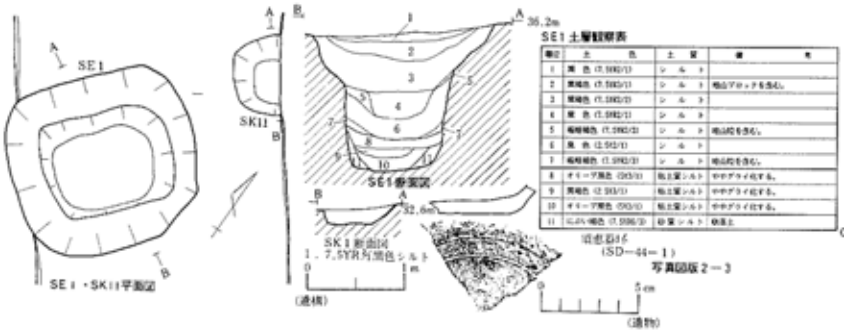
A．井戸跡

[ＳＥ1] ＣＳ－27 で検出した。平面形は上端が隅丸方形で１辺約 190ｃｍ、下端が隅丸長方形で、長軸が約 100ｃｍ、短軸が約 75ｃｍである。断面形は漏斗状で深さは約 150ｃｍである。堆積土は３層に大別できる。いずれも自然堆積とみられる。

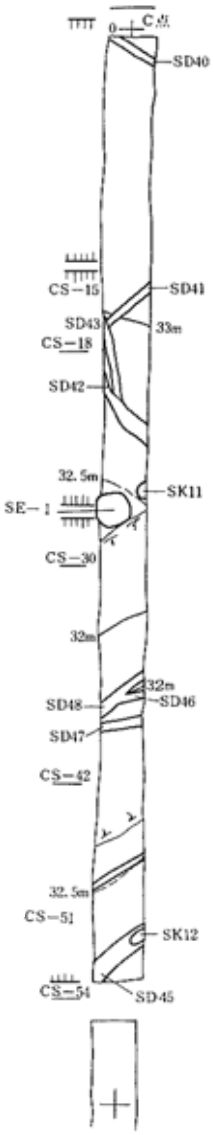
[ＳＥ2] ＣＳ－176 で検出した素掘りの井戸である。平面形は上端が径 125～145ｃｍの不整楕円形、下端が径は約 67ｃｍの円形をなす。断面形は上部がやや開く撥形で深さは約 160ｃｍである。堆積土は上層が黒色粘土の自然堆積、中・下層が地山ブロックを多量に含む黒褐色シルトの崩落土で、全体にしまりが無い。壁の周囲に３箇所、杭痕の様な小穴を確認している。大きさは径約 10ｃｍ、深さ 10～15ｃｍである。遺物は上層の堆積土から、回転糸切り離しの須恵器坏の底部（第５図１）と、台石（写真図版２－11）が出土した。

B．土壙

平面形は長方形（ＳＫ13 他）・楕円形（ＳＫ11・12・14）・不整長方形（ＳＫ17）の




第４図　南排水路調査区北側の遺構と遺物



種類がある。

ＳK13 はＳＤ51 と重複し、これより古い。長軸は約 243ｃｍ、短軸は約 106ｃｍで、深さは約 40ｃｍである。底面は平坦で、壁はほぼ直立する。堆積土は地山ブロックを多量に含む灰黄褐色シルトであり、人為的に一度に埋め戻されている。

他に南側斜面の南部で、長方形の浅い土壙が 12 基見つかっている。

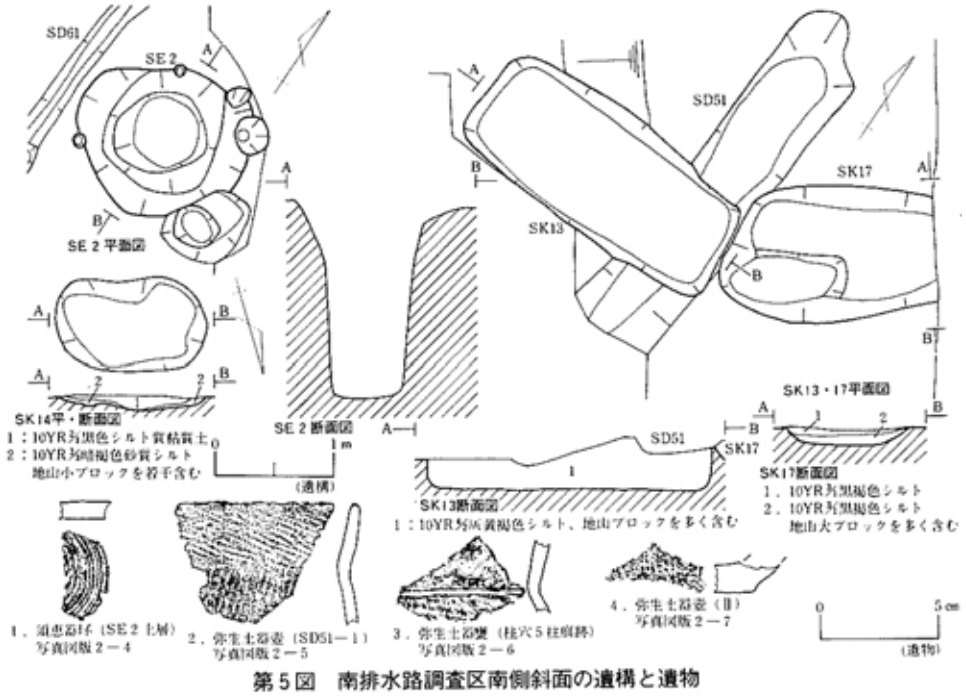
Ｃ．柱穴・ピット

ピットの中には柱痕跡のある小柱穴と、柱痕跡のないものがある。調査区内で組み合って建物になるものはない。ＣＳ－132 の柱穴 5 の柱痕跡から、頸部に一本工具による二条の沈線がみられる弥生土器の甕の破片（第 5 図 3）が出土している。ＣＳ－124 のピット 1 からは、鉄滓が出土している。

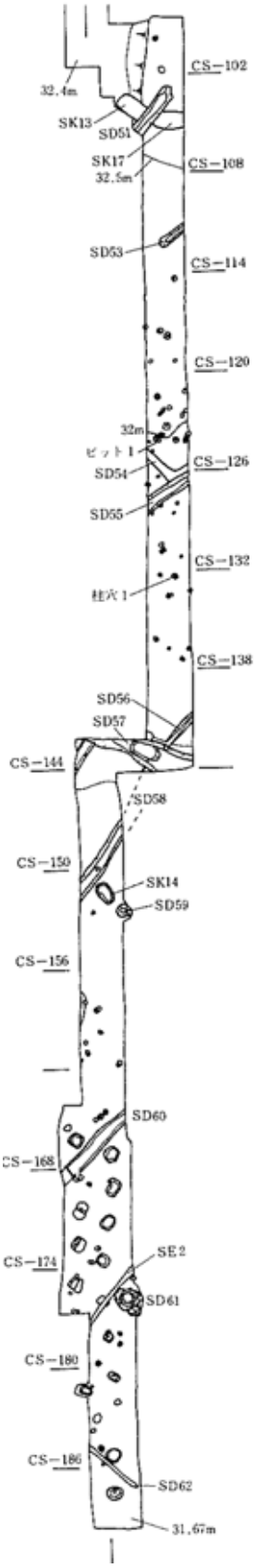
Ｄ．溝跡

ＳＤ46・47・48 は沢部分の灰白色火山灰下の堆積層から掘り込まれている（第 2 図）。重複があり、新旧関係は 48→46・47 の順である。方向は 3 本とも南北である。上端幅約 45ｃｍ、深さ 10～30ｃｍで、断面形は船底形になっている。ＳＤ54 とＳＤ55 は重複し、ＳＤ55 が新しい。いずれも上端幅 44～77ｃｍ、深さは 30～40ｃｍである。ＳＤ57 はＳＤ58 と重複し、これより新しい。上端幅は 144～178ｃｍ、深さは 18～28ｃｍである。この他、上端幅 50～100ｃｍの溝 9 本（ＳＤ40～45・51・60・58）と、上端幅 20～35ｃｍの溝 5 本（ＳＤ53・56・59・61・62）がある。いずれも深さ 5～20ｃｍと浅く、黒褐色土や黒色粘土が堆積している。

溝の方向はＳＤ54 が直角に曲り、ＳＤ40・42・57・59・62 は東西方向、それ以外は南北方向である。遺物はＳＤ44 から須恵器の坏の底部（第 4 図 1）が出




第 5 図　南排水路調査区南側斜面の遺構と遺物



土している。底部から体部下端に回転ヘラケズリがある。またＳＤ51 から弥生土器の壺（第５図2）が出土している。縄文（ＲＬ）が施文された波状口縁である。その他ＳＤ56 から鉄滓と羽口（写真図版２－12）、ＳＤ57 から鉄滓が 11 点と叩き石、ＳＤ58 の１層から鉄滓がそれぞれ出土している。
[堆積層の遺物]南側斜面の第Ⅱ層から、弥生土器片２点・土師器片２点・鉄滓２点が出土している。弥生土器は壺の底部（第５図－4）と体部で、地文は縄文（ＲＬ）である。土師器は非ロクロ調整の甕の口縁部（写真図版２－9）と体部で、体部片の内面には鉄滓が付着している。
鉄滓や羽口は、鍛冶遺構と思われる土壙（1994；阿部）周辺から流入したものと思われる。

## Ⅲ　まとめ

1. ［遺物について］

弥生土器の壺は口縁形態から色麻町大坊地区出土弥生土器のⅢｂ類に、甕は頸部沈線から宮沢遺跡出土弥生土器体部A2 類に見られる天王山式土器の特徴に類似している（古川他；1985）。須恵器坏は第４図１が調整技法から８世紀前半～8 世紀後半中頃、第５図１が切り離しから 8～10 世紀の幅が考えられる。磁器の皿は肥前産で、肥前磁器編年のⅡ－2 期（1630～1650 年）に相当するものである。

2. ［遺構について］

北区の掘立柱建物跡は 1992 年調査（第 11 トレンチ）の建物跡から約 40m離れているが、同一斜面であること・柱列が北向きであることから、関連のある建物と思われる。建物跡の南の第Ⅱ層から 1630～1650 年の磁器が出土しているので、それに近い時期（17 世紀後半）の可能性がある。

井戸は斜面裾で２基確認されている。遺物は伴わないが、形態（素掘り）や堆積土などから中・近世のものと思われる。

土壙は両区全域で見られた。北区の北側の幅 50～60ｃｍの長方形の土壙（ＳＫ2・4・6・16）は、1992 年に西側の第 1～3 トレンチで確認した同一斜面の土壙群に続いていくものと思われる。遺物はないが、形態・埋土の状況から新谷地北遺跡の土壙墓群（Ⅰ・Ⅱ類）に類似するものと考えられる。また南区のＳＫ13 は、1993 年に約 60m離れた東側の同一斜面（第９トレンチ）で確認した土壙墓と考えられる長方形の土壙に形態・規模・埋土が類似していることで、土壙墓の可能性がある。これらの土壙の長軸の方向はまちまちである。他の土壙は堆積土の状況から中世以降のものと思われる。

溝跡は両区全域で見られた。ＳＤ46・47・48 溝跡は灰白色火山灰下の堆積層で確認されたことで古代のものと思われる。他の溝跡は堆積土の状況から、ほとんど近世のものと思われる。

3. 水田トレンチの調査では、溝跡１条と土壙３基を確認した。

## 参考文献

佐々木和博・古川一明・大槻仁一（1985）：「色麻古墳群」『宮城県文化財調査報告書』第 103 集
大橋康二（1989）：『肥前陶磁』ニューサイエンス社
村上伸之・野上建紀（1992）：「楠木谷窯」『楠木谷窯・天神町窯・外尾山窯』有田町教育委員会
木皿直幸・早川英紀（1992）：「新谷地北遺跡」『宮城県文化財調査報告書』第 146 集
三好秀樹（1993）：「新谷地遺跡」『宮城県文化財調査報告書』第 154 集
阿部　恵（1994）：「新谷地遺跡」『宮城県文化財調査報告書』第 160 集

北排水路調査区
（南から）

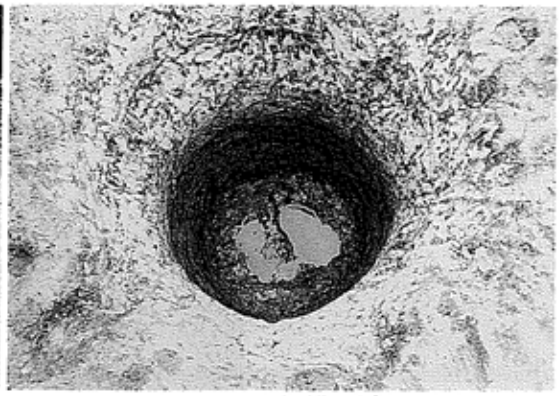
（左）北排水路調査区
（北から）

（右）南排水路調査区中央部
（北から）

SB1 掘立柱建物跡
（北から）

写真図版 1

SE1 井戸跡（東から）



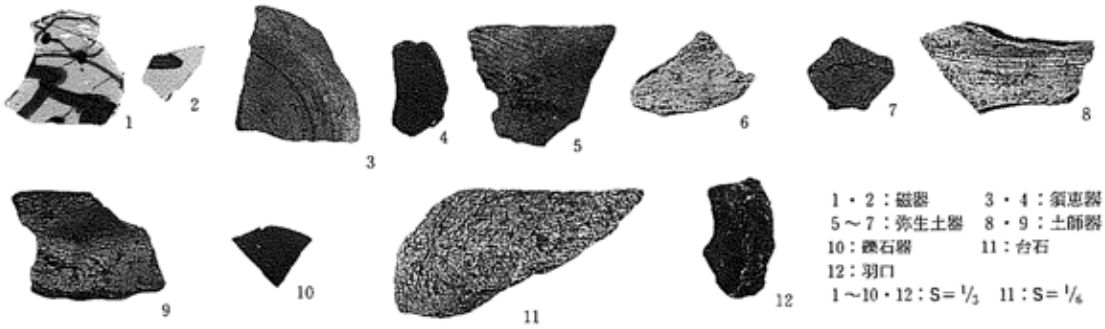
SE2 井戸跡（北から）

SK2・3 土壙（南から）

SK13 土壙（北から）

SD46・47・48 溝跡（南から）

SD54・55 溝跡（南から）




写真図版 2

# 萱　刈　場　窯　跡

－Ａ地点南部の発掘調査－

# 目　　次

第Ⅰ章　遺跡の位置と環境 …… 85
第Ⅱ章　発掘調査の成果
　1　調査の方法と経過 …… 88
　2　発見された遺構と遺物 …… 89
第Ⅲ章　考　察
　(1)須恵器 …… 102
　(2)焼台と重ね焼きの方法について …… 110

# 調 査 要 項

遺跡名：萱刈場窯跡（かやかりばかまあと）
宮城県遺跡地名表登載番号：26009
遺跡記号：ＪＹ
遺跡所在地：黒川郡大衡村大衡字萱刈場
調査主体：宮城県教育委員会
調査担当：宮城県教育庁文化財保護課
調査期間：1994 年（平成 6 年）6 月 15 日～7 月 5 日
調査対象面積：約 60 ㎡
発掘調査面積：30 ㎡
調査員：村田晃一・小村田達也
調査協力：大衡村教育委員会社会教育課
　　木暮亮（石巻市教育委員会）・佐藤敏幸（矢本町教育委員会）
　　中野裕平（河南町教育委員会）・丹羽茂（宮城県多賀城跡調査研究所）・藤原二郎
整理協力者：大宮千賀子

# 第Ⅰ章　遺跡の位置と環境

萱刈場窯跡は宮城県のほぼ中央部、黒川郡大衡村大衡字萱刈場にあり、大衡村役場から北約３㎞の地点に位置する（第１図）。遺跡の立地する大松沢丘陵は、西の奥羽背梁山脈から東に派生し、北を大崎平野南縁を流れる鳴瀬川に、南を吉田川に挟まれている。遺跡周辺は、大松沢丘陵が南流する埋川によって東西に２分される形となっており、窯跡は西に埋川をのぞむ東丘陵部の西縁部およびその末端の台地に立地している。そこは小河川による開析が進んでおり、なだらかで起伏に富んだ地形となっている。萱刈場窯跡周辺には各時代の遺跡が多数存在している。ここではそれらのなかでも本窯跡と深く関連する７世紀中頃から10世紀にかけての遺跡についてみていく。

該期の遺跡としては終末期群集墳、横穴墓、城柵・官衙跡、寺院跡、窯跡、集落跡などがあげられる。主として群集墳は大崎平野西部から北西部にかけての丘陵や河岸段丘上に、横穴墓は大崎平野北部、南部、東部の丘陵斜面に立地しており、両者がともに分布する地域もある。本窯跡群周辺で発掘調査などで内容が明らかになったものとしては色麻町色麻古墳群、同町蝦夷塚古墳群、三本木町山畑横穴墓群、同町青山横穴墓群、同町混内山横穴墓群、同町坂本館山横穴墓群などがあげられる。横穴墓は６世紀後半に、群集墳は７世紀中葉には出現し、ともに７世紀後半代に最盛期を迎え、８世紀前半代まで築造される。

７世紀後半から８世紀前半は、大崎平野の各地に城柵・官衙や寺院が造営された時期である。主なものとして城柵跡の中新田町城生柵跡、官衙跡の古川市名生館遺跡（丹取郡衙→玉造郡衙跡推定地）、宮崎町東山遺跡（加美郡衙跡推定地）、中新田町熊野堂遺跡、大和町一里塚遺跡などがあげられ、寺院跡では古川市伏見廃寺跡（名生館の付属寺院）、中新田町菜切谷廃寺跡（城生柵の付属寺院）、色麻町一の関遺跡がある。

須恵器や瓦の窯跡は本窯跡の周辺に数多く認められる。北 2.5 ㎞にある色麻町日の出山窯跡群は、多賀城創建期の瓦や須恵器を生産していた宮城県内有数の窯跡群で、範囲は東西１㎞以上、南北500mにおよび、これまでにＡ～Ｆの６地点が確認されている。年代は８世紀前半を中心に考えられ、瓦は多賀城のみならず大崎地方の城柵、官衙、寺院に、須恵器は前述の遺跡のほかに墳墓や一部の集落にも供給されていた。色麻町内の官林・高根・土器坂の各窯跡から出土した瓦は技法的に多賀城創建期のものに先行しており、これらの窯跡は７世紀末から８世紀初頭頃には操業していたとみられる。製品は主に大崎地方の官衙や寺院に供給していたと考えられる。土師器の生産遺跡としては色麻町上新田遺跡がある。一般集落にロクロ土師器が普及しはじめた９世紀初頭頃に位置付けられ、土師器の特徴から須恵器工人集団が土師器生産を行なっていた可能性が指摘されている。また、大衡村亀岡遺跡でも土器焼成遺構が検出されている。食膳具をみると須恵器が主体であり、土師器は須恵器の同器種を忠実に模倣していることから、一般集落とは異なる性格が考えられている。

集落跡は色麻町色麻遺跡、宮崎町早風遺跡、三本木町安藤前遺跡などが調査されている。色麻遺跡は９世紀後半から10世紀前半にかけて最盛期をむかえた集落で、色麻古墳群と重複しており、古墳を壊して住居を建てた例もある。早風遺跡は８世紀前半と９世紀前半の集落跡で、双方の土器を比較す

| No. | 窯跡名 | 立地 | 出土遺物 | 時期 | No. | 窯跡名 | 立地 | 出土遺物 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 萱刈場窯跡A地点 | 丘陵斜面 | 須恵器・土師器 | 8世紀中頃～9世紀後半 | 8 | 待井沢窯跡 | 丘陵斜面 | 須恵器 | 9世紀後半 |
| 2 | 萱刈場窯跡B地点 | 丘陵斜面 | 須恵器 | 9世紀後半 | 9 | 長嶋遺跡 | 河岸段丘 | 須恵器・土師器・瓦 | 8世紀後半～9世紀後半 |
| 3 | 萱刈場窯跡C地点 | 丘陵斜面 | 須恵器 | | 10 | 宮林窯跡 | 丘陵斜面 | 瓦 | 7世紀末～8世紀初頭 |
| 4 | 横前窯跡 | 台地 | 須恵器・土師器 | 8世紀後半～9世紀初頭 | 11 | 土器坂窯跡 | 丘陵斜面 | 瓦 | 7世紀末～8世紀初頭 |
| 5 | 吹付窯跡 | 丘陵斜面 | 須恵器・瓦 | 8世紀後半～9世紀初頭 | 12 | 日の出山窯跡群 | 丘陵斜面 | 須恵器・土師器・瓦 | 8世紀前半 |
| 6 | 彦右エ門橋窯跡 | 丘陵斜面 | 須恵器 | 8世紀後半～9世紀初頭？ | 13 | 森田野山遺跡 | 丘陵斜面 | 須恵器・土師器 | |
| 7 | 河原窯跡 | 河岸段丘 | 須恵器・土師器 | 9世紀後半 | 14 | 吹付B遺跡 | 台地 | 須恵器・土師器 | 8世紀後半～9世紀初頭 |

※1～9：大衛窯跡群

第1図　遺跡の位置と周辺の窯跡

ると後者の時期に須恵器がかなり普及したことが知られる。安藤前遺跡の年代は9世紀後半頃と考えられている。

本窯跡が位置する大衡村大衡から駒場にかけての一帯は、かねてから古代の窯跡が分布することが知られており、「大衡窯跡群」と総称されている。その広がりは東西2.5km、南北2kmにおよび、現在のところ横前・吹付・彦右ェ門橋・萱刈場A・B・C地点・待井沢・河原と色麻町長嶋の9地点で窯が確認されている(村田：1988)。8世紀中頃から9世紀後半代にかけて須恵器を継続的に生産した大崎地方西部を代表する窯跡群である。発掘調査は今回の萱刈場窯跡A地点が初めてであり、8世紀中頃の地下式窖窯が3基検出された。窯構造は8世紀後半以降になると、半地下式窖窯に変化するとみられる。

第2図　萱刈場窯跡A地点周辺の地形と調査地点

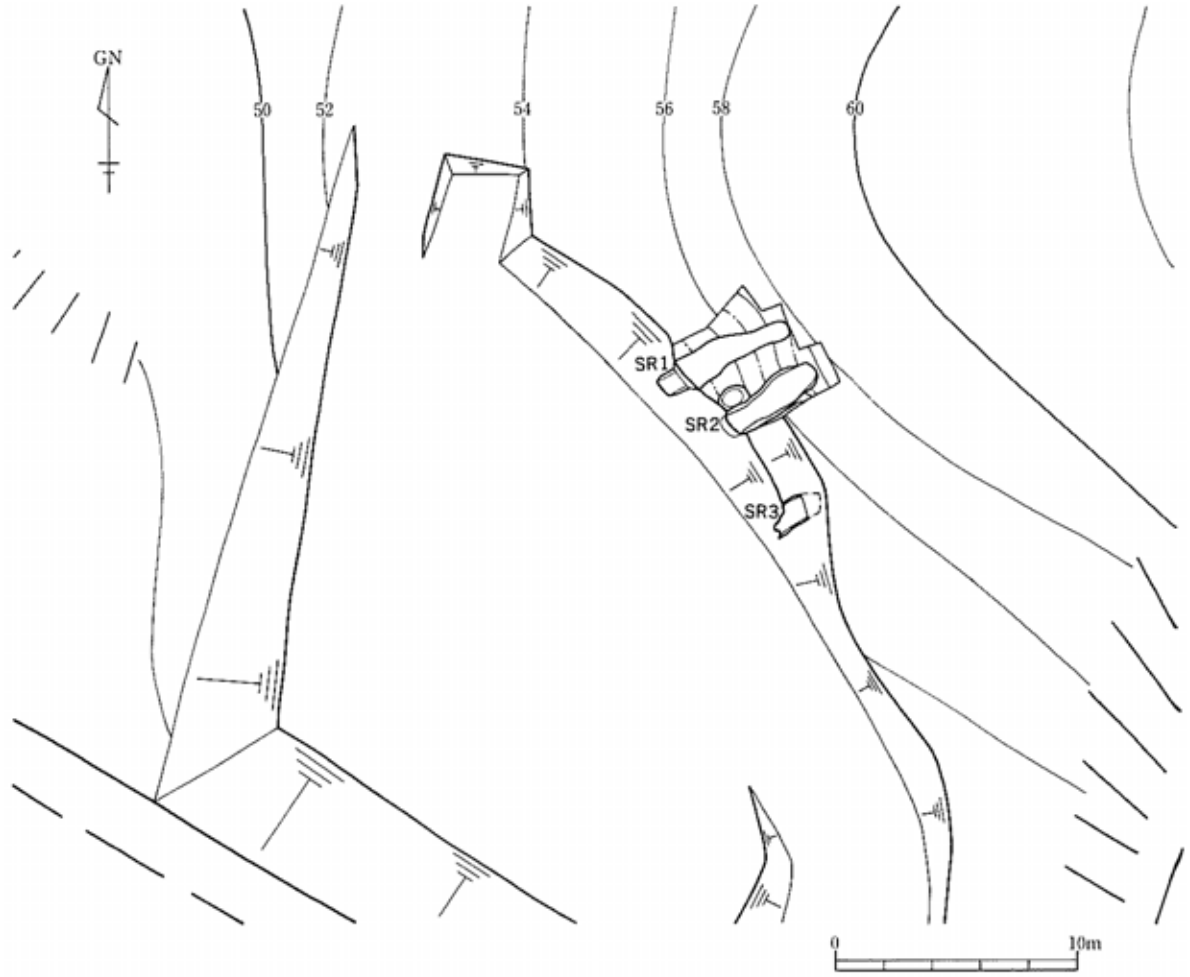
# 第Ⅱ章　発掘調査の成果

## 1　調査の方法と経過

萱刈場窯跡はA･B･Cの３地点に分かれる（第１図）。今回の発掘調査はA地点南部の地主が宅地造成のため無断で丘陵斜面を削ったことに起因する(第２図)。削り取られた崖面には窯が数基認められ、連絡を受けた宮城県文化財保護課は大衡村教育委員会と協議し、窯の残存状況を確認するための調査を行なうこととした。

発掘調査は事前に雑木の伐採をしたのち、6 月 15 日から取りかかった。最初に、重機に削り取られた崖面(南北 38m)を清掃し、遺構の確認作業を行なった。その結果、地下式窖窯３基を検出し、北からＳＲ1・2・3 窯跡と名付けた（第３図）。このうち、南端のＳＲ3 は現地表面から 2.2m下にあり、残存する部分の保存状況が良好と判断され、崖面の補強工事にかかる焼成部の一部を精査するにとどめた。

ＳＲ1・2 は現地表面から 1.2m下にあり、工事によって窯本体がさらに破壊される可能性があるため、平面の確認作業が必要となった。まず伐根と下草の処理を行ない、つぎに表土を除去した。調




第３図　調査区と周辺の地形

査区が狭いことと機械の導入が難しい地点のため、これらの作業はすべて人力で行なっている。その結果、両窯とも燃焼部の一部から窯尻にかけて残存していることがわかった。また、断面の観察からＳＲ1は製品の窯詰めの前に天井部が崩落したこと、ＳＲ2の燃焼部床面は5枚あることを確認した。両窯とも崖面の補強工事にかかるのは燃焼部までであるが、ＳＲ2 についてはこれまで大衡窯跡群での発掘調査例がなく、窯の構造・生産器種とそれらの製作技法などから同窯跡群の具体的なあり方を知る資料のひとつとするため精査を行なった。

3基の窯跡とも調査状況に応じて縮尺1/20の平面図・断面図を作成し、白黒とカラースライドで写真撮影を行なった。ＳＲ2は確認した5枚の床面のうち三～五次床面を精査し、一・二次床面については燃焼部で断ち割り調査を行なうにとどめた。発掘調査の一切が終了したのは7月5日で、調査対象面積は約60㎡、調査面積は30㎡である。

## 2　発見された遺構と遺物

調査で発見された遺構は、地下式窖窯3基・土壙1基・溝跡1条である。3基の窖窯とも地山が粘土の部分に構築されている。南北38mにわたる崖面で地山が粘土の部分は窯を確認した部分だけで他は礫層となっており、窯構築の際には場所を選択していることが知られる。出土遺物は須恵器のみで、その量は整理用コンテナで9箱である。

### ＳＲ1窯跡（第4図）

製品を窯詰めする前に天井部が崩落した地下式窖窯である。燃焼部前側と前庭部は削平されている。天井崩落後の堆積土からは、須恵器や焼土、炭化物などが出土しており、凹みは不良品などの捨て場として利用されていたと考えられる。精査を行なったのは燃焼部の一部である。

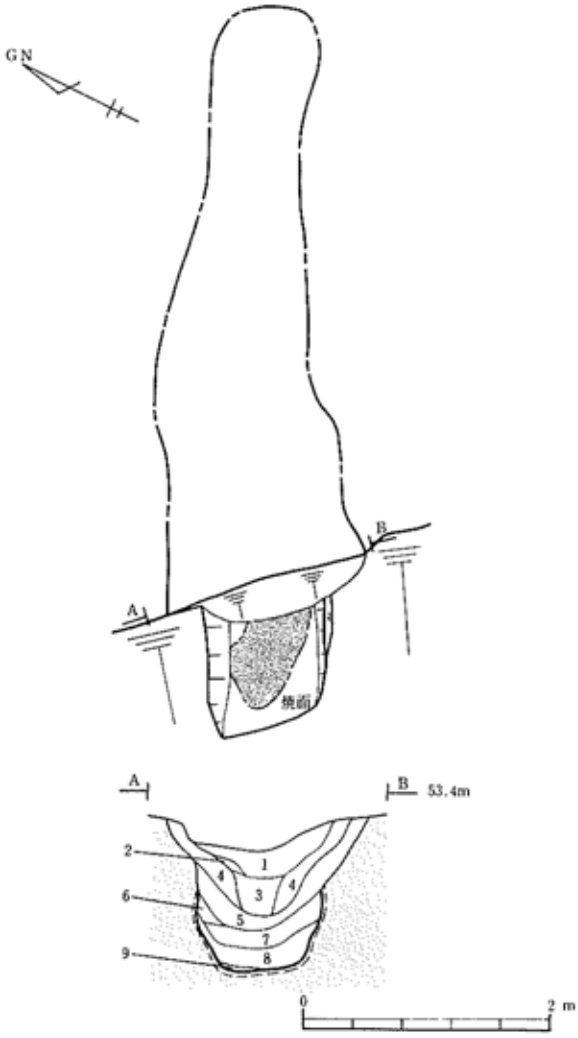
〔天井部〕窯体内に崩落している。地山の粘土で、内側は赤褐色に変化している。

〔燃焼部〕燃焼部の床面や側壁は地山からなり、酸化のため赤く変色し硬化している。

〔主軸方位〕N64°　E

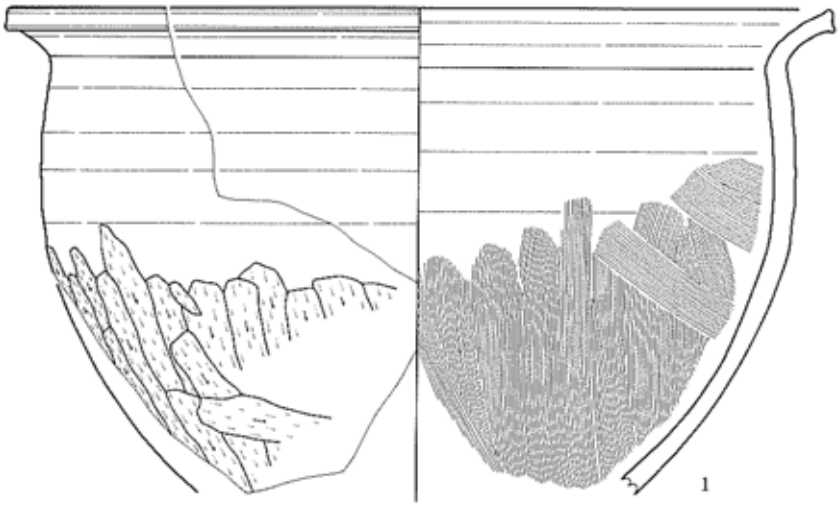
〔窯の規模〕全長6.0m以上

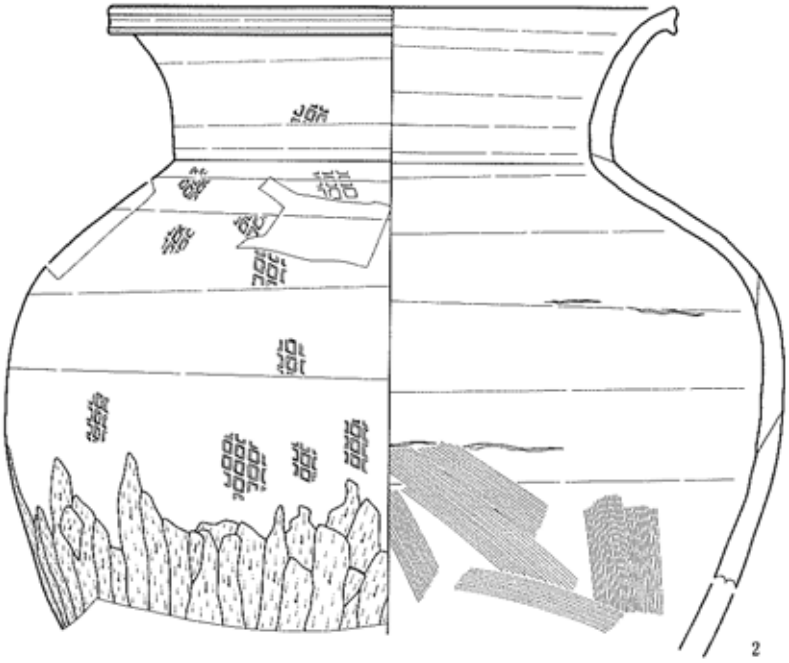
燃焼部・長さ1.1m以上　幅0.7m

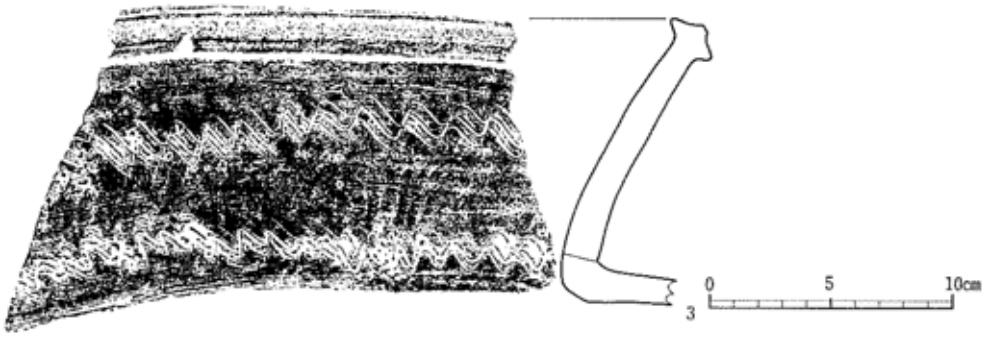



| 層No. | 土色・土性 | 混入物等 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 1 | 黒褐色（10YR2/1）シルト | 礫 | 自然流入土 |
| 2 | 灰白色火山灰 | | |
| 3 | 灰黄褐色（10YR4/2）砂質シルト | 礫多量 | 窯を埋戻した土 |
| 4 | にぶい黄褐色（10YR4/2）砂質シルト | 礫 | |
| 5 | にぶい黄褐色（10YR5/4）砂質シルト | 礫 | |
| 6 | 褐色（10YR4/4）シルト | 焼土・炭化物少量 | |
| 7 | 褐色（10YR4/4）シルト | 焼土・炭化物多量 | |
| 8 | にぶい黄褐色（10YR5/3）粘土 | 焼土ブロック多量 | 天井崩落土 |
| 9 | 黒色 | 木炭層 | 空焚きに伴う堆積層 |

第4図　SR1窯跡




（単位：cm）

| No. | 種別 | 層位 | 特徴 | 口径 | 底径 | 器高 | 残存率 | 分類 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器・鉢 | 堆積土 | 外面：ロクロナデ→ヘラケズリ→一部ナデ　内面：ロクロナデ→ナデ | (33.7) | － | － | 一部 | | |
| 2 | 須恵器・壺 | 堆積土 | 外面：斜格子タタキ→ロクロナデ、ヘラケズリ　内面：アテ具不明→ロクロナデ、ヘラナデ | (23.4) | － | － | 3/5 | ⅠA | 8－6 |
| 3 | 須恵器・壺 | 堆積土 | 外面：平行タタキ→ロクロナデ→波状沈線（2段）　内面：アテ具不明→ロクロナデ、ナデ | － | － | － | 一部 | Ⅱ | 8－4 |

第5図　SR1 窯跡出土遺物

残存高0.6m

〔出土遺物〕須恵器坏・埦・蓋・鉢・甕などがある(第5図)。生焼け状態のものや焼き歪んだ不良品が多い。

**ＳＲ2窯跡**（第6～8図）

須恵器を焼成した地下式窖窯である。燃焼部の一部と前庭部は削平されている。ＳＫ4 土壙・溝跡と重複し、双方より古い。

〔天井部〕すべて窯体内に崩落している。地山の粘土で、内側は青灰色の還元面で硬化しており、外側は赤褐色に変化している。

〔焼成部〕床面は5枚確認している(第8図)。下から順に一～五次床面とする。いずれも平坦で、約26°傾斜する。一次床面は地山からなり、酸化して赤く変色している。還元面がなく硬い面もないことから、一次床面は製品を焼成する前段階に窯内部の湿気を取るための空焚きにともなうものと考えられる。二～五次床面は、それぞれ前段階の床面およびその堆積層の上に砂を薄く敷いて整えられている。各床面の表面は還元状態であるが、硬化せずザラザラしている。四次と五次の床面は全体で認められるが、二・三次床面は焼成部前側でのみ認められる。

このうち四次と五次の床面上には焼台として使用された須恵器が残されていた(第7図)。焼台は坏を転用しているものが主体で、他に蓋や甕の破片がある。坏転用焼台は伏せた状態で置かれており、完形品は少なく半分ほどに割り、口縁部を斜面下方に向けている。同じ床面同士、また四次床面と五次床面の焼台が接合するケースがある。蓋転用焼台は内面を上に向けて置かれており、その際つまみは除去されている。焼台の設置状況をみると、五次床面では焼成部の下位に空白箇所がある。四次床面の場合は残存状況が悪いが、比較的残りの良い焼成部下位では中央の空白箇所を囲むように焼台が置かれている。

奥壁は地山からなり、内側は青灰色の還元面で硬化しており、外側は赤褐色に変化している。側壁も一～三次床面の段階では地山をそのまま壁とし、表面は青灰色の還元面で硬化しており、外側は赤褐色に変化している。四・五次床面の段階はスサ入り粘土で補修されている。

〔燃焼部〕燃焼部の床面は5枚あり、それぞれ焼成部の床面に対応する(第8図)。床面はいずれも平坦で、焼成部の斜面から傾斜を変えて移行する。

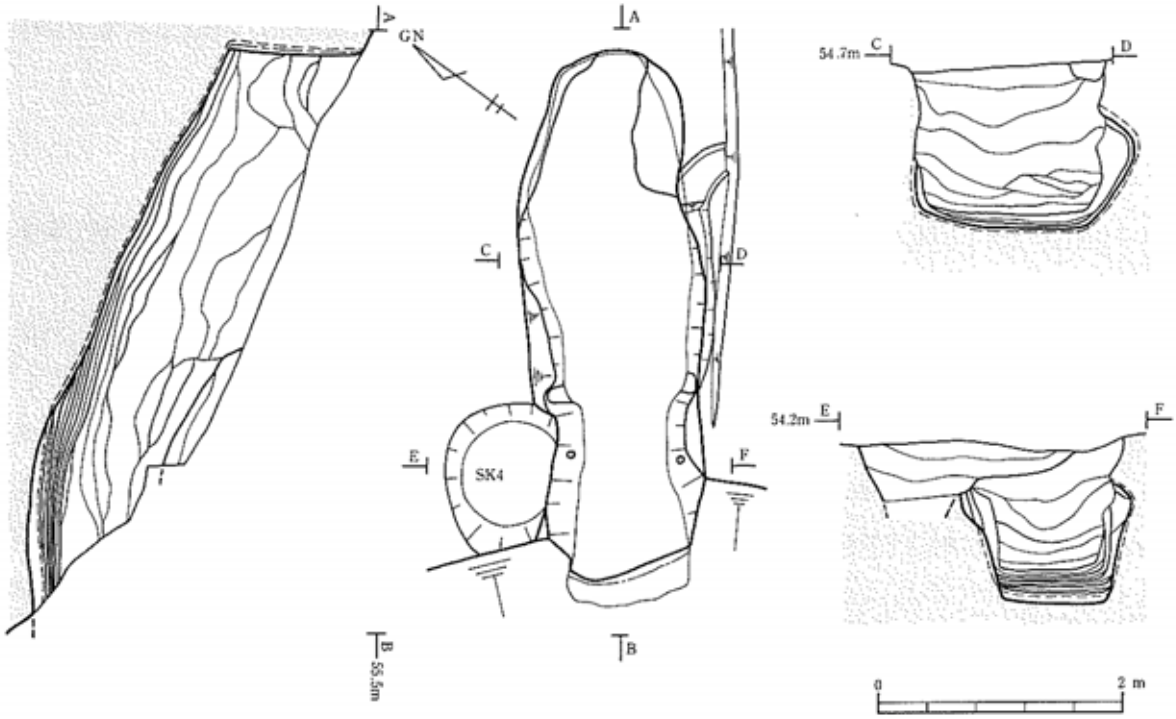
一次床面は掘方埋土からなり、酸化のため赤く変色し硬化している。二～五次床面は前段階の床面およびその堆積層（炭化物主体）の上に砂を薄く敷いて整えられている。各床面の表面は還元もしくは酸化して硬化している。

側壁は一・二次床面の段階では地山をそのまま壁とし、表面は還元で硬化しており外側は赤褐色に変化している。三～五次床面の段階はスサ入り粘土で補修されている。

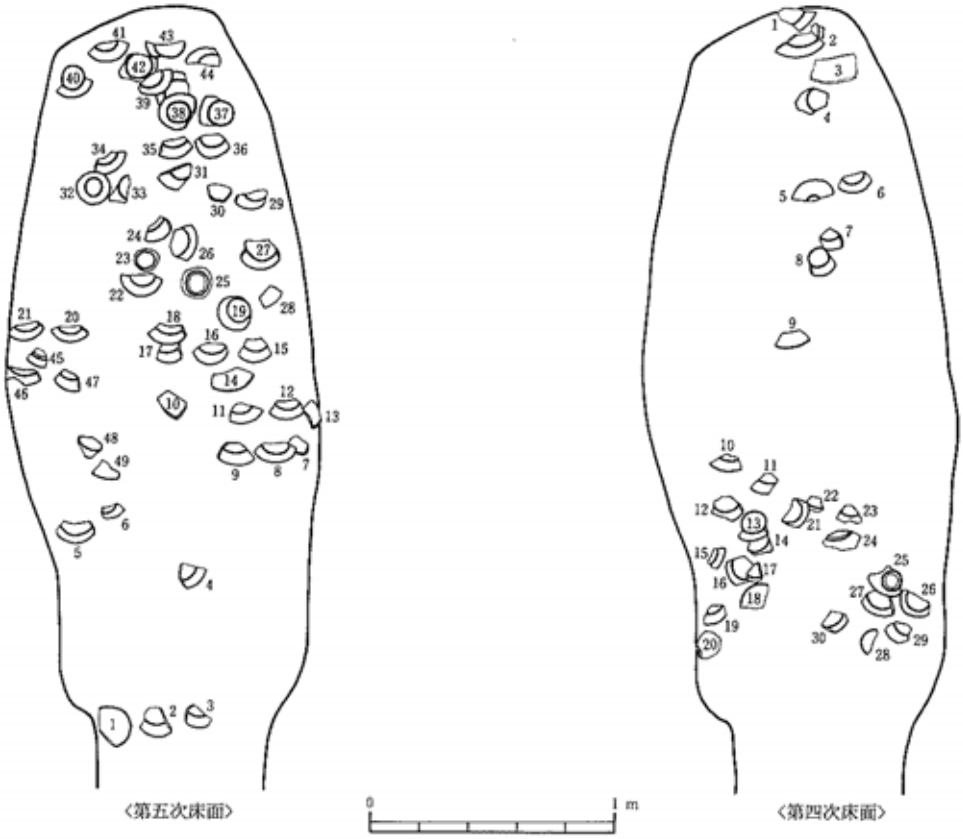
〔主軸方位〕N55°E

〔窯の規模〕全長4.5m以上

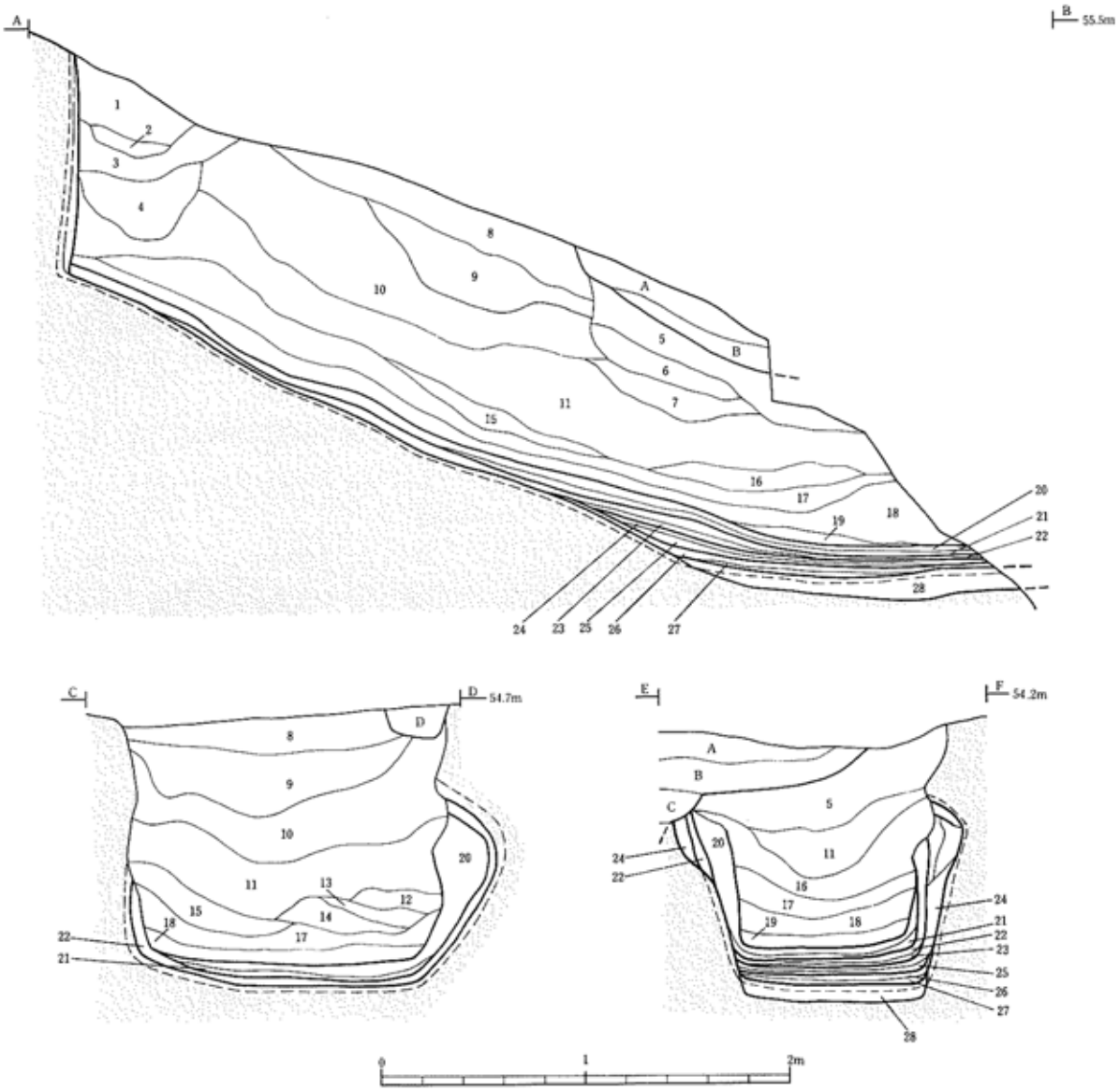
焼成部・長さ2.9m　幅(五次床面)1.5m　残存高1.0m




第6図　SR2 窯跡




第7図　SR2 窯跡　五次床面と四次床面上の焼台出土状況



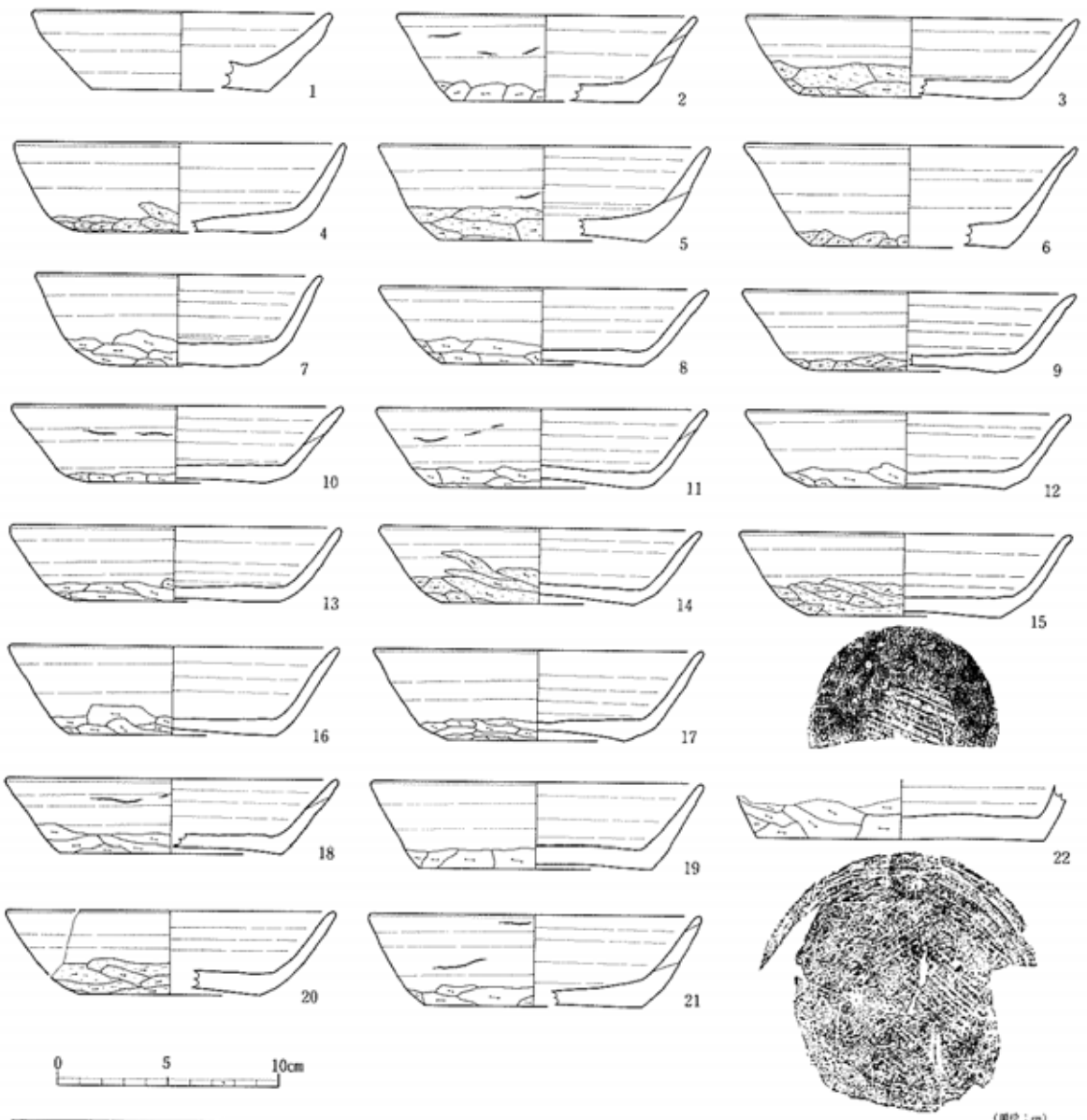

| 層No | 土色・土性 | 混入物等 | 備考 | 層No | 土色・土性 | 混入物等 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1～4 | 褐色（10YR4/4）粘土質シルト | 焼土・礫 | 壁出し付近の天井崩落土とその後の流入土 | 23 | 黒褐色（5YR2/2）シルト | 焼土・炭化物多量 | 三次床面上堆積層 |
| 5～7 | 青灰色（10BG5/1）粘土　など | 焼土・還元土多量 | 天井・側壁崩落土 | 24 | 暗緑褐色（7.5GY4/1）砂・粘土 | 貼壁はスサ入り粘土 | 三次床面貼床・貼壁 |
| 8～11 | 暗褐色（7.5YR3/4）粘土シルト | 礫多量、焼土 | 自然流入土 | 25 | 黒褐色（5YR2/2）シルト | 焼土・炭化物多量 | 二次床面上堆積層 |
| 12～15 | 青灰色（10BG5/1）粘土　など | 焼土・還元土多量 | 天井・側壁崩落土 | 26 | 灰色（10YR5/1）粘土　など | 上面に砂 | 二次床面貼床 |
| 16・17 | 暗青灰色（5BG4/1）粘土　など | 焼土・炭化物・還元土 | 天井・側壁崩落土 | 27 | 暗赤褐色（5YR3/4）砂質粘土 | 焼土・炭化物 | 一次床面上堆積層 |
| 18・19 | 黒褐色（5YR2/2）シルト | 1944木炭層 | 五次床面上堆積層 | 28 | 明黄褐色粘土（地山ブロック） | 焼土・炭化物 | 掘方埋土 |
| 20 | 青黒色（5BG2/1）砂・粘土 | 貼壁はスサ入り粘土 | 五次床面貼床・貼壁 | A～C | 暗褐色～黄褐色シルト | | ＳＫ４土壙埋土 |
| 21 | 黒褐色（5YR2/2）シルト | 焼土・炭化物多量 | 四次床面上堆積層 | D | 暗褐色（10YR3/3）シルト | | 溝埋土 |
| 22 | 灰色（10YR5/1）砂・粘土 | 貼壁はスサ入り粘土 | 四次床面貼床・貼壁 | | | | |

第８図　SR2 窯跡　床面の変遷と堆積層

（四次床面）1.6m

燃焼部・長さ 1.6m以上　幅 0.7～0.8m　残存高（五次床面）0.6m

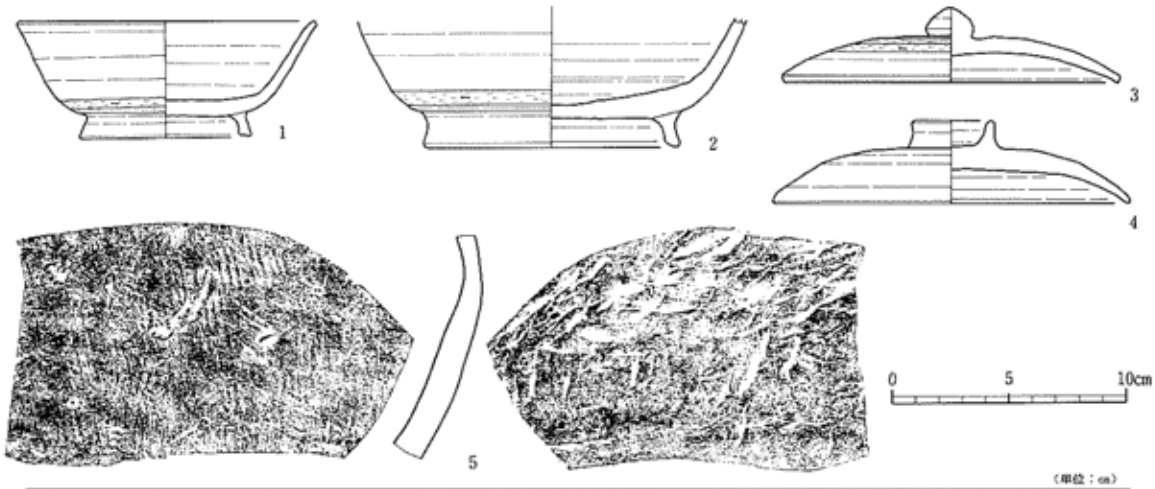
（四次床面）0.8m




（単位：cm）

| No. | 種別 | 層位 | 特徴 | 口径 | 底径 | 器高 | 残存率 | 分類 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器・坏 | 三次床面 | 外面：ottff→手持ちへけず（底部）　内面：ottff　全体に厚手で作りが雑拙 | (13.5) | (8.0) | (3.6) | 1/4 | ⅠCb | |
| 2 | 須恵器・坏 | 三次床面 | 外面：ottff→軽い手持ちへけず　内面：ottff,立上り部に軽いハあての痕跡　全体に厚手で作りが雑拙 | (13.4) | 8.4 | 4.0 | 2/5 | ⅢBb | |
| 3 | 須恵器・坏 | 三次床面 | 外面：ottff→手持ちへけず　内面：ottff,立上り部にハあての痕跡、夫摩あり（底部）　全体に厚手で作りが雑拙 | (15.0) | (10.0) | 3.6 | 2/5 | ⅠCb | |
| 4 | 須恵器・坏 | 三次床面 | 外面：ottff→静止糸切り→手持ちへけず　内面：ottff,立上り部に軽いハあての痕跡　全体に厚手で作りが雑拙 | (14.9) | (9.6) | 4.1 | 1/4 | ⅠBb | |
| 5 | 須恵器・坏 | 三次床面 | 外面：ottff→静止糸切り→手持ちへけず　内面：ottff,立上り部にハあての痕跡　全体に厚手で作りが雑拙 | (14.8) | (8.4) | 4.3 | 2/5 | ⅠBb | |
| 6 | 須恵器・坏 | 三次床面 | 外面：ottff→手持ちへけず　内面：ottff　全体に厚手で作りが雑拙 | (15.0) | (9.9) | 4.6 | 1/4 | ⅢBb | |
| 7 | 須恵器・坏 | 四次床面焼台No.8 | 外面：ottff→軽い手持ちへけず　内面：ottff,立上り部にハあての痕跡 | (12.9) | (7.6) | 4.2 | 1/2 | ⅡBb | 6－4 |
| 8 | 須恵器・坏 | 四次床面焼台No.14 | 外面：ottff→静止糸切り→軽い手持ちへけず　内面：ottff,立上り部に軽いハあての痕跡 | (14.9) | (9.2) | 3.5 | 2/5 | ⅠCb | |
| 9 | 須恵器・坏 | 四次床面焼台No.7 | 外面：ottff→静止糸切り→手持ちへけず　内面：ottff,立上り部にハあての痕跡 | (15.0) | (8.0) | 3.6 | 1/4 | ⅠCb | |
| 10 | 須恵器・坏 | 四次床面焼台No.18 | 外面：ottff→軽い手持ちへけず　内面：ottff,立上り部にハあての痕跡 | (15.0) | (8.0) | 3.5 | 3/5 | ⅠCb | |
| 11 | 須恵器・坏 | 四次床面焼台No.2A | 外面：ottff→軽い手持ちへけず　内面：ottff,立上り部に軽いハあての痕跡 | (14.8) | (10.0) | 3.6 | 1/4 | ⅠCb | |
| 12 | 須恵器・坏 | 四次床面焼台No.13 | 外面：ottff→静止糸切り→手持ちへけず　内面：ottff | (14.6) | (9.9) | 3.5 | 1/4 | ⅠCb | |
| 13 | 須恵器・坏 | 四次床面焼台No.1 | 外面：ottff→手持ちへけず（底部）、軽い手持ちへけず　内面：ottff,立上り部にハあての痕跡 | (14.8) | (9.7) | 3.4 | 1/2 | ⅠCb | |
| 14 | 須恵器・坏 | 四次床面焼台No.10 | 外面：ottff→静止糸切り→手持ちへけず,軽い手持ちへけず（底部）　内面：ottff,立上り部に軽いハあての痕跡 | (14.6) | (9.9) | 3.5 | 1/2 | ⅠCb | |
| 15 | 須恵器・坏 | 四次床面焼台No.21 | 外面：ottff→静止糸切り→手持ちへけず,軽い手持ちへけず(底部)　内面：ottff,立上り部にハあの痕跡　底部が厚手 | (15.0) | (8.6) | 3.8 | 2/5 | ⅠBb | |
| 16 | 須恵器・坏 | 四次床面焼台No.28 | 外面：ottff→手持ちへけず,軽い手持ちへけず　内面：ottff,立上り部に軽いハあての痕跡 | (14.8) | (9.4) | 4.0 | 2/5 | ⅠCb | |
| 17 | 須恵器・坏 | 四次床面焼台No.6 | 外面：ottff→静止糸切り→軽い手持ちへけず　内面：ottff,立上り部に軽いハあの痕跡　五次床焼台No.47と同一個体 | (14.8) | (7.8) | 4.1 | 1/2 | ⅠCb | |
| 18 | 須恵器・坏 | 四次床面焼台No.30 | 外面：ottff→静止糸切り→軽い手持ちへけず　内面：ottff,立上り部にハあての痕跡　全体に作りが雑拙 | (15.0) | (10.0) | 3.4 | 2/5 | ⅠCb | |
| 19 | 須恵器・坏 | 四次床面焼台No.26 | 外面：ottff→軽い手持ちへけず　内面：ottff,立上り部に軽いハあての痕跡　全体に厚手で作りが雑拙 | 15.0 | 10.5 | 3.9 | 1/2 | ⅠCb | |
| 20 | 須恵器・坏 | 四次床面焼台No.19 | 外面：ottff→静止糸切り→手持ちへけず　内面：ottff　全体に厚手で作りが雑拙 | (15.0) | (8.2) | 3.8 | 1/4 | ⅠCb | |
| 21 | 須恵器・坏 | 四次床面焼台No.29 | 外面：ottff→軽い手持ちへけず　内面：ottff,立上り部に軽いハあての痕跡　全体に厚手で作りが雑拙 | (14.9) | (9.8) | 4.1 | 2/5 | ⅠCb | |
| 22 | 須恵器・坏? | 四次床面焼台No.20 | 外面：ottff→静止糸切り→軽い手持ちへけず　内面：ottff　全体に厚手で作りが雑拙 | － | (11.0) | － | 一部 | | |

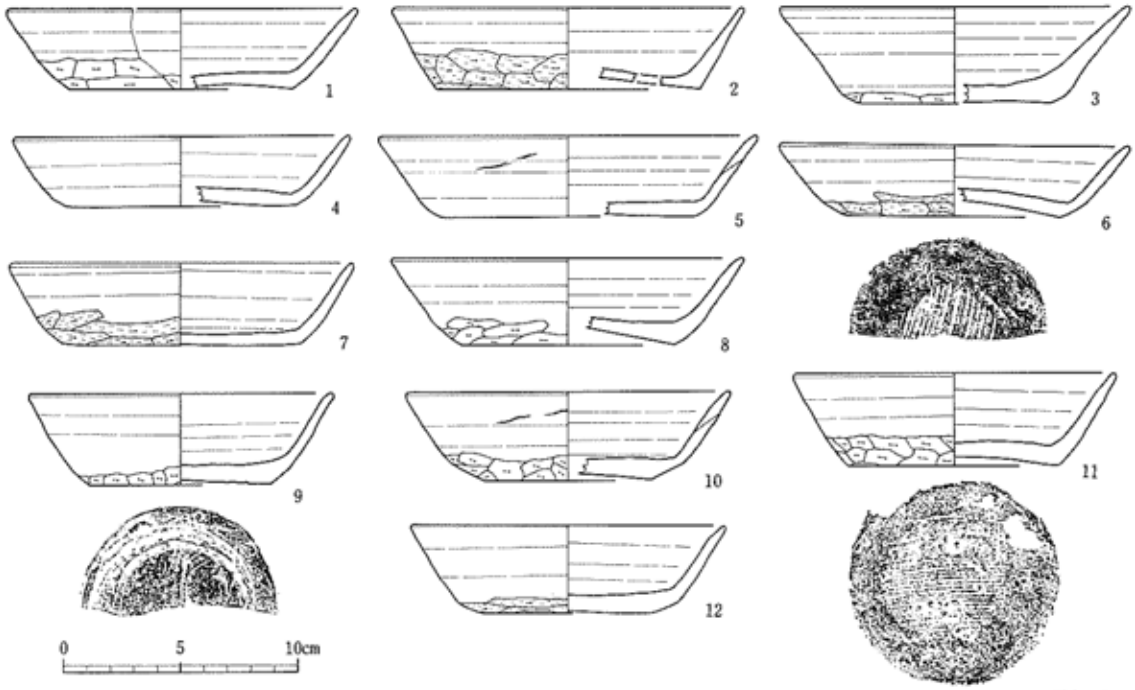
第９図　SR2 竈跡　三次床面出土遺物と四次床面上の焼台（１）




（単位：cm）

| No | 種　別 | 層　位 | 特　徴 | 口　径 | 底　径 | 器　高 | 残存率 | 分　類 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器・高台坏 | 四次床面焼台No.25 | 外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ→高台接合後ロクロナデ　内面：ロクロナデ | (12.7) | 6.3 | (5.0) | 1/2 | Ⅱ B | 6－8 |
| 2 | 須恵器・高台坏 | 四次床面焼台No.24 | 外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ→高台接合後ロクロナデ　内面：ロクロナデ　全体に厚手で作りが雑拙 | － | (10.8) | － | － 部 | | |
| 3 | 須恵器・坏蓋 | 四次床面焼台No.18 | 宝珠形つまみ（径：2.1cm）　外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ→つまみ接合後ロクロナデ　内面：ロクロナデ | (14.2) | － | 3.2 | 2/5 | Ⅱ A | 6－9 |
| 4 | 須恵器・坏蓋 | 四次床面焼台No.5 | リング状つまみ（径：3.5cm）　外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ→つまみ接合後ロクロナデ　内面：ロクロナデ | (15.2) | － | (3.5) | 1/2 | Ⅰ | 6－10 |
| 5 | 須恵器・甕 | 四次床面焼台No.3 | 外面：平行タタキ→ナデ　内面：無文アテ具→ナデ　五次床面焼台No.10と同一個体 | － | － | － | － 部 | | |

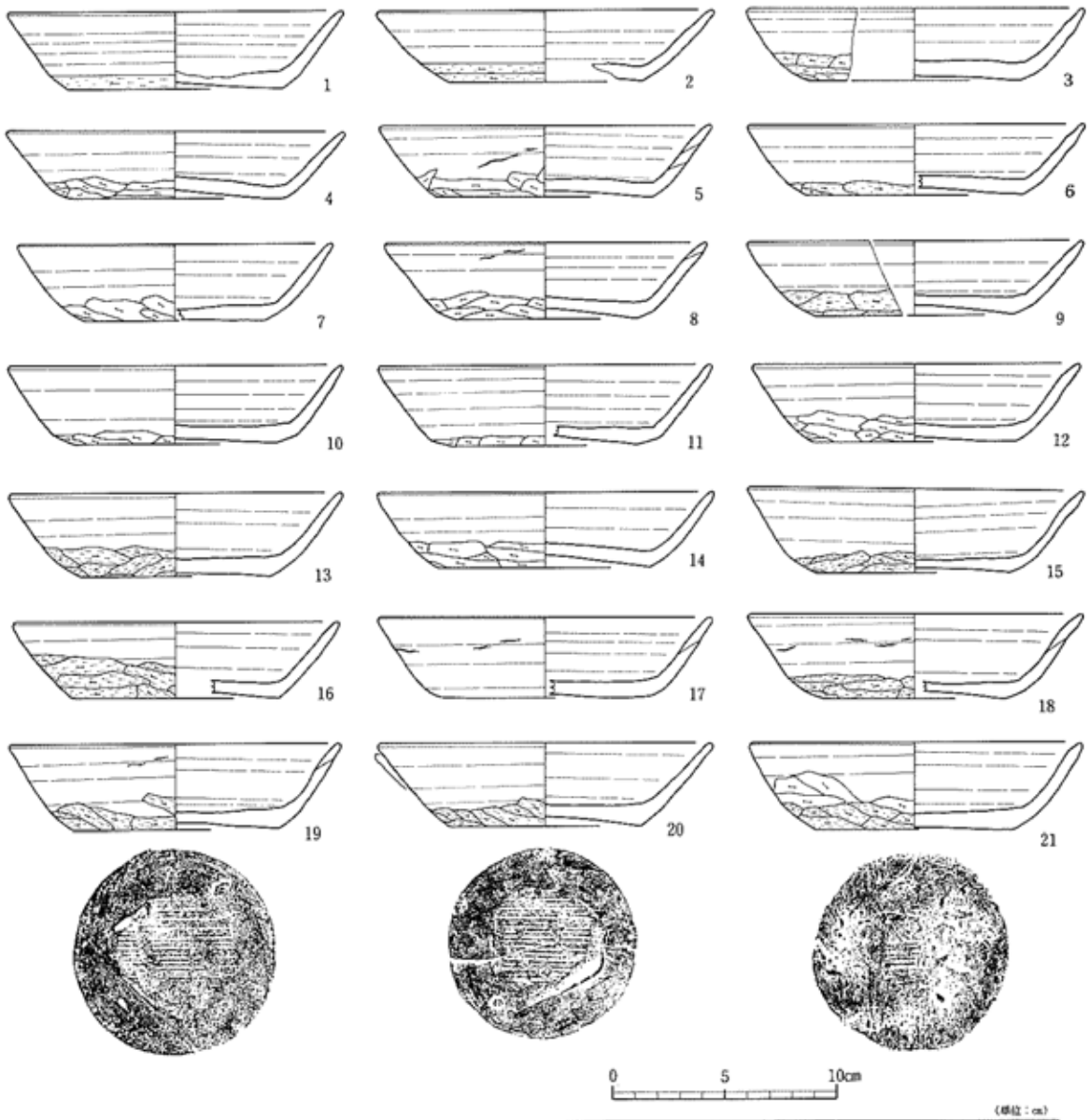
第10図　SR2 窯跡　四次床面の焼台（2）




（単位：cm）

| No | 種　別 | 層　位 | 特　徴 | 口　径 | 底　径 | 器　高 | 残存率 | 分　類 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器・坏 | 四次床面 | 外面：ロクロナデ→静止糸切り→軽い手持ちヘラケズリ　内面：ロクロナデ | (15.0) | (3.5) | 3.5 | 1/4 | Ⅰ C1b | |
| 2 | 須恵器・坏 | 四次床面 | 外面：ロクロナデ→静止糸切り→手持ちヘラケズリ　内面：ロクロナデ　作りが雑拙 | (15.0) | (11.2) | 3.5 | 2/5 | Ⅰ C1b | |
| 3 | 須恵器・坏 | 四次床面 | 外面：ロクロナデ→静止糸切り→手持ちヘラケズリ(底部)、軽い手持ちヘラケズリ　内面：ロクロナデ　全体に厚手で作りが雑拙 | (15.0) | (8.1) | (4.1) | 1/4 | Ⅱ B1b | |
| 4 | 須恵器・坏 | 五次床面中 | 外面：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ　内面：ロクロナデ、立上り部にヘラあての痕跡 | (14.4) | (9.8) | 3.9 | 2/5 | Ⅰ C b | |
| 5 | 須恵器・坏 | 五次床面中 | 外面：ロクロナデ→静止糸切り→手持ちヘラケズリ(底部周縁)、ナデ(体部下端)　内面：ロクロナデ、立上り部に軽いヘラあての痕跡 | (16.0) | (10.8) | 3.4 | 1/4 | Ⅰ C1b | |
| 6 | 須恵器・坏 | 焼成部五次床面中 | 外面：ロクロナデ→静止糸切り→手持ちヘラケズリ、軽い手持ちヘラケズリ(底部)　内面：ロクロナデ、立上り部にヘラあての痕跡 | (14.8) | (9.0) | (3.0) | 2/5 | Ⅰ C1b | |
| 7 | 須恵器・坏 | 五次床面中 | 外面：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ　内面：ロクロナデ、立上り部にヘラあての痕跡 | (14.6) | (10.2) | 3.5 | 2/5 | Ⅰ C3b | |
| 8 | 須恵器・坏 | 五次床面中 | 外面：ロクロナデ→軽い手持ちヘラケズリ　内面：ロクロナデ　全体に厚手で作りが雑拙 | (15.0) | (9.0) | 3.7 | 1/4 | Ⅰ C b | |
| 9 | 須恵器・坏 | 五次床面焼台No.12 | 外面：ロクロナデ→軽い手持ちヘラケズリ→沈線（底部）　内面：ロクロナデ　底部が厚手 | (13.0) | (7.7) | 3.9 | 2/5 | Ⅱ B3b | |
| 10 | 須恵器・坏 | 五次床面焼台No.15 | 外面：ロクロナデ→静止糸切り→軽い手持ちヘラケズリ　内面：ロクロナデ、立上り部にヘラあての痕跡　底部が厚手 | (13.8) | (7.2) | 3.8 | 2/5 | Ⅱ B1b | |
| 11 | 須恵器・坏 | 五次床面焼台No.80 | 外面：ロクロナデ→静止糸切り→軽い手持ちヘラケズリ　内面：ロクロナデ、立上り部にヘラあての痕跡　全体に厚手で作りが雑拙 | (13.8) | 9.0 | 4.0 | 1/2 | Ⅱ B1b | |
| 12 | 須恵器・坏 | 五次床面焼台No.32 | 外面：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ　内面：ロクロナデ、立上り部にヘラあての痕跡　底部が厚手 | 13.4 | 7.2 | 3.8 | 3/5 | Ⅱ B3b | 6－3 |

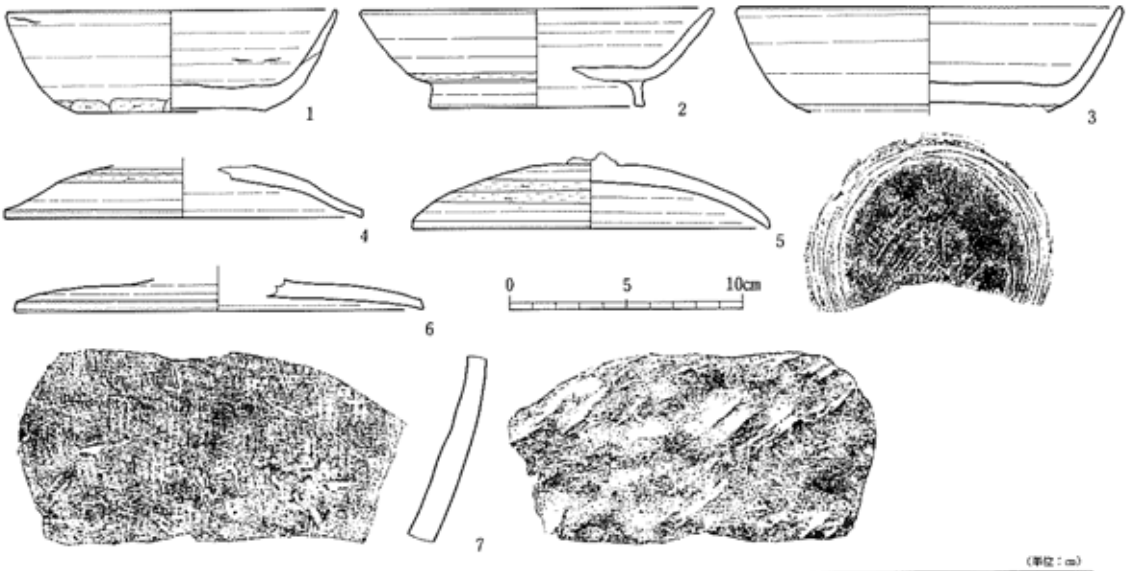
第11図　SR2 窯跡　四次床面、五次床面中出土遺物と五次床面上の焼台（1）




（単位：cm）

| No. | 種別 | 層位 | 特徴 | 口径 | 底径 | 器高 | 残存率 | 分類 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器・坏 | 五次床面焼台No.17 | 外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ　内面：ロクロナデ | (15.0) | (9.6) | 3.5 | 2/5 | ⅠC3a | |
| 2 | 須恵器・坏 | 五次床面焼台No.7 | 外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ　内面：ロクロナデ | (15.0) | (8.6) | 3.2 | 1/4 | ⅠC a | |
| 3 | 須恵器・坏 | 五次床面焼台No.31 | 外面：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ　内面：ロクロナデ、立上り部にヘラあての痕跡 | (14.8) | (9.4) | 3.2 | 1/4 | ⅠB3b | |
| 4 | 須恵器・坏 | 五次床面焼台No.16 | 外面：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ（底部）,軽い手持ちヘラケズリ　内面：ロクロナデ、立上り部にヘラあての痕跡 | (15.1) | (9.8) | (3.0) | 2/5 | ⅠB3b | |
| 5 | 須恵器・坏 | 五次床面焼台No.38 | 外面：ロクロナデ→静止糸切り→軽い手持ちへけずり →ヘラ記号「｜」(底部)　内面：ナデ,立上り部にヘラあての痕跡 | 14.8 | 9.6 | 3.2 | 完形 | ⅠC1b | |
| 6 | 須恵器・坏 | 五次床面焼台No.20A | 外面：ロクロナデ→静止糸切り→手持ちヘラケズリ　内面：ロクロナデ | (15.0) | (9.6) | 3.2 | 1/4 | ⅠC1b | |
| 7 | 須恵器・坏 | 五次床面焼台No.29 | 外面：ロクロナデ→軽い手持ちヘラケズリ　内面：ロクロナデ、立上り部に軽いヘラあての痕跡 | (14.1) | (8.1) | 3.5 | 2/5 | ⅠC3b | |
| 8 | 須恵器・坏 | 五次床面焼台No.18 | 外面：ロクロナデ→静止糸切り？→軽い手持ちヘラケズリ　内面：ロクロナデ、立上り部に軽いヘラあての痕跡 | (14.4) | (8.0) | 3.4 | 2/5 | ⅠC3b | |
| 9 | 須恵器・坏 | 五次床面焼台No.20B | 外面：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ　内面：ロクロナデ、立上り部にヘラあての痕跡 | (14.8) | (8.8) | 3.3 | 1/4 | ⅠC3b | |
| 10 | 須恵器・坏 | 五次床面焼台No.4 | 外面：ロクロナデ→静止糸切り→軽い手持ちヘラケズリ　内面：ロクロナデ、立上り部に軽いヘラあての痕跡 | (14.8) | (8.8) | 3.5 | 1/4 | ⅠC1b | |
| 11 | 須恵器・坏 | 五次床面焼台No.35 | 外面：ロクロナデ→静止糸切り→手持ちへけずり(底部),軽い手持ちへけずり　内面：ナデ,立上り部にヘラあての痕跡 | (14.8) | (8.2) | 3.6 | 1/2 | ⅠC1b | |
| 12 | 須恵器・坏 | 五次床面焼台No.44 | 外面：ロクロナデ→軽い手持ちヘラケズリ→ヘラ記号「｜」(底部)　内面：ロクロナデ、立上り部にヘラあての痕跡 | (14.6) | (9.1) | 3.5 | 2/5 | ⅠC3b | |
| 13 | 須恵器・坏 | 五次床面焼台No.27 | 外面：ロクロナデ→静止糸切り→手持ちヘラケズリ　内面：ロクロナデ、立上り部にヘラあての痕跡 | (14.8) | 8.4 | 3.7 | 1/2 | ⅠC1b | |
| 14 | 須恵器・坏 | 五次床面焼台No.9 | 外面：ロクロナデ→静止糸切り→軽い手持ちヘラケズリ　内面：ロクロナデ、立上り部に軽いヘラあての痕跡 | (15.0) | (9.4) | 3.9 | 2/5 | ⅠC1b | |
| 15 | 須恵器・坏 | 五次床面焼台No.43 | 外面：ロクロナデ→静止糸切り→手持ちヘラケズリ、軽い手持ちヘラケズリ（底部）　内面：ロクロナデ | (15.0) | 8.6 | (3.8) | 1/2 | ⅠC3b | |
| 16 | 須恵器・坏 | 五次床面焼台No.39 | 外面：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ、軽い手持ちヘラケズリ（底部）　内面：ロクロナデ | (14.6) | (9.2) | 3.4 | 2/5 | ⅠC b | |
| 17 | 須恵器・坏 | 五次床面焼台No.41 | 外面：ナデ→静止糸切り→手持ちへけずり,ナデ(体部下端)　内面：ナデ,立上り部にヘラあての痕跡　5床焼台No.8と同一個体 | (15.0) | (9.4) | 3.6 | 3/5 | ⅠC1b | |
| 18 | 須恵器・坏 | 五次床面焼台No.26 | 外面：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ、軽い手持ちヘラケズリ（底部）　内面：ナデ,立上り部に軽いヘラあての痕跡 | (14.8) | (8.1) | 3.8 | 2/5 | ⅠC3b | |
| 19 | 須恵器・坏 | 五次床面焼台No.37 | 外面：ロクロナデ→静止糸切り→手持ちへけずり,軽い手持ちへけずり（底部）　内面：ナデ,立上り部にヘラあての痕跡 | 14.6 | 9.2 | 3.8 | 完形 | ⅠC1b | 6－2 |
| 20 | 須恵器・坏 | 五次床面焼台No.46 | 外面：ロクロナデ→静止糸切り→手持ちヘラケズリ　内面：ロクロナデ | (15.0) | (8.5) | 3.7 | 3/5 | ⅠC1b | |
| 21 | 須恵器・坏 | 五次床面焼台No.42 | 外面：ナデ→静止糸切り→手持ちへけずり,軽い手持ちへけずり　内面：ナデ,立上り部にヘラあての痕跡　全体に厚手で作り雑胎 | (14.4) | (8.0) | 3.9 | 3/5 | ⅠB1b | |

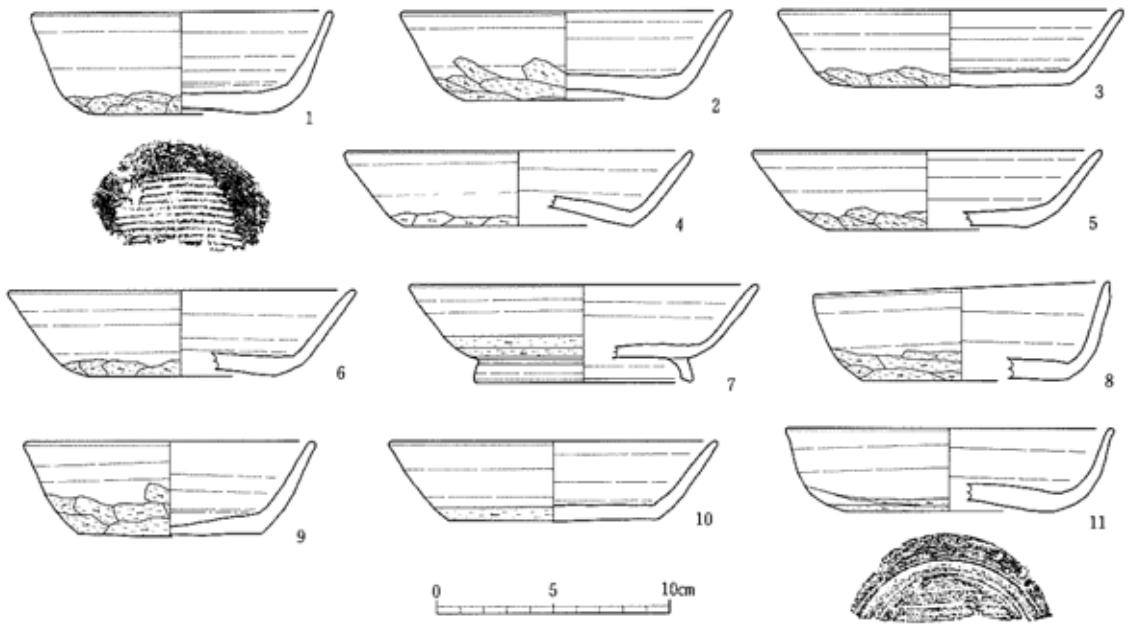
第12図　SR2 窯跡　五次床面上の焼台（2）




（単位：cm）

| No. | 種別 | 層位 | 特徴 | 口径 | 底径 | 器高 | 残存率 | 分類 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器・坏 | 五次床面焼台No.30 | 外面：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ　内面：ロクロナデ　全体的に作りが雑除 | (14.2) | (8.0) | 4.3 | 3/5 | Ⅱ A3b | |
| 2 | 須恵器・高台坏 | 五次床面焼台No.65 | 外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ→高台接合後ロクロナデ　内面：ロクロナデ　比較的高い高台が付く | (15.2) | (8.2) | 4.2 | 1/4 | Ⅰ A | |
| 3 | 須恵器・高台坏 | 五次床面焼台No.5 | 外面：ロクロナデ→静止糸切り→手持ちヘラケズリ？→接合痕跡→高台接合後ロクロナデ　内面：ロクロナデ | (16.4) | – | – | 1/2 | Ⅰ A | 6-12, 13 |
| 4 | 須恵器・坏蓋 | 五次床面焼台No.30 | 外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ→つまみ接合後ロクロナデ　内面：ロクロナデ | (15.4) | – | – | 一部 | Ⅱ B | |
| 5 | 須恵器・坏蓋 | 五次床面焼台No.1 | 宝珠形つまみ（推定）　外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ→つまみ接合後ロクロナデ　内面：ロクロナデ | (15.4) | – | – | 1/10 | Ⅱ B | |
| 6 | 須恵器・坏蓋 | 五次床面焼台No.14 | 外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ→つまみ接合後ロクロナデ　内面：ロクロナデ | (17.6) | – | – | 2/5 | Ⅱ A | |
| 7 | 須恵器・甕 | 五次床面焼台No.26 | 外面：平行タタキ→ナデ　内面：無文アテ具→ナデ　四次床面焼台No.3と同一個体 | – | – | – | 一部 | | |

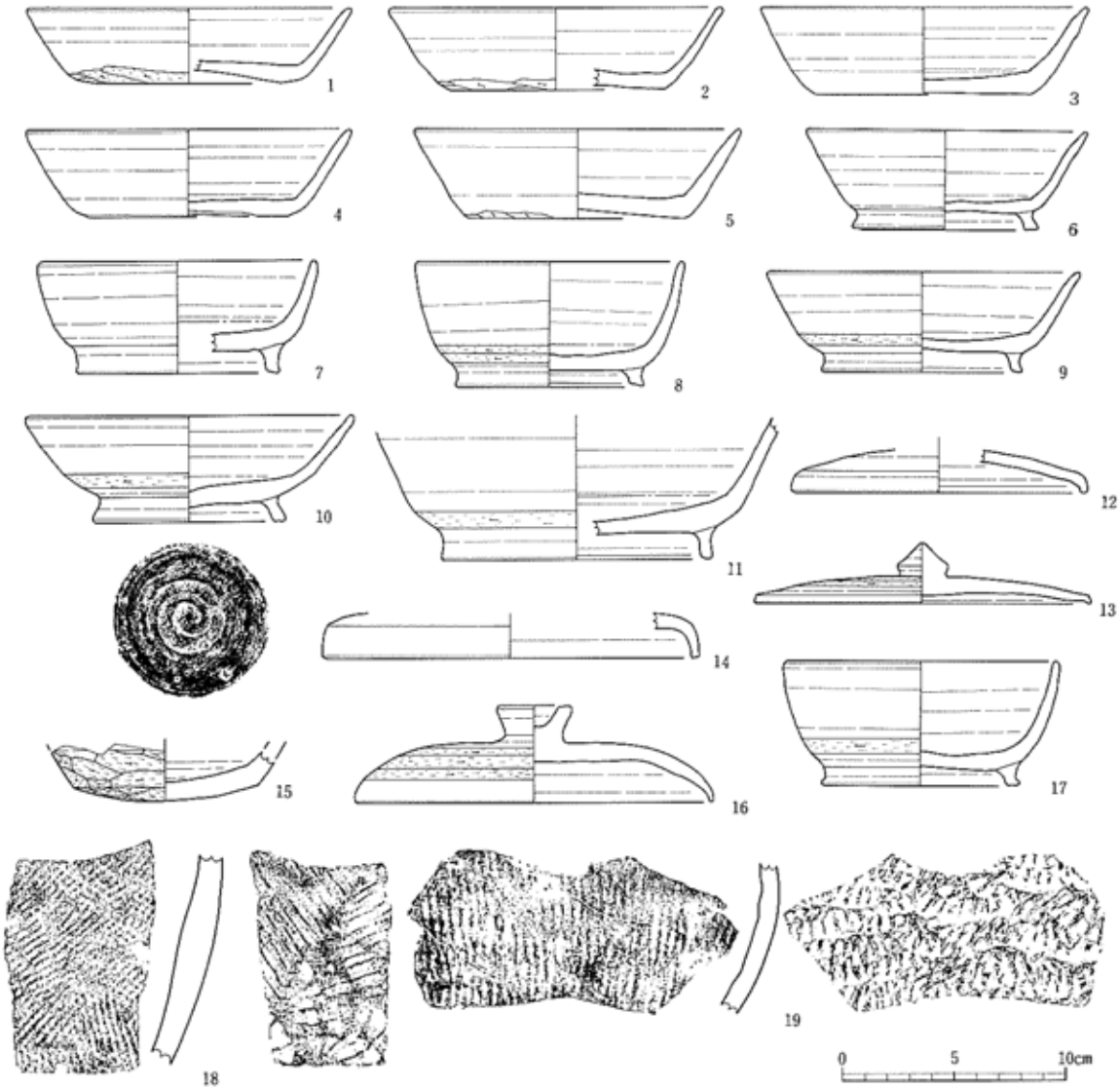
第13図　SR2 窯跡　五次床面上の焼台（3）




（単位：cm）

| No. | 種別 | 層位 | 特徴 | 口径 | 底径 | 器高 | 残存率 | 分類 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器・坏 | 五次床面 | 外面：ロクロナデ→静止糸切り→手持ちヘラケズリ　内面：ロクロナデ、立上り部にヘラあての痕跡　底部が厚手 | (13.0) | (8.0) | 4.3 | 2/5 | Ⅱ C1b | |
| 2 | 須恵器・坏 | 五次床面 | 外面：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ　内面：ロクロナデ、立上り部にヘラあての痕跡 | (14.2) | 8.6 | 3.8 | 4/5 | Ⅰ C2b | 6－1 |
| 3 | 須恵器・坏 | 五次床面 | 外面：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ　内面：ロクロナデ、立上り部にヘラあての痕跡 | (14.7) | (10.3) | 3.3 | 2/5 | Ⅰ C2b | |
| 4 | 須恵器・坏 | 五次床面 | 外面：ロクロナデ→軽い手持ちヘラケズリ　内面：ロクロナデ、立上り部にヘラあての痕跡 | (14.8) | (9.6) | (3.2) | 1/4 | Ⅰ C b | |
| 5 | 須恵器・坏 | 五次床面 | 外面：ロクロナデ→静止糸切り→手持ちヘラケズリ　内面：ロクロナデ | (15.0) | (8.6) | 3.3 | 1/4 | Ⅱ B1b | |
| 6 | 須恵器・坏 | 五次床面 | 外面：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ　内面：ロクロナデ、立上り部にヘラあての痕跡 | (15.0) | (8.1) | 3.8 | 1/4 | Ⅰ C b | |
| 7 | 須恵器・高台坏 | 五次床面 | 外面：ロクロナデ→静止糸切り→回転ヘラケズリ→高台接合後ロクロナデ　内面：ロクロナデ、立上り部に軽いヘラあての痕跡 | (14.8) | (10.4) | 4.2 | 2/5 | Ⅰ A | |
| 8 | 須恵器・坏 | 五次床面上堆積層 | 外面：ロクロナデ→静止糸切り→手持ちヘラケズリ　内面：ロクロナデ、立上り部にヘラあての痕跡 | (12.6) | (8.0) | (4.6) | 1/3 | Ⅱ C1b | |
| 9 | 須恵器・坏 | 五次床面上堆積層 | 外面：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ　内面：ロクロナデ、立上り部にヘラあての痕跡、火襷あり | (12.4) | 7.9 | 4.1 | 1/2 | Ⅱ B3b | 6－5 |
| 10 | 須恵器・坏 | 五次床面上堆積層 | 外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ　内面：ロクロナデ | (14.0) | (9.6) | 3.4 | 1/4 | Ⅱ C3a | |
| 11 | 須恵器・坏 | 五次床面上堆積層 | 外面：ロクロナデ→静止糸切り→回転ヘラケズリ　内面：ロクロナデ、立上り部にヘラあての痕跡 | (16.0) | (9.6) | 3.6 | 2/5 | Ⅱ A1a | |

第14図　SR2 窯跡　五次床面上とその堆積層出土遺物




（単位：cm）

| No. | 種別 | 層位 | 特徴 | 口径 | 底径 | 器高 | 残存率 | 分類 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器・坏 | 五次床面上堆積層 | 外面：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ　内面：ロクロナデ | (14.4) | (8.4) | 3.4 | 1/2 | ⅠC3b | |
| 2 | 須恵器・坏 | 五次床面上堆積層 | 外面：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ（底部）、軽い手持ちヘラケズリ　内面：ロクロナデ | (14.8) | (5.8) | 3.7 | 1/4 | ⅠC b | |
| 3 | 須恵器・坏 | 五次床面上堆積層 | 外面：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ（底部）　内面：ﾅﾃﾞｱﾄ、立上り部にヘラあての痕跡　全体に厚手で作りが雑拙 | (14.6) | (5.6) | 3.9 | 1/4 | ⅠC3b | |
| 4 | 須恵器・坏 | 五次床面上堆積層 | 外面：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ（底部）　内面：ロクロナデ、立上り部にヘラあての痕跡 | (14.6) | (5.6) | 3.9 | 2/5 | ⅠC3b | |
| 5 | 須恵器・坏 | 五次床面上堆積層 | 外面：ﾅﾃﾞｱﾄ→静止糸切り→軽い手持ちﾍｶﾗｹｽﾞﾘ　内面：ﾅﾃﾞｱﾄ、立上り部にヘラあての痕跡　全体に厚手で作りが雑拙 | (14.6) | (5.6) | 4.0 | 2/5 | ⅠC1b | |
| 6 | 須恵器・高台坏 | 五次床面上堆積層 | 外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ？→高台接合後ロクロナデ　内面：ロクロナデ、立上り部にヘラあての痕跡 | (12.4) | (8.4) | 4.5 | 1/3 | ⅡB | |
| 7 | 須恵器・高台坏 | 五次床面上堆積層 | 外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ→高台接合後ロクロナデ　内面：ロクロナデ、立上り部にヘラあての痕跡 | (12.4) | (9.2) | 5.1 | 2/5 | ⅡC | |
| 8 | 須恵器・高台坏 | 五次床面上堆積層 | 外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ→高台接合後ロクロナデ　内面：ロクロナデ、立上り部にヘラあての痕跡 | (12.0) | (9.5) | 5.6 | 1/2 | ⅡC | 6－6 |
| 9 | 須恵器・高台坏 | 五次床面上堆積層 | 外面：ロクロナデ→静止糸切り→回転ﾍｶﾗｹｽﾞﾘ→高台接合後ﾅﾃﾞｱﾄ　内面：ロクロナデ、立上り部にヘラあての痕跡 | (14.0) | (9.0) | 4.5 | 1/2 | ⅠA | |
| 10 | 須恵器・高台坏 | 五次床面上堆積層 | 外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ→高台接合後ロクロナデ　内面：ロクロナデ、立上り部にヘラあての痕跡 | (14.6) | (8.0) | 4.8 | 3/5 | ⅠA | |
| 11 | 須恵器・高台坏 | 五次床面上堆積層 | 外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ→高台接合後ロクロナデ　内面：ロクロナデ、立上り部にヘラあての痕跡 | － | (12.0) | － | 一部 | | |
| 12 | 須恵器・坏蓋 | 五次床面上堆積層 | 外面：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ→つまみ接合後ロクロナデ　内面：ロクロナデ | (13.6) | － | － | 2/5 | Ⅲ | |
| 13 | 須恵器・坏蓋 | 五次床面上堆積層 | 宝珠形つまみ（径：2.3cm）　外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ→つまみ接合後ロクロナデ　内面：ロクロナデ | (15.6) | － | 2.7 | 2/5 | ⅢA | |
| 14 | 須恵器・蓋 | 五次床面上堆積層 | 外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ　内面：ロクロナデ | (17.0) | － | － | 一部 | | |
| 15 | 須恵器・壺？ | 窯内堆積土 | 外面：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ　内面：ロクロナデ | － | － | － | 一部 | | |
| 16 | 須恵器・坏蓋 | 窯内堆積土 | リング状つまみ（径：3.4cm）　外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ→つまみ接合後ロクロナデ　内面：ロクロナデ | (16.0) | － | (4.3) | 1/2 | Ⅲ | 6－11 |
| 17 | 須恵器・高台坏 | 窯内堆積土 | 外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ→高台接合後ロクロナデ　内面：ロクロナデ | (12.2) | (9.0) | 5.6 | 1/2 | ⅡC | 6－7 |
| 18 | 須恵器・甕 | 窯内堆積土 | 外面：平行タタキ　内面：平行アテ具、放射状アテ具 | － | － | － | 一部 | | |
| 19 | 須恵器・甕 | 窯内堆積土 | 外面：平行タタキ→ナデ　内面：放射状アテ具 | － | － | － | 一部 | | 6－14 |

第15図　SR2 窯跡　五次床面上の堆積層と窯内堆積出土遺物

〔出土遺物〕須恵器坏・高台坏・埦・盤・蓋・甕・短頸壺・長頸壺などがある(第9～15図)。このうち、三次床面出土の坏・高台坏・蓋、四次床面および同床面上堆積土出土の坏・高台坏・蓋・甕、五次床面出土および同床面上の坏・高台坏・盤・蓋・甕が窯の製品の一部とみられる。

四・五次床面の焼台は、法量や製作技法が製品と共通するので、前段階以前の不良品が転用されたと考えられる。

**ＳＲ3窯跡**（第16図）

須恵器を焼成した地下式窖窯である。焼成部の前側と燃焼部・前庭部は削平されている。精査を行なったのは焼成部の一部である。

〔天井部〕窯体内に崩落している。地山の粘土で、内側は青灰色の還元面で硬化しており、外側は赤褐色に変化している。

〔焼成部〕床面は1枚確認している。平坦で、約13°傾斜する。側壁は天井部同様大部分が窯体内に崩落しており、残存するのは下部だけである。床面や側壁は地山からなり、表面は還元によって青灰色に硬化し、外側は赤褐色に変化している。

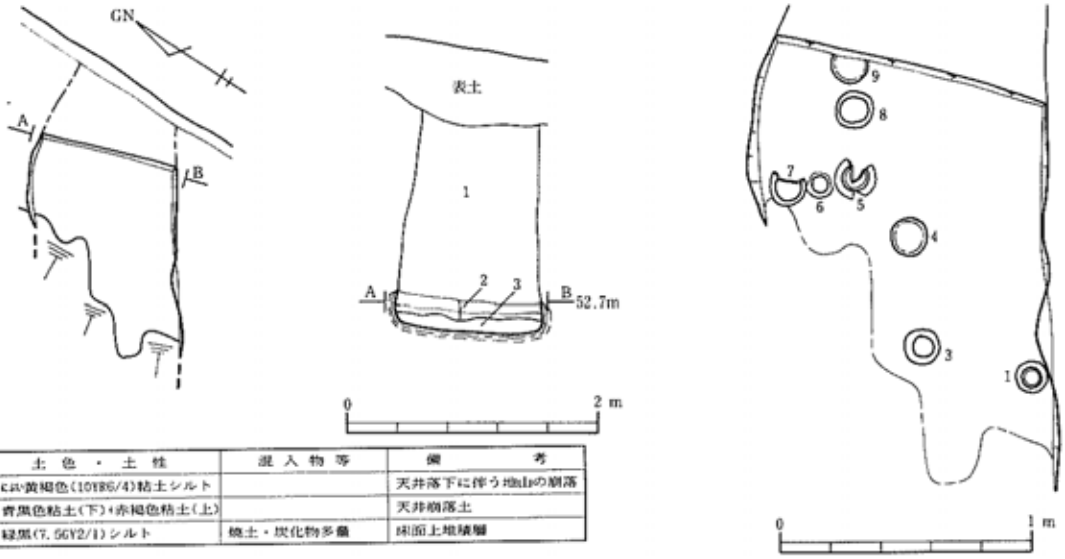
床面上には焼台として使用された須恵器が残されていた(第16図)。焼台は坏・高台坏・蓋と甕の破片を転用している。坏や高台坏の転用焼台は伏せた状態で置かれており、半欠品は斜面下方に口縁部を向けている。また、蓋も内面を上に向けて置かれており、その際つまみは除去されている（第17図18・19）。

〔主軸方位〕N58°E

〔窯の規模〕全長1.6m以上

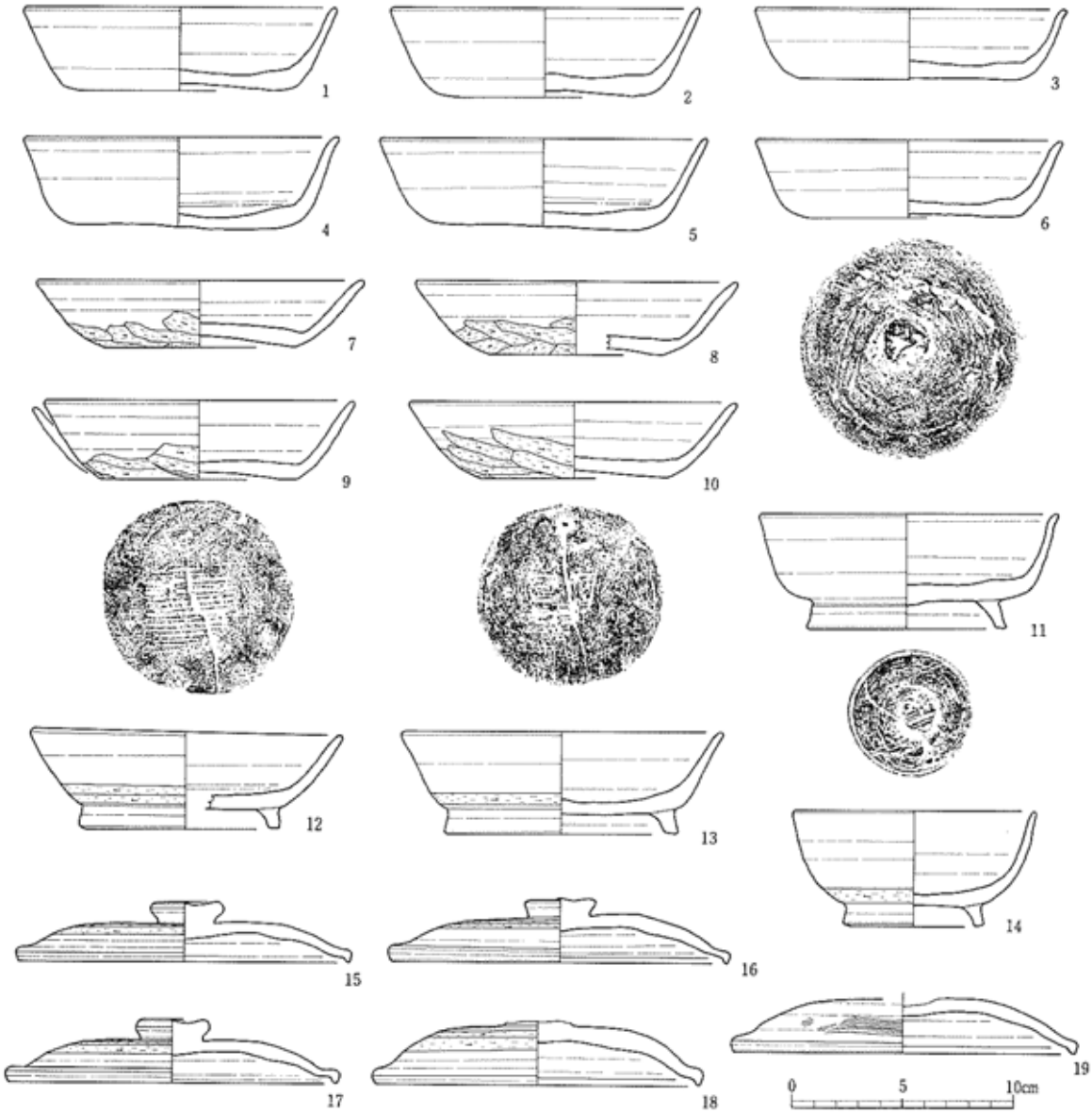
焼成部・長さ1.6m以上　幅1.2m　残存高0.4m

〔出土遺物〕須恵器坏・高台坏・蓋・甕などがある(第17～19図)。このうち、床面上堆積土出土の坏・高台坏・蓋が窯の製品の一部とみられる。さらに、焼台は法量や製作技法が製品と共通するので、前段階以前の不良品が転用されたと考えられる。




| 層No. | 土色・土性 | 混入物等 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 1 | c.a.v.黄褐色(10YR5/4)粘土シルト | | 天井落下に伴う地山の崩落 |
| 2 | 青黒色粘土(下)+赤褐色粘土(上) | | 天井崩落土 |
| 3 | 緑黒(7.5GY2/1)シルト | 焼土・炭化物多量 | 床面上堆積層 |

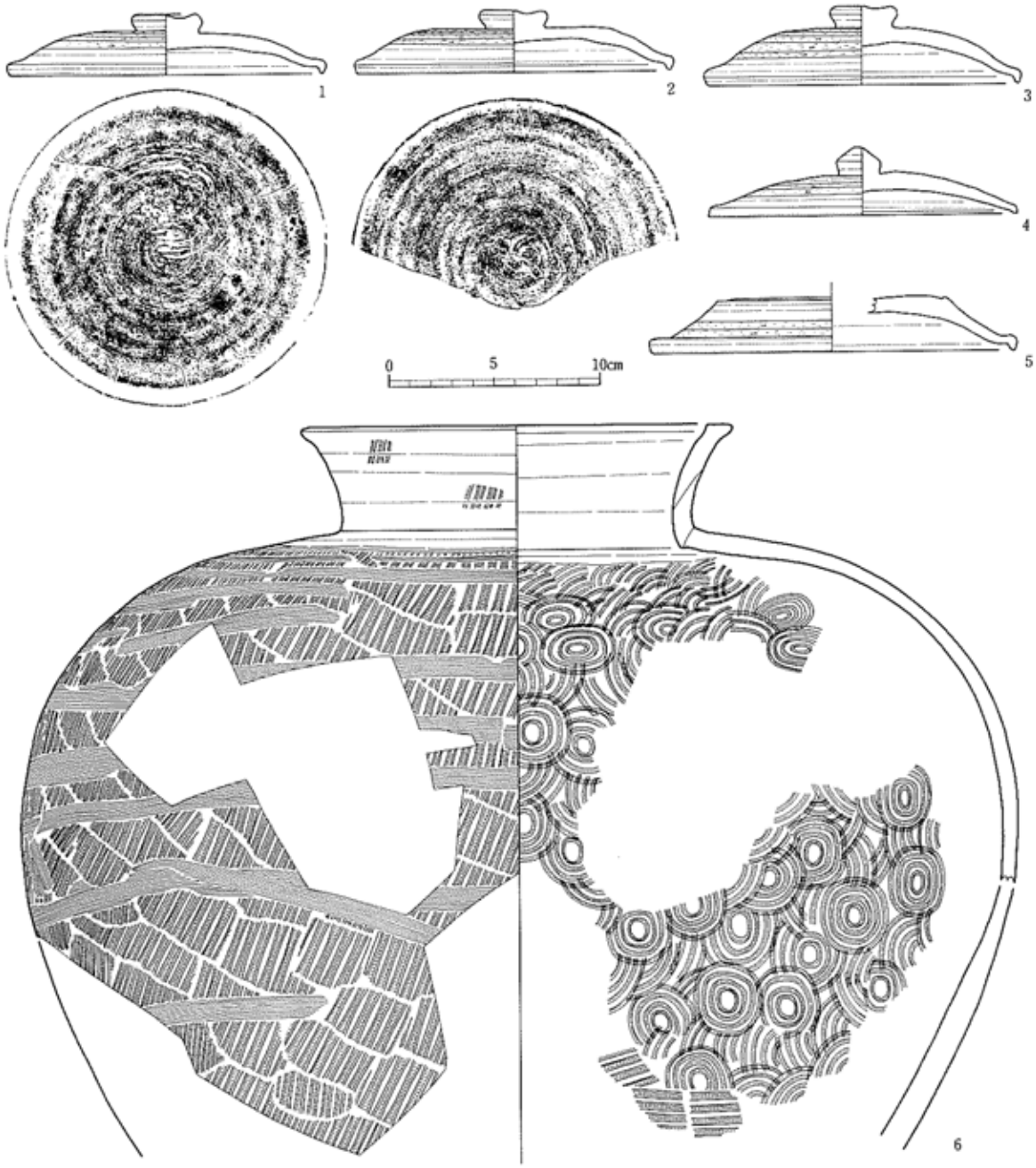
第16図　SR3窯跡と床面上の焼台出土状況




（単位：cm）

| No. | 種別 | 層位 | 特徴 | 口径 | 底径 | 器高 | 残存率 | 分類 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器・坏 | 床面 | 外面：ロクロナデ→ヘラ切り→ナデ（底部周縁）　内面：ロクロナデ | 14.0 | (10.3) | 3.8 | 1/2 | I B2 | |
| 2 | 須恵器・坏 | 床面上堆積層 | 外面：ロクロナデ→ヘラ切り→ナデ（底部周縁）　内面：ロクロナデ | (14.0) | (10.0) | 4.0 | 1/4 | I B2 | |
| 3 | 須恵器・坏 | 床面上堆積層 | 外面：ロクロナデ→ヘラ切り→ナデ（底部周縁）　内面：ロクロナデ | (14.0) | (10.0) | 3.2 | 1/3 | I B2 | |
| 4 | 須恵器・坏 | 床面上堆積層 | 外面：ロクロナデ→ヘラ切り→ナデ（底部周縁）　内面：ロクロナデ、立上り部にヘラあての痕跡 | (14.1) | (9.8) | (4.1) | 3/4 | I B2 | 7－5 |
| 5 | 須恵器・坏 | 床面上堆積層 | 外面：ロクロナデ→ヘラ切り→ナデ（底部周縁）→ヘ記号「｜」（底部）　内面：ロクロナデ、立上り部にヘラあての痕跡 | (14.6) | (9.5) | (4.0) | 完形 | I B2 | 7－2 |
| 6 | 須恵器・坏 | 焼台No.8 | 外面：ロクロナデ→ヘラ切り→ナデ（底部周縁）　内面：ロクロナデ、立上り部にヘラあての痕跡 | (13.8) | (9.7) | 3.5 | 完形 | I B2 | 7－3 |
| 7 | 須恵器・坏 | 床面上堆積層 | 外面：ロクロナデ→静止糸切り→手持ちヘラケズリ　内面：ロクロナデ | (14.8) | (8.6) | 3.0 | 2/5 | I C1b | |
| 8 | 須恵器・坏 | 床面上堆積層 | 外面：ロクロナデ→静止糸切り→手持ちヘラケズリ　内面：ロクロナデ、立上り部にヘラあての痕跡 | (14.6) | (7.8) | 3.3 | 2/5 | I C1b | |
| 9 | 須恵器・坏 | 床面上堆積層 | 外面：ロクロナデ→静止糸切り→手持ちヘケズリ →ヘ記号「｜」（体部下端）　内面：ロクロナデ、立上り部に軽いヘラあての痕跡 | (14.6) | 8.8 | 3.6 | 完形 | I C1b | 7－1 |
| 10 | 須恵器・坏 | 焼台No.3 | 外面：ロクロナデ→静止糸切り→手持ちヘケズリ →ヘ記号「｜」（底部）　内面：ロクロナデ、立上り部にヘラあての痕跡 | 14.6 | 8.4 | (3.5) | 完形 | I C1b | 7－4 |
| 11 | 須恵器・高台坏 | 焼台No.1 | 外面：ロクロナデ→ヘラ切り→回転ヘラケズリ→高台接合後ロクロナデ　内面：ロクロナデ、立上り部にヘラあての痕跡 | 13.4 | 9.0 | 5.2 | 完形 | I B | 7-7,8-1 |
| 12 | 須恵器・高台坏 | 焼台No.5 | 外面：ロクロナデ→静止糸切り→回転ヘラケズリ→高台接合後ロクロナデ　内面：ロクロナデ、立上り部に軽いヘラあての痕跡 | (14.0) | (9.0) | (4.4) | 1/2 | I A | 7-6,8-2 |
| 13 | 須恵器・高台坏 | 焼台No.7 | 外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ→高台接合後ロクロナデ　内面：ロクロナデ、立上り部に軽いヘラあての痕跡 | (14.4) | (10.0) | 4.6 | 3/5 | I A | 8－3 |
| 14 | 須恵器・高台坏 | 焼台No.6 | 外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ→高台接合後ロクロナデ　内面：ロクロナデ | (10.9) | (6.4) | 5.2 | 1/2 | II A | 7－8 |
| 15 | 須恵器・坏蓋 | 床面上堆積層 | 扁平な宝珠形つまみ（径：3.3cm）　外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ→つまみ接合後ロクロナデ　内面：ロクロナデ | 15.0 | － | (2.7) | 完形 | IV A | 7-10,8-1 |
| 16 | 須恵器・坏蓋 | 床面 | 扁平な宝珠形つまみ（径：3.2cm）　外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ→つまみ接合後ロクロナデ　内面：ロクロナデ | 15.1 | － | 2.9 | 完形 | IV A | 7-9,8-3 |
| 17 | 須恵器・坏蓋 | 焼台 | 扁平な宝珠形つまみ（径：3.3cm）　外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ→つまみ接合後ロクロナデ　内面：ロクロナデ | (14.8) | － | (2.8) | 3/5 | IV A | |
| 18 | 須恵器・坏蓋 | 焼台No.4 | 扁平な宝珠形つまみ（推定）　焼台転用時につまみを除去　外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ→つまみ接合後ロクロナデ　内面：ロクロナデ | (14.0) | － | － | 9/10 | IV B | 7－17 |
| 19 | 須恵器・坏蓋 | 焼台No.9 | 扁平な宝珠形つまみ（推定）　焼台転用時につまみを除去　外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ→つまみ接合後ロクロナデ　内面：ロクロナデ | 15.4 | － | － | 9/10 | IV B | 7－16 |

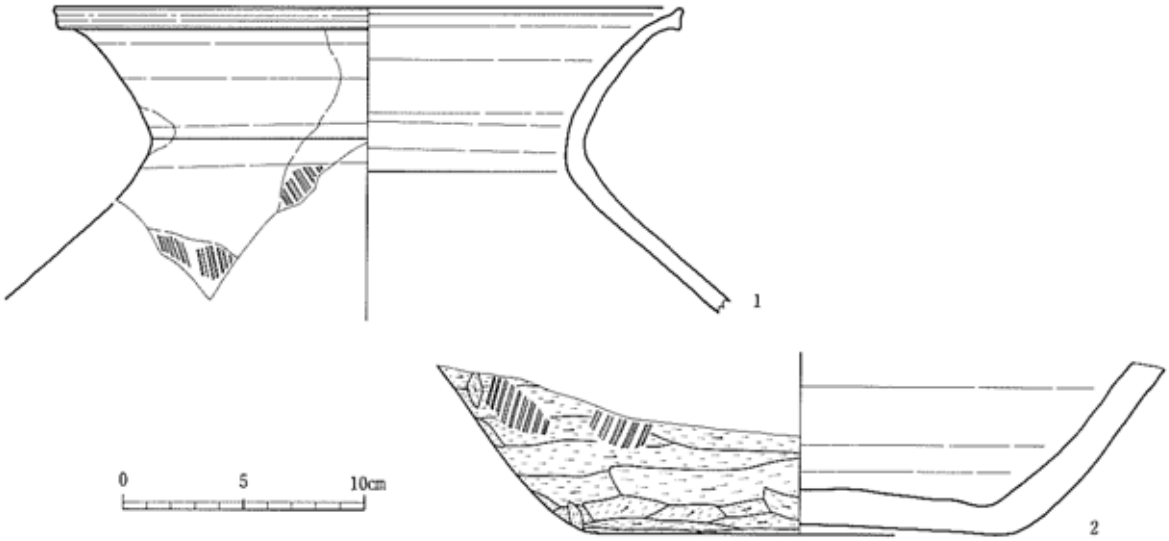
第17図　SR3 窯跡出土遺物（1）




（単位：cm）

| No. | 種別 | 層位 | 特徴 | 口径 | 底径 | 器高 | 残存率 | 分類 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器・坏蓋 | 焼台 | 扁平な宝珠形つまみ(径：3.3cm) 外面：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ→回転ﾍﾗｹｽﾘ→つまみ接合後ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 内面：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ→同心円ﾀﾀﾞ具（天井部） | (15.0) | － | 2.9 | 完形 | ⅣA | 7－11 |
| 2 | 須恵器・坏蓋 | 床面上堆積層 | 扁平な宝珠形つまみ(径：3.3cm) 外面：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ→回転ﾍﾗｹｽﾘ→つまみ接合後ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 内面：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ→同心円ﾀﾀﾞ具（天井部） | (14.8) | － | (2.9) | 1/2 | ⅣA | 7－14 |
| 3 | 須恵器・坏蓋 | 床面上堆積層 | 扁平な宝珠形つまみ(径：3.3cm) 外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ→つまみ接合後ロクロナデ 内面：ロクロナデ | 14.2 | － | 3.7 | 完形 | ⅣB | 7－12 |
| 4 | 須恵器・坏蓋 | 床面上堆積層 | 松笠形つまみ（径：2.1cm） 外面：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ→回転ﾍﾗｹｽﾘ→つまみ接合後ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 内面：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 両面に火襷あり | 14.5 | － | 3.2 | 3/5 | ⅡA | 7-15.8-2 |
| 5 | 須恵器・坏蓋 | 床面上堆積層 | 焼台に転用（←つまみ除去） 外面：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ→回転ﾍﾗｹｽﾘ→つまみ接合後ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 天井部周縁に低い稜帯 内面： ﾛｸﾛﾅﾃﾞ | 17.2 | － | － | 9/10 | ⅣC | 7－13 |
| 6 | 須恵器・甕 | 焼台、床面上堆積層 | 外面：平行ﾀﾀﾞ(木目直交) →ﾛｸﾛﾅﾃﾞ(口縁部)、横位ﾀﾀﾞ(胴部) 内面：平行ﾀﾀﾞ具（木目直交）,同心円ﾀﾀﾞ具→ﾛｸﾛﾅﾃﾞ | 20.4 | － | － | 1/3 | ⅠB | 8-5・7 |

第18図　SR3 窯跡出土遺物（2）




（単位：cm）

| No. | 種別 | 層位 | 特徴 | 口径 | 底径 | 器高 | 残存率 | 分類 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器・甕 | 床面上堆積層 | 外面：ロクロナデ（口縁部）、平行タタキ（胴部）　内面：ロクロナデ（口縁部）、ナデ（胴部） | (26.0) | － | － | 一部 | ＩＡ | |
| 2 | 須恵器・甕 | 床面上堆積層 | 外面：平行タタキ→横位ヘラケズリ（胴部）、軽いヘラケズリ（底部）　内面：ロクロナデ | － | (17.0) | － | 一部 | | |

第19図　SR3 窯跡出土遺物（３）

# 第Ⅲ章　考　察

(1) 須恵器

**①分類**（第 20 図）

坏・高台坏・埦？・高台埦・高台盤・坏蓋・壺蓋・鉢・壺・甕などの器種がある。

**坏：**図示可能なものが 83 点ある(図示点数は 80 点)。口径が 12～16 ㎝、器高 3～5 ㎝、底径 7.5～11 ㎝である。坏類全体を通しての特徴は、ロクロからの切離しののち再調整を施されるものが主体を占めること、再調整の施されるもののうち、切離しのわかるものはすべて静止糸切りであること、再調整は手持ちヘラケズリが主体を占めること、手持ちヘラケズリは砂粒の移動が明確でない「軽い」ものが多い(註 1)こと、内面の立ち上がり部にヘラ状の工具があてられ、その部分が沈線状になる例（写真図版 6－1ｂ）が多いことがあげられる。また、他と比べて全体に厚手で作りが稚拙なものがある。ＳＲ2 窯では坏全体に占める割合が三次床面に多く、四次床面、五次床面と新しくなるにつれて減る。

器形や細部の特徴によって以下のように分類することができる。

【Ｉ類】71 点ある。口径に対して器高が低く、皿形を呈するものである。細部の形態の違いから四種に分けられる。

［ＩＡ類］1 点ある。底部から内弯して立ち上がり、口縁部がわずかに外反するものである。ロクロからの切離し技法と再調整は、静止糸切りののち回転ヘラケズリである。

［ＩＢ類］8 点ある(図示点数は 7 点)。底部から内弯気味に立ち上がるものである。体部から口縁部にかけては外傾してそのまま口縁部にいたるものが多く、他に口縁部がわずかに外反するものがある。ロクロからの切離し技法と再調整は静止糸切りののち手持ちヘラケズリが 7

点、全面手持ちヘラケズリが 1 点である。

［ＩＣ類］56 点ある（図示点数は 54 点）。底部から直線的に外傾して立ち上がるものである。体部から口縁部にかけては外傾してそのまま口縁部にいたるものが多く、他に口縁部がわずかに外反するものがある。ロクロからの切離し技法と再調整は静止糸切りののち手持ちヘラケズリが 26 点、全面回転ヘラケズリが 2 点、全面手持ちヘラケズリが 18 点である。このほか切離しが不明なもので回転ヘラケズリが 1 点、手持ちヘラケズリが 9 点ある。

［ＩＤ類］6 点ある。底部から比較的急に立ち上がるものである。体部から口縁部にかけては外傾してそのまま口縁部にいたるものと口縁部がわずかに外反するものがある。ロクロからの切離し技法はヘラ切りで、主として底部周縁にナデが施される。ナデの中には工具の関係でミガキ状になるものもある（写真図版７－３ｂ）。

【Ⅱ類】12 点ある。口径に対して器高が高いものである。細部の形態の違いから三種に分けられる。

［ⅡＡ類］1 点ある。底部から内弯気味に立ち上がり、外傾してそのまま口縁部にいたるものである。全面手持ちヘラケズリされている。

［ⅡＢ類］8 点ある。底部から直線的に外傾して立ち上がり、そのまま口縁部にいたるものである。ロクロからの切離し技法と再調整は静止糸切りののち手持ちヘラケズリが 3 点、全面手持ちヘラケズリが 3 点である。この他切離しが不明で手持ちヘラケズリが 2 点ある。

［ⅡＣ類］3 点ある。底部から比較的急に立ち上がり、体部は外傾してそのまま口縁部にいたるものである。ロクロからの切離し技法と再調整は静止糸切りののち手持ちヘラケズリが 2 点、全面手持ちヘラケズリが 1 点である。

**高台坏：**図示可能なものが 14 点ある。口径が 11～16.5 ㎝で、内面の立ち上がり部にヘラ状の工具があてられ、その部分が沈線状になる例が多い。また、高台接合の際、密着度を高めるため底部に接合沈線（佐藤：1993Ａ・Ｂ）が施されるものがある（写真図版６－12）。器形や細部の特徴によって以下のように分類することができる。

【Ｉ類】8 点ある。坏部が口径に対して器高が低く、皿形を呈するものである。細部の形態の違いから二種に分けられる。

［ＩＡ類］7 点ある。底部から直線的に外傾して立ち上がり、そのまま口縁部にいたるものである。高台の形態は端部が丸みをもち、その中央が凹むものが 4 点、断面が方形となるものが 2 点ある。

［ＩＢ類］1 点ある。底部から比較的急に立ち上がり、体部は外傾して口縁部がわずかに外反する。高台は端部に向けて細くなる。

【Ⅱ類】6 点ある。坏部が口径に対して器高の高いものである。細部の形態の違いから三種に分けられる。

［ⅡＡ類］1 点ある。底部から内弯気味立ち上がり、そのまま口縁部にいたるものである。高台の断面は方形である。

［ⅡＢ類］2 点ある。底部から直線的に外傾して立ち上がり、そのまま口縁部にいたるものである。高

台は端部が丸みをもち、その中央が凹んでいる。

［ⅡＣ類］3 点ある。底部から比較的急に立ち上がり、体部は外傾してそのまま口縁部にいたるものである。高台は端部が丸みをもち、その中央が凹んでいる。

**坏蓋：**図示可能なものが 18 点ある。口縁端部やつまみの形態によって以下のように分けることができる。

【Ⅰ類】1 点ある。口縁端部が丸くおさまるものである。天井部は扁平で、つまみの形態はリング状である。

【Ⅱ類】6 点ある。口縁端部が短く折れるもので、天井部の形態から二種に分かれる。

［ⅡＡ類］4 点ある。天井部が扁平のものである。つまみは宝珠形のものが 3 点ある。

［ⅡＢ類］2 点ある。天井部の中央が高く盛り上がるものである。つまみの形態は不明である。

【Ⅲ類】2 点ある。口縁端部が斜め下方に折れるものである。つまみはリング状のものが 1 点ある。

【Ⅳ類】9 点ある。口縁端部が直角に折れ曲がるものである。このうち 2 点の天井部内面には同心円アテ具痕が認められる（第 18 図 1・2、写真図版 7－11ｂ・14）。これは天井部外面を回転ヘラケズリする際、口縁部を保護するためのシッタの代用品として同心円アテ具が使われたためと考えられてる（田辺：1981）。天井部の形態から三種に分かれる。

［Ⅳ1 類］5 点ある。天井部が扁平で、つまみは扁平な宝珠形のものである。

［Ⅳ2 類］3 点ある。天井部の中央が高く盛り上がるものである。つまみは扁平な宝珠形のものが 1 点ある。

［Ⅳ3 類］1 点ある。天井部が水平で縁辺に隆線が巡るものである。

**椀？：**図示可能なものは底部付近の資料で 2 点ある。丸底と平底があり、前者は体部下端から底部前面に手持ちヘラケズリが施されている。後者は静止糸切りののち体部下端と底部周縁を手持ちヘラケズリされている。

**高台椀：**図示可能なものは 2 点あるが、いずれも口縁部を欠損している。底部から内弯気味に立ち上がる。坏類と同じく内面の立ち上がり部にヘラ状の工具があてられ、その部分が沈線状になる。高台端部は丸みをもつ。

**高台盤：**残りが悪く図示できるものはない。体部下端が強く屈曲するものである。

**壺蓋：**図示可能なものが 1 点ある。残りが悪くつまみの有無は不明である。肩に丸みをもつ。

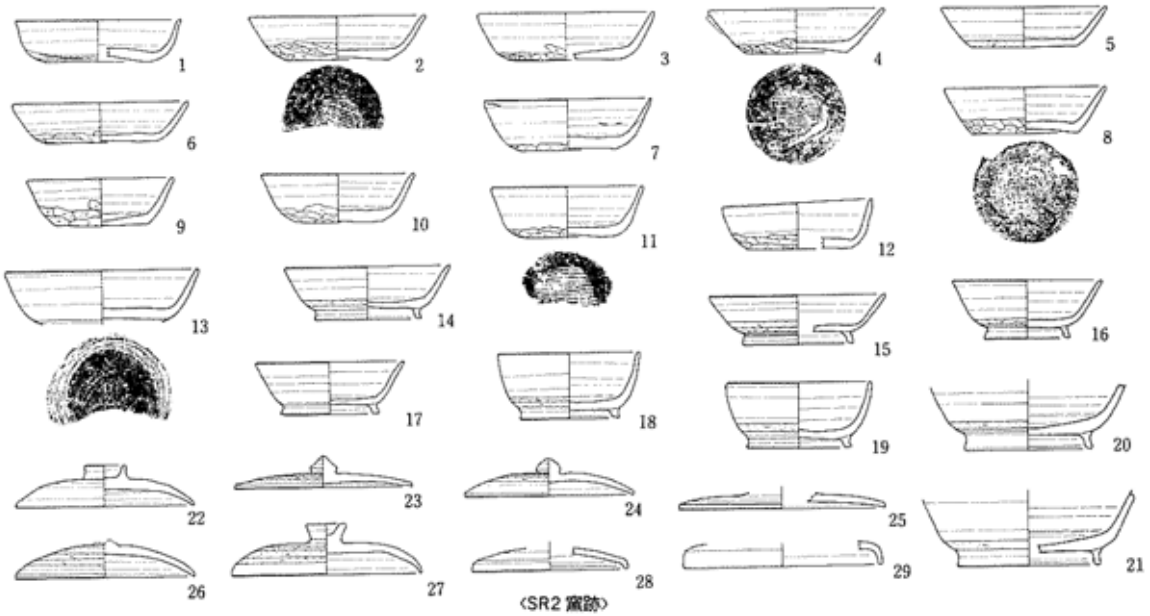
**鉢：**図示可能なものが 1 点ある。頸部でくびれ、口縁部が短く外反している。

**壺：**残りが悪く図示できるものはない。長頸壺と考えられる。

**甕：**口径が 20 ㎝台の小形のもの（Ⅰ類）と 30 ㎝を超える大形のもの（Ⅱ類）とがある。Ⅰ類は口縁端部が上下につまみ出され口縁帯をつくり出すもの（ⅠＡ類）と、口縁端部が水平になるもの（ⅠＢ類）とがある。Ⅱ類は頸部に櫛描き波状文が施される。

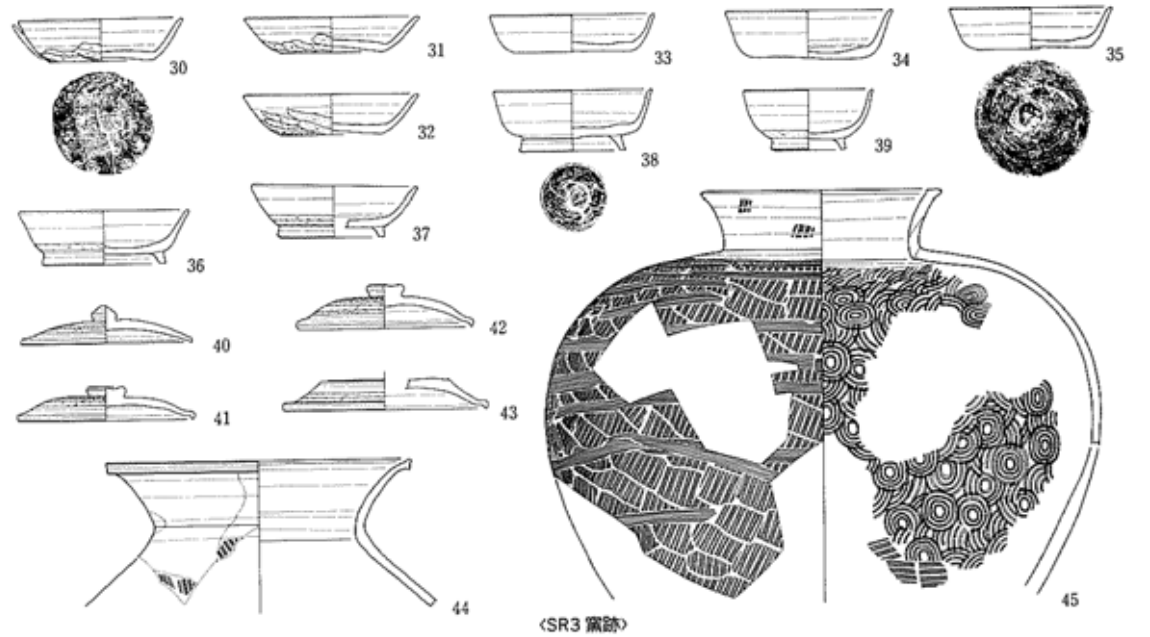
### ②ＳＲ2・3 窯の組成

図示した資料に破片資料を加えて各窯跡から出土した土器をまとめたのが第 1 表である。さらに、



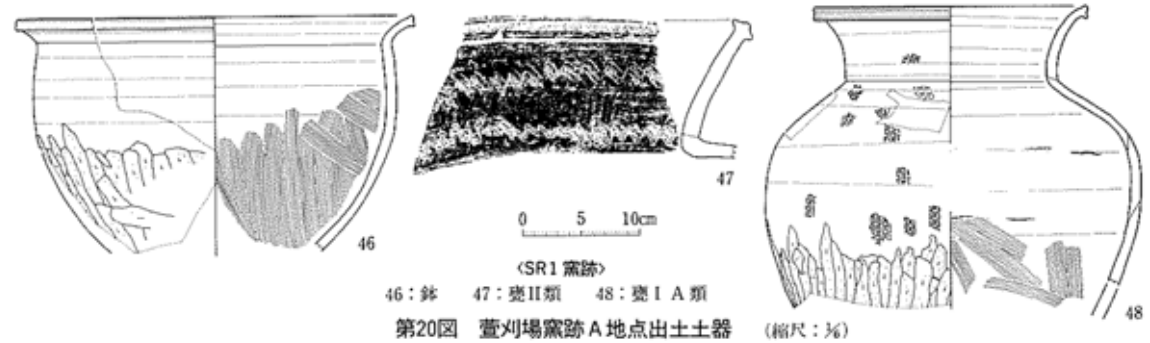
〈SR2 窯跡〉

1：坏Ⅰ A1a 類　2・3：坏Ⅰ B1b 類　4：坏Ⅰ C3a 類　6：坏Ⅰ C3b 類　7：坏Ⅱ A3b 類　8：坏Ⅱ B1b 類　9・10：坏Ⅱ3b 類
11・12：坏Ⅱ C1b 類　13～15：高台坏Ⅰ A 類　16・17：高台坏Ⅱ B 類　18・19：高台坏Ⅱ C 類　20・21：高台 埦　22：坏蓋Ⅰ類
23～25：坏蓋Ⅱ A 類　26：坏蓋Ⅱ B 類　27・28：坏蓋Ⅲ類　29：壺蓋



〈SR3 窯跡〉

30～32：坏Ⅰ C 1 b 類　33～35：坏Ⅰ D2 類　36・37：高台坏Ⅰ A 類　38：高台坏Ⅰ B 類　39：高台坏Ⅱ A 類　40：坏蓋Ⅱ A 類
41：坏蓋Ⅳ A 類　42：坏蓋Ⅳ B 類　43：坏蓋Ⅳ C 類　44：甕Ⅰ A 類　45：甕Ⅰ B 類



〈SR1 窯跡〉

46：鉢　47：甕Ⅱ類　48：甕Ⅰ A 類

第20図　萱刈場窯跡 A 地点出土土器　（縮尺：⅓）

| 器種 | 坏 | | | | | | | 高台坏 | | | | | 坏蓋 | | | | | | | 壺 | 埦 | 高台埦 | 高台盤 | 鉢 | 壺 | 甕 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | | | | Ⅱ | | | Ⅰ | | Ⅱ | | | Ⅰ | Ⅱ | | Ⅲ | Ⅳ | | | | | | | | | Ⅰ | | Ⅱ |
| 遺構名 | A | B | C | D | A | B | C | A | B | A | B | C | | A | B | | A | B | C | 蓋 | ? | | | | | A | B | |
| ＳＲ２三次床面 | | 2 | 2 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ＳＲ２四次床焼台 | | 1 | 13 | | | 1 | | | | | 1 | | 1 | 1 | | | | | | | 1 | 1 | | | | | | |
| ＳＲ２四次床面 | | | 2 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ＳＲ２五次床焼台 | | 3 | 23 | | 1 | 4 | | 2 | | | | | | 1 | 2 | | | | | | | | | | | | | |
| ＳＲ２五次床面 | | 1 | 4 | | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | 1 | 2 | | | | | |
| ＳＲ２五床堆積土 | 1 | | 6 | | | | 2 | 2 | | | 1 | 2 | | 1 | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | |
| ＳＲ２堆積土 | | 1 | 2 | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | | | | | 1 | | | | 1 | | | |
| ＳＲ３焼台 | | | 1 | 1 | | | | 2 | 1 | 1 | | | | | | | 2 | 2 | | | | | | | | | | |
| ＳＲ３床堆積土 | | | 3 | 5 | | | | | | | | | | 1 | | | 3 | 1 | 1 | | | | | | | 1 | 1 | |
| ＳＲ１堆積土 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 |

第１表　ＳＲ１～３窯跡出土土器一覧表

出土量が多い坏については、ロクロからの切離し技法と再調整を第２表にまとめ、法量を第21図に示した。なお、須恵器坏底部の切離し・再調整技法については観察表では以下の記号で示している。

切離し：1＝静止糸切り、2＝ヘラ切り、3＝全面再調整（切離し不明）

再調整：ａ＝回転ヘラケズリ、ｂ＝手持ちヘラケズリ

その結果、ＳＲ2 窯跡とＳＲ3 窯跡には坏・高台坏・坏蓋について共通点とともに相違点も認められた。

**ＳＲ2 窯跡出土土器**

焼成部の床面は５枚確認している。特に三～五次床面からは須恵器が多く出土し、相互の比較が可能であったが、器種や技法の組合せに共通点が多く明瞭な違いは認められなかった。そこでＳＲ2 出土土器は一括して扱うことにする。

須恵器坏ＩＡ～C・Ⅱ類、高台坏ＩＡ・ⅡＢ・ⅡＣ類、坏蓋Ⅰ～Ⅲ類、埦？、高台埦、高台盤、壺、壺蓋などがある。坏の器形は皿形のＩ類が主体である。法量をみると、Ⅰ類は口径14㎝台で器高３㎝台のものが主体である。これに対しⅡ類は12点中５点が口径12.4～13㎝の小形のもので、器高は４㎝前後もしくはそれ以上である。坏はロクロからの切離しがわかるものは静止糸切りで、すべて再調整が施されており、手持ちヘラケズリが主体である。

高台坏の法量は、ＩＡ類が口径16㎝を超えるものと14～15.2㎝のものとがある。これに対し、Ⅱ類は口径が12㎝台であることから、法量における大・中・小の分化がうかがえる。高台の形態はすべて端部に丸みをもち、中央が凹むものが多い。高さは1㎝前後である。

坏蓋の法量は口径をみると、17㎝を超えるものがⅡＡ類に１点、13㎝のものがⅢ類に１点あり、他は14～16㎝のものであることから、法量における大・中・小の分化がうかがえる。その場合、大は大形の高台坏や高台埦・高台盤とセットに、後二者はそれぞれ高台坏の中形・小形とセットになると考えられる。

**ＳＲ3 窯跡出土土器**

須恵器坏ＩＣ・ＩＤ類、高台坏ＩＡ・ＩＢ・ⅡＡ類、坏蓋ⅡＡ・Ⅳ類、甕Ⅰ類などがある。坏の器

形は皿形のみで、法量は口径が 13.8～14cm 台で器高は 3～4.1 cmである。ＩＣ類とＩＤ類は器形とともに切離しや再調整の有無でも違いが認められる。前者は静止糸切りののち手持ちヘラケズリで、後者はヘラ切りで再調整は施されない。

高台坏の法量はＩ類が口径 13.4～14.4cm に対し、Ⅱ類は口径 10.9 cmと小形である。高台の形態と高さはＩＡ・ⅡＡ類が断面の形態が方形で、高さが 0.8～0.9 cmである。ＩＢ類は端部に向けて細くなり、高さが 1.3 cmある。

| 切離し技法 | 再調整 ＼ 遺構名 | ＳＲ２三次床面 | ＳＲ２四次床焼台 | ＳＲ２四次床面 | ＳＲ２五次床焼台 | ＳＲ２五次床面 | ＳＲ２堆積土 | ＳＲ３焼台 | ＳＲ３床堆積土 | ＳＲ１堆積土 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 静止糸切り | 回転ケズリ | | | | | 1 | | | | |
| | 手持ケズリ | 4 | 13 | 5 | 21 | 6 | 1 | 1 | 3 | |
| ヘラ切り | 無調整(ナデ) | | | | | | | 1 | 5 | |
| 全面再調整 | 回転ケズリ | 1 | | | 3 | 1 | | | | |
| | 手持ケズリ | 1 | 8 | | 21 | 15 | | | | |
| 不明 | 回転ケズリ | 1 | | 3 | 5 | 1 | 1 | | | |
| | 手持ケズリ | 8 | 1 | 6 | 17 | 11 | 1 | | | |

第２表　坏底部の切り離し・再調整技法

坏蓋の口縁端部はⅡＡ類が短く折れるのに対し、Ⅳ類は直角に折れ曲がる。この違いはつまみでも認められ、前者は整った宝珠形であるのに対し、後者のつまみが残るものはすべて扁平な宝珠形である。法量をみると、口径が 14.5～15.4 cmのⅡＡ・ⅣＡ・ⅣＢ類と 17 cmを超えるⅣＣ類とがある。前者は高台坏Ｉ類とセットになると考えられる。後者と組み合うものはＳＲ3 から出土していないが、ＳＲ2 を参考にすると高台坏のうち口径が 16 cmを超える大形のものや高台埦・高台盤とセットになるとみられる。

以上がＳＲ2 窯跡とＳＲ3 窯跡出土土器の特徴である。双方を比較すると、ＳＲ3 にはＳＲ2 にないヘラ切り無調整の坏ＩＤ類やそれに高台を付けた高台坏ＩＢ類、坏蓋Ⅳ類があるが、坏ＩＣ類、高台坏ＩＡ類、坏蓋ⅡＡ類が共通している。特に坏ＩＣ類はＳＲ2 で主体を占めており、ＳＲ3 でも坏 10 点中 4 点がＩＣ類である。また、坏の切離し技法や再調整をみると、ＳＲ2 は切離しがわかるものはすべて静止糸切りであり、再調整は 52 点中 49 点が手持ちヘラケズリである。ＳＲ3 はＩＣ類すべてが静止糸切りののち手持ちヘラケズリであり、ロクロからの切離しや再調整のあり方は大筋で共通する。

### ③土器の年代

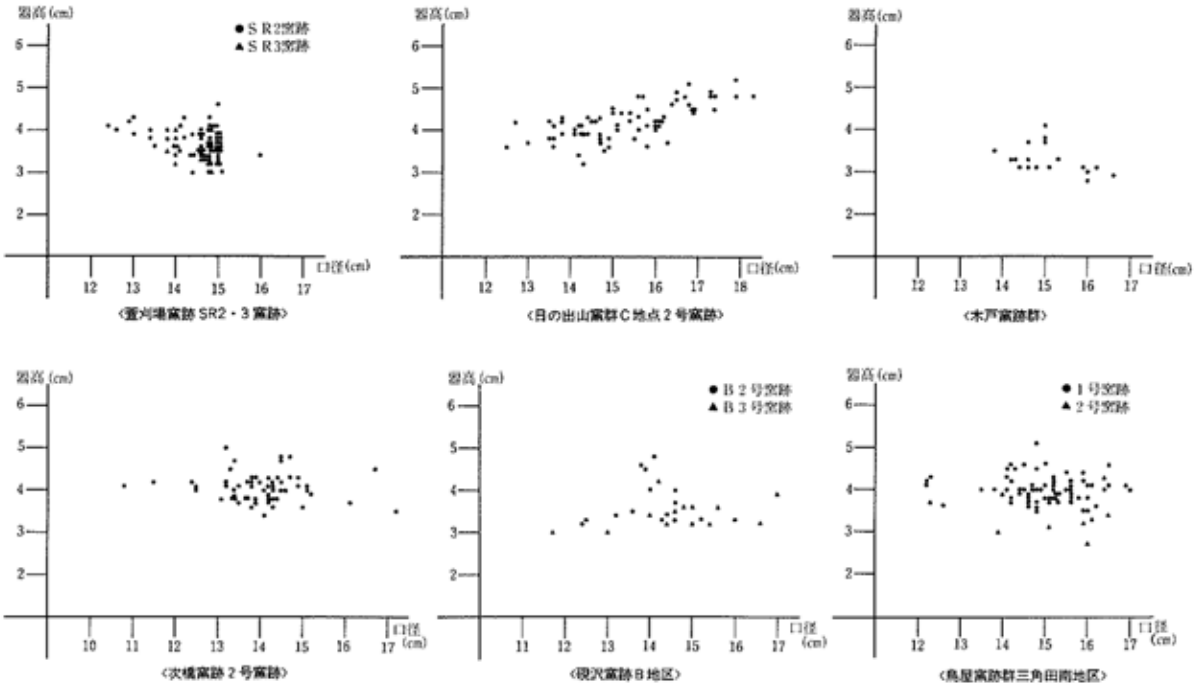
ＳＲ2・3 の年代について類例や須恵器の編年研究を参考にして考える。ＳＲ2・3 とも出土量が多いのは坏・高台坏・坏蓋である。これらの特徴は前章の検討から坏は皿形で口径 13.8～14 cm台、器高 3～4.1 cm台が主体である。ロクロからの切離しや再調整はＳＲ2 が切離しがわかるものすべて静止糸切りであり、すべてに再調整が施され、その主体は手持ちヘラケズリである。ＳＲ3 は静止糸切りののち手持ちヘラケズリがほどこされるものとヘラ切り無調整がほぼ同数出土している。高台坏は双方とも坏部が皿形で口径が 13.4 cm以上のものと深めで口径が 10.9～12 cm台のものからなり、台部が低いものが主体を占めている。坏蓋は双方とも扁平な器形のものが多い。したがって、ＳＲ2 とＳＲ3 は出土土器の主体を占める坏・高台坏・坏蓋において、組成や器形、坏の切離し・再調整のあり方が大筋で共通しており、操業年代は大きくみて同時期と考えられる。

宮城県内の窯跡の類例としては、田尻町木戸窯跡群（野崎：1974、辻：1982･1984）、色麻町日の出

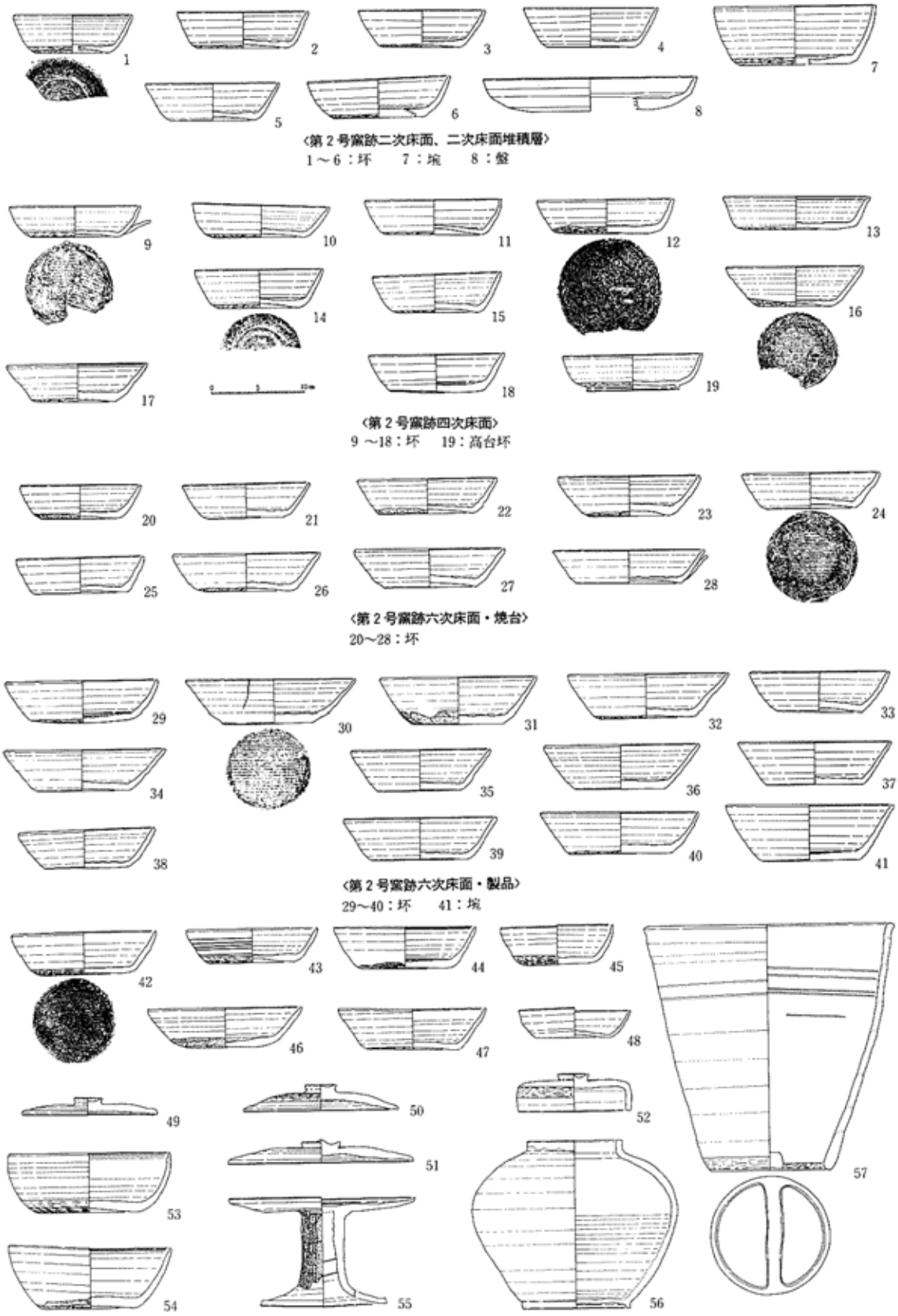
山窯跡群Ａ地点 6～8 号窯跡（岡田・工藤・桑原ほか：1973、辻：1982・1984）、同窯跡群Ｃ地点第 1・2・5・6 号窯跡（古川・太田：1993）、松山町下伊場野窯跡群Ａ地点第 3 号窯跡（進藤・佐藤・柳沢ほか：1994）、同町次橋窯跡 1・2 号窯跡（東北学院大学考古学研究部：1983）、大和町鳥屋窯跡群三角田南地区 1・2 号窯跡（東北学院大学考古学研究部：1975）、河南町須江窯跡群代官山地区 1 号窯跡（佐藤：1993Ａ）、利府町硯沢窯跡Ｂ地区 2・3・10・16 号窯跡（宮城県教育委員会：1987）、仙台市庚申前窯跡（古窯跡研究会：1973）などがあげられる。年代はいずれも 8 世紀前半から中頃に位置付けられている。

これらの特徴を出土量の多い坏･高台坏･坏蓋･甕についてみると、坏は口径が 14～16 ㎝、器高が 3～4.5㎝ の皿形坏を主体とし、これに口径 12 ㎝台の小形で深めのものが伴う（第 21 図）。窯によっては口径 16.5 ㎝以上、器高が 5 ㎝前後の坏が伴うところがある（日の出山Ｃ2 窯）。ロクロからの切離しののち再調整が施されるものが多く、無調整のものは少ない。ロクロからの切離し技法はヘラ切り・静止糸切り・回転糸切りがある。特に静止糸切りはこの時期に盛行し、他ではあまりみられない（村田：1992）。再調整のあり方をみると、体部下端から底部全面を回転ヘラケズリされるものを主体とするところ（木戸窯、下伊場野Ａ3 窯、鳥屋三角田南 1・2 窯）と体部下端から底部周縁または底部周縁のみに手持ちヘラケズリされるものが多いところ（日の出山Ａ8・Ｃ2 窯）がある。再調整の違いはそのまま切離し技法にも認められ、前者は切離しがわかるものすべてがヘラ切りであり、後者は静止糸切りが主体を占める。

日の出山窯跡群Ｃ地点 2 号窯（以下、Ｃ2 窯とする）では、坏の切離し・再調整技法が床面によって異なっている。Ｃ2 窯は焼成部の床面が六枚確認され、このうち二・四・六次床面から須恵器がまとまって出土している（第 22 図）。二次床面は切離しがわかるものはヘラ切りで、再調整は回転ヘラケ




第21図　坏の法量



〈第２号窯跡二次床面、二次床面堆積層〉
1～6：坏　7：埦　8：盤

〈第２号窯跡四次床面〉
9～18：坏　19：高台坏

〈第２号窯跡六次床面・焼台〉
20～28：坏

〈第２号窯跡六次床面・製品〉
29～40：坏　41：埦

〈第３号竪穴住居跡〉
42～48：坏　49～51：坏蓋　52：壺蓋　53・54：埦　55：高盤　56：短頸壺　57：甑

第22図　日の出山窯跡群Ｃ地点西部出土土器（縮尺：1/6）

ズリと手持ちヘラケズリがあり、前者が多い。四次床面はヘラ切りと静止糸切り、再調整の回転ヘラケズリと手持ちヘラケズリがほぼ同数ある。六次床面は静止糸切りののち手持ちヘラケズリが主体を占め、他に静止糸切り＋回転ヘラケズリ、静止糸切り無調整、ヘラ切り＋回転ヘラケズリがある。したがって、主体となる技法が切離しがヘラ切りから静止糸切りへ、再調整は回転ケズリから手持ちケズリへと移行・変化していることがわかる（古川･太田：1993）。また、ケズリの施される部位が体部下端から底部周縁主体（二次床面、四次床面、六次床面の焼台）→底部周縁主体（六次床面の製品）へと変化しており、仕上げの簡略化の傾向がうかがえる。

高台坏は台部が高さ1㎝前後と低く、直立気味で断面方形のものと「ハ」字状に開くものとがあり、前者が多い。坏蓋は器高が低く全体に扁平なものが主体を占める。つまみはリング状、宝珠形、扁平な宝珠形がある。特にリング状つまみはこの時期に盛行し、他ではあまりみられない。窯によっては出土したつまみすべてがリングのところもある（下伊場野A3窯、鳥屋三角田南1・2窯）。つまみがリング状や宝珠形のものは口縁端部が丸くおさまるものや短く折れるものが主体を占め、他に口縁部内面に小さなカエリが付くものがある。これに対し、つまみが擬宝珠形のものは口縁端部が直角に折れ曲がっており、つまみの種類によって口縁部形態が異なる。甕は口径が30㎝を超える大形のものと20㎝台の小形のものがあり、前者の頸部には櫛描き波状文が施されるものが多い。

こうした中で萱刈場A地点ＳR2・3窯跡の須恵器をみると、双方とも坏は皿形が主体であり、切離し・再調整技法のあり方がＳR2では静止糸切りと手持ちヘラケズリが主体を占め、ＳR3でも4割を占めている。また、坏内面の立ち上がり部にヘラ状工具があてられ、その部分が沈線状になるものが多い。こうした特徴は日の出山窯跡群A地点8号窯（岡田・工藤・桑原ほか：1973、辻：1982・1984）や同窯跡群C地点第Ⅲ群土器（古川・太田：1993）に共通する点が多い。第Ⅲ群土器の年代は共伴する瓦の検討から天平11年（739）を前後する頃と考えられている（註2）。したがって、萱刈場窯跡群A地点ＳR2・3窯の年代は8世紀中葉頃に位置付けられる。

なお、ＳR3 窯跡では再調整の施される坏とともにヘラ切り無調整の坏や高台坏が共伴している。坏は口径に対して器高の低い皿形を呈する。ヘラ切り無調整の皿形坏は多賀城市山王遺跡ＳD180Ｂ溝跡（千葉･石本：1991）・同遺跡ＳD2124溝跡第5層（後藤ほか：1994）をはじめ8世紀後半以降に一般的にみられるものである（註3）。このことから、萱刈場窯跡A地点ＳR3窯跡は8世紀中葉代の窯の中でも新しい様相を持っているといえよう。

(2)焼台と重ね焼きの方法について

ＳR2窯跡、ＳR3窯跡とも地下式窖窯である。窯のほぼ全体を調査したＳR2は、燃焼部・焼成部とも床面が五枚あり、三次床面段階から側壁の補修も認められ、床面のかさ上げとともに側壁の補修を行いながら須恵器生産を続けている。

両窯とも焼成部の床面には製品を転用した焼台がみられる。器種としては坏・高台坏・坏蓋や甕の破片などがある。坏や高台坏は伏せた状態で置かれており、その設置を容易にするため半分もしくは一部を欠き、欠けた部分を斜面上方に向けたものが主体を占める。また、坏蓋はつまみを欠き内面を

上に向けて置かれている。坏の半欠品を焼台に使用する例は、本窯跡と同時期の日の出山窯跡群Ｃ地点２号窯（古川・太田：1993）や松山町次橋窯跡１・２号窯跡（東北学院大学考古学研究部：1983）でも認められる。

ＳＲ2 窯における焼台の設置状況をみると、五次床面では焼成部の下位に空白箇所がある。四次床面の場合は残存状況が悪いが、比較的残っている焼成部下位では中央の空白箇所を囲むように置かれている（第７図）。この空白箇所は甕などの大形品の窯詰め場所と考えられ、五次床面では火前に、四次床面では焼成部の中軸線上に大形品が並べられていたと思われる。こうした窯詰めの状況がよくわかる例が、日の出山窯跡群Ｃ地点２号窯の六次床面である（古川･太田：1993）。そこでは焼成部の中軸線上に空白箇所があり、坏などの製品転用焼台は空白箇所を囲む位置と側壁に沿うように置かれ、後者の上から生焼けの坏が正位の状態で出土している。以上のことから、甕などの大形品は火前や中軸線上に置き、その間や側壁沿いの空間に小形品を並べたと考えられる。大形品をメインにした配置は、天井の高さとの関係や高い焼成温度の必要性のほか、分焔柱のような火の廻りを良くする効果を意図したとの指摘がなされている（望月：1994）。

重ね焼きの方法については食膳具の場合、降灰状況の確認によってある程度の復元が可能である（註4）。坏ではＩＤ類の外面口縁部下に明瞭な痕跡と火襷が残っている（写真図版７－２・３）。前述の日の出山C2 窯では製品が正位で出土していること、次橋窯跡の灰原出土品に３個重ねた例があることから（註５）、坏は同法量のものを口縁部を上に向けて柱状に積み上げたと考えられる（註６）。坏蓋は外面口縁部周辺、内面天井部付近に丸い痕跡が残る（写真図版７－11ａ．ｂ）。前者はセットとなる高台坏･高台埦の口径、後者はその高台径と一致することから蓋を逆さにして高台坏や高台埦と重ね、それを１単位として柱状に重ねたと考えられる。

## 註

註 1）実測図でも手持ちヘラケズリと区別するため、砂粒の移動を示す表現は省いている。

註 2）第Ⅲ群土器と共伴する瓦は多賀城瓦分類の軒丸瓦 230･231 や軒平瓦 660、またはそれらに使われた丸瓦や平瓦である。これらの軒瓦は平城宮瓦分類の軒丸瓦6282 や軒平瓦6721 と文様が酷似しており、その系譜を引くと考えられている（伊東:1956）。平城宮におけるこの種の瓦は、「二条大路木簡」との共伴関係から天平８～10 年（736～738）に実年代の一端が求められている（佐川：1990）。

註 3）ＳＤ180Ｂでは漆紙文書で天平宝字７年（763）の「具注暦」断簡が出土している（平川：1992）。「具注暦」断簡は、暦として使用されたのち紙背を利用して文書が書かれており、漆容器のフタ紙として利用されるのはそのあとになる。

註 4）重ね焼きの方法については北野（1988）に詳しく記されており、これを参考にした。

註 5）次橋窯跡報告書の写真図版 21-6 に示されている。

註 6）河南町須江窯跡群関ノ入地区では、9 世紀後半代の須恵器坏の重ね焼きの状況が確認されている。そこでは完形品を含む坏を伏せた状態で置いて焼台とし、この上に製品の坏を口縁部を下に向けて柱状に積み上げたと考えられている（佐藤敏幸氏の教示による）。8 世紀中葉の方法とは重ね方が逆であり、8 世紀後半から 9 世紀後半代の間で重ね焼きの方法が変化している。

## 【引用・参考文献】（五十音順）


伊東 信雄(1956)：『菜切谷廃寺跡』宮城県文化財調査報告書第 2 集

岡田・工藤・桑源ほか(1970)：『日の出山窯跡群』宮城県文化財調査報告書第 22 集

川畑 誠ほか(1994)：『正友ヤチヤマ窯跡』石川県立埋蔵文化財センター

菊地 逸夫(1991)：『伊治城跡』築館町文化財調査報告書第 4 集

北野 博司(1988)：「重ね焼きの観察」『辰口西部遺跡群』石川県立埋蔵文化財センター

後藤秀一ほか(1994)：『山王遺跡』宮城県文化財調査報告書第 162 集

古窯跡研究会(1973)：「庚申前窯跡概報」『陸奥国官窯跡群』研究報告第 2 冊

佐川 正敏(1990)：「兵部省所用軒瓦について」『1989 年度 平城宮跡発掘調査部発掘調査概要』
奈良国立文化財研究所

佐藤 敏幸(1993Ａ)：『須江窯跡群 代官山遺跡』河南町文化財調査報告書第 6 集
(1993Ｂ)：『須江窯跡群 関ノ入遺跡』河南町文化財調査報告書第 7 集

進藤・佐藤・柳沢(1994)：『下伊場野窯跡群』多賀城関連遺跡発掘調査報告書第 19 冊

田辺 昭三(1981)：『須恵器大成』

千葉・石本(1991)：『山王遺跡 第 10 次発掘調査概報』多賀城市文化財調査報告書第 27 集

辻 秀人(1982)：「須恵器生産窯の同定について」『考古学論叢』Ⅱ ※発行は 1989 年
(1984)：「宮城県の横穴と須恵器」『宮城の研究』1 考古学篇

東北学院大学考古学研究部(1975)：「鳥屋窯跡群三角田南地区発掘調査報告」『温故』第 9 号
(1983)：「次橋窯跡」『温故』第 13 号

野崎 準(1974)：「東北地方における須恵器生産」『紀要』第 6 号 東北学院大学東北文化研究所

平川 南(1992)：「山王遺跡出土の漆紙文書および木簡」『山王遺跡 第 12 次調査外報』
多賀城市文化財調査報告書第 30 集

古川 一明(1983)：「色麻古墳群」『昭和 57 年度宮城県営圃場整備等関連遺跡詳細分布調査報告書』
宮城県文化財調査報告書第 95 集

古川・後藤(1984)：「色麻古墳群」『昭和 58 年度宮城県営圃場整備等関連遺跡詳細分布調査報告書』
宮城県文化財調査報告書第 100 集

古川・佐々木・大槻(1985)：「色麻古墳群」『香ノ木遺跡・色麻古墳群』宮城県文化財調査報告書第 103 集

古川 一明(1987)：「色麻古墳群の諸問題」『北奥古代文化』第 18 号

古川・太田(1993)：『日の出山窯跡群』色麻町文化財調査報告書第 1 集

宮城県教育委員会(1987)：『硯沢・大沢窯跡ほか』宮城県文化財調査報告書第 116 集

村田 晃一(1988)：「宮城県黒川郡大衡窯跡群」『研究紀要』第 14 巻 東北歴史資料館
(1992)：「多賀城周辺における奈良・平安時代の須恵器生産」『東日本における古代・中世窯業の諸問題』

望月 精司(1994)：「南加賀古窯跡群における 8 世紀中葉の画期」『北陸古代土器研究』第 4 号

渡辺 一(1991)：「関東・東北地方の須恵器供膳形態にみる地域性」『埼玉考古』第 28 号